



天然紀念物調查報告

植物之部第十三輯

文 部 省

始



天然紀念物調查報告

植物之部第十二輯

文
部
省



天然

紀念物調查報告

植物之部第十二輯



發行所寄贈本

14.5-401

本調査報告は史蹟名勝天然紀念物保存事務が内務省所管たりし時に於て提出されたるものにかゝる。

昭和五年四月

文 部 省

北海道、石狩國大雪山植物調査報告書

中井猛之進

目次

緒言 一

一、北海道の地形と植物區 二

二、大雪山彙 三

三、大雪山開發の略史と其舊名 四

四、大雪山植物調査の開始 五

五、層雲峽の植物 八

 (イ)層雲峽温泉より大函に至る間の風景と植物 八

 (ロ)層雲峽の珍植物 一

 (ハ)層雲峽採收植物目錄 一四

 (ニ)層雲峽一帯を名勝並に天然紀念物として保護すべき理由 二七

六、大雪山彙の植物 二八

一、高度に應ずる植物帯の變化……………二八

(イ)針葉樹帯……………二九

(ロ)岳樺帯……………三〇

(ハ)匍松帯……………三一

(ニ)小灌木草本混淆帯……………三一

二、主要部の植物區景……………三四

(イ)小泉岳……………三四

(ロ)平ヶ岳……………三五

(ハ)前岳、忠別岳間の谷……………三六

(ニ)白雲岳……………三七

(甲)白雲澤……………三八

(乙)白雲平……………三八

(丙)白雲の崖……………三九

(ホ)御藏澤……………三九

(ヘ)黒岳……………四〇

(ト)雲の平……………四〇

(チ)北鎮岳……………四一

(リ)大噴火口……………四二

三大雪山採收植物目錄……………四三

四特記すべき大雪山の植物……………六一

五大雪山植物保護の必要……………七五

六大雪山植物帯保存の方法……………七六

圖版目次

第一圖版 第一圖 層雲峽、雌瀧、銀河瀑……………

第二圖版 第二圖 平ヶ岳、忠別岳方面……………

第三圖版 第三圖 鹽谷溫泉附近の溪流……………

第四圖版 第四圖 雌瀑の一景……………

第五圖版 第五圖 雄瀧(流星瀑)……………

第六圖版 第六圖 小函の景……………

第七圖版 第七圖 天斧峽の入口……………

第八圖版 第八圖 大函の勝景……………

第九圖版 第九圖 桂月岳下より黒岳火口の斜面を望む……………

第十圖版 第十圖 ハヒマツの毬果……………

第十一圖版 第十一圖 雲ノ平の一景……………

第十二圖版 第十二圖 北鎮岳斜面のチチマツガザクラ……………

第七圖版 第十三圖 黒岳斜面の小灌木群落
 第十四圖 黒岳桂月岳間の谷にエゾバイケイサウの生ずる所
 第八圖版 第十五圖 小泉岳上のホソバウルツブサウ
 第十六圖 小泉岳上の一景
 第九圖版 第十七圖 小泉岳上のチチマヒメイハタデ
 第十八圖 小泉岳東斜面の一景
 第十圖版 第十九圖 高根ヶ原のコマクサ
 第二十圖 小泉岳東斜面のコマクサ
 第十一圖版 第二十一圖 ユキバタウヒレン、チングルマ、エゾハクサンイチゲ
 第二十二圖 平ヶ岳の湿地の一部
 第十二圖版 第二十三圖 平ヶ岳の湿地の一景
 第二十四圖 リウキンクワ
 第十三圖版 第二十五圖 忠別岳前岳間の澤にエゾミヤマアカバナとリウキンクワの生ずるを示す
 第二十六圖 忠別岳前岳間の澤にクモユキノシタとチシマクモマガサの大群落をなす状
 第十四圖版 第二十七圖 忠別岳と前岳との間の澤の斜面に生ずるイハギケフ
 第二十八圖 タカネトウチサウの花盛り
 第十五圖版 第二十九圖 白雲岳下の大溪流
 第三十圖 小泉岳のシロマニヨモギ
 第十六圖版 第三十一圖 御藏澤のアヲノツガザクラ
 第三十二圖 エゾノサハアザミ、エゾノガリヤス、エゾキタアザミの混生する状

第十七圖版 第三十三圖 北鎮岳より旭日岳、黒岳間を望む
 第十八圖版 第三十四圖 烏帽子岳より奥の平方面を望む
 第十九圖版 第三十五圖 北海岳よりトムラウシ山方面を望む
 第三十六圖 北鎮岳より西北に愛別岳と永山岳とを望む
 附圖第一 明治三年版河合貞雅著北海道中細見全國の一部を縮寫す
 附圖第二 新に天然保護區域とせんと欲する大雪山一帯の地

日高國、様似郡、アポイ山の植物調査報告書

中井 猛之進

一、位置と地形 一
 二、アポイ山の植物的探究の歴史 二
 三、一般の景觀 二
 一、磯の植物 三
 二、山麓道路及び斷層面の植物 三
 三、海岸地帯の特記すべき植物 八
 目次 五

目次	六
四、山麓帯の植物	一六
(イ)開潤地	一六
(ロ)森林帯	一六
五、山麓帯の珍植物	一八
六、中腹の植物帯	二四
七、中腹産の特記すべき植物	二八
八、山上の植物	三一
九、山上の珍植物	三三
四、アボイ山並に其附近の植物と隣接陸地の植物との關係	三八
五、アボイ山植物目錄	四一
六、アボイ山植物保存の必要と其保存せんとする區域	八〇
(附録)	
寫真十七葉	五三一—六一
附圖二	

圖版目次

第一圖版	第一圖 冬島の丘上よりアボイ山を望む
第二圖版	第二圖 冬島、幌滿川間の斷崖の一部
第三圖版	第三圖 チシマキンバイの生ふる岩
第四圖版	第四圖 ハマベンケイサザ、ハマハコベの雄本、ハマハコベの雌本
第五圖版	第五圖 マルバタウキ、ハマエンドウ、シロヨモギ
第六圖版	第六圖 テウセンマツムシサウ、チシマセンブリ
第七圖版	第七圖 ムラサキシキブ、サンシヨウ、アラダモ、エゾヨモギ
第八圖版	第八圖 シロバナシヤクナゲ、ヒメコマツ、キタコブシ
第九圖版	第九圖 アカエゾ、シロバナシヤクナゲ、ワラビ
第十圖版	第十圖 アヲトド、ヒメコマツ、ミヅナラ
第十一圖版	第十一圖 アカエゾ、アヲトド、センノキ、オホナナカマド、シロバナシヤクナゲ
第十二圖版	第十二圖 エゾノダケカンバ、エゾキタアザミ、エゾヨロヒグサ
第十三圖版	第十三圖 アボイハハコグサの開花
第十四圖版	第十四圖 アボイ山頂
第十五圖版	第十五圖 マルミカンバ、ノリノキ
第十六圖版	第十六圖 ヒタカサクラサウの岩隙に生ずるもの
第十七圖版	第十七圖 ホソバタウキ、エゾミヤコザサ、コバノイハタデ、シホガマギク

目次

七

北海道石狩國大雪山植物調査報告書

F. NAKAI: Report on the vegetation of Daisetsusan Mis and their vicinities.

内務省天然紀念物調査臨時囑託 理學博士 中井猛之進

緒言



磯には丈餘の昆布が波に揉まれて漂ひ鮒の群は競ひ寄せ河には鮭魚躍り野に山に熊の潤歩する廣き北大州其處には珍草異木が生ひ茂るならんとは何人も想像し得べし。明治の初年開拓使が開かれし當時余の亡父内藤誠太郎は當時農學を専攻する唯一人者たりし故を以て米國アムハーストの農科大學四年生在學中召還されて開拓使の御用掛となり黒田長官を援けて開拓使の事業計畫をなし札幌農學校(現北海道大學の前身)の創立にも盡力シクラーク教授(アムハースト農科大學々頭)の召聘にもたづさはり現時北海道植物學の最權威者たる宮部金吾氏の如きも父が東京にて募集せる學生の一人なりし由(宮部氏談)。斯る父に育てられ

し余をして父の古き足跡を辿り北海道の天然紀念物の調査に従事せしめし運命は又數寄のものと言ふべし。

(一) 北海道の地形と植物區

其形蹟の如き北海道は中央に屈起せる大雪山、石狩岳、十勝岳、夕張岳等の大火山群、峯所謂北海道の中央山系に依りて明かに東北半と南西半とに區分し得べし。

抑も北海道は地質學上古き土地なり。此等中央の大火山すら其基盤は古生層より成り其上を第三期の白き粗面岩にて被ひ其上に當時よりの植物群が繁茂し來れるなり。洪積期後逐次に噴出したる安山岩の新火山に依りて中央に大山系を作りし故既存の植物並に其以後に變化新生せる植物は漸次此等の山々を占領して今日見るが如き北海道中央の大森林をも形成せしなり。

北海道の植物に就ては樺太を経て入れる西比利亞、カムチャツカ等の北地植物と南より侵入せる日本植物とより成るとの説(U. Milne氏、宮部氏)と更に一筋、千島をも經て侵入せりとの説(武田久吉氏)との兩説あり。此兩説の可否如何は北海道、烏蘇利、西比利亞沿海洲、カムチャツカ、アラスカ、千島等の植物が完全に取調べられし曉自然に判然する問題にして今茲に批評するを欲せず。然れども余の今回の調査も亦此論争に一材料を提供し居る事は以下紹介する所の新發見植物の解説に依りて自然明亮となる事を信ず。

(二) 大雪山彙

既述の如く大雪山の基底は古生層より成れるが此基底は今回の調査の範圍には殆んど關係なし、其は調査區域が更に高所にある爲めにして其基底を覆ふ所の白色にして節理ある安山岩層より以上は大雪山彙の植物帯に重大なる關係あり。即ち山麓地一帯は(余は今回の調査の目的よりして殊更に松山方面を除外す)一樣に此安山岩層を以て成り且つ此岩は縦に柱狀の大節理を現はす事と此岩層を貫く石狩の清流とに依りて大雪山麓には層雲峽の名勝を構成す。(寫眞第一参照)此大自然の成せる斷崖絶壁其所には又其を飾るべき植物の飾あり。此飾は四時變化し之に石狩の清流と多數の飛瀑、深潭が更に景を副へつゝあるを以て大雪山麓は稀に見る自然美、形勝を成す。

此安山岩層を被ふて生じたる大雪山彙は新古幾多の山より成る。余は地質學者に非ざるを以て此等の火山の成生の順序については論ずる資格を有せざれ共既に老年期に入りつゝある平ヶ岳一名高根ヶ原の火山(寫眞第二参照)、小泉岳の火山、中年期にある黒岳、北鎮岳、白雲岳等々の最も多數の火山と當に壯年期にある旭岳の火山等無數の火山を合する時は大雪山彙は實に東西四里南北十里に亘る大火山彙となる。此火山彙は緯度に於て北に偏在する北海道の中央に位する故此上を覆つて生ずる寒性植物は完全なる發達を遂げ邦内唯一の大規模なる高山の御花畑を形成し得たり。

(三) 大雪山開發の略史と其舊名

大雪山はもと北海道の大森林の中央に隠れたる山麓にして之を開發して世に紹介する人なければ今も尙ほ樹林中に屈起する人の近づき難き神秘境に過ぎざるが之を開きて今日の如く登山に便なる道を開き宿るべき家を設けしは實に大正八年鹽谷忠氏現北海タイムズ記者が層雲峽に鹽谷温泉を開設し氏の筆を利用し北海の同志を糾合し北海道山岳會を組織して温泉より黒岳に通ずる登山道路を開きしに始まる。次で實業家故荒井初一氏は氏の富を割いて公衆の利益を計りたき希望を懷き之を鹽谷氏に計りたる結果大雪山調査會を組織し鹽谷温泉に通ずる自働車道の開拓大函小函に通ずる歩道の開拓、黒岳道の擴張と修理、温泉宿の改造、諸専門家に依頼して温泉の性質調査、地質の調査等に三十餘萬の資を投じ、北海一の神秘境をして一躍人の最も近づき易き名山たらしめたり。故に同地開發の功は一に鹽谷氏の不斷の盡力と荒井氏の公共心と資力と之に攜はれる諸學者の研究とに依るものと謂ふべし。遡つて考ふるに大雪山には七千尺の高所にアイヌ人の遺跡ありて現に石簇を産す。熊は夏期は山に登りて住み低所になし。思ふに昔時アイヌ人が熊を逐ふて夏期雪融の候此山頂に假泊せしなるべし。青史に顯はるゝものは文化中、間宮林藏の石狩水源地探檢を以て始まり、安政四年石狩在勤足輕松田市太郎の登山、函館奉行所備松浦武四郎の登山等あり。明治五年には開拓使掌高畑利宣の石狩川に遡れるあり、七年開拓使備ライマン又石狩川の水源に上

り次で札幌縣技手福士成豐の測量あり。明治三十七八年、大正四五年、大正九十年の三回に陸軍の陸地測量部の登山測量に依りて今日の大雪山地方の地圖を完成するに至れり。

大雪山のアイヌ名をヌタクカムウシユベと云ふ。明治三年葎窓河合貞雄著北海道細見全圖に依れば大雪山はもと石狩岳と稱せり(附圖第一参照)。惟ふに石狩國內にありて當時容易に人の近づき難かりし北海道中央の原生大森林内に屈起し四時雪を頂く大岳たる現稱大雪山を空知、雨龍の平原より望見せしものは彼の山こそ石狩河の水源なりと想定せしならん。而して石狩の名山たるの故を以て之に石狩岳の名を與へしは當然の事に屬す。然るに明治七年ライマン等の石狩河水源地の探檢に始まり其附近の地理の明かなるに及び石狩川の最も長き枝即ち水源は現稱の石狩岳に發する事を知り遂に石狩岳の名稱を現石狩岳に移し明治廿五年十月版帝國新地圖改めて舊石狩岳に大雪山の名を與へし明治廿六年版日本名勝地誌ものなるべし。

(四) 大雪山植物調査の開始

大雪山の植物を世に紹介し始めしは小泉兄弟なり。兄は京都帝國大學助教授理學博士小泉源一氏、弟は松本女子師範教諭小泉秀雄氏なり。兩氏は大正五年七月始めて大雪山に分け入り萬難を排して多くの植物を携へ歸り秀雄氏は其後も毎年一回引續きて登山しては同山の植物の分布と生活状態とを視察し新植物の發見に力め源一氏並に余は同氏の依頼を受け

ては不明植物を闡明し漸く同山彙が珍植物に富める事の世に知らるゝに至れる時大正十五年大雪山調査會より小泉秀雄氏の「大雪山なる著書の刊行ありて此山彙の植物の生育分布の状は殆んど完全に世に紹介されたり。小泉兄弟が分け入りし當時は如何に登山の困難なりしかは余の親しく兩君より聽きし所なりしが今年親しく實地に登りてよく其真相を窺ひ得たり。今は開かれし大道を濶歩し四近の風光を心行く迄眺め、珍植物を採收観察し乍ら上下し得る此山は兩氏の登りし當時は道なきは勿論麓の森林帯下は羊齒類と灌木叢とにて比較的踏み易けれ共中腹よりは頗る色丹竹と千鳥笹との群叢となる。此密叢は上より下に向ひて相重なりて數里に亘る。想ひ見るべし其昔毛利元就が其三子を集めて矢の併せて折り難きを説きしを。密に相重なりしかも生ける彈力に富める竹が丈餘に延びたる間を分け蝟集する大形の蚊と虻と蚋とに攻められて行く其行の如何に難きかは躬自ら現地に臨みて之を目睹せしものに非んば百の形容を以てするも想像するに難く説明するに難し。しかも其間を上下し多數の珍植物を携へて歸れる勞と功とは到底世俗の企て及ぶべきに非るなり。兩氏の功に依りて紹介されし同山の主なる植物は

Salix Hideoi KOIDZUMI エゾニヤマヤナギ

Salix pauciflora KOIDZUMI エゾマメヤナギ

Salix paludicola KOIDZUMI ニヤマヤチヤナギ

Salix yesoalpina KOIDZUMI マルバヤナギ

Alnus Maximowiczii CALLIER var. *yesoensis* H. KOIDZUMI エゾニヤマハンノキ

Saxifraga laciniata TAKEDA & NAKAI タモマエキノシタ(一名ヒメヤマハナサウ)。

Viola alliarifolia NAKAI シンエウキスミン

Angelica refracta Fr. SCHMIDT var. *glaucophylla* KOIDZUMI ウラシロエゾセンキウ

Angelica rupestris KOIDZUMI エゾヨロビグサ

Oxytropis japonica MAXIMOWITZ var. *sericea* KOIDZUMI エゾオホヤマエンドウ

Artemisia glomerata LEDBOUR var. *pedunculata* KOIDZUMI エゾハンノキモギ

Artemisia norvegica FRIES var. *villosa* KOIDZUMI シロサマニヨモギ

Saussurea Tvelesti LEDBOUR var. *elegans* KOIDZUMI オホタカネキタアザミ

Saussurea Tvelesti LEDBOUR var. *niva* KOIDZUMI ユキバタウヒレン

Carex atrata LINNEUS クロボスゲ

Carex lagopina WAHLENBERG タカネヤガミスゲ

Deschampsia atropurpurea SCHEEL タカネコメススキ

Deschampsia brevifolia R. BROWN ヒメミヤマコメススキ

等なり。其後北海道帝國大學の宮部金吾、新島善直、伊藤誠哉の三教授を始めとし同大學關係の諸氏の登山ありて種々の植物は採收され同大學に在勤せし工藤祐舜氏に依りて紹介されし同山の植物は左の如し

Tofieldia fusca Miyabe & Kudo クロミゴキシヨウ

Sedum Ishidae Miyabe & Kudo アライハメンケイサウ

Gentiana algida Pallas var. *Igarashi* Miyabe & Kudo クモキリンダウ

右の中 *Tofieldia fusca* は 1821 年 Horpe 氏が *Botanische Zeitung* に發表せし *Tofieldia calyculata* Wahlenberg var. *rubescens* Horpe に同じく *Sedum Ishidae* は余が朝鮮の高山にて採り *Rhodola angusta* Nakai ャメイハメンケイサウと命名せしものに同じく余の方が七年前の發表なり。

(五) 層雲峽の植物

(イ) 層雲峽温泉より大函に至る間の風景と植物

層雲峽は一名靈山碧水峽と云ふ。文字通りの靈山相逼りて斷崖をなす間を石狩の碧水淙々として流る(寫眞第三)。延長二里餘、石狩河床に於て海拔六百乃至八百米突の間にあり。兩岸の斷崖は或は高く千尺の峻壁となり、或は低く百尺の崖となる。岩は皆白色の粗面岩にして特有の柱狀節理は直徑三尺乃至六尺の柱を並べたるが如く節理なき所は或は突出して錐の如く鋸の如く或は人の立つに似獸の嘯くが如く千種萬態天工の妙を盡せるは宛然朝鮮の金剛山に彷彿たり。余は大正六年親しく金剛山の植物調査をなして其風光を賞したれば大正七年朝鮮總督府出版金剛山植物調査報告書參照今層雲峽の景に接して往年を追憶し北海道にも亦此景ある哉と懐へり。

鹽谷温泉より河を渡り石狩の清流の右岸に沿へる新歩道を進めば二十餘町にして對岸に雌瀧(寫眞第四)。雄瀧(寫眞第五)の懸るを見る。北海道帝國大學の新島教授は之を流星銀河と改稱す。雌瀧は赤岳澤を下る河の落つる所にして數段となりて布を懸けたるが如く或は糸を引けるが如く高さ四百尺もあらん。雄瀧は其向て左にありて瀧の澤の水の落下する所にして雌瀧に比して稍見劣るも勇壯の感あり。之れより河は次第に逼る爲め道は山の斜面を甚だしく上下し約一里の間は全く森林中を通過し石狩河の風光を賞し難く將來歩道大改修の要あるを覺ゆ。森林を出づれば河は頓にせまりて右に轉ず此所の斷崖は凡て柱狀節理をなし水は或は緩に或は激し所謂小函の勝をなす(寫眞第六)。更に進めば道は全く斷崖下を通ず。右には石狩の水流あり左には將に墜ちんとする崖逼り往々最近に落下せりと覺ゆる新しき岩塊道を遮り甚だしく不氣味なるも其特種の峽谷は又嚙なきものゝ一はり。斷崖にはタカネナデシコの紅花、コバコシヤジンの紫花、ハヒオトギリの黄花あり崖下にはミソガハサウの紫花、オホミゾホホヅキの黄花等其艶を競ふニホヒシダ、ミヤマウラボシ等の稀品も崖上につく。崖の盡くる所を左に澤に入れば本年新に小泉秀雄君に依りて發見されたる峽谷あり。余は調査の日取の爲め深く其奥を究め得ざりしも入口より數町の間と雖も亦其景の凡ならぬを覺ゆ。特に深く相寄る狭き溪はそぞろにリップツアンウキンクルがカーツキルの谷に入りし物語を想はしむ。岩上にはイハヒゲ、チシマゼキシヨウ等あり崖下にはエゾニハトコ、ウコン、ウツギ等にて綴る。余は之を天斧峽と假稱す(寫眞第七參照)。此新峽の入口を

左に見て更に進めば遂に大函の勝(寫眞第八参照)に到達す。

如上の峽谷を包む所の植物群は主として喬木にして其間に種々の灌木と草本とあり。先づ石狩河畔にはドロノキ、オヒヨウニレ、ミヅナラ、エゾノダケカンバ、カツラノキ、シナノキ、イタヤカヘデなどの老木其高さを競ひて生じ高さ百乃至二百尺に及び幹の徑は又三尺乃至四尺あり其れに混じてオホバヤナギ、アヲトド、エゾマツ等の老木あり。故に河畔の樹林は純落葉樹林又は混落林なり。又ケヤマハンノキ多し。稍開濶地には草本生ひ茂る其主なるものはオホイタドリ、エゾハンゴンサウ、ヒロハイラクサ、イハノガリヤス、エゾヤマヨモギにして之にエゾセンキウ、オホアキカラマツ、ヨブスマサウ、ハナウド等を混ぜ又所に依りてアキタブキの群と化し又笹の群落となり或はホザキナカマド群となる。河畔より山の斜面となればエゾマツ、アヲトド、アカエゾマツより成れる針葉樹林にして之にイチキ、エゾノダケカンバ、ウダイカンバ、ケヤマハンノキ、ミヤマハンノキ、ナナカマド、ミヤマザクラ、シウリザクラ、オホヤマザクラ、イタヤマメイゲツ、イタヤカヘデ、オガラバナ、ケセンノキ、ミヅキ等を混ぜ。此等樹木を纏ふ攀纏植物中主なるものはゴトウヅル、イハガラミ、ミヤママタタビなり。樹林の下には笹の群とアキタブキの群とオホイタドリの群とは自ら殆んど其純群落をなせども此三者のなき所には灌木又は羊齒の群あり。羊齒類中最も群生するはカウライメシダ類、シラネワラビ類、クサソテツにして特にクサソテツは葉の長さ五尺に餘りて叢生する事さへあり。纏攀植物のある事と羊齒類の群生する事とサイハイランの如き蘭の生ずる事は假令此地が北偏し又高

所にあると雖も尙ほ植物帯が極めて暖地性なる事を示す。

灌木にはノリノキ、サハアヂサキ、トガスグリ、トカチスグリ、ホザキナカマド、エゾウラジロイチゴ、ヒロハノツリバナ、エゾウコギ、タラノキ、ムラサキヤシホ、エゾムラサキツツジ、ウスノキ、シロバナシヤクナゲ、ウコンウツギ、ヒメブシダマ等あり。又所に依りてツルツゲ、ツルシキミ等の群叢もあり。

草本類中北海道の特色をなすはシラライハコベ、オホレイジンサウ、アカミノルキエフシヨウマ、オクヤマシヨウマ、ハヒキンボウゲ、エゾカラマツ、エゾハタザホ、エゾワサビ、ヒメキリンサウ、エゾチャルメルサウ、エゾクロクモサウ、フキユキノシタ、エゾノヤマブキシヨウマ、ミヤマイハアカバナ、アマニウ、コモチミミカウモリ、エゾヤマヨモギ、エゾノガリヤス、エゾススキ、オホマヒゾルサウ等なり。又所に依り或はトクサの群、サンカエラの群、ゴゼンタケバナの群、オホマヒゾルサウの群、コキンバイの群、オホバヨツバムグラの群、フツキサウの群等の小區劃にて置き代る所あり。

又岩上には特色あるもの多くエゾノガリヤス、エゾデンダ、エゾイハデンダ、ヒメキリンサウ、ダイモジサウ、モミヂカラヤツ等あり。又エゾノムラサキツツジ、シロバナシヤクナゲの如き灌木の生ずるもあり。所に依りミヤマウラボシ、ニホヒシダ等の生ずる所もあり。

(ロ) 層雲峽の珍植物

1. *Cystopteris fragilis* Bernhardt var. *intermedia* Nakai

ミヤマナヨシダ(新種)。

本植物は CHRISTIAN LUEBSEN が 1889 年に RABENHORST の Kryptogamen-Flora 第三卷四五七頁に var. *dentata* として var. *ankuriscifolia* の中間形として圖解し學名を與へざりしものなり。我邦にては從來 var. *dentata* に當るナシヨシダのみ發見され居り、此形のもの發見は始めなり。

2. *Betula Ermani Chamisso* var. *corticosa* Nakai, var. nov.

アツンダカンバ(新種)。

エゾノダケカンバに似て樹皮は厚く堅く剝ぐるを異にす。層雲峡のみならず大雪山にも生ず。

3. *Persicaria Thunbergii* Nakai var. *coreana* Nakai, comb. nov.

ヒカゲミズソバ(新種)。

本種は *Polygonum Thunbergii* SIEBOLD & ZUCCARINI var. *coreana* LÉVEILLÉ in FENDEL, Repertorium Specierum Novarum Regni Vegetabilis VIII, p. 171 (1910) として濟州島産の植物に命名されしものなるが北海道にあるは珍とするに足る。ミズソバよりは著しく纖弱なる莖を有し、花も少數宛つく。

4. *Hydrangea paniculata* Siebold var. *leta* Nakai, var. nov.

タマンノリアデサキ(新種)。

ノリアデサキ *Hydrangea paniculata* var. *intermedia* H. de BOISSIEU の花の殆んど全部が無性花となり一見テマリバナに似たる形となりしものを謂ふ。將來は園藝植物として利用し得べし。

5. *Acer kobakoense* Nakai, sp. nov.

コハコノウチハ(新種)。

ヤマモミヂとイタヤマイゲツとの中間形のモミヂなり。稀品とす。

6. *Scutellaria umbrosa* Nakai, sp. nov.

ヒカゲタツナミサウ(新種)。

ミヤマタツナミサウに似て分岐多く花は腋生なり。濕地に生ず。

7. *Gallium verum* Linnaeus var. *intermedium* Nakai, Vegetation of Diamond Mts p. 185, no. 500 b. (1918).

ウスキカハラマツバ

カハラマツバの花の淡黄色をなすものにして朝鮮には知れ居りしも舊日本には初發見のものなり。

8. *Lonicera chrysantha* Turczaninow var. *typica* Nakai, nom. nov.

ヒメブシダマ(新種)。

ネトロンシダマ *Lonicera chrysantha* var. *crassipes* Nakai, Trees & Shrubs indigenous in Japan Proper I, p. 642 fig. 288 (1927) に似て花梗の細く短く長さ一センチ許なるを謂ふ。ダンリアより朝鮮に至る各地には發見され居りしも北海道には初發見なり。

9. *Adenophora Lamarckii* Fischer var. *longifolia* Nakai, var. nov.

コハコシヤミン(新種)。

Adenophora Lamarchii FISCHER は西比利亞より北朝鮮に迄分布するジャシンの一種なり。未だ日本に産する事を知らず(從來其名に當てありしは皆鑑定の誤なり)此コバコシヤジンと新稱するものは岩上に生じ *Adenophora Lamarchii* よりは大形にして葉も亦廣し。

10. *Agropyron yessoense* Honda sp. nov.

エゾカモヂゲサ(新稱)。本田學士檢定

本種は *Agropyron repens* BEAUVOIS シムムギに似て芒ある種なり。珍種とす。

(一) 層雲峽採收植物目録

層雲峽の視察は僅かに一日間にして且つ單に鹽谷温泉より大函に至る石狩河の右岸を往復せしに過ぎざる故採收し得たる植物も左の貳百餘種に過ぎず。

I. ノキシノブ科

Polyodiaceae.

- | | |
|---------------|---|
| 1. クジヤクシダ | <i>Adiantum pedatum</i> LINNÆUS. |
| 2. トラノヲシダ | <i>Asplenium incisum</i> THUNBERG. |
| 3. ハクモウキノデ | <i>Athyrium aerostichoides</i> DIELS. |
| 4. カウライメシダ | <i>Athyrium brevifrons</i> KODAMA. |
| 5. ナガバカウライメシダ | <i>Athyrium brevifrons</i> var. <i>angustifrons</i> KODAMA. |
| 6. オホメシダ | <i>Athyrium pleronechis</i> CHRIST. |
| 7. ミヤマヘビノネゴザ | <i>Athyrium rupestre</i> KODAMA. |
| 8. ミヤマナヨシダ | <i>Cystopteris fragilis</i> BENNHARDI var. <i>intermedia</i> NAKAI. |
| 9. ヲシダ | <i>Dryopteris crassirizoma</i> NAKAI. |

- | | |
|---------------|---|
| 10. シラネワラビ | <i>Dryopteris dilatata</i> A. GRAY. |
| 11. ナガバシラネワラビ | <i>Dryopteris dilatata</i> var. <i>oblonga</i> TAKEDA. |
| 12. ニホビシダ | <i>Dryopteris fragrans</i> SCHOTT. |
| 13. ナラキシダ | <i>Dryopteris Miqueliana</i> CHRISTENSEN. |
| 14. ウサギシダ | <i>Gymnocarpium Dryopteris</i> NEUMAN. |
| 15. クサソテツ | <i>Maleucacia Struthiopteris</i> TODARO. |
| 16. コタニワタリ | <i>Pyllitis scolopendrium</i> NEUMAN. |
| 17. ミヤマウラボシ | <i>Polypodium Velehii</i> BAKER. |
| 18. ホソデシダ | <i>Polypodium vulgare</i> LINNÆUS. |
| 19. ツルデシダ | <i>Polystichum craspodosorum</i> DIELS. |
| 20. シウモンシシダ | <i>Polystichum tripterum</i> PRESL. |
| 21. シノブカグマ | <i>Ranohira nutica</i> NAKAI. |
| 22. シシガシラ | <i>Struthiopteris nipponica</i> NAKAI, comb. nov.
Syn. <i>Blechnum nipponicum</i> MAKINO.
<i>Spicanta nipponica</i> HAYATA. |
| 23. ホソイハデシダ | <i>Woodсия polystichoides</i> EAYON var. <i>nudiuscula</i> HOOKER. |

II. フカゲノカヅラ科

Lycopodiaceae.

- | | |
|------------|---|
| 24. スギカヅラ | <i>Lycopodium annulatum</i> LINNÆUS var. <i>angustatum</i> TAKEDA. |
| 25. マンネンスギ | <i>Lycopodium obscurum</i> LINNÆUS f. <i>jabellatum</i> TAKEDA. |
| 26. トウゲヒメ | <i>Lycopodium serratum</i> THUNBERG var. <i>Thunbergianum</i> MAKINO. |
| 27. ヒメスギラン | <i>Lycopodium chinense</i> CHRIST. |

- III. スギナ科
 Equisetaceae.
 28. トクサ
Equisetum hiemale LINNÆUS f. *genuinum* AL. BRAUN.
- IV. イチブ科
 Taxaceae.
 29. イチキ
Taxus cuspidata SHEPOLD & ZUCCARINI.
- V. モリ科
 Abietaceae.
 30. アヲトド
Abies Murayana MIYABE & KUDO.
 31. エゾマツ
Picea japonensis CARRIÈRE.
 32. アカエゾマツ
Picea Glehnii MASTERS.
- VI. ヤナギ科
 Salicaceae.
 33. ドロノキ
Populus Maximowiczii HENRY.
 34. エゾヤナギ(木村氏に依る)
Salix rostrata LACHSCHWITZ.
 35. カラフトヤナギ
Salix sachalinensis FR. SCHMIDT.
 36. オホムヤナギ
Salix Urbaniana SEMEN.
- VII. カンバ科
 Betulaceae.
 37. エゾノダケカンバ
Betula Ermani CHAMISSO var. *commutata* REGEL.
 38. ダケカンバ
Betula Ermani CHAMISSO var. *nipponica* MAXIMOWICZ.
 39. アツハダカンバ
Betula Ermani CHAMISSO var. *corticosa* NAKAI.
 40. ウダイカンバ
Betula Maximowicziana REGEL.
 41. ミヤマハンノキ
Alnus Maximowiczii GAILLIER.
 42. ケヤマハンノキ
Alnus lindleria SARGENT.
 43. サハンバ
Corypinus crosii BLUME.

44. シノハシムシ
Corylus Sieboldiana BLUME.
- VIII. ノナ科
 Fagaceae.
 45. シシナラ
Quercus crispula BLUME.
- IX. ヒノ科
 Ulmaceae.
 46. オコエウシ
Ulmus laciniata MAYR.
- X. イラクサ科
 Urticaceae.
 47. イカホトラノヲ
Laportea bulbifera WEDDELL.
 48. コロハイラクサ
Urtica platyphylla WEDDELL.
- XI. タネ科
 Polygonaceae.
 49. タニンバ
Persicaria alata NAKAI.
 50. オホネバリタネ
Persicaria Makinoi NAKAI.
 51. ヒカゲミソソバ
Persicaria Thunbergii NAKAI var. *coriacea* NAKAI.
 52. オホイタドリ
Reynoutria sachalinensis NAKAI.
 53. マダイワウ
Rumex Dattoi MAKINO.
- XII. アカギ科
 Chenopodiaceae.
 54. シロギ
Chenopodium album LINNÆUS.
- XIII. ヒキチタ科
 Caryophyllaceae.
 55. タカネナヂシロ
Dianthus superbus LINNÆUS var. *speciosus* REICHENBACH.
 56. ノミノフスマ
Scllaria uliginosa LINNÆUS.
 57. シラユイハロン
Scllaria japonensis MAXIMOWICZ.
- XIV. カツラ科
 Cercidiphyllaceae.

58. カツラノキ
Cercidiphyllum japonicum SIEBOLD & ZUCCARINI.
- XV. ウマノアシガタ科 Ranunculaceae.
59. エソトリカブト *Aconitum japonense* NAKAI.
60. オホレイジンサウ *Aconitum umbrosum* KOMAROV.
61. アカミノルキエフシヨウマ *Actaea erythrocarpa* FISCHER.
62. ルキエフシヨウマ *Actaea spicata* LINNÆUS var. *melanocarpa* REEGL.
63. ニリンサウ *Anemone flaccida* Fr. SCHMIDT.
64. エヅリウキンクワ *Caltha palustris* LINNÆUS var. *gigas* TAKEDA.
65. オタヤマシヨウマ *Gimicifuga simplex* WORMSKJÖRD var. *intermedia* NAKAI.
66. シヤマハンシヨウヅル *Clematis ochotensis* PALLAS.
67. ハイキンボウゲ *Ranunculus repens* LINNÆUS var. *major* NAKAI.
68. エゾカラマツ *Thalictrum sachalinense* LEOVYER.
69. オホアキカラマツ *Thalictrum Thunbergii* A. P. de CANDOLLE var. *majus* NAKAI.
70. モミチカラマツ *Thaucteleteria japonica* SIEBOLD & ZUCCARINI.
- XVI. サンカゴ科 Podophyllaceae.
71. サンカゴ *Diphyletia Grevii* Fr. SCHMIDT.
- XVII. モクレン科 Magnoliaceae.
72. テウセンゴキ *Schizandra chinensis* BAILLON.
- XVIII. ナタネ科 Brassicaceae.
73. イハハタザホ *Arabis glauca* H. de BOISSIER.
74. エゾハタザホ *Arabis pendula* LINNÆUS.

75. エゾワサビ *Cardamine Faurii* FRANCHET.
76. ロンロンサウ *Cardamine leucantha* O. E. SCHULTZ.
77. オホタネツケバナ *Cardamine Regeliana* MURTEL.
XIX. ケマンサウ科 Fumariaceae.
78. ツルケマン *Corydalis ochotensis* TURCZANINOV.
XX. ケシ科 Papaveraceae.
79. クサノワウ *Chelidonium majus* LINNÆUS var. *grandiflorum* A. P. de CANDOLLE.
- XXI. ベンケイサウ科 Gramineae.
80. ヒメキリンサウ *Sedum kamtschaticum* FISCHER & MEYER.
81. シツバベンケイサウ *Sedum verticillatum* LINNÆUS var. *japonicum* PREGIER.
- XXII. ヌキノシタ科 Saxifragaceae.
82. ツルネコノメサウ *Chrysosplenium flagelliferum* Fr. SCHMIDT.
83. ヤマネコノメサウ *Chrysosplenium Grayianum* MAXIMOWITZ.
84. マルバネコノメサウ *Chrysosplenium ramosum* MAXIMOWITZ.
85. タマノリアヂサキ *Hydrangea pinnatifida* SIEBOLD var. *laeta* NAKAI.
86. エゾノリアヂサキ *Hydrangea pinnatifida* SIEBOLD var. *procera* REHDER.
87. ゴトウヅル var. *cordifolia* FRANCHET & SAVATIER.
88. ツルアヂサキ *Hydrangea petiolaris* SIEBOLD & ZUCCARINI.
89. サハアヂサキ var. *ovatifolia* FRANCHET & SAVATIER.
Hydrangea serrata SERINGE.

90. エゾチヤルメルサウ *Miella integrifolia* H. de BOISSIER.
 91. トガスグリ *Ribes sibiricum* NAKAI.
 92. トカチスグリ *Ribes triste* PALLAS.
 93. ダイモジサウ *Saxifraga cuneata* Siebold & Zuccarini.
 94. エゾクロクモサウ *Saxifraga fusa* Maximowicz var. *divaricata* Franchet & Savatier.
 95. フキユキノシタ *Saxifraga japonica* H. de Boissier.
 96. イハガラミ *Schizophragma hydrangeoides* Siebold & Zuccarini.
 97. ヅダヤクシユ *Tiarella polypifolia* G. Don.
 XXXIII. シモツケ科 Spiraeaceae.
 98. エゾノヤマブキシヨウイ *Aruncus vulgaris* Rafinesque.
 99. ホザキノナナカマド *Sorbaria stellipila* Schneider.
 XXIV. タワリン科 Cydoniaceae.
 100. ナナカマド *Sorbus commixta* Hedlund.
 XXV.バラ科 Rosaceae.
 101. キンミツヒキ *Agrimonia pilosa* Ledebour var. *japonica* Nakai.
 102. ダイロンサウ *Gemma japonicum* Thunberg.
 103. イハキンバイ *Potentilla Dickinsonii* Franchet & Savatier.
 104. エゾウラジロイチロ *Rubus Idaeus* Linnaeus var. *Matsunoyae* Nakai.
 105. ヒメゴエウイチロ *Rubus pseudo-japonicus* Koidzumi.
 106. コキンバイ *Waldsteinia sibirica* Trattinick.
 XXXVI. サクラ科 Amygdalaceae.

107. シヤマギクラ *Prunus Maximowiczii* Ruprecht.
 108. シウリザクラ *Prunus Siori* Fr. Schmidt.
 109. オホヤマギクラ *Prunus Sargentii* Rehd.
 XXVII. カタムシ科 Oxalidaceae.
 110. コミヤマカタムシ *Oxalis Acetosella* Linnaeus.
 XXVIII. ツゲ科 Buxaceae.
 111. フツキサウ *Pachysandra terminalis* Siebold & Zuccarini.
 XXIX. ウルシ科 Anacardiaceae.
 112. ヅタウルシ *Rhus ambigua* L'Herminier.
 XXX. モチノキ科 Aquifoliaceae.
 113. ツルツゲ *Ilex rugosa* Fr. Schmidt.
 XXXI. ツルウメモドキ科 Celastraceae.
 114. ヒロハノツリバナ *Euonymus amurensis* Ruprecht.
 XXXII. モミチ科 Aceraceae.
 115. イタヤメイゲツ *Acer japonicum* Thunberg.
 116. オホメイゲツ *Acer japonicum* Thunberg var. *circumlobatum* Koidzumi.
 117. コハロンウチン *Acer kobakense* Nakai, sp. nov.
 118. イタヤカヘチ *Acer Mono* Maximowicz.
 119. オガラバナ *Acer ukurandense* Trautvetter & Meyer.
 XXXIII. ツリフネサウ科 Balsaminaceae.
 120. キツリフネ *Impatiens Noto-tangete* Linnaeus.

- XXXIV. シナノキ科 Tiliaceae.
 121. シナノキ *Tilia japonica* SIMONKAL.
 XXXV. マタタビ科 Actinidiaceae.
 122. シヤママタタビ *Actinidia Kolominata* KUPRECHT.
 XXXVI. シキリサウ科 Oenotheraceae.
 123. シヤマタニタビ *Cheusa alpina* LINNÆUS.
 124. 白花シヤマタニタビ *Cheusa alpina* var. *leucantha* NAKAI, sp. nov.
 125. ヤナギラン *Epilobium angustifolium* LINNÆUS.
 126. イノアカバナ *Epilobium cephalostigma* HATSURECHT.
 127. シヤマイノアカバナ *Epilobium oligodontum* HATSURECHT.
 XXXVII. タラノキ科 Araliaceae.
 128. タラノキ *Aralia elata* SEMANX.
 129. ホンウロギ *Elaeagnococcus senticosus* MAXIMOWITZ.
 130. ケセンノキ *Kalopanax pictum* NAKAI var. *magnificum* NAKAI.
 XXXVIII. パンシベリ科 Apiaceae.
 131. ホンセンキウ *Angelica yezoata* Fr. SCHMIDT.
 132. アマニウ *Angelica utilis* MIYABE.
 133. シヤク *Anthriscus silvester* HOFFMANN.
 134. オホホタルサイコ *Bielerium sachalinense* Fr. SCHMIDT var. *breviradiatum* NAKAI, comb. nov.
 Syn. *B. longiradiatum* var. *breviradiatum* Fr. SCHMIDT.
 135. ハナウド *Heracleum lanatum* MICHAUX.

136. ナガシラシ *Osmorhiza aristata* MAKINO & YABE.
 137. ウマノシシバ *Sanicula chinensis* BUNGE.
 XXXIX. シズキ科 Cornaceae.
 138. ホヤンタチバナ *Osmantheridium chinense* ASCHERSON & GRÄBNER.
 139. シズキ *Cornus controversa* HEMSLEY.
 XL. ツツシ科 Rhodograceae.
 140. イノコゲ *Castiopsis lycoperdoides* D. DON.
 141. ムラサキヤシホツツシ *Rhododendron Albrechtii* MAXIMOWITZ.
 142. ホソムラサキツツシ *Rhododendron deurivicum* LINNÆUS.
 143. シロバナシヤクナゲ *Rhododendron Fauriei* FRANCHET var. *rufescens* NAKAI.
 144. ウスノキ *Vaccinium Usanoki* NAKAI.
 XLI. オユリロサウ科 Lamiaceae.
 145. カハシズリ *Lysichiton rugosus* O. KUNTZE.
 146. シゾガハサウ *Nepeta subserotilis* MAXIMOWITZ.
 147. タウバナ *Satureia multicaulis* NAKAI.
 148. ヒカゲタツナシサウ *Scutellaria umbrosa* NAKAI, sp. nov.
 XLII. キンギョサウ科 Rhinanthaceae.
 149. シゾホホヅキ *Mimulus inflectus* NAKAI.
 150. オホシゾホホヅキ *Mimulus sessiliflorus* MAXIMOWITZ.
 XLIII. ハハダクサウ科 Phrymaceae.
 151. ハハドクサウ *Phryma leptostachya* LINNÆUS.

- XLIV. アカネ科 Rubiaceae.
152. シルマハサウ *Asperula odorata* LINNÆUS.
153. クルマムヅラ *Gallium japonicum* MAKINO.
154. オホバヨツバムヅラ *Gallium orgaanum* PPRE.
155. ウスキカハラマツバ *Gallium verum* LINNÆUS var. *intermedium* NAKAI.
- XLV. ニンドウ科 Caprifoliaceae.
156. ウロンウツギ *Galipfriskima Mikadodorfiana* TRAUTVETTER & MEYER.
157. ヒメフシダマ *Lonicera chrysantha* TURZANINOV var. *typica* NAKAI.
158. ホソニントロ *Sambucus Buergeriana* BRUNF.
- XLVI. タウナス科 Caurthaceae.
159. アマチヤヅル *Gymnostemma pentaphyllum* MAKINO.
160. シヤマニガウリ *Schizopora bryoniaefolius* MAXIMOWITZ.
- XLVII. レンブツサウ科 Adoxaceae.
161. レンブツサウ *Adoxa Moschatellina* LINNÆUS.
- XLVIII. カノコサウ科 Valerianaceae.
162. カノコサウ *Valeriana officinalis* LINNÆUS var. *latifolia* MIGUEL.
- XLIX. ホタルブクロ科 Campanulaceae.
163. コスコミヤジミ *Adenophorum Limnarkii* FISCHER var. *longifolia* NAKAI, var. nov.
164. ヒロハシヤジミ *Adenophorum latifolia* FISCHER.
165. タニキケフ *Pentstemon siveoides* NAKAI, comb. nov.
- 「 ヨメナ科 Asteraceae.

166. ノブキ *Adenocaulon adhaerescens* MAXIMOWITZ.
167. ヤマハハコ *Anaphalis margaritacea* BENTHAM & HOOKER.
168. コマナ *Aster Glehnii* FR. SCHMIDT.
169. エゾヤマヨモギ *Arenaria kamtschatica* WILDENOV.
170. イヌヨモギ *Arenaria Kriekana* MIGUEL.
171. ヨブスマサウ *Caesia hastata* LEDEBOUR var. *glabra* LEDEBOUR.
172. コモチミシカウモリ *Caesia Matsunurama* KUDO.
173. ムカシヨモギ *Erigonum kamtschaticus* A. P. de CANDOLLE.
174. エゾノマアザミ *Cirsium pedunculatum* A. GRAY var. *modestum* NAKAI.
175. ヤマニガナ *Lactuca Raddeana* MAXIMOWITZ.
176. アキタブキ *Petasites gigantea* FR. SCHMIDT.
177. エゾハンゴンサウ *Senecio camudifolius* LESSING.
178. エゾアキノキリンサウ *Solidago Virginiana* LINNÆUS var. *yesoensis* NAKAI, var. nov.
179. ノゲシ *Sanctus olereus* LINNÆUS.
- 「I. イチゴツナギ科雑類を除く外は本田博士の鑑定(鑑定) Ponaeae.
180. エゾカモジグサ *Agrostis yesoense* HONDA, sp. nov.
181. ヤマヌカボ *Agrostis perennans* TUCKERMANX.
182. ハジカヘリ *Brykinea caudata* FR. SCHMIDT.
183. イハノガリヤス *Calamagrostis Langsdorffi* TRINITS.
184. エゾノガリヤス *Calamagrostis sachalinensis* FR. SCHMIDT.
185. タツノヒゲ *Dicentra japonica* FRANCOET & SAVATIER.

186. エソノドゼウツナギ *Glyceria pallida* TRINITS.
 187. コメヌスキ *Melica nutans* LINNAEUS.
 188. エソヌスキ *Miscanthus sinensis* ANDERSSON var. *decompositus* NAKAI.
 189. イブキヌカボ *Phoenosperma globosa* MUNRO.
 190. ミゾイチゴツナギ *Poa arvensis* STEUDEL.
 191. スズメノカタビラ *Poa annua* LINNAEUS.
 192. シコタンチク *Sasa nebulosa* OHKI.
 193. チシマザサ *Sasa karitensis* MAKINO & SHIBATA.
 LII. カヤツリグサ科 *Cyperaceae*.
 194. ヒメカンスゲ *Carex canica* BOOTT.
 195. ヒユクサ *Carex japonica* THUNBERG.
 196. ヒメハリスゲ *Carex Krameri* FRANCHET & SAVATIER.
 197. ヒメシラスゲ *Carex molliscula* BOOTT.
 198. ヤブスゲ *Carex remota* LINNAEUS.
 199. ホソスゲ *Carex tenella* SCHREHR.
 200. ヌマガヤツリ *Cyperus glomeratus* LINNAEUS.
 LIII. テンナンセンセウ科 *Ariaceae*.
 201. ヒロハテンナンセンセウ *Arisema canense* MAXIMOWITZ.
 LIV. ヨリ科 *Liliaceae*.
 202. ツバメオモト *Clintonia ulensis* TRAUTVETTER & MEYER.
 203. オホマビヅルサウ *Majanthemum dilatatum* NELSON.

204. オホアマドロコ *Polygonatum Thunbergii* MORREN & DECAISNE var. *Mazimowiczii* NAKAI, comb. nov.
 Syn. *Polygonatum Mazimowiczii* FR. SCHMIDT.
 205. オホバタケシマラン *Polygonatum officinale* ALLIIONI var. *Mazimowiczii* MAXIMOWITZ.
 206. チシマゼキシヨウ *Streptopus amplexifolius* A. P. de CANDOLLE.
 207. クロミゼキシヨウ *Tofieldia nutans* WILDENOV.
Tofieldia nutans var. *rubescens* NAKAI, comb. nov.
 Syn. *Tofieldia colymbata* WAHLENBERG var. *rubescens* HORPE.
Tofieldia fusca MIYABE & KITAO.
Tofieldia nutans var. *fusca* KOIDEZUMI.

L.V. ラン科 *Orchidaceae*.

208. サイハイラン *Gymnastria variegata* NAKAI.
 209. アケボノシユスラン *Goodyera Mazimowicziana* MAKINO.
 210. コトンボサウ *Pendulata ussuriensis* SCHLECHTER.

(ニ) 層雲峡一帯を名勝並に天然紀念物として保護すべき理由

層雲峡は大雪山山麓とニセイカウシユッペ山とが相逼りて成せる石狩の峡谷にして風光の美なる事は北海道に冠絶す。特に白色粗面岩の懸崖と石狩の清流と之を被ふ植物美と相俟つて邦内にも稀に見る大規模なる奇勝なり。春はオホヤマザクラ(桃色)エゾノムラサキツジ(紅紫色)ムラサキヤシホ(紫紅色)と落葉樹の若芽とが濃緑色の針葉樹に映りて得も言はれぬ粧をなし秋は櫻類、ナナカマド類、ツタウルシ、カヘデ類の色取り々々なる紅葉にて満山の飾を織

り成し紅葉を賞する客は年を追ふて激増し數百人を收容し得る鹽谷温泉場の旅館も容るゝに餘地なき賑を呈す。余は不幸此錦を見得ざりしも其處に生ずる植物群と其自然美とに依りて秋期の美觀の如何許なるかを想像し得たり。斯の如き地故此地を名勝地として保存すべきは勿論にして大雪山調査會が費を惜まずして道路を開けるも亦一には此勝あるが爲めなり。加之前記の如き珍種に富み北海道特有の數十種の植物を併せ産する點よりしても名勝たると同時に天然紀念物として保護すべく以て大雪山を訪ふものをして幾久しく此美觀を賞し此天與の珍種を見るの機會を與へしむべし。

層雲峽を保護せんと欲せば之に附隨する森林を保護し其水源を保護するの要あり。余は今回北海道廳員と協定してニセイカウシュツベ山の半面をも保護區域に加へんと欲するには二大理由あり。(一)は大雪山と共に層雲峽の兩翼をなす其一翼の美を永久に保護せん爲めにして(二)はニセイカウシュツベ山がチシマルリサウの如き珍種を其頂に産し其斜面が又植物の種に富むを以てなり。

(六) 大雪山彙の植物

(一) 高度ニ應ズル植物帶ノ變化

大雪山のの植物は高度即ち標高に依る温度の差に依りてほゞ四帶となる(イ)針葉樹帶。(ロ)岳樺帶。(ハ)匍松帶。(ニ)小灌木、草本混淆帶是なり。之を高度を以てすれば(イ)は六七百米突より千三四百米突に至る間。(ロ)は千七、八百米突以上山頂に至る迄なり。

此等の四帶の各部に於て水分の多少と岩石の多少、夏期流行の風の方向に依りて自ら植物分布の状態を異にす。

(イ) 針葉樹帶(七、八百乃至千三四百米突)。

此帶は凡てアフトド、アカエゾ、エゾマツの混淆林にて被はるゝを以て遠く之を望めば單に黒き針葉樹のみより成る如くなるも近づきて見れば其針葉樹は内地又は北鮮の針葉樹林の如く純粹濃密なるものに非ずして其生育疎にして其間に多種の闊葉樹を交ふ。其中九百米突邊迄は主としてミヅナラ、オヒヨウニレ、ナナカマド、オガラバナ、イタヤカヘデ、ミヤマザクラ等の喬木とシロバナシヤクナゲ、ムラサキヤシホ、コヤウラク、エゾノムラサキツツジ等の灌木とを交へ又地を匍ふものにはツルツゲ、ツルシキミあり。下草として羊齒類の發育は其極に達しカウライメシダ類、オホメシダ、ハクモウキノデ、ナンタイシダ、オホバシヨリマ、クマワラビ、ヲシダ、シラネワラビ、ヤマソテツ、シノブカグマ、イハガネゼンマイ、オニゼンマイ等あり。又トウゲヒバ、ヒメスギラン、アスヒカヅラ等の石松類もよく發育す。草本にはヒメシラスゲ、エゾノクサイチゴ、ミツバワウレン、コイチエウラン、アリドウシラン、シヨウウジヨウバカマ、ミヤマアラスゲ等あり。又個所によりシヤコタンチク多く生ず。

千二百米穿邊迄にはダケカンバを多く混じ始め下木にはエゾウラジロナナカマド、クロウ

スゴ、ウラジロハナヒリノキ、チシマヘウタンボク、ムラサキヤシホ、ヒロハハナヒリノキ等出現し特にシヤコタンチクは著しく叢生して高さ七八尺にも達す。草本にはエゾバイケイサウ、ハクサンバウフウ等出で来る。

千二百米突邊以上は一層ダケカンバの數を増しミネカヘデ現はれシヤコタンチクは漸次チシマザサと置き代る。

(ロ) 岳樺帯(千三四百乃至千五六百米突)。

本帯はエゾノダケカンバ、アツハダカンバを主要樹とし其下木としてナナカマド、チシマザサ、シロバナシヤクナゲ、ハヒマツ、マルバシモツケ、チシマヘウタンボク、ウコンウツギ、ミヤマホツツジ等の混生する所なり。特にチシマザサは異常の發育を遂げ最も群生す。然れ共其間自ら間隙ありて草地をなす。草地又は灌木の間には特有の植物群あり。其群を成す主なる因子は左の如し。

キンスゲ、タカネソモソモ、ハクサンボウフウ、ウサギギク、ハヒオトギリ、タカネスイバ、カラマツサウ、ミヤマズメノヒエ、シナノキンバイ、オホレイジンサウ、エゾホソバトリカブト、エゾウメバチサウ、エゾアキノキリンサウ、ハクセンナヅナ、オニカサモチ、ハクサンイチゲ等。

草地のみなるときはイハノガリヤス、ミヤマアハガヘリ、オホキンスゲ、コメススキ、マシケスゲ、トカチフウロ、エゾキタアザミ等大なる群落をなし其間よりオニカサモチ、オニシモツケ、生ず又巨大なるウラジロエゾセンキウの點在するあり。岩石地にはアヲノツガヅクラ、エゾツ

ツジ、メアカンキンバイ、エゾクロクモサウ等現はる。

(ハ) 匍松帯(千五六百乃至千七八百米突)。

本帯は匍松、エゾウラジロナナカマド、チシマザサ、エゾミヤマナギ、ウコンウツギ、ミヤマハシノキ(寫眞第四)、チシマヘウタンボク、ミヤマホツツジの混生する所にして草本にはエゾキタアザミ、大雪トウチサウ、タカネトウチサウ、ウラジロタデ等特に多くシナノキンバイ、エゾホソバトリカブト、ミヤマカウゾリナ等の個數多し。

(ニ) 小灌木草本混生帯(千七八百米突以上)。

此部分は大雪山の高山植物帯にして最も寒性の植物のみ生じ其區域も頗る廣汎にして今回調査の主要部たり。

此部は火山の新古に依り植物の種數が甚だしく異り古き程種類に富む。即ち本山麓中の最も古き火山と認むべき平ヶ岳火山と小泉岳火山とに於て最も多種多様なり。次で黒岳、北鎮岳、白雲岳等にして北海岳、旭岳等に於て貧弱なる植物群を見る。

本年余の登山せる時は稀に見る早魃にして大雪山も爲めに例年に比し雪少く融解極限より更に二間餘も減退し居たる故あるべき沼地も乾地と化し、例年發育する濕性植物帯の多くを見得ざりしは遺憾なりき。大雪山の主と呼べる、小泉秀雄君は大雪山調査會より撰ばれて特に余の嚮導に立ちしが小泉岳の如きは例年は水たえずして草はよく發育し居るに本年は平年の半の高さにも及ばずとて驚き居たり。従つて以下余の觀察によりて記す所は本山

稔の植物景としては稍異例に屬する嫌なきやを危ぶむものなり。

山上植物帯の特色とも謂ふべきは山の高所は草本と匍匐性の小灌木と地衣類、蘚類と混生し其下に位する崖縁又は斜面の稜線を縁取りて匍松(寫眞第十參照)生じ其下をミヤマハンノキ、エゾウラジロナカマド、ミヤマナカマドなどが階段的に縁取り(寫眞第十一參照)更に其縁にキバナシヤクナゲとイソツツジ類とを回らし其れより再び草地となる。即ち山頂又は稜線又は陽性の斜面の乾地にして草少なき砂地なるときはムカゴトラノヲ、タカネスミレ、ミヤマカウバウ、クモキリンドウ、イハブクロ、チシマシホガマ、ユキバタウヒレン、タカネキタアザミ、イハウメ、コマクサ等を生じ。殊にコマクサ(寫眞第十九、二十參照)は砂地にして他の植物なき所に非んば生ぜず。

草と匍匐性の小灌木と混生する乾地にありてはミネズリウ、イハウメ、イハヒゲ、エゾノツガザクラ、アヲノツガザクラ、コマバツガザクラ、クロマメノキ、ヂムカデ、クマコケモモ、チシマツガザクラ(寫眞第十二參照)ガンカウラン(寫眞第十三參照)エゾマメヤナギ、コケモモ、マルバヤナギ(寫眞第十三參照)、ホソバソツツジ、エゾマルバシモツケ、キバナシヤクナゲ(寫眞第十三參照)等の小灌木群生し其間にムカゴトラノヲ、ハクサンイチゲ類、ミヤマキンボウゲ、ヒメイハベンケイサウ、ヤマハナサウ、メアカンキンバイ、ミヤマキンバイ、チングルマ、リーシリワウギ、トカチフウロ、ホソバシラネニンジン、レブンサイコ、コツマトリサウ、ミヤマリンダウ、ヨコヤマリンダウ、タウオヤマリンダウ、ヨツバシホガマ、イハブクロ、ミヤマクハガタ、リンネサウ、タカネヲミナ

ヘシ、チシマキケフ、エゾハハコヨモギ、シロサマニヨモギ、ミヤマアヅマギク、ウサギギク、タカネキタアザミ、ユキバタウヒレン、エゾノサハアザミ、エゾキタアザミ、タカネカウリンクワ、エゾアヅマギク、エゾアキノキリンサウ、ミヤマスカボ、タカネノガリヤス、コマススキ、ミヤマカウバウ、ミヤマクロスゲ、クモマスズメノヒエ、クロタカネズメノヒエ、チシマアマナ、チシマゼキシヨウ等の雑草を混生す。

匍匐性の小灌木は本山稔にありては特に大なる純群叢をなす。假令へばイハヒゲの如きは内地の高山にありては拳大又は掌大の群以上なる事は稀なるに本山稔にありては一坪二坪に亘りて純叢をなす爲め其中央部はイハヒゲの要する肥料を失ひて枯死し其處に他の雑草の逐次侵入する如き状態を観察し得又ミネズハウ、アヲノツガザクラ、チシマツガザクラ、イハウメ等の如きはよく十數坪乃至數反歩の面積を占めて繁殖す。草地にありて特に偉觀をなすはエゾノサハアザミの頭狀花が大形の烟管を並べたる如く群生する事なり(寫眞第三參照)。溪谷には俗に萬年雪と稱する堆雪あり。此堆雪は本山稔に於ては夏時遂に消えずして其中心部を残す。其残雪の面積規模の大なる事は日本の高山に冠絶す。此雪が初夏より消ゆるに従ひて其下にありて機を窺ひし植物は急ぎ伸長し短日間に花を開き實を結ぶを以て夏を通じて各種の植物の蕾と花と果實とを同時に見るを得。此點に於ても本山稔は内地の高山に見得ざる植物觀を呈す。

雪融の漸く進みて中夏に達すれば其下より谷間の濕性群落を顯出す。此群落をなす主な

る植物はオクヤマワラビ、エゾイブキトラノヲ、ウラジロダデ、ジンエウスイバ、タカネスイバ、ミヤマキンボウゲ、ハクサンイチゲ、リウキンクワ、ミヤマタネツケバナ、シベリアヤマガラシ、ハクセンナヅナ、エゾクロクモサウ、チシマクモマダサ、クモマユキノシタ、エゾコアカバナ、タカネトウチサウ、ジンエウキスミレ、カラフトヒメシヤクナゲ、クマコケモモ、マルバヤナギ、エゾコザクラ、クロボスゲ、オホクロメスゲ、ヤチスゲ、クロスゲ、ミネハリキ、タカネクロスゲ、ミヤマキ、エゾバイケイサウ(寫眞第十四參照)等なり。特に紫紅色の美花を開く所のエゾコザクラの數百數千株の純叢や砂地を獨占するチシマクモマダサとクモマユキノシタの廣き群乃至溪畔を占むるエゾコアカバナ、ホソバアカバナの可憐なる紅花、並び立てるエゾバイケイサウの帶綠黃白花、リウキンクワ、ミヤマキンボウゲの黃金花等取りどりに美しからぬはなし。

凹地には水を湛へて沼澤をなす所多し。斯る所には又特色ある植物群落あり。特にマルバダイワウの群匍ひ繁るヤチヤナギ穂の白く風にそよぐワタスゲ(寫眞第二十二參照)。黒き穂を並べるクロカウガヒゼキシヨウ其他タカネクロスゲ、ミネハリキミツカシハ、タカネヤガミスゲの群等は特に目立ちて見ゆ。

(二) 主要部ノ植物區

(イ) 小泉岳

以上は高地植物の一般に就て概説せし所なるが更に進みて各部局に就いて其特色を述べれば先づ最も珍種に富む小泉岳(小泉秀雄氏の本山調査の功を紀念して大雪山調査會にて命

名す)より筆を起す要あり。既記の如く小泉岳は本山彙中最も古き火山なれば最も早くより種々の植物が侵入し居りし爲め植物の種類も最も多く又本山彙中他に見難き珍種多し。就中チヨウノスケサウ、ユキワリガヤ(新屬)、タカネキ(小泉氏に依る)の如きは他に見得ぬものとす。本山に生ずる主なる植物は左の如し。

タカネヤガミスゲ、エゾミクリゼキシヨウ、タカネクロスゲ、タカネノガリヤス、チシマアマナ、エゾミヤマアカバナ、シベリアガラシ、チシマイハブキ、レブンサイコ、エゾアヅマギク(寫眞第十八參照)。ホソバウルツブサウ(寫眞第十五參照)。チシマキケフ、イハギケフ、エゾミヤマツメクサ(寫眞第十六參照)。オホタカネツメクサ(寫眞第十六參照)。ヒメイハベンケイサウ、チシマヒメイハタデ(寫眞第十七參照)。エゾノイブキトラノヲ、ユキバタウヒレン(寫眞第二十一參照)。エゾキタアザミ(寫眞第三十二參照)。エゾハハコヨモギ、シロサマニヨモギ、ハヒオトギリ、エゾアキノキリンサウ、エゾノサハアザミ、クモマタンポポ、クモキリンドウ、ヨコヤマリンドウ、カハカミリンドウ、ミヤマリンドウ、コツマトリサウ、ヨツバシホガマ、チシマシホガマ、イハブクロ、ミヤマクハガタ、ミヤマカウバウ、ミヤマアハガヘリ、クモマスズメノヒエ、ヒメキズキ、リシリワウギ、エゾオホヤマエンドウ等。

而して此草の間を縫ひてエゾマメヤナギ、チシマツガザクラ、ヂムカデ(寫眞第十二參照)。クマコケモモ、ミネズノウ等の小灌木を混生し邦内比類なき植物景觀を呈す。

(ロ) 平ヶ岳

小泉岳に匹敵すべきは平ヶ岳火山即ち廣き高根ヶ原を含む地にして此には又ビロウドシ
ホガマ、ムラサキイハワウギ、シラタマノキ等の如き他の個所に見得ぬものゝある外コマクサ
(寫眞第十九、二十参照)の如きは最もよく生育しホソバウルツブサウ、クモキリンドウ、エゾミヤマ
ツメクサ等も多く乾地植物群落は甚だしく小泉岳に似たり。高根ヶ原と稱する如く匍松の
茂れる平原は草地と沼地とを併せ有す。沼地には又マルバギシギシ(寫眞第二十二参照)、ワタスゲ
(寫眞第二十三参照)、クロカウガイゼキシヨウ、ホソバアカバナ、ミヤマヤチヤナギ(寫眞第二十三参照)、
ミツガシハの如きが本山彙の特色とも謂ふべき群落をなす。

平ヶ岳の東側は崖にして崖下には丈なす草の繁れる原中に溪流迂回し下るに従ひて松柏
林に移行し其間に數個の湖水ありて小規模乍らも歐米に多く見る氷河の遺跡の湖水地方に
彷彿たるものあり(成因はもとより氷河の爲めに非ず)又谷に沿ひて温泉と間歇温泉とあり。
間歇泉は二十分乃至十五分毎に噴出し大なるは松柏林の二倍にも水蒸氣の射出するあり。
比類なきものと謂ふべし。此邊の平地は今は羆群の樂天地なれ共將來は林道を開きて天幕
指定地となさば山岳家の樂天地と化し得べし。

(ハ) 前岳、忠別岳間の谷

高根ヶ原を過ぎ平ヶ岳前岳の廣汎なる匍松林を過ぐれば忠別岳との間に澤あり。水を湛
えて靜寂なる一小湖をなす。湖畔より東方水の落口に至る間は又本山彙中植物に富む所と
す。水邊にはカハズスゲ、アゼスゲ、オホクロメスゲ、ヤチスゲ、タカネヤガミスゲ、エゾミクリゼ

キシヨウ、ミネハリキ、ミヤマキ等群生し其間よりクロバナラウゲ、ミヤマキンボウゲ、ミヤマリ
ンドウ、カハカミリンドウ、ムカゴトラノヲ、イハイテウ、ヒメクワンザウ、コトンボサウ等生ず。
就中ギボウシの一種ヤチギボウシ(小泉秀雄君命名)は本山彙の特産にして内地産のミヅギボ
ウシに似たる形をなせども葉と花序とは一面に白粉を被る事恰もタウギボウシの如く其花
色の黒紫色なるはギボウシ類中にある一異彩なり。池を離れて乾地に進めばイハノガリヤ
ス、エゾノサハアザミ、ウサギギク、ハクサンボウフウ等の生ずる草地となり更にミヤマナカ
マド、エゾミヤマザサ、ハヒマツの群に移る。谷に向ひて進めばミヤマアケボノサウの群あり
又谷の狭き所、岩陰等にはオホミヤマイヌワラビ生ひ、廣き岩隙にはエゾリウキンクワ(寫眞第
二十四、二十五参照)の黄花開きクロクモサウ、チシマクモマダサ等生ず。更に廣き砂地にはクモ
マユキノシタ、チシマクモマダサ(寫眞第二十六参照)の大群ありて遠く之を望めば赤褐色の平地
とも見ゆ。更に下りたる溪畔にはリウキンクワ多く又エゾミヤマアカバナ(寫眞第二十五参照)。
群生し是亦本山彙特有の色彩をなす。此邊にハヒスミレある由なるも時期既に遅れて見る
を得ざりき。

(ニ) 白雲岳

白雲岳は中年期の火山なれ共其生成後其兩翼にある小泉岳、平ヶ岳の兩側より植物が侵入
せし爲め植物の種類に富む事に於ては大雪山彙中屈指の山なり。白雲岳の植物景に著しき
特色ある三つの部分あり。即ち(甲)東南面に當る白雲の澤。(乙)舊火口たる白雲平。(丙)西北側

たる白雲の崖の三部なり。

(甲) 白雲澤

此所は堆雪より流れ出づる水にて半は沼半は澤となる所にしてハヒマツ、ミヤマナナカマドの下に擴がれる緩斜面にはタカネトウチサウ(寫眞第二十八參照)。ウラジロタデ、ナンブソノモ、エゾキタアザミ等群生し其間よりハクセンナヅナ(寫眞第二十八參照)。エゾノサハアザミ、エゾホソバトリカブト等生ひ其れより水邊に向ひてウサギギク、ミヤマクログスゲ、ミヤマキ、クロカウガヒゼキシヨウ、タカネヤガミスゲ、ホソバアカバナ等生ひ水流に沿ひてはエゾバイケイサウ、オクヤマワラビ、エゾリウキンクワ、エゾコザクラ、エゾクロクモサウ、チシマクモマダサ、ジンエフスキバ(寫眞第二十九參照)。等生じ、雪融の崖にはクモマタンボボ、ミヤマカウゾリナ、ヒメイハベンケイサウ、ウサギギク等あり。本來此所はフタマタタンボボの産地なる由なるも余の登山の際には遂に一本も見出し得ざりき。

(乙) 白雲平

此平地は舊火口の埋まりて成れるものにして平年は水多くして一半は沼地なれ共余の至れる時は全く乾燥して沼澤植物の群落を見得ざりき。生ずる所の主なる植物は次の如し

キンスゲ、ミヤマクログスゲ、ミヤマキ、クモマスズメノヒエ、タカネノガリヤス、エゾイブキトラノヲ、エゾマメヤナギ、クモマユキノシタ、ミヤマキンバイ、ハクサンイチゲ、エゾオホヤマエンドウ、クモキリンドウ、ミネズワウ、クロマメノキ、イハウメ、ミヤマクハガタ、タカネヲミナヘシ、チシ

マキケフ、エゾハハコヨモギ、シロサマニヨモギ(寫眞第三十參照)。ユキバトウヒレン、エゾアキノキリンサウ。

(丙) 白雲の崖

全部古き半ば崩壊せる熔岩塊より成る崖にしてハヒマツ、キバナシヤクナゲ、エゾウラジロナナカマド、ウコンウツギ等の灌木並にエゾイソツツジ、ミネズワウ、ガンカウラン、マルバヤナギ、エゾノツガザクラ、コケモモ、イハヒゲ、ホソバイソツツジ、エゾマルバシモツケ、デムカデ、コメバツガザクラ等の倭小灌木。クマコケモモ、チングルマ、イハウメの如き小さき半灌木の被ふ間にタカネノガリヤス、ユキバトウヒレン(寫眞第二十二參照)。ミヤマカウバウ、イハスゲ、ミヤマクログスゲ、ミツバワウレン、ヨツバシホガマ、ヨコヤマリンドウ、ミヤマリンドウ、ハクサンバウフウ、イハギケフ(寫眞第二十七參照)。ミヤマスカボ等生じ、特に珍とすべきはヒメイハゼキシヨウのあ

(ホ) 御藏澤

御藏澤は北海岳の熔岩流と烏帽子岳との間にある澤にして大規模なる堆雪より流れ出づる溪流に濕はされ上方は雪の澤に連なり下端は赤石川に終り珍種に富む。就中ジンエウキスミレは本澤の特産にしてエゾミヤマヤナギ、エゾハクサンイチゲ等の多生する事、岩上にエゾツツジ、エゾノツガザクラ、アヲノツガザクラ(寫眞第三十參照)。等の美しく開き谷間にミヤマキンボウゲ、エゾコザクラの咲き揃ふなどは實に飽かぬ眺めなり。

(一) 黒岳

黒岳は白雲岳に匹敵すべき山なれども小泉岳、平ヶ岳の如き植物に富む古き山に接せざる爲め植物の種類のみ多き事は白雲岳に及ばず。特に今は登山道路に當りて登山者の一半は石室に下らずして黒岳頂を究むれば大雪山を征服し得たる如き感を懐き少許の植物を携へては歸る爲め漸次其數を減じ嘗てはクロユリの花咲き揃へる所も今は其影だになく荒涼の狀轉た往時を忍ばしむるものあり但し道を離るゝ事遠ければ尙ほ種類多く其崖をなす北側の舊火口壁には(寫眞第八参照)。ハヒマツ、ミヤマハンノキ、エゾウラジロナカマド等生ひ茂り石室に面する西側の斜面にはコケモモ、コメバツガザクラ、ミネズハウ、ヂムカデ、クロマメノキ、イハウメ、クマコケモモ、チシマツガザクラ、ガンカウラン(寫眞第十三参照)。チングルマ等は毛氈を敷けるが如くマルバヤナギ(寫眞第十三参照)。は其間を縫ひ更にエゾハハコヨモギ、タカネキタアザミ、ワタスゲ、ミヤマリンドウ、タカネノガリヤス、ヨツバシホガマ、チシマクモマダサ、イハブクロ等を混じり又ハヒマツに接する所にはキバナシヤクナゲ、ホソバイソツツジ、エゾイソツツジ、ミヤマホツツジ等あり。

桂月岳に接する谷は又種類に富みオクヤマワラビ、エゾコザクラ、ミヤマキンボウゲ、エゾバイケイサウ等は水邊に近く生じ乾燥の砂礫地にはコマクサ多く黒岳登山口より最も近くコマクサ群を見得る所とす。

(ト) 雲の平

雲の平は傾斜極めて緩なる廣き丘陵性の平原にして其廣さと植物の種類豊富なる點に於ては高根ヶ原に劣れども登山口に近く接近し易き事は彼に過ぐ。所々にハヒマツとエゾウラジロナカマドの群落あり其間を被ふものは所謂御花畑にしてエゾノツガザクラ(赤紫紅)。キバナシヤクナゲ(淡黄)。チングルマ(黄白)。ウサギギク(黄)。アヲノツカザクラ(綠黄)。ミヤマキンバイ(黄)。エゾイソツツジ(白)。ヨツバシホガマ(濃紅)。メアカンキンバイ(黄)。イハブクロ(紫)。ハヒオトギリ(黄)。ミヤマクハガタ(董色)。の花咲き揃ひ美しなど言ふ許りなし。所々に土饅頭狀の突起を並べたる所あり(寫眞第十一参照)。此は雪融に依りて生ずる形にして饅頭の頭にはスゲ類、コメススキ類、チングルマ、クロマメノキ、エゾマメヤナギ等を生ず。

(チ) 北鎮岳

北鎮岳海拔二千二百四十米突は本山稜中旭岳海拔二千二百四十六米突と共に其高さを競ひ其眺望の佳なる事も亦彼と伯仲の間にある、特に直下大噴火口原を下瞰する事と火口より出づる赤石川の流を近く望む點に於て遙かに彼に過ぐる所あり。試に頂に立ちて南を望めば熊ヶ岳、旭岳は相重なりて聳え旭岳の右には遠くフラノ岳を見左には後旭日岳との間には噴烟の十勝岳、ビエイ岳、オプタケシケ山等其高さを競ひ前面に展開する大噴火口を界して間宮岳、荒井岳、松田岳と相並び荒井、松田兩岳の間よりは忠別岳の絶壁と其右に化雲岳の赫兀の連峯と其後には北海道中大雪山に次ぐ高山と稱せらるゝトムラウシ山を見、忠別の左にはニベツツ山、シカリベツツ山を見更に松田岳の左後方は白雲の絶壁より左に小泉岳の斜面は長く

緩く展開し其終る所には烏帽子岳の危峯突出し、小泉岳の前には五色平を隔て、北海岳の熔岩は黒く長く城壁の如く續き遠く赤石川に至りてつく。小泉岳の背後には石狩岳クマネシ川の諸峯を遠望し得べく、赤石川の飛龍瀑に落ちんとする右には奥の平の高原を俯瞰す。清く光りて流る、赤石川の左には黒岳、桂月岳、凌雪岳と相踵で肩を並べて北鎮の東翼に連なり、其後にはニセイカウシニツペの高峯を隔て、北見、天鹽の連山を見、西には永山の火山を隔て、旭川の平原は廣く遠く霞に消ゆ。天晴れ氣澄める日には更に遠く日本海より渡島の連山、樽前、夕張の諸峯より日高襟裳岬に至る大平洋は遠く白く、東には遙かに雌阿寒雄阿寒の連峯を見、其眺望の宏壯雄偉なる事北大洲に冠絶す。特に石狩上流の原始林の黒く起伏して遠く眼界の及ぶ限りに續くは間島の松花江流域の原始林にも比すべく何人も一度は登り見ざるべからざる天下の偉觀なり。北鎮岳は植物に乏しくハヒマツ、キバナシヤクナゲ等低く匍ひチシマツガザクラ、エゾノツガザクラ、マルバヤナギなど何れも小さく低し。溪畔の草原は花に富みて美しく山頂は殆んど地衣帯に化せり。

(7) 大噴火口

直徑十町周回二里と稱する大噴火口は今も尙ほ沸き立つ有毒温泉を吐き硫黄の結晶を作り或は毒瓦斯を吹きて昆蟲の死屍累々として蟲地獄をなし居れども中央部を除く外は明かに二部に區別さる。即ち南側間宮岳、荒井岳、松田岳の火口側は北面するを以て堆雪多く植物の繁茂する暇なけれども北鎮岳に面せる南面の斜面は草の生育よく特にエゾノサハアザミ

(寫眞第三十二參照)。の咲き揃へるは大形の煙管の口を一面に並べ立てたらん如く見るものをし、て覺えず失笑せしむ。草の生育はよけれども種類は少くウサギギクの咲く頃は黄色となりミヤマクログスの穂盛りなれば黒ずみ交代し行く花に依りて殆んど一週毎に其色を變ず。

(三) 大雪山採收植物目錄

余の一週間の調査にて得たる大雪山の植物は左の如し。此以外は尙ほ本山に生ずる植物にして既知のもの多けれども殊更に本目錄に加へざるは一々吟味研究するの時を有せざるを以てなり。

- | | |
|--------------------|--|
| I. ゼンマイ科 | Osmundaceae. |
| 1. オニゼンマイ | <i>Osmunda Claytoniana</i> LINNÆUS. |
| II. ノキシノブ科 | Polypodiaceae. |
| 1. クシヤクシダ | <i>Adiantum pedatum</i> LINNÆUS. |
| 2. ハクモウキノデ | <i>Athyrium acrostichoides</i> DIELS. |
| 3. コハクモウキノデ(新稱) | <i>Athyrium acrostichoides</i> var. <i>alpestre</i> NAKAI, var. nov. |
| 4. ナガバカウライメシダ | <i>Athyrium brevifrons</i> KODAMA var. <i>angustifrons</i> KODAMA. |
| 5. ムラサキカウライメシダ(新稱) | <i>Athyrium brevifrons</i> var. <i>angustifrons</i> f. <i>ionochachis</i> NAKAI, nov. forma. |
| 6. オホメシダ | <i>Athyrium pteronachis</i> CHRIST. |
| 7. イハガネゼンマイ | <i>Coniogramme farinosa</i> DIELS var. <i>serrulata</i> NAKAI, comb. nov. |
| 8. ナンタイシダ | Syn. <i>Gymnogramme serrulata</i> BLUME. |
| | <i>Dryopteris collopsis</i> CHRISTENSEN. |

10. オホバシヨリマ *Dryopteris Christianae* KODAMA.
 11. フシダ *Dryopteris crassirizoma* NAKAI.
 12. シラネワラビ *Dryopteris dilatata* A. GRAY var. *delloidea* TAKEEDA.
 13. タマワラビ *Dryopteris lacera* O. KUNZE.
 14. シヤマワラビ *Pleopleris polypodioides* FÉÉ.
 15. ヤマノテツ *Pleopleris Matsunurama* MAKINO.
 16. タカネノキンノブ *Pleopleris ussuriensis* REEGL. & MAACK.
 17. エソデング *Polypodium vulgare* LINNÆUS.
 18. オクヤマワラビ *Pseudolypium alpestre* NEWMANN.
 19. オホシヤマイヌワラビ *Pseudolypium crenulato-serrulatum* NAKAI, comb. nov.
 Syn. *Allyrium crenulato-serrulata* MAKINO.
 20. シノブカグマ *Rumohra nutica* NAKAI.
 21. ホソイハデング *Woodsia polystichoides* EATON var. *indiuscula* HOOKER.
 III. トクサ科 *Equisetaceae*.
 22. スギナ *Equisetum arvense* LINNÆUS var. *horvati* RUPRECHT.
 IV. ビカゲノカヅラ科 *Lycopodiaceae*.
 23. ビメスギラン *Lycopodium chinense* CHRIST.
 24. アスヒカヅラ *Lycopodium complanatum* LINNÆUS.
 25. タカネヒカゲノカヅラ *Lycopodium nibeense* FRANCHET & SAVATIER.
 26. トウゲヒバ *Lycopodium serratum* THUNBERG var. *Thunbergianum* MAKINO.
 27. シヤマヒカゲノカヅラ *Lycopodium sikhense* RUPRECHT.

V. イチキ科

Taxaceae.

28. イチキ

Taxus cuspidata SHEPOLD & ZOCCHARINI.

VI. キ科

Abietaceae.

29. アヲトモ

Abies Magniana MIYABE & KUDO

30. アカエソ

Picea Glehnii MASTERS.

31. ホソトモ

Picea jessoensis CARRIÈRE.

VII. ツムギ科

Pinaceae.

32. ハコトモ

Pinus pumila REEGL.

VIII. ヤナギ科

Salicaceae.

33. ホゾミヤマヤナギ

Salix Hideoi KOHZUMI.

34. イヌマルバヤナギ(新種)

Salix neo-reticulata NAKAI, sp. nov.

35. シヤマヤチヤナギ

Salix paludicola KOHZUMI.

36. ホゾメメヤナギ

Salix pauciflora KOHZUMI.

37. マルバエゾメメヤナギ

Salix pauciflora var. *cyclophylla* KIMURA in litt.

38. ナガバエゾメメヤナギ

Salix pauciflora var. *stenophylla* KIMURA in litt.

39. マルバヤナギ

Salix gessolpina KOHZUMI.

40. オホマルバヤナギ(新種)

Salix gessolpina var. *grandifolia* NAKAI, var. nov.

41. ホソマルバヤナギ(新種)

Salix gessolpina var. *stenophylla* NAKAI.

IX. カンナ科

Betulaceae.

42. シヤマハンノキ

Alnus Marinowiczii CALLEER.

43. アツハダカンバ

Betula Ermani CHAMISSO var. *corticosa* NAKAI.

- 44. ホソノダケカンバ
X. ニン科 *Betula Ermani* var. *commutata* REGEL.
Ulmaceae.
- 45. オロヨウニン *Alnus laciniata* MAYR.
XI. イラクサ科 Urticaceae.
- 46. ムカゴイラクサ *Laportea bulbifera* WEDDELL.
XII. タネ科 Polygonaceae.
- 47. ムカゴトラノヲ *Bistorta vivipara* S. F. GRAY.
48. ホソイブキトラノヲ *Bistorta vulgaris* HILL. var. *niliens* NAKAI, comb. nov.
Syn. *Polygonum Bistorta* L. var. *niliens* FISCHER & MEYER.
Polygonum Bistorta L. var. *ussuriense* REGEL.
Pleuropteropyrum ajanense NAKAI, sp. nov.
Syn. *Polygonum polygonophyllum* var. *ajanense* REGEL & TLING.
Polygonum polygonophyllum var. *ajanense* f. *glabrescens* TAKEIDA.
Pleuropteropyrum Weyrichii GROSS.
Oxyria digna HILL.
Rumex Gmelini TURCZANINOV.
Rumex montanus DESFONTAINES.
XIII. セキチク科 Caryophyllaceae.
- 54. オホタカネツメクサ *Minnartia arctica* ASCHERSON & GRAEBNER var. *minor* NAKAI.
Syn. *Arenaria arctica* var. *minor* HOOKER.
Minnartia subfalata NAKAI.
- 55. ホソミヤマツメクサ
- 50. ウラジロタヂ *Pleuropteropyrum*
- 51. シンホフスイバ *Oxyria digna* HILL.
- 52. マルバギシギシ *Rumex Gmelini* TURCZANINOV.
- 53. タカネスイバ *Rumex montanus* DESFONTAINES.

- 56. イハツメクサ *Syn. Alsiæ macrocarpa* d. *macrocarpa* Lusius var. *subfalata* REGEL.
Stellaria Fischeriana SERINGE var. *angustifolia* NAKAI, comb. nov.
Syn. *Stellaria florida* FISCHER var. *angustifolia* NAKAI.
- 57. カンチャチハコベ(小泉) *Stellaria yessoipina* NAKAI, sp. nov.
XIV. ウヤノアシガタ科 Ranunculaceae.
- 58. チシマトリカブト *Aconitum kamtschaticum* PALLAS.
- 59. オホレイジンサウ *Aconitum umbrosum* KOMAROV.
- 60. ホソソバトリカブト *Aconitum ypparense* TAKEIDA.
- 61. ホソバヒメイチゲ *Anemone gracilis* FR. SCHMIDT.
- 62. ハクサンイチゲ *Anemone narcissiflora* LINNÆUS.
- 63. シツバハクサンイチゲ *Anemone narcissiflora* var. *pedicellaris* A. P. de CANDOLLE.
- 64. エゾハクサンイチゲ *Anemone narcissiflora* var. *sachalinensis* MIYABE & MIYAKE.
- 65. ヒロハヒメイチゲ *Anemone yessoensis* KOHIZUMI.
- 66. リウキンタワ *Gallia palustris* LINNÆUS.
- 67. オクヤマシヨウマ *Cimicifuga simplex* WORMSKJÖHD var. *intermedia* NAKAI.
- 68. ミヤマハンシヨウヅル *Clematis ochotensis* PALLAS.
- 69. ミツバワウレン *Coptis trifolia* SALISBURY.
- 70. イハキンボウゲ *Ranunculus acris* LINNÆUS var. *erictiobus* NAKAI, comb. nov.
Syn. *Ranunculus erictiobus* LÉVEILLÉ.
Ranunculus acris LINNÆUS var. *Sieveni* REGEL.
Thalictrum aquilegifolium LINNÆUS.
- 71. ミヤマキンボウゲ
- 72. カラマツサウ

- 73. ホンカラマイツ *Thalictrum sachalinense* LECOYER.
- 74. モミチカラマイツ *Trentedolera japonica* Siebold & Zuccarini.
- 75. シナノキンバイ *Trollius japonicus* MiqUEL.
- XV. サンカエフ科 *Podophyllaceae.*
- 76. サンカエフ *Diphylleia Gromji* Fr. Schmidt.
- XVI. ケヤンサウ科 *Fumariaceae.*
- 77. コヤンサ *Dicentra pusilla* Siebold & Zuccarini.
- XVII. ナタネ科 *Brassicaceae.*
- 78. ヤマノタザホ *Arabis glauca* H. de Boissier.
- 79. シムリアヤマガラシ *Barbarea sibirica* Nakai.
- 80. シヤンタネツケムナ *Cardamine nipponica* Franchet & Savatier.
- 81. ハンセンナヅナ *Macropodium pterosperrum* Fr. Schmidt.
- XVIII. モウセンゴケ科 *Droseraceae.*
- 82. モウセンゴケ *Drosera rotundifolia* Linnæus.
- XIX. シンケイサウ科 *Crassulaceae.*
- 83. ヒメインゲンケイサウ *Rhodiola angusta* Nakai.
- (異名)ブラインゲンケイサウ *Syn. Sedum Ishidae* Miyabe & Kudo.
- XX. ヌキノシタ科 *Saxifragaceae.*
- 84. ホンアラシダサ *Boicknia lycodonifolia* Engler var. *minor* Nakai, var. nov.
- 85. ホンチャルメルサウ *Mitella integrifolia* H. de Boissier.
- 86. ホソウメバチサウ(新稱) *Parnassia palustris* Linnæus var. *vulgaris* Drude.

- 87. クロクモサウ *Saxifraga fusca* Maximowicz.
- 88. ホヅクロクモサウ *Saxifraga fusca* var. *divaricata* Franchet & Savatier.
- 89. クモマユキノシタ *Saxifraga lacinata* Takeda & Nakai.
- 90. チシマクモマダサ *Saxifraga Merckii* Fischer var. *robusta* Takeda.
- 91. チシマインゴキ *Saxifraga punctata* Linnæus f. *corymbosa* Engler & Immscher.
- 92. ヤマノナサウ *Saxifraga sachalinensis* Fr. Schmidt.
- 93. ツルクモマユキノシタ *Saxifraga Takedana* Nakai.
- XXI. シモツケ科 *Spiranceae.*
- 94. ホンヤンブキシヨウマ *Arunca vulgaris* Ravniesque.
- 95. オヒシモツケ *Elephantella kamtschatica* Maximowicz.
- 96. ホンマルバシモツケ *Spiraea aemiliana* Schneider.
- 97. マルバシモツケ *Spiraea betulifolia* Pallas.
- XXII. クワリン科 *Cydoniaceae.*
- 98. ナナカマド *Sorbus commata* Hedlund.
- 99. ウラジロナナカマド *Sorbus Mutschurei* Schneider.
- 100. ホソウラジロナナカマド *Sorbus pseudogræulis* Schneider.
- 101. シヤマナナカマド *Sorbus sambucifolia* Trautvetter.
- XXIII. ハラ科 *Rosaceae.*
- 102. クロバナラウゲ *Comarum palustre* Linnæus.
- 103. チョウノスケサウ *Dryas octopetala* Linnæus var. *asiatica* Nakai.
- 104. ホソノクサイチム *Fragaria neglecta* Vahl.

105. シヤマキンバイ *Potentilla Matsunurwe* WOLF.
 106. メアカンキンバイ *Potentilla Miyabei* MAKINO.
 107. チンヅルマ *Sierersia pentapetala* GREENE.
 108. ロキンバイ *Waldsteinia sibirica* TRAUTNICK.
 XXIV. ヲンモカウ科 *Sanguisorbaceae.*
 109. タカネトウチサウ *Sanguisorba sibirica* C. A. MEYER.
 110. 大雪トウチサウ(新稱) *Sanguisorba yessoensis* NAKAI, sp. nov.
 XXV. マメ科 *Fabaceae.*
 111. リシリワウギ *Astragalus secundus* A. P. de CANDOLLE.
 112. ムラサキワウギ *Helioscymum alpinum* LINNÆUS.
 113. ホンオホヤマヘンドウ *Orythopsis yessoensis* NAKAI, sp. nov.
 SYN. *Orythopsis japonica* MAXIMOWITZ var. *sericea* KOIDZUMI.
 XXVI. フウロサウ科 *Geraniaceae.*
 114. トカチフウロ *Geranium erianthum* A. P. de CANDOLLE f. *pallidum* NAKAI.
 XXVII. カツバニ科 *Oxalidaceae.*
 115. ロシヤマカタハニ *Oxalis Acaulosella* LINNÆUS.
 XXVIII. ヘンルーダ科 *Rutaceae.*
 116. ツルシキミ *Skimmia repens* NAKAI.
 XXXIX. ガンカウラン科 *Empetraceae.*
 117. ガンカウラン *Empetrum nigrum* LINNÆUS f. *japonicum* GOOD.
 XXX. ツルウメモドキ科 *Celastraceae.*

118. ムラサキヤエシニ *Enonymus lanedatus* YATABE?
 XXXI. モミヂ科 *Aceraceae.*
 119. イタヤカノヂ *Acer Mono* MAXIMOWITZ.
 120. シネカノヂ *Acer Tschonoskii* MAXIMOWITZ.
 121. オガラハナ *Acer ukurundense* TRAUTWETTER & MEYER.
 XXXII. シリンネサウ科 *Balsaminaceae.*
 122. ウスキツリフネ(新稱) *Impatiens Noli-tangere* LINNÆUS var. *pallidum* NAKAI, var. nov.
 XXXIII. オトギリサウ科 *Hypericaceae.*
 123. オトギリサウ *Hypericum erectum* THUNBERG.
 124. ハビオトギリ *Hypericum kansuichuan* LEDERBOUR.
 125. ヤマオトギリ *Hypericum moromonense* KELLER.
 XXXIV. スミレ科 *Violaceae.*
 126. シンホフキスミレ *Viola altaicifolia* NAKAI.
 127. ウスバスミレ *Viola blandifloris* NAKAI.
 128. タカネスミレ *Viola crassa* MAKINO.
 129. シヤマスミレ *Viola Sclerkii* PURSH.
 XXXV. ツキミサウ科 *Oenotheraceae.*
 130. イハアカバナ *Epilobium cephalostigma* HAUSKNECHT.
 131. ホソバアカバナ *Epilobium dawuricum* FISCHER.
 132. ホソシヤマアカバナ *Epilobium Makinoense* LÉVEILLÉ.
 XXXVI. タラノキ科 *Araliaceae.*

133. エンソウキ
Elenhorococcus seticosus MAXIMOWITZ.
- XXXXVII. ヤシムベリ科 Spiceae.
 134. ウラジロヒロエンセンキウ
Angelica reynoldi FR. SCHMIDT var. *glaucophylla* KOHZUMI.
 135. エゾヨロビヅサ
Angelica rupestris KOHZUMI.
 136. エゾヤマゼリ(新稱)
Angelica gosenensis NAKAI, sp. nov.
 137. レブンサイコ
Bupleurum tritridatum ADAMS f. *alpinum* WOLFF.
 138. イブキゼリ
Carum holopetalum MAXIMOWITZ.
 139. ホソバシラネニンジン
Onidium ajanense DRUDE.
 140. ハクサンバウフウ
Peucedanum multivittatum MAXIMOWITZ.
 141. オニカサモチ
Pleurospermum kamtschaticum HOFFMANN.
- XXXVIII. ニジキ科 Cornaceae.
 142. コゼンタチバナ
Chamaepericlymenum emadense ASCHERSON & GRAEBNER.
- XXXIX. イチヤクサウ科 Pyrolaceae.
 143. ロソノイチヤクサウ
Pyrola Maximowicziana MAKINO.
 144. シンユフイチヤクサウ
Pyrola renjifolia MAXIMOWITZ.
- XI. ツツシ科 Rhodoraceae.
 145. カラフトヒメアカバナ
Andromeda Polifolia LINNEUS var. *minima* G. DON.
 146. コメバツガザクラ
Arctostaphylos nana MAKINO.
 147. タマコケモモ
Arctostaphylos japonicus NAKAI.
 148. チシマツガザクラ
Bryanthus musciformis NAKAI.
 149. イハヒゲ
Cassiope lycopodioides D. DON.

150. シラタマノキ
Gaultheria Mygueliana TAKEDA.
 151. シムカヂ
Harrimanella Scleriana COVILLE.
 152. カバフトイソツツシ
Ledum palustre LINNEUS var. *dilatatum* WAHLENBERG.
 153. ヒメイソツツシ
Ledum palustre var. *procumbens* AIYON.
 154. エゾイソツツシ
Ledum palustre var. *geseense* NAKAI.
 155. チシマイソツツシ
Ledum groenlandicum RETZIUS.
 156. ウラジロハナベリノキ
Leucoloe glauca NAKAI.
 157. ヒロハナベリノキ
Leucoloe Grayana MAXIMOWITZ var. *glabra* KOMATSU.
 158. ハナベリノキ
Leucoloe Grayana var. *intermedia* H. de BOISSIER.
 159. ニネズワウ
Loiseleuria procumbens DESVAUX.
 160. コヤウラク
Menziesia pentandra MAXIMOWITZ.
 161. アラノツガザクラ
Phyllodoce aleutica HELLER.
 162. エゾノツガザクラ
Phyllodoce caerulea BARRINGTON.
 163. エゾヤマツガザクラ
Phyllodoce caerulea f. *geseensis* NAKAI.
 164. ムラサキヤシホツツシ
Rhododendron Albrechtii MAXIMOWITZ.
 165. エゾノムラサキツツシ
Rhododendron davuricum LINNEUS.
 166. キバナシヤクナゲ
Rhododendron chrysanthum PAULAS.
 167. シロバナシヤクナゲ
Rhododendron Furuii FRANCHET var. *rufescens* NAKAI.
 168. エソツツシ
Therorhodion amtschaticum SMALL.
 169. シヤマホツツシ
Tripetalia bracteata MAXIMOWITZ.
 170. クロウスゴ
Vaccinium azilare NAKAI.

171. ナガバクロウスユ
Vaccinium axillare var. *angustifolium* NAKAI.
172. オホバスノキ
Vaccinium Smaliti A. GRAY.
173. クロヤマメノキ
Vaccinium vitiginosum LINNÆUS.
174. ヒメクロヤマメノキ
Vaccinium vitiginosum f. *alpinum* NAKAI.
175. コケモモ
Vaccinium Vitis-Idæa LINNÆUS f. *microphyllum* NAKAI.
- XLI. サクラサウ科
Prinulaceæ.
176. ホゾロザクラ
Prinula cuneifolia LEDBOUR.
177. 白花ホソロザクラ
Prinula cuneifolia f. *albiflora* KODZUTSU.
178. ロツマトリサウ
Prinulalis europæa LINNÆUS var. *arctica* LEDBOUR.
- XLIII. イハウメ科
Diapensiaceæ.
179. イハウメ
Diapensia obovata NAKAI.
- Gentianaceæ.
- XLIII. リンドウ科
Gentianaceæ.
180. ツルリンドウ
Cratogeomita trimeris MAKINO.
181. クモキリンドウ
Gentiana algida PALLAS var. *Igarashii* MIYABE & KUDO.
182. ヨロヤマリンドウ
Gentiana glauca PALLAS.
183. カハカミリンドウ
Gentiana Kawakamii MAKINO.
184. シヤマリンドウ
Gentiana nipponica MAXIMOWITZ.
185. タウオヤマリンドウ
Gentiana triflora PALLAS.
186. シヅガシハ
Menyanthes trifoliata LINNÆUS.
187. シヤマアケボノサウ
Suaeda perennis LINNÆUS var. *cuspidata* MAXIMOWITZ.
- XLIV. ガカイモ科
Asclepiadaceæ.

188. イケマ
Gynandrum caudatum MAXIMOWITZ.
- XLV. オドリコサウ科
Lamiaceæ.
189. カンシドリ
Agastache rugosa O. KUNTZE.
- XLVI. キンギョサウ科
Rhinanthaceæ.
190. ホソバウルツブサウ
Lagotis borealis BAHLION.
191. ヨツバシホガマ
Pedicularis japonica MIQUEL.
192. チシマシホガマ
Pedicularis Oederi VAHL.
193. ビロウドシホガマ
Pedicularis teucriifolia BEBERSTEIN.
194. イハブクロ
Pentstemon frutescens LEMBERT.
195. シヤマクハガタ
Veronica yessoensis NAKAI, sp. nov.
- XLVII. アカネ科
Rubiaceæ.
196. クルマバサウ
Asperula odorata LINNÆUS.
197. シヤマヨツバムグラ
Galium kamtschaticum STELLER f. *intermedium* TAKEIDA.
198. クルマムグラ
Galium japonicum MAKINO.
- XLVIII. レンブクサウ科
Adoxaceæ.
199. レンブクサウ
Adoxa Moschatellina LINNÆUS.
- XLIX. ニンドウ科
Carprioliaceæ.
200. ウコンウツギ
Galiphostigma Middendorffianum TRAUTVETTER & MEYER.
201. リンネサウ
Linnaea borealis LINNÆUS var. *arctica* WITTRICK.
202. ヒロハヨノミ
Lonicera caerulea LINNÆUS var. *glabrescens* RUPRECHT.
203. チシマハウタンボク
Lonicera Chamissoi BUNGE.

204. ヒメブシダマ
Lonicera chrysantha TURCZANINOV var. *typica* NAKAI.
- I. カノコサウ科
Valerianaceae.
205. タカネヲミナヘシ
Patrinia sibirica JUSSIEU.
- II. キケフ科
Campanulaceae.
206. チシマギケフ
Campanula dasycarpa BEHRSTEIN.
207. イハギケフ
Campanula lasiocarpa CHAMISSE.
208. エゾツルニンジン(新稱)
Codonopsis yessoensis NAKAI, sp. nov.
209. タニキケフ
Pentstemon circaeoides NAKAI, comb. nov.
Syn. *Campanula circaeoides* FR. SCHMIDT.
- III. ヨメナ科
Asteraceae.
210. ヤマハハコ
Anaphalis margaritacea BENTHAM & HOOKER.
211. エソハハコヨモギ
Artemisia curtilensis SPRENGEL.
212. シロサマニヨモギ
Syn. *Artemisia glomerata* LEDBOUR var. *pedunculata* KOHIZUMI.
Artemisia Czekanowskiana TRAUTVETTER.
Syn. *Artemisia norvegica* FRIES var. *villosa* KOHIZUMI.
213. シシカウモリ
Cacalia kamschatkica NAKAI.
214. コモチシシカウモリ
Cacalia Matsunurana KUNDO.
215. エゾノサハアザミ
Cirsium pedunculatum A. GRAY var. *typicum* NAKAI.
216. エゾアヅマギク
Erigeron glabratus HOPPE & HORNSCHUCH.
217. ヲカシヨモギ
Erigeron kamschatkicus A. P. DE CANDOLLE.
218. エゾムカシヨモギ
Erigeron kamschatkicus var. *hirsutus* KOHIZUMI.

219. カウゾリナ
Pictis japonica THUNBERG.
220. カンチカウゾリナ
Pictis kamschatkica LEDBOUR.
221. オホユキバタウビレン
Saussurea chionophylla TAKEDA.
222. タカネキタアザミ
Saussurea Yanagisawae TAKEDA.
223. オホタカネキタアザミ
Saussurea Yanagisawae var. *elegans* NAKAI, comb. nov.
Syn. *Saussurea Tietzei* LEDBOUR var. *elegans* KOHIZUMI.
224. ヌキバタウビレン
Saussurea Yanaigisawae var. *nivosa* NAKAI, comb. nov.
Syn. *Saussurea Tietzei* LEDBOUR var. *nivosa* KOHIZUMI.
225. タイセツヒゴタイ(新稱)
Saussurea daisetsuensis NAKAI, sp. nov.
226. エゾキタアザミ(新稱)
Saussurea yessoensis FRACHET.
227. ホソバエゾキタアザミ(新稱)
Saussurea yessoensis var. *angustifolia* NAKAI, var. nov.
228. タカネカウリンクワ
Senecio flammens A. P. DE CANDOLLE var. *alpina* TAKEDA.
229. シヤマオグルマ
Senecio Kawakamii MAKINO.
230. エゾアキノケリンサウ(新稱)
Solidago Virginica LINNAEUS var. *yessoensis* NAKAI, var. nov.
231. クモマタンポポ
Taraxacum yesso-pinnatum NAKAI.
- III. イチゴツナギ科(笹類を除く外は本田學士の鑑定に依る) Poaceae.
232. タカネヌカボ
Agrostis canina LINNAEUS.
233. シヤマヌカボ
Agrostis flaccida HACKEL.
234. ヤマヌカボ
Agrostis perennans TUCKERMAN.
235. イハノガリヤス
Calamagrostis Langsdorffii TRINITS.
236. エゾノガリヤス
Calamagrostis sachalinensis FR. SCHMIDT.

237. タカネノガリヤス *Galanopsis urelytra* HACKEL, var. *parviflora* TAKEDA.
 238. ミヤマコメススキ *Deschampsia caespitosa* Beauvois.
 239. コメススキ *Deschampsia flexuosa* TRINITS.
 240. ユキワリガヤ(新屬新種) *Erioblastus flexuosus* HONDA, gn. & sp. nov.
 241. ウシノケグサ *Festuca ovina* LINNÆUS.
 242. ヒロハノドゼウツナギ *Glyceria aquatica* WAHLENBERG.
 243. ミヤマドゼウツナギ *Glyceria arundinacea* KUNTH.
 244. ミヤマカウバウ *Hierochloa alpina* ROEMER & SCHULDES.
 245. イブキヌカボ *Mitium effusum* LINNÆUS.
 246. スカキビ *Panicum bisulcatum* THUNBERG.
 247. ミヤマアハガハリ *Pileum alpinum* LINNÆUS.
 248. ナンブソモノモ *Poa hayachimensis* KOIZUMI.
 249. チシマザサ *Sasa kurilensis* MAKINO & SHIBATA.
 250. シヤコタンチク *Sasa nebulosa* OHKI.
 251. エゾミヤマザサ *Sasa yezoalpina* NAKAI, sp. nov.
 252. シヤマチヤビキ *Sclerachne purpurascens* SWALLEN.
 LIV. カヤツリグサ科 *Cyperaceæ.*
 253. クロボスゲ *Carex atrata* LINNÆUS.
 254. シヨウジョウウスゲ *Carex blepharicarpa* FRANKHET.
 255. オホクロメスゲ *Carex caespitosa* LINNÆUS.
 256. シヤマクロスゲ *Carex flavocuspis* FRANCHET & SAVATIER.

257. オホカサスゲ *Carex laevirostris* BUNTT.
 258. タカネヤガミスゲ *Carex lagopina* WAHLENBERG.
 259. ヤチスゲ *Carex limosa* LINNÆUS var. *fusco-cuprea* KUEKENHALL.
 260. エゾシバ(新稱) *Carex microtricha* FRANCHET.
 261. クロスゲ *Carex Middendorffii* Fr. SCHMIDT.
 262. ハリスゲ *Carex Onoei* FRANCHET & SAVATIER.
 263. タカネハリスゲ *Carex pauciflora* LIGHTFOOT.
 264. キンスゲ *Carex pyrenaica* WAHLENBERG.
 265. オホキンスゲ(新稱) *Carex pyrenaica* var. *altior* KUEKENHALL.
 266. アブスゲ *Carex Royleana* NEES.
 267. マシケスゲ *Carex scita* MAXIMOWITZ.
 268. ミヤマアブスゲ *Carex Sedakowii* C. A. MEYER.
 269. イハスゲ *Carex stenantha* FRANCHET.
 270. カハズスゲ *Carex scladata* GOODENOUGH.
 271. アゼスゲ *Carex Thunbergii* STEUDEL.
 272. イハキスゲ *Carex urostachys* FRANCHET.
 273. ワタスゲ *Eriophorum vaginatum* LINNÆUS.
 274. シネハリキ *Scirpus caespitosus* LINNÆUS.
 275. タカネクロスゲ *Scirpus Marimonizii* C. B. CLARKE.
 IV. トウシメンサウ科 *Juncaceæ.*
 276. シヤマキ *Juncus beringensis* BOHRENAN.

- 277. クロカウガビセキシヨウ *Juncus caeruleus* SMITH var. *fascus* BUCHENAU.
- 278. ホソホソキ *Juncus curvatus* BUCHENAU.
- 279. ビメキ *Juncus decipiens* NAKAI var. *gracilis* NAKAI.
- 280. ホソミクリゼキシヨウ *Juncus Mertensianus* BOGARD.
- 281. ヤマスズメノビエ *Luzula multiflora* LEDUNE var. *intermedia* NAKAI.
- 282. シヤマスズメノビエ *Luzula rostrata* BUCHENAU.
- 283. クロタカネスズメノビエ *Luzula sudetica* ASCHERSON & GREBNER var. *pauciflora* NAKAI.
- 284. クモマスズメノビエ *Luzula Wahlbergii* RUPRECHT.
- LVI. フリ草 *Liliaceae.*
- 285. ギヨウジヤニンニク *Allium Victorialis* LINNÆUS var. *asiaticum* NAKAI.
- 286. オホウバユリ *Cardocrinum Glehnii* MAKINO.
- 287. シヨウジヨウバカマ *Heloniopsis japonica* A. GRAY
- 288. ビメクワンザウ *Hemerocallis Dumortieri* MORREN.
- 289. ヤチギボウシ *Hosaka atropurpurea* NAKAI.
- 290. チシマアマナ *Lloydia serotina* REICHENBACH.
- 291. ビメキズキ *Polygonatum humile* FISCHER.
- 292. オホバタケシマラン *Streptopus amplexifolius* A. P. de CANDOLLE.
- 293. ビメイハゼキシヨウ *Tofieldia Oetboi* MAKINO.
- 294. チシマゼキシヨウ *Tofieldia nutans* WILDENOV.
- 295. クロシゼキシヨウ *Tofieldia calyculata* WAHLBERG var. *rubescens* HORPE.

- 296. シロバナエンレイサウ *Tofieldia fusa* MIVABE & KITO.
- 297. エンバイケイサウ(新種) *Trillium Tschonoskii* MAXIMOWITZ.
- LVII. ラン科 *Veratrum Lobelianum* BERNHARDI var. *asiaticum* LOESENER.
- 298. コイチユフラン *Orchidaceae.*
- 299. アケボノシユスラン *Ephippianthus sachalinensis* REICHENBACH FIL.
- 300. アリドウシラン *Goodyera Marinowicziana* MAKINO.
- 301. コトンボサウ *Mymecelis japonica* ROBLE.
- 302. キンチドリ *Perularia ussuriensis* SCHLEGELER.
- Platanthera ophrydioides* FR. SCHMIDT.

(四) 特記スベキ大雪山ノ植物

- 1. *Athyrium brevifrons* Kodama var. *angustifrons* Kodama f. *ionorhachis* Nakai.

ムラサキカウライメシダ
北海道や朝鮮には歐洲に産する *Athyrium Filix-femina* ROTH メシダに似て羽片が葉柄の基部に向て漸次細まらず中央より細まりて唯二三對あるものあり。余は之に *Athyrium Filix-femina* var. *brevifrons* NAKAI の名を用居りしが兒玉親輔學士は精檢の末其歐洲産と種としての異點を發見して *Athyrium brevifrons* KODAMA と改稱し更に其中一層葉の長き形のもの變種として區別して *Athyrium brevifrons* var. *angustifrons* ナガバカウライメシダと命名せしが茲に記す所のものは其ナガバカウライメシダの葉柄葉脈等が綠色ならずして赤紫色を呈すものなり。大雪山の山麓地帯に多く生ず。

2. *Athyrium acrostichoides* Diels var. *alpestris* Nakai, var. nov.
コハクモウキノデ(新變種)。
ハクモウキノデの高さ一尺以内にてよく子囊を附くるものにして大雪山の中腹シャコタ
ンチクの叢生する間に生ず。
3. *Salix neo-reticulata* Nakai, sp. nov.
イヌマルバヤナギ(新種)。
Salix yesoalpina Koidzumi マルバヤナギに似て葉に光澤多く葉脈が著しく隆起する爲め一見
網状に見ゆるものなり。子房に毛あり。南岳に産す。
4. *Salix yesoalpina* Koidzumi var. *grandifolia* Nakai, var. nov.
オホマルバヤナギ(新變種)。
Salix yesoalpina Koidzumi マルバヤナギは大雪山全體に廣く生ずるを以て其個體に依り葉の
大小形状は著しく異なれども茲に記す所のものは特に著しく葉の大なるものにして幅二寸
長さ三寸にも達す。白雲澤、小泉岳、南岳等に生ず。
5. *Salix yesoalpina* Koidzumi var. *stenophylla* Nakai.
ホンマルバヤナギ(新變種)。
マルバヤナギの葉の長橢圓形をなすを云ふ。大雪山の各地に散在す。
6. *Salix pauciflora* Koidzumi var. *cyclophylla* Kimura in litt.

マルバエゾマメヤナギ(新變種)。
エゾマメヤナギの葉の圓形をなし其脚の屢々灣入するものを云ふ。余は之に *Salix pauciflora*
var. *rotundifolia* NAKAI なる名を附け置きしも木村有香君より前記の學名を用ゐる由書信を得
たる故木村君の學名を採用す。大雪山の諸所に散在す。

7. *Salix pauciflora* Koidzumi var. *stenophylla* Kimura in litt.
ナガバエゾマメヤナギ(新變種)。
エゾマメヤナギの葉の披針形をなすを謂ふ。余は *Salix pauciflora* var. *lanceolata* NAKAI の名を
附し置けるも木村有香君より前記の學名を用ゐる由の書信ありたれば木村君撰定の學名を
採用す。小泉岳、白雲岳、平ヶ岳等に産す。

8. *Bistorta vulgaris* Hill var. *nivens* Nakai.
エゾイブキトラノヲ
イブキトラノヲに似て葉の廣きものにして古くより西比利亞方面又は烏蘇利滿洲等にて
Polygonum Bistorta var. *nivens* FISCHER & MEYER 又は *Polygonum Bistorta* var. *ussuriense* BEGEL の名にて
知れ居たり。我邦にては初發見のものにして黒岳の匍松帯に多く生ず。因に記す近來はイ
ブキトラノヲ屬 *Bistorta* を胚子の形花序の形葉莖の習性等に依りてミチヤナギ屬 *Polygonum*
より區別す。

9. *Pleuropteropyrum ajanense* Nakai, sp. nov.

チシマヒメイハタデ(新種)。

東西比利亚地方並に千島に産する事は早くより知れ居り *Polygonum polymorphum* LEDBOUR var. *ajunense* REGER & THING 或は *Polygonum polymorphum* var. *ajunense* f. *glabrescens* TAKEDA の名にて知れ居りしが *Polygonum polymorphum* LEDBOUR なる種は數種の全然異なる植物を混同したるもの故余は此チシマヒメイハタデを獨立せしめたり。山中特に小泉岳平ヶ岳方面に多し。

10. *Rumex Gemelini* Turczaninow.
マルバギンギン

本種は余が嘗て朝鮮咸鏡北道の南雪嶺にて採取しマルバギンギンの和名を附したるものにして當時始めて我國籍に入りしものなり。其後小泉秀雄君が大雪山にて發見せしも未だ發表すに至らざりしものなり。我國としては第二の産地にして平ヶ岳の沼地に群生す(寫眞第二十三参照)。

11. *Minuartia subfalcata* Nakai.
エゾミヤマツメクサ(新種)。

本種は西比利亚方面にありて *Alsine macrocarpa* var. *muscorum* LUSUS b. *subfalcata* REGER なる名にて知れ居りしものなるが *Alsine macrocarpa* なる植物は本種と異り葉は疎に出で花瓣は長さ二倍もあり。又其變種 var. *muscorum* 即ち *Arenaria muscorum* FISCHER なるものは葉の正しくて本種の如く曲らず花も大なるものなり。故に余は獨立の種とす。新に我國籍に入るべき植物

なり。小泉岳と平ヶ岳とに生じ乾燥せる地にあり。

12. *Minuartia arctica* ASCHERSON & GRAEBNER var. *minor* Nakai, comb. nov.
オホタカネツメクサ(新種)。

本種は約百年前 W. J. HOOKER 氏に依りて北米植物に *Arenaria arctica* var. *minor* HOOKER と命名されしものと同じく内地の高山に普通なるタカネツメクサよりも大形なるものなり。前種と同じく新に我國籍に編入さるべき種なり。因に記す var. *minor* なる名は var. *grandiflora* なるものに對して附けられた名なり又 *Alsine* 屬は *ハコベ* 屬 *Stellaria* に同じ是れ屬名に *Minuartia* を用ゐる所以なり。

13. *Stellaria yezoalpina* Nakai, sp. nov.
カンチャチハコベ(新種)。

本山彙の高所の卑湿地に生ずる纖弱なるハコベの一種にして本邦にて從來知れ居る種中ノミノフスマに近けれども大に異なり未だ外國にも記載なきものなり。小泉秀雄氏の書信に依れば氏は内地日本アルプスにも同様のものを發見せしと云ふ。和名の「寒地ヤチハコベ」は小泉氏の命名にして氏の著書「大雪山」中に記しあり。

14. *Anemone narcissiflora* LINNEUS var. *pedicellaris* A. P. de Candolle.
ミツバハクサンイチゲ(新種)。

エゾハクサンイチゲに近きものなれども根出葉は小葉柄を具へたる三個の小葉を有する

に依り區別し得べし。西比利亞には産する事を知れども我邦にては初発見なり。

15. *Ranunculus acris* Linneus var. *erucilobus* Nakai.

イハキンボウゲ

本植物は濟州島漢拏山上に生ずるものに同じく故 L'ÉVEILLÉ 氏は *Ranunculus erucilobus* と命じて獨立種とせしもミヤマキンボウゲの無毛なる變種にすぎず未だ濟州島以外には知れ居らざりしものなり。

16. *Cimicifuga simplex* Wornskjold var. *intermedia* Nakai.

オクヤマシヨウマ

本植物はサラシナシヨウマに似て葉片狭きものにしてダフリア、アムール地方には産する事は知れ居り又本島の某所にて某氏の採りしもの東大理學部植物學教室にあれども確實なる産地を知らざりしなり。故に層雲峽より大雪山にかけて本種の多く生ずる事を確め得たるは日本植物界の一新発見なり。

17. *Rhodiola angusta* Nakai.

ヒメイハベンケイサウ

本種は大正元年土井寛暢氏之を白頭山にて発見し大正三年に余、大正五年古海理學士と前後三回白頭山より携へ歸り大正六年には余又威鏡北道の冠帽峯上にて採取し大正七年には梶原源二郎氏之を狼林山にて発見し大正三年余は *Rhodiola angusta* の學名を制定し大正七年

出版の余の白頭山植物調査書にも載せたるが其後同植物が此大雪山山にて発見せらるゝや大正十年新に *Sedum Isidoides* Miyabe & Kudo アライハメンケイサウの名を重ねて與ふるに至れり。故に朝鮮植物として知れ居りしものが北海道にもある事を知りしものにて *Saxifraga laciniata* TAKEEDA & NAKAI ショウキョノシタ *Saxifraga Takehana* NAKAI ツルクモマユキノシタ等と共に大雪山と北鮮と高山的に連絡あるを知る一材料なり。

18. *Boykinia lycocotifolia* Engler var. *minor* Nakai, var. nov.

エゾアラシグサ(新種)。

本植物は大雪山の針葉樹帯の上部より岳樺帯に生じ内地産のアラシグサに比し著しく小形なるを異點とす。

19. *Parnassia palustris* Linneus var. *vulgaris* Drude.

エゾウメバチサウ(新種)。

本植物はウメバチサウとコウメバチサウとの中間に位し形は全くコウメバチサウ状なるも蜜腺は分岐多く六乃至十三本の枝あるを異にす。北海道には未だ発見の記録なし。

20. *Sanguisorba yesoensis* Nakai, sp. nov.

大雪トウチサウ

大雪山の黒岳の匍松帯に群生しタカネトウチサウに近けれども花色綠色花は小さく花糸は央以上も太まらずして細し。一新種なり。

21. *Hedysarum alpinum* Linneus.

ムラサキイハワウギ

舊日本には初発見の植物にして恐らくリシワウギと稱し *Hedysarum obscurum* を以て其學名に當て居るものに同じからん。然し *Hedysarum obscurum* は莢に廣き翼あれどもムラサキイハワウギにはなし而して余は未だリシワウギの果實を見ざる故果して兩者が同一種なるや従つて *Hedysarum obscurum* を用ゐ來りしが誤なるやを確め得ず。平ヶ岳の崖に生じ美し。

22. *Oxytropis yesoensis* Nakai, sp. nov.

エゾオホヤマエンドウ

本種は嘗て小泉源一君に依りて *Oxytropis japonica* var. *sericea* と命名されしものにして大雪山上には北海平、小泉岳、白雪平、平ヶ岳等に多く生ず *Oxytropis japonica* 即ちオヤマノエンドウとは小葉の幅廣きと花梗の短き事と植物全體に毛の多きとにて直ちに種として區別し得べし。

23. *Euonymus lanceolatus* Yatabe?

ムラサキマユミ?

大雪山の中腹針葉樹林下にて唯一本の小さきものを採れり。果してムラサキマユミなるか又は一新種なるかは花も果實もなくして確め得ざれどもムラサキマユミも亦北海道には未発見種故何れにしても北海道には新発見植物なり。

24. *Angelica yesoense* Nakai, sp. nov.

エゾヤマベリ(新稱)。

ヤマベリに近き種なれども莖は纖弱にして葉の裂片少し。學界未知の一新種なり。

25. *Andromeda Polifolia* Linneus var. *minima* (G. Don.

カラフトヒメシヤクナゲ

本植物は週極植物にして樺太千島には産する事を知りしが北海道にては初発見なり。平ヶ原の濕地に生ず。

26. *Ledum palustre* Linneus var. *dilatatum* Wahlenberg.

カバフトイソツツジ

本植物も亦週極植物にして我領域内にては北鮮と樺太に産する事を知り居りしが北海道には初発見なり。大雪山上にエゾイソツツジと混生す。

27. *Ledum palustre* Linneus var. *procumbens* Aiton.

ヒメイソツツジ

本植物は北米の高山に普通なる植物にして大正十四年の夏岡田喜一氏始めて之を大雪山より携へ歸り翌年之を拙著大日本樹木誌第二版に加へたり。其後北鮮の高山にも発見されしが大雪山上にはエゾイソツツジと共に最も多く生じ一景觀をなす。

28. *Ledum groenlandicum* Retzius.

チシマイソツツジ

北海道、石狩國大雪山植物調査報告書

本植物は北米、グリーンランド、千島等にて發見されしも北海道には初發見なり。葉裏に白微毛なき故他のイソツツジ類と明に區別あり。

29. *Leucothoe Grayana Maximowicz var. glabra Komatsu.*

ヒロハハナヒリノキ

本植物は西は近江の伊吹山より北は陸奥恐山迄に分布する事を知りしも北海道としては初發見なり。針葉樹帯にあり。

30. *Vaccinium axillare Nakai.*

クロウスゴ

本植物も亦本島の中部以北の山地にのみ生ずるものと考へられしも大雪山には多く生ず。針葉樹帯の上部より岳樺帯迄にあり。

31. *Vaccinium axillare var. angustifolium Nakai.*

ナガバクロウスゴ(新稱)

本植物はクロウスゴの葉の長橢圓形又は狹長橢圓形をなす一變種にして新に發表すべき一新變種なり。岳樺帯に生じ稀なり。

32. *Lagotis borealis Bailion.*

ホンバウルツプサウ

従來 *Lagotis* 屬植物にして我邦にありと知らるゝはウルツプサウ *Lagotis glauca* GAERTNER の

みなり。大雪山上小泉岳、平ヶ岳にあるは別種にして茲に記すホンバウルツプサウにして我邦の國籍に入るべき一植物なり。主なる區別點はウルツプサウの雄蕊は殆んど無柄故雄蕊は花筒より抽出せざれどもホンバウルツプサウは長さ花糸を有する爲め雄蕊は花冠の先端よりも先に抽出す。

33. *Pedicularis leucifolia Bieberstein.*

ピロウドシホガマ(新稱)。

本植物はシホガマガキの葉に絨毛を生ぜし如き植物にして平ヶ原に産し我邦の國籍に加ふべき一植物なり。

34. *Veronica yesoensis Nakai, sp. nov.*

ミヤマクハガタ

本植物の學名には従來誤りて *Veronica Sellowi* DC を用ゐしも *Veronica Sellowi* は我邦にては千島にのみ産し本種よりも毛多く葉幅廣く花梗短き別種なり故に余は新に上記の學名を附す。

35. *Galium kamtschaticum Steller f. intermedium Takeda.*

ミヤマヨツバムグラ

本植物も亦北海道には初發見なり。本島の中部以北には多し。

36. *Codonopsis yesoensis Nakai.*

エンツルニンジン(新稱)。

本植物は朝鮮に産する *Codonopsis sibirica* KONAROV に似たる植物にして其れよりも丈低く花小さく葉縁と葉脈とに毛なきを異にす。大雪山の針葉樹帯の上部にあり。

37. *Artemisia eurilensis* Sprengel.

エゾハハロヨモギ

本植物は大雪山上に多く生ずる白絹様の毛を以て被はれたる美しきヨモギにして上記の學名あり。始めて千島産のものに命名されたるは千八百二十六年なり。 *Artemisia glomerata* var. *pedunculata* KOIZUMI は其異名なり。

38. *Artemisia Ozekaworskiana* Trautvetter.

シロサマニヨモギ

本植物は東西比利亚植物にして北海道に侵入し居るものなり。大雪山上には至る所に生じ *Artemisia norvegica* var. *villosa* KOIZUMI なる異名あり。

39. *Pieris kantschatica* Ledebour.

カンチカウゾリナ

小泉秀雄氏に依りてカンチカウゾリナと命名されし植物なるがカムチャツカにも内地の高山にもありてカウゾリナの丈を低くし毛を黒くし花を大にしたるが如き植物なり。大雪山上には至る所にあり。未だ我邦植物に此學名を用ゐられし事なし。

40. *Saussurea daisetsuensis* Nakai, sp. nov.

ダイセツヒゴタイ

エゾキタアザミに似て丈高く丈夫にして花多く葉は著しく廣く翼狀に莖に沿ふて流る。黒岳の匍松帯に生ず。一新種なり。

41. *Saussurea yessoensis* Franchet var. *angustifolia* Nakai, var. nov.

ホンバエゾキタアザミ(新稱)

エゾキタアザミの葉の披針形なる一變種なり。大雪山上に生ず。

42. *Solidago Virgaurea* Linneus var. *yessoensis* Nakai.

エゾアキノキリンサウ(新稱)

周極地方に生ずる *Solidago Virgaurea* var. *arctica* に最も近けれども舌狀花少なく葉は廣披針形又は帶卵披針形にして倒披針形又は倒卵披針形ならぬを異にす。又アキノキリンサウよりも頭狀花大にして莖に毛多し。大雪山上に至る所にあり特に雲の平に多く其盛なる時は満目金色を呈す。層雲峽にもあり。

43. *Taraxacum yessoalpinum* Nakai, sp. nov.

クモマタンボボ

7. *Halenia* に近き種にて葉と苞とを異にす。白雲の澤、平ヶ岳等に生ず。

44. *Erioblastus flexuosus* Honda, gn. & sp. nov.

ユキソリリガヤ(新稱)

本植物は新に學界に發表すべき新屬植物なり。之を小泉岳上に見出せるは幸なりき。本
田學士(檢定者)に依れば本植物は *Holcus Aira* の兩屬に近きものにして *Holcus* 屬とは上方の花
が雄花ならずして完全花なるに依りて直に區別され *Aira* 屬よりは花の大なる事と内空穎の
脈が一脈ならずして三脈なる事と芒が實穎の基部より出でずして中央より出づる事と穎脚
(Callus) の毛の長さとを異にす。

44. *Poa hayachinensis* Koizumi.

ナンブソモンモ

本植物は本島北部の高山にのみ産する事を知りしが今回始めて大雪山にて發見し得たり。

46. *Sasa yesoalpina* Nakai, sp. nov.

エゾミヤマザサ

本植物はチシマザサに似たれども花穂は頂枝の先に生じ側枝に出でぬを異にす。大雪山
上にあり。

47. *Juncus Mertensianus* Rongard.

エゾミクリゼキシヨウ

從來學名を誤られ *Juncus ensifolius* と言ひ居りしも上記の學名を用ゐざるべからず。本邦の
國籍に加ふべき種なり。

48. *Hostia atropurpurea* Nakai, sp. nov.

ヤチギボウシ

和名は小原秀雄氏の所命なり。ミヅギボウシに白粉を被らしめ花を黒紫色にしたるが如
き珍種なり。前岳と忠別岳の間の澤にあり。

49. *Vertrum Lobelianum* Bernhardt var. *asiaticum* Loesner fil.

エゾバイケイサウ(新稱)。

バイケイサウに似て小形なり。我國には初發見の植物なり。大雪山上の水邊に多し。

(五) 大雪山植物保護ノ必要

既述の如く大雪山は我國唯一の大規模なる寒性植物群落を有する山にして山上は恰もア
ラスカ、カムチャツカ、ラブラドル等の寒帯の一部を移したる如き感ありて見るものに直ちに
寒帯植物景の概念を與へしむ。

大雪山は又北海道特有の高山植物を一所に集めたる所なるのみならずアラスカ、カムチャ
ツカ系、西比利亞系、内地高山系の植物の接踵點にして其何れもの特色を現はし植物學上得難
き參考資料なり。

荒井、鹽谷其他北海道の多數の有志者の協力に依りて北海道第一の高山にして嘗ては最も
近づき難き事を歌はれし大雪山は今最も登り易き山と化し登山の快を味ひ高山植物を樂
しむ登山者は年を逐ふて幾何級數的に増加し本年の如きは既に其數數千を以て算ふるに至
れり。従つて林務當局の不斷の監視を逃れて尙ほ且つ山を荒す事の甚だしきは實に驚愕に

値すべきものあり。今にして之を國家的に保護するに非んば我國唯一の御花畑たる北海の寶庫は數年ならずして壊滅に歸することは火を睹るよりも明かなり。故に適法の下に一日も早く本山の植物を保護し永く登山者の眼を喜ばしめ世々代々學術の資料とすべきものとす。

(六) 大雪山植物帯保存ノ方法

大雪山は地方有志の多年の努力に依りて北海道中有數の山岳遊覽地と化し居り従つて其に應ずる施設も北海道としては第一位にあり。故に此山麓の植物を保護せんと欲せば單に天然紀念物を保存する意味に非ず山岳遊覽地として増々發展すべき方法を含む計畫をなさざるべからず。然し乍ら其自然美は永久汚されざる失はれざる如き方法を講じ後世永く人々が同様に此大自然美を樂しみ得る如くするは論を俟たず。此精神に立脚して余は大雪山麓一帯を天然保護區域とし之に將來遊覽地として用ゐるべき地又は其目的に施設さるべき地並に學術研究の爲めの設備をなすべき地を除外し置く要ありと考ふ。

此目的を達成せん爲め余は北海道廳の學務部長池田繁治氏、拓殖部林務課長林駒之助氏、地方林課長林常夫氏と特に懇談して圖に示す區域内(附圖第二参照)を天然保護區域となすべく豫定せり。而して此區域内は特に指定する所を除く外は舉げて國家の天然物保護物となす。私見に依りて除外すべき地は大凡左の如し

(備考)從來の除外地假令へば陸軍療養所の如きは茲に言及せず。

一 鹽谷温泉除外區域

大雪山の北側に位し名勝層雲峽の咽喉を扼し黒岳登山口に當りて北海道第一のラジウム温泉あり。之を層雲別温泉又は鹽谷温泉と云ひ層雲峽の遊覽者並に大雪山登山客の宿泊所となり春の花に夏の涼みに秋の觀楓に何れも訪ふ人多く年々歳々其數を増し將來は大規模なる温泉部落となる事明かなれば漸次成立すべき市街地は風致を害せぬ目的の爲め現温泉場より下流に發展せしめんとす。圖上(A)は其目的にとる。

二 發電所

現在温泉部落の點燈用發電所は餘りに小に過ぎ將來は少くも之を十倍にするの要あり。其爲め圖上(B)を除外す。

三 大函小函に通ずる道路

現在の道路は不良にして遊覽に適せず將來石狩河に沿ひて幅員六尺の道路を作る要あり。其目的の爲め圖中(C)線を除外す。

但し道路の完成迄は現在の道路を使用するを以て其が改修工事等は勿論なし得るものとす。

四 觀瀑亭

雌雄兩つの名瀑は温泉より約二十餘町の距離にある故觀瀑の休憩所を要す。現在は些やかなる小亭あるのみなるも將來は風致に適し且つ規模の大なるものを作る要あり。其敷地

並に四周の使用地として圖中(D)を除外す。

五 小函休憩所兼救護所

大函は温泉より二里の地點にあり。故に之に達する間には休憩所兼救護所を設くる要あり。觀瀑亭と大函との間即ち小函を望む邊に一ヶ所を設くる爲め圖中(E)を除外す。

六 大函休憩所又は宿泊所

温泉より二里の大函は婦女兒童の爲めには一日の往復にも困難する事あるべく休憩所を設くる外假宿泊所を作る要あり。此目的の爲め圖中(F)を除外す。

七 展望臺休憩所兼救護所と其給水設備

展望臺は温泉より黒岳に登る道路が粗面岩の絶壁を上り切りたる所にありて登山口中最も急峻なる道を歩む事十町なれば登山者は皆一度の休憩を要求す。而して此地は層雲峽谷の下流を一望に集め風光絶佳なれば此所に登山口の第一休憩所兼救護所を設くるを要す。然れども此所はもと水なき故温泉谷より水道を引かざるべからず。此兩目的の爲め圖中(G)を除外す。

八 中の平休憩所兼救護所

黒岳頂と展望臺との中間海拔千三百米突邊に稍平なる所あり。登山口の第二休憩所兼救護所を設くるに適す。水は附近にある堆雪の融け出づるものより得べし。圖中(H)は此救護所設立の爲め除外す。

九 山上温泉宿

現在の黒岳の石室は現時に於て既に小に過ぐ故に之が大擴張をなす要あれども余は斯る姑息の手段を避けて大噴火口入口に湧出する豊富なる天然温泉(有毒温泉に非ず)を利用して山上に温泉宿を作る事を主張す即ち圖中(I)は其目的に使用し(I)区域内温泉湧出口(I)より設立さるべき温泉宿(ロ)に引く。(ロ)地點に接して良水多量に出づるを以て他より水を引く要なし。以上の爲め圖中(I)を除外す。

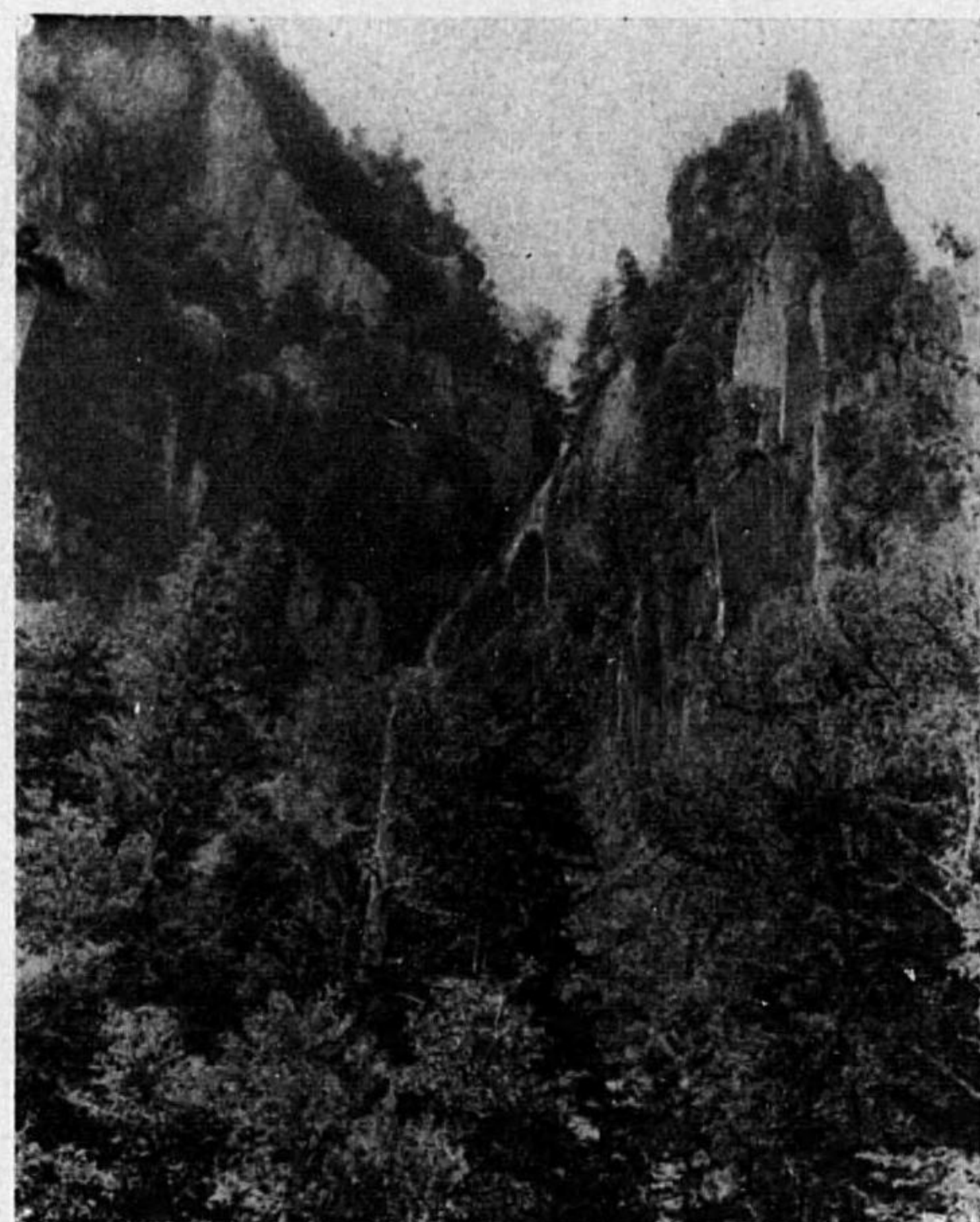
十 高山植物園

高山植物を現地に於て研究する目的の爲め高山植物園を設く。其位置は將來設けらるべき山上温泉に最も近く乾地、濕地、岩石地、河畔等多様なる地區を一所に蒐むる所の(K)區域を撰び之を北海道帝國大學の所屬たる植物園となす事を主張す。北海道帝國大學にては夙に其必要を感じて道廳と交渉の結果奥の平(寫眞第二十三参照)を其目的に使用すべき指定を得し由なるも奥の平は交通最も不便なるのみならず土地低くして高山植物園に適せず故に余は植物園としては(K)が最適地なりと思考し之を除外地とす。

十一 北鎮岳高山氣象、天文觀測所

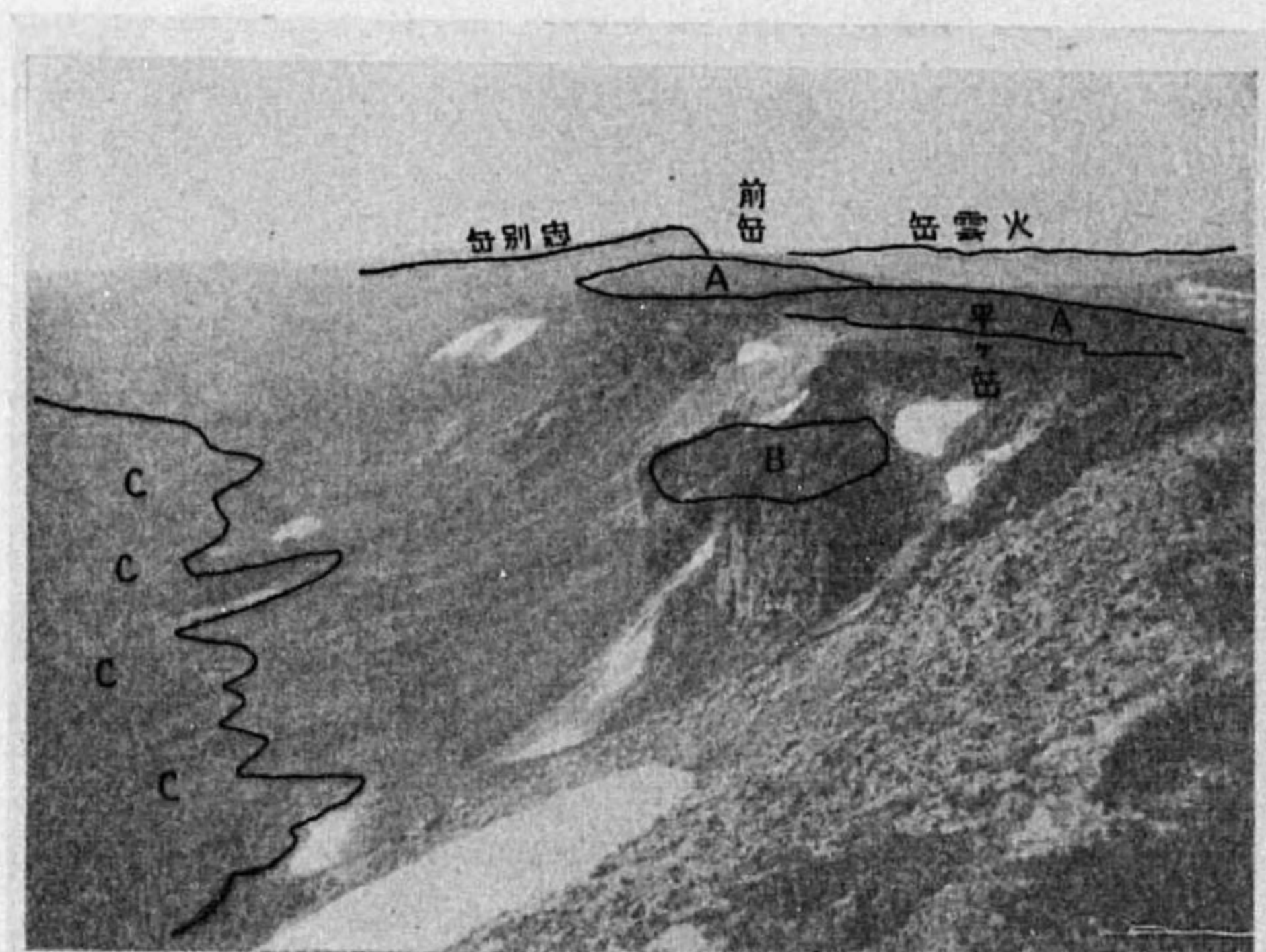
北海道の中央にして且つ最も高き所に高山氣象觀測所並に天體觀測所を設くるは國家として最緊要事なり。余は其目的の爲め北鎮岳頂を撰び圖中(L)を除外す。

十二 平ヶ岳天幕指定地



第一圖
層雲峽、雌龍（銀河瀑）
粗面岩ノ絶壁ニ懸ル瀑ト其レニ生ズル樹林ノ景。

Medaki-Fall, falling from the lofty cliff of trachyte.
The cliff is covered by *Abies Mayriana*, *Picea jesoensis*,
Betula, *Populus* etc.



View toward Mt. Chubetsudake. A. *Pinus pumila*. B. *Alnus*
Maximoniczii. C. An association of Conifers and birches.

第一圖

第二圖

平ヶ岳、忠別岳方面
A はひまつ、B みやまはんのき、C 針葉、樺混森林。

平ヶ岳の崖下に絶好の天幕指定地あり。草地にして良水に富み森林に近く間歇泉に近し。忠別、化雲、トムラウシの諸山に登るもの、第一に假寓し又忠別方面に天幕生活をなすもの、爲めに天幕指定地を作る要あるを以て圖中(M)を撰びて之を保護區域より除外す。

十三 姿見池畔宿泊地

松山温泉より登るものは旭岳の石室に宿れども既に山上に温泉宿を作る上は旭岳の石室を修築擴張するの要なく唯頂上するもの、爲め給水所とすれば足る。余は前旭岳下なる姿見池畔に規模の大なる宿泊所を設立する要あるを信じ圖中(N)を除外す。

十四 主幹道路と物資運搬

(1)黒岳登山道路(2)北嶺岳、旭岳に通ずる道(3)火口廻りの道(4)高根ヶ原忠別岳道(5)旭岳松山口登山道其他必要なる道路は可成完成して一般の便を計るは可なれども餘りに出入を自由にすれば事故頻出の恐ある故以上五線の主幹道路を除きては可成改修せざるを可とす。山上の主幹道路は幅員六尺迄を限度とし松山口と層雲峽口の登山道路は幅十二尺を限度とし此爲めに之に當るべき線を保存區域より除外す。

物資の運搬は現在皆人手をかり居れども近き將來は索條に依りて上下せしめたり。其を動かすべき動力は擴張さるべき發電所よりするものとす。

平ヶ岳の崖下に絶好の天幕指定地あり。草地にして良水に富み森林に近く間歇泉に近し。忠別化雲、トムラウシの諸山に登るもの、第一に假寓し又忠別方面に天幕生活をなすもの、爲めに天幕指定地を作る要あるを以て圖中(M)を撰びて之を保護區域より除外す。

十三 姿見池畔宿泊地

松山温泉より登るものは旭岳の石室に宿れども既に山上に温泉宿を作る上は旭岳の石室を修築擴張するの要なく唯頂上するもの、爲め給水所とすれば足る。余は前旭岳下なる姿見池畔に規模の大なる宿泊所を設立する要あるを信じ圖中(N)を除外す。

十四 主幹道路と物資運搬

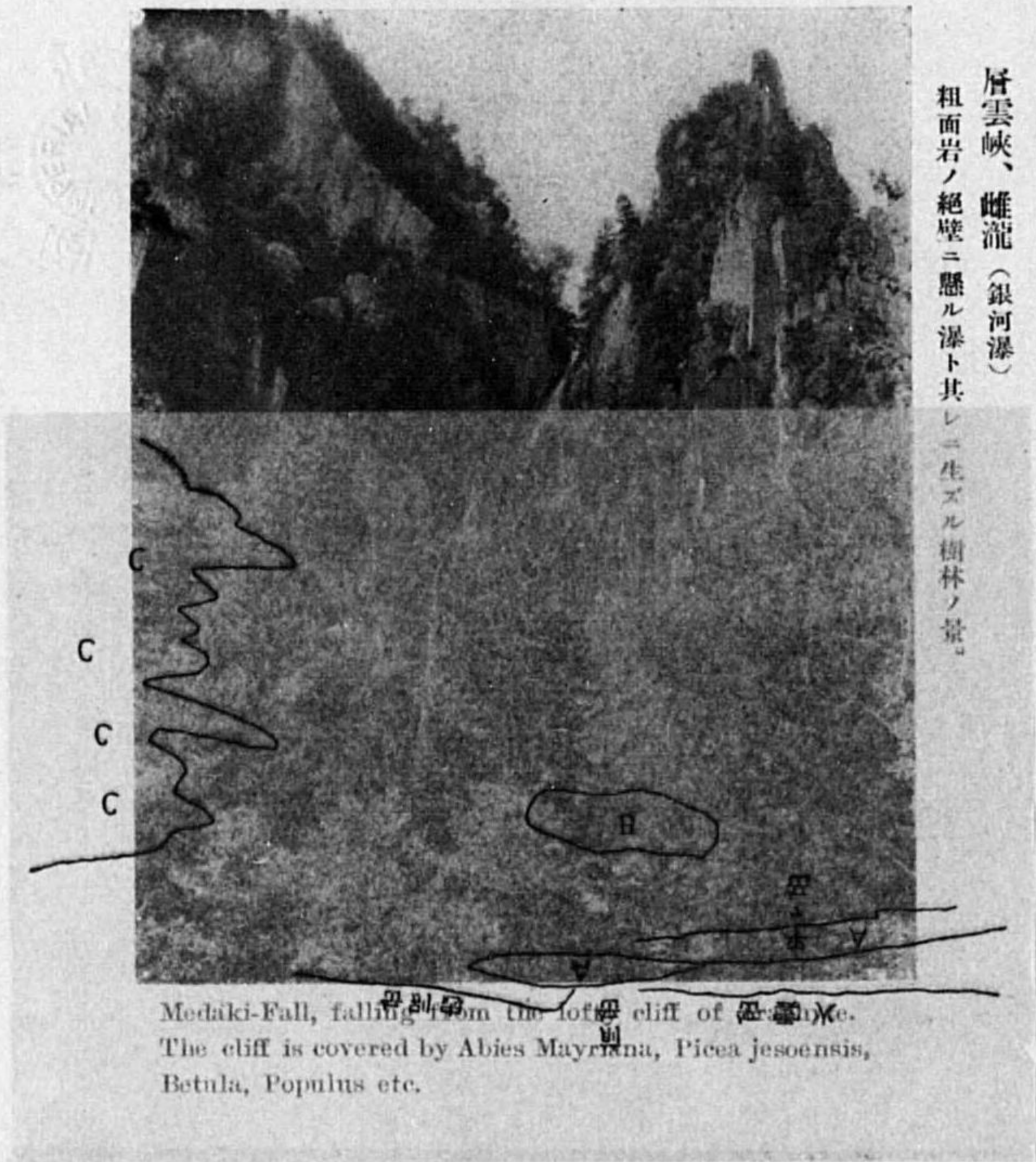
(1)黒岳登山道路(2)北鎮岳、旭岳に通ずる道(3)火口廻りの道(4)高根ヶ原忠別岳道(5)旭岳松山口登山道其他必要なる道路は可成完成して一般の便を計るは可なれども餘りに出入を自由にすれば事故頻出の恐ある故以上五線の主幹道路を除きては可成改修せざるを可とす。山上の主幹道路は幅員六尺迄を限度とし松山口と層雲峽口の登山道路は幅十二尺を限度とし此爲めに之に當るべき線を保存區域より除外す。

物資の運搬は現在皆人手をかり居れども近き將來は索條に依りて上下せしめたり。其を動かすべき動力は擴張さるべき發電所よりするものとす。

版圖一第

第一圖

層雲峽、雌滝(銀河瀑)
粗面岩ノ絶壁ニ懸ル瀑ト其レニ生ズル樹林ノ景。



Medaki-Fall, falling from the top cliff of 層雲峽.
The cliff is covered by Abies Mayrana, Picea jesoensis, Betula, Populus etc.

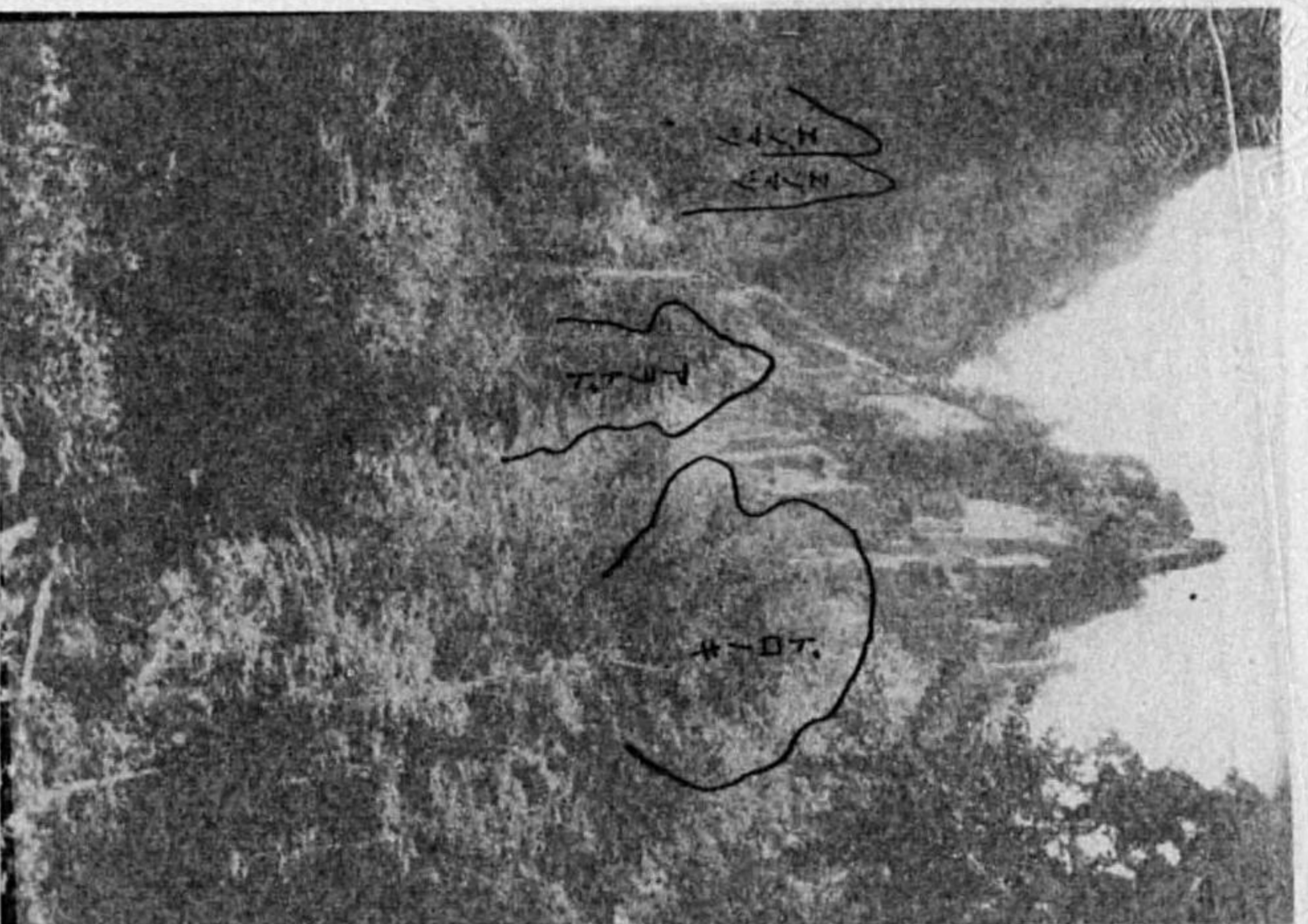
第二圖

平ヶ岳、忠別岳方面

A はひまつ、B みやまはんのき、C 針葉、樺混森林。

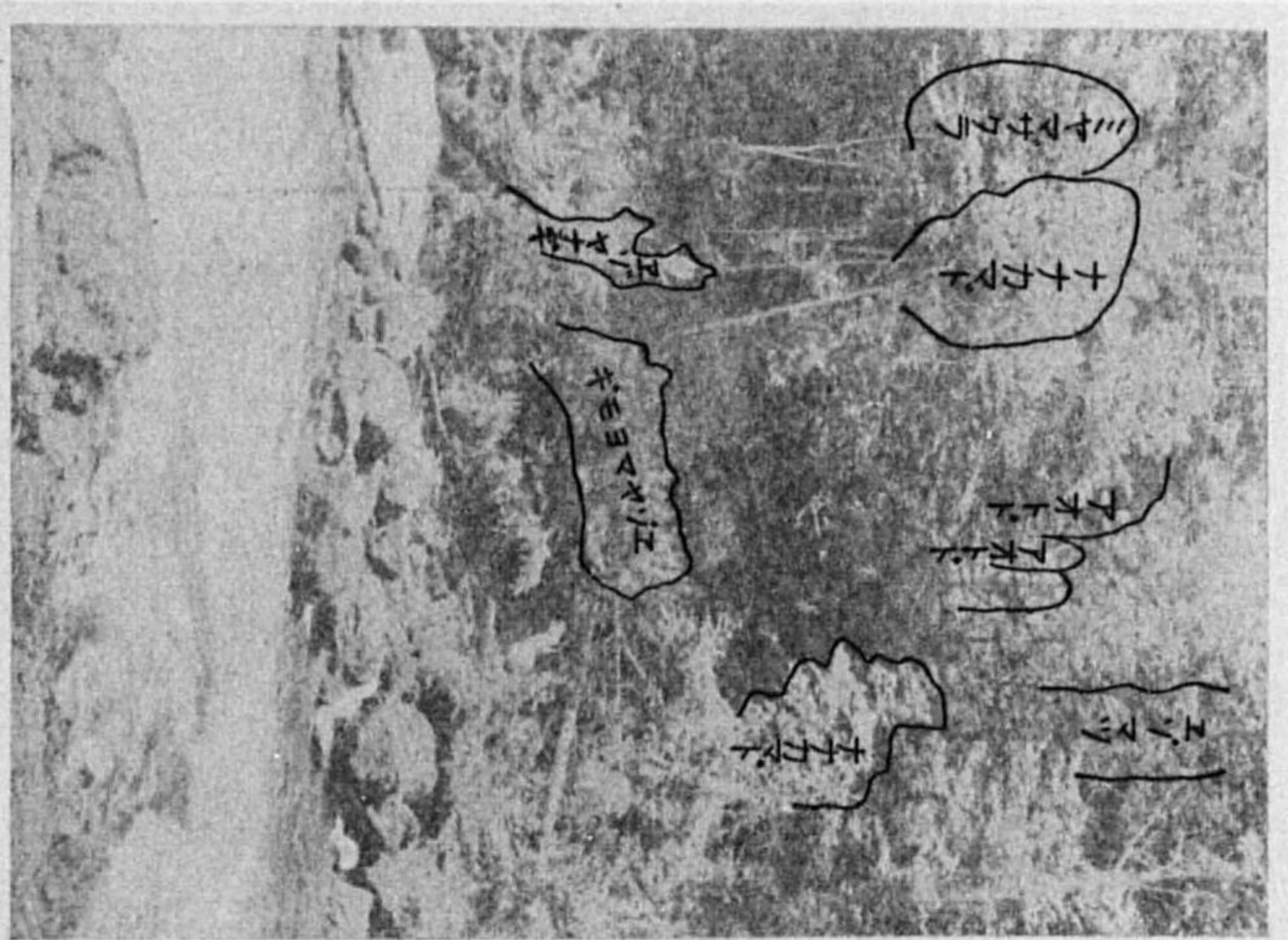


View toward Mt. Chubetsudake. A. Pinus pumila. B. Alnus Maximoniczii. C. An association of Conifers and birches.



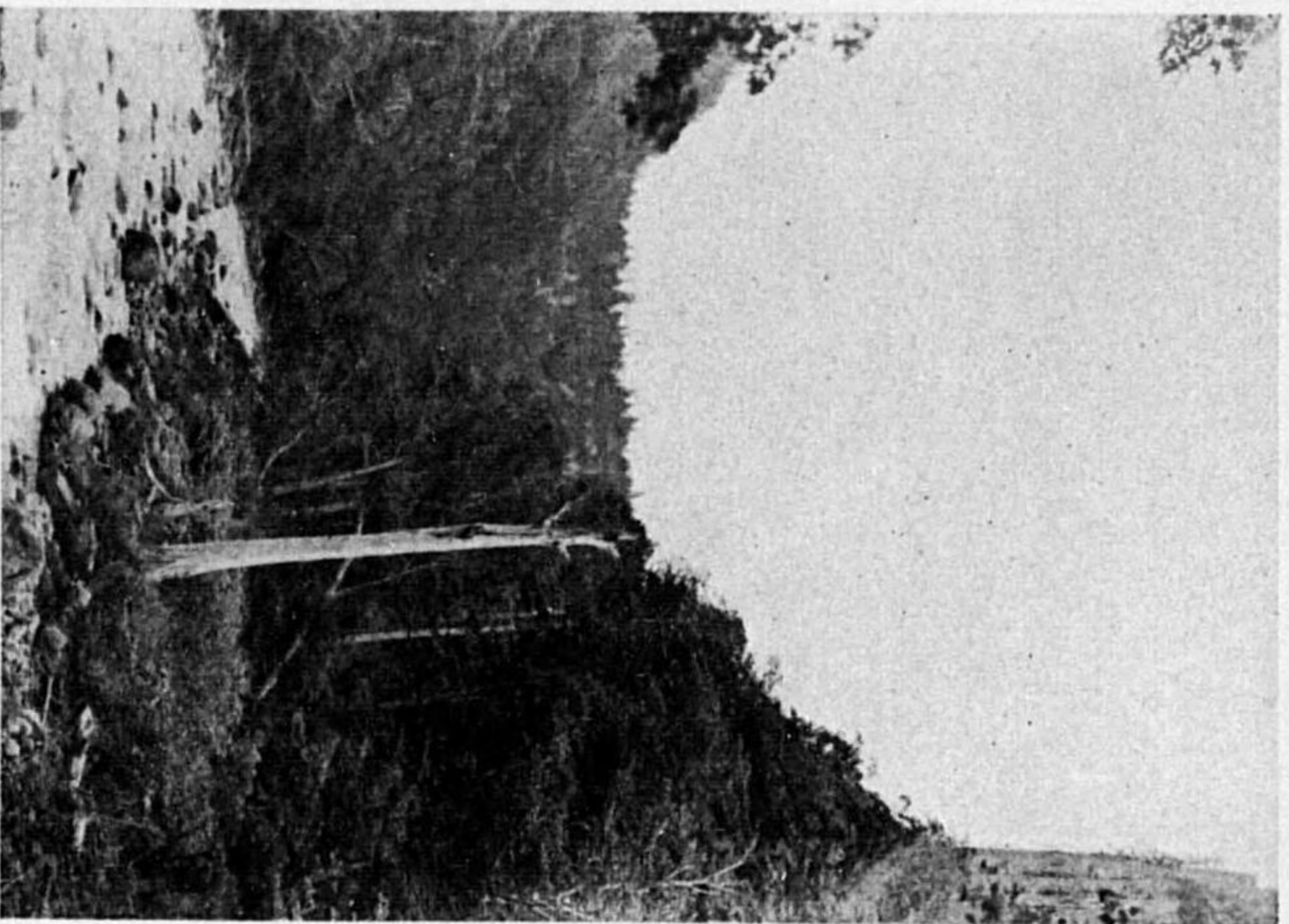
第四圖
雄滝ノ一景

Another view of Mechuki-fall.



第三圖
離谷温泉附近ノ溪流
ノ一部赤石川ノ石狩本流ニ合スル所。

A view of the Ishikari river near Shionoya Hot Spring.



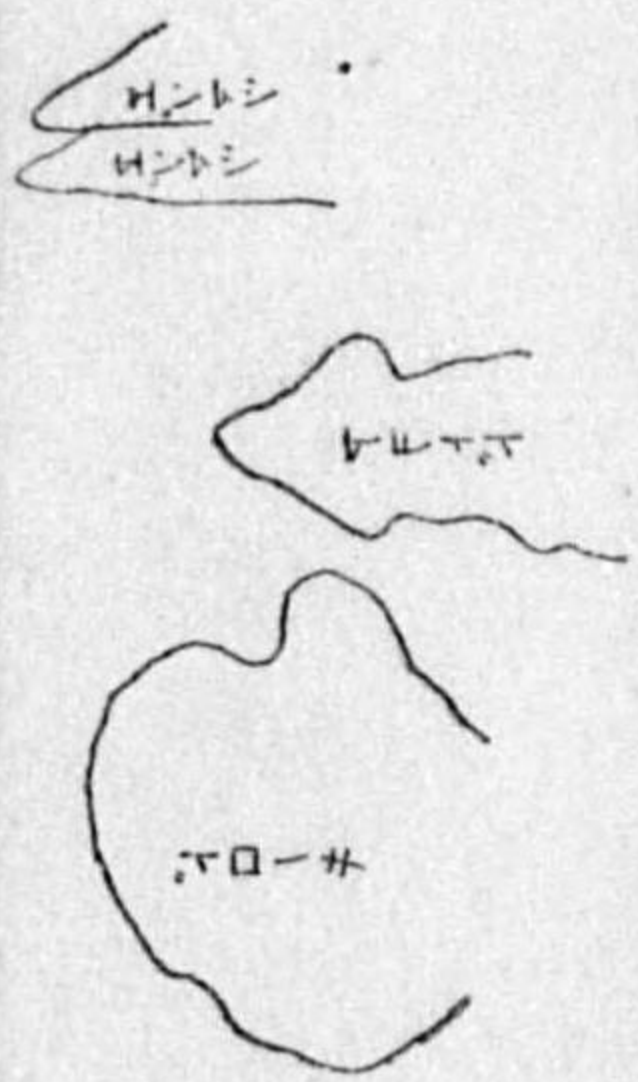
第六圖
小函ノ景

View of Kobako.



第五圖
雄滝 (流泉邊)

View of Okhiki-fall.



版

圖

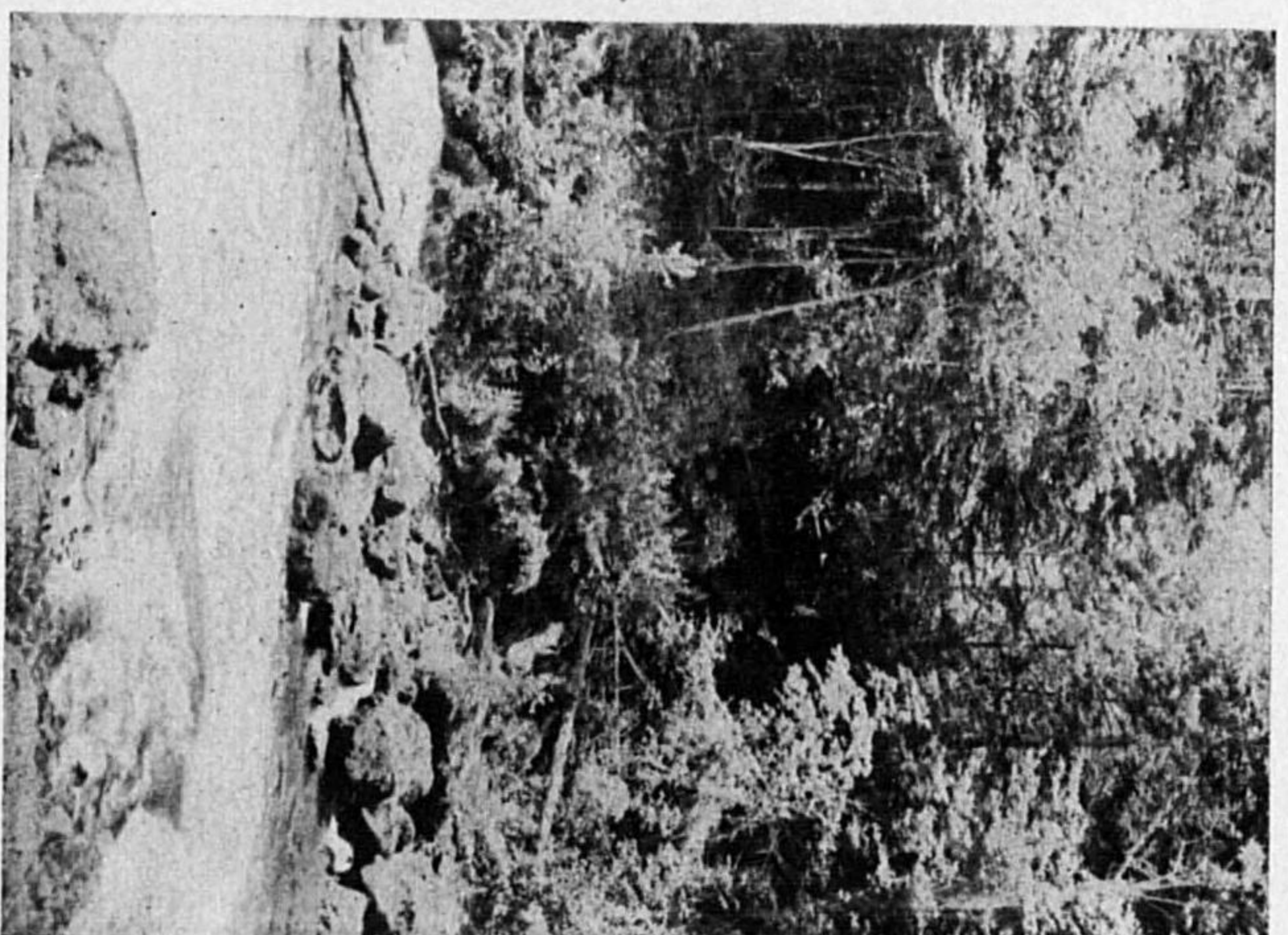


版

圖



雄瀑ノ一景
第四圖



第三圖
離谷温泉附近ノ溪流
ノ一部赤石川ノ石礫水澁ニ合スル所。

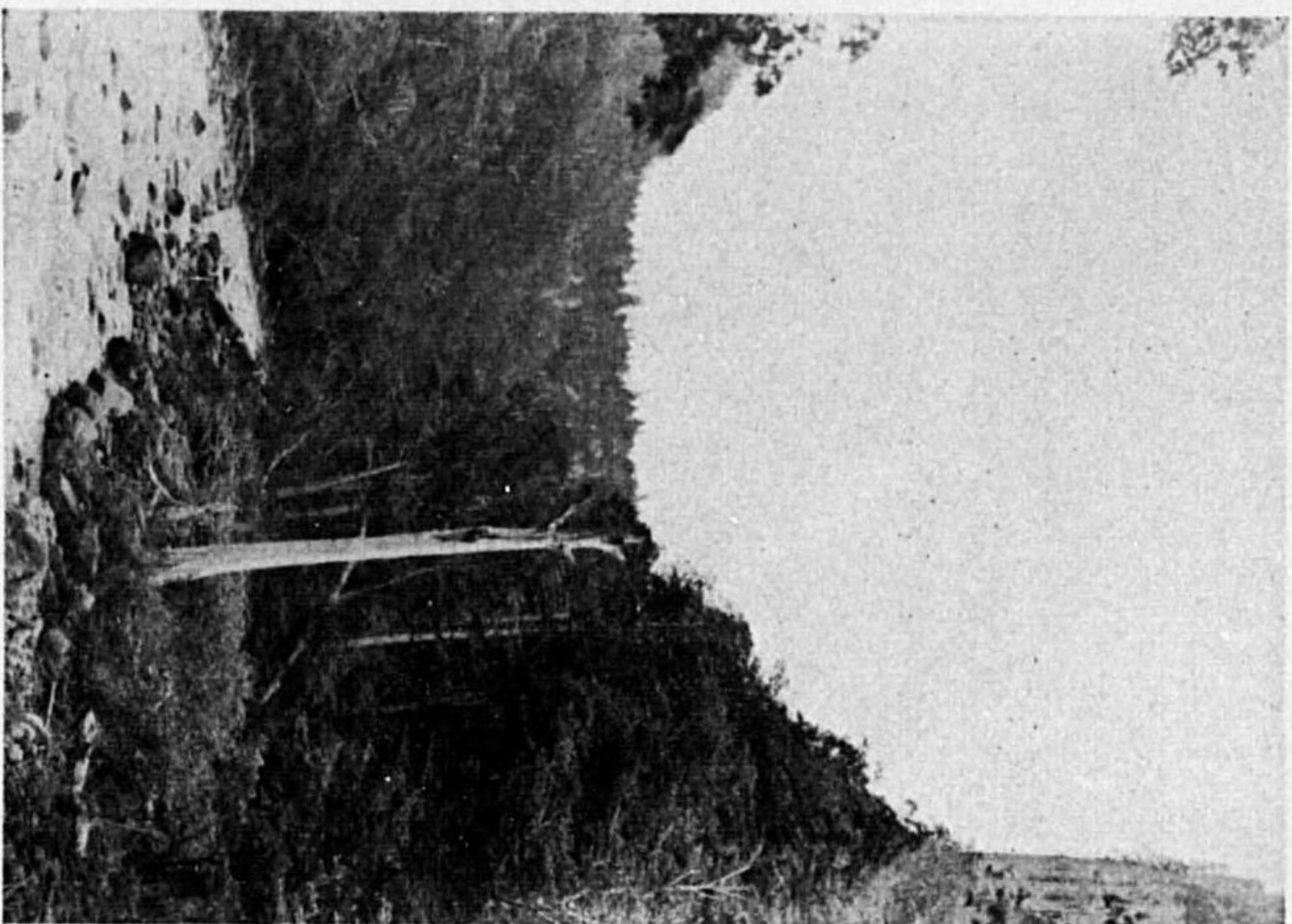
A view of the Ishikari river near Shionoya
Hot Spring.

版

圖

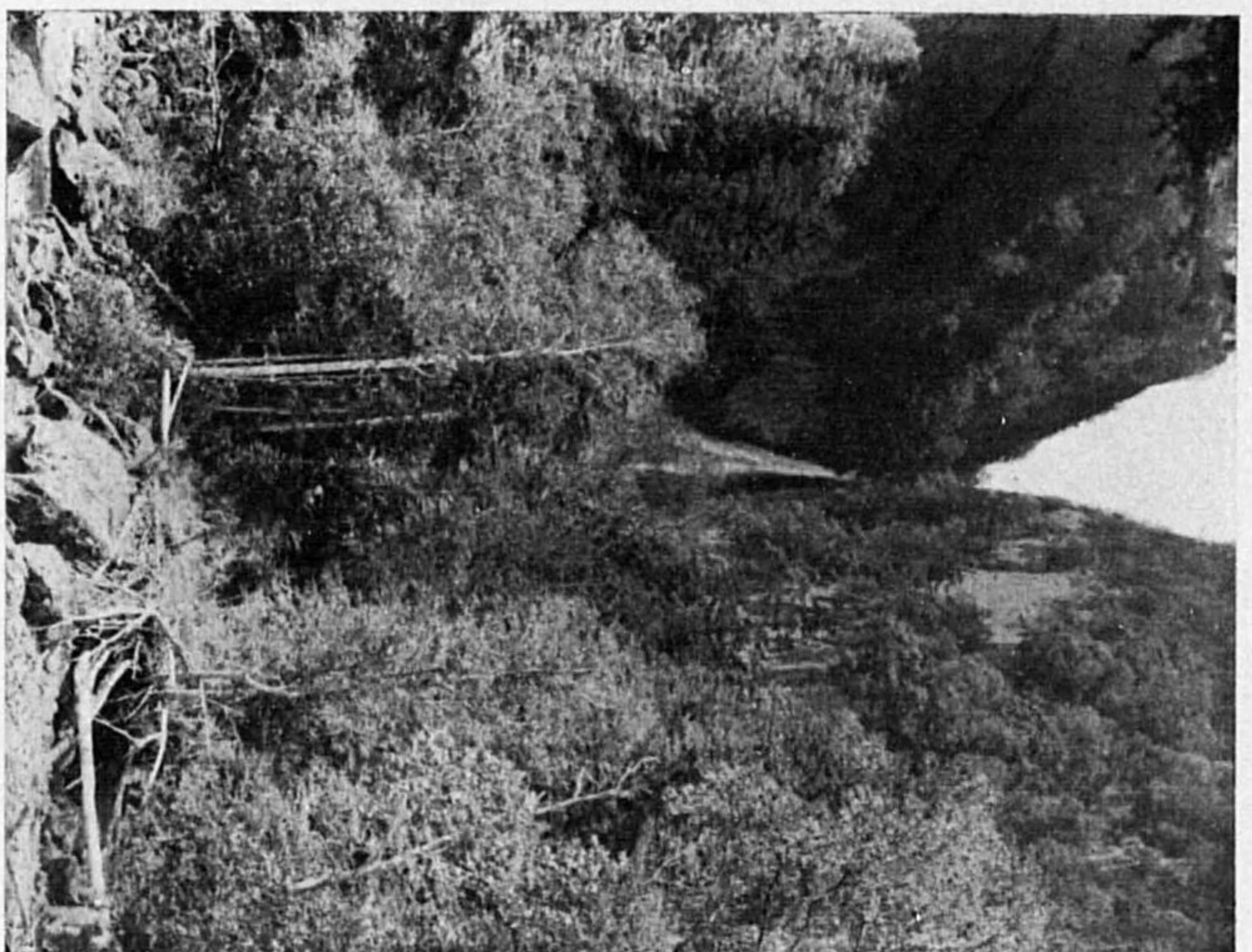
三

第



View of Kobako.

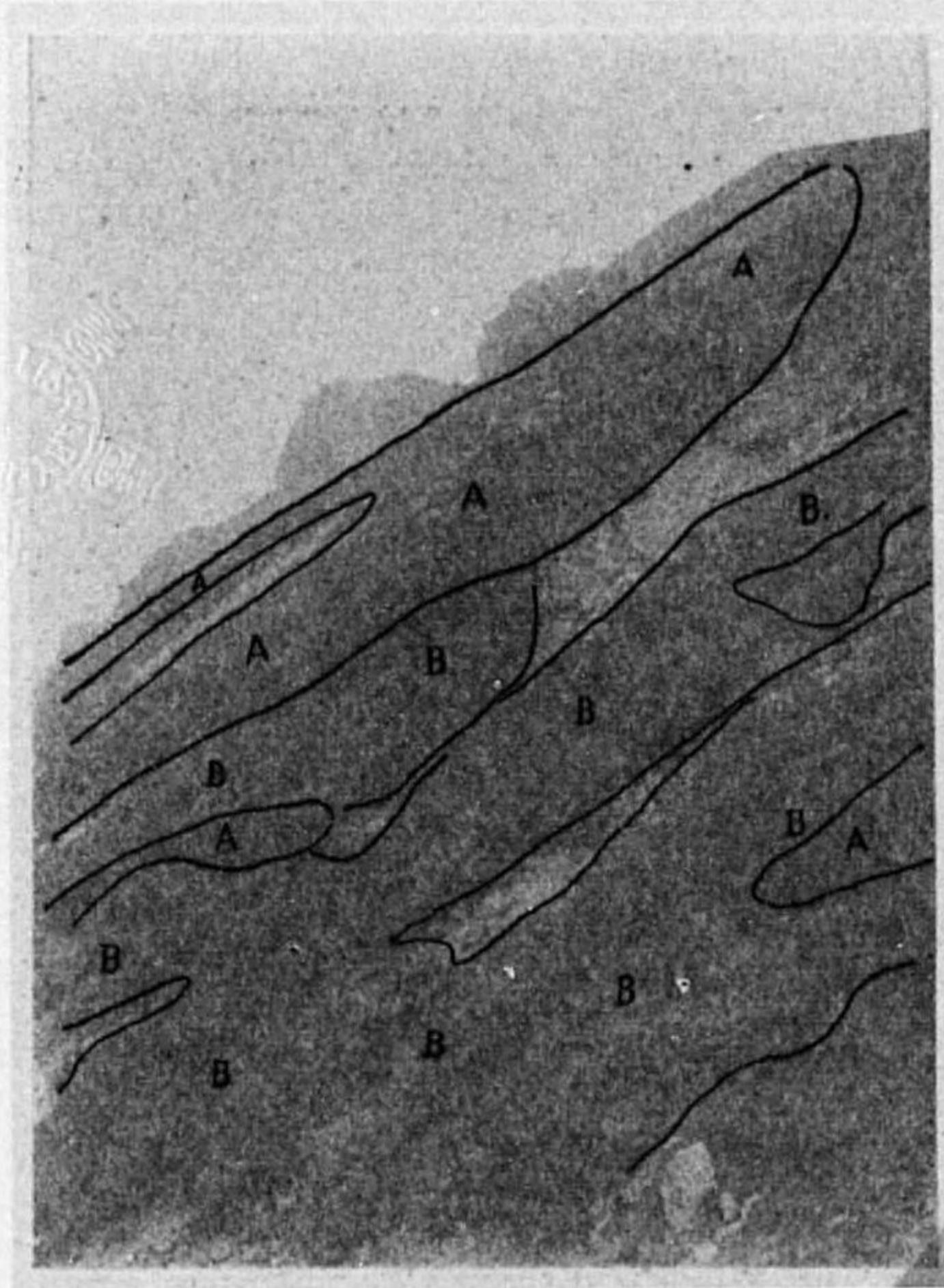
小函ノ景
第六圖



View of Okaki-fall.

雄滝 (流尾瀑)
第五圖

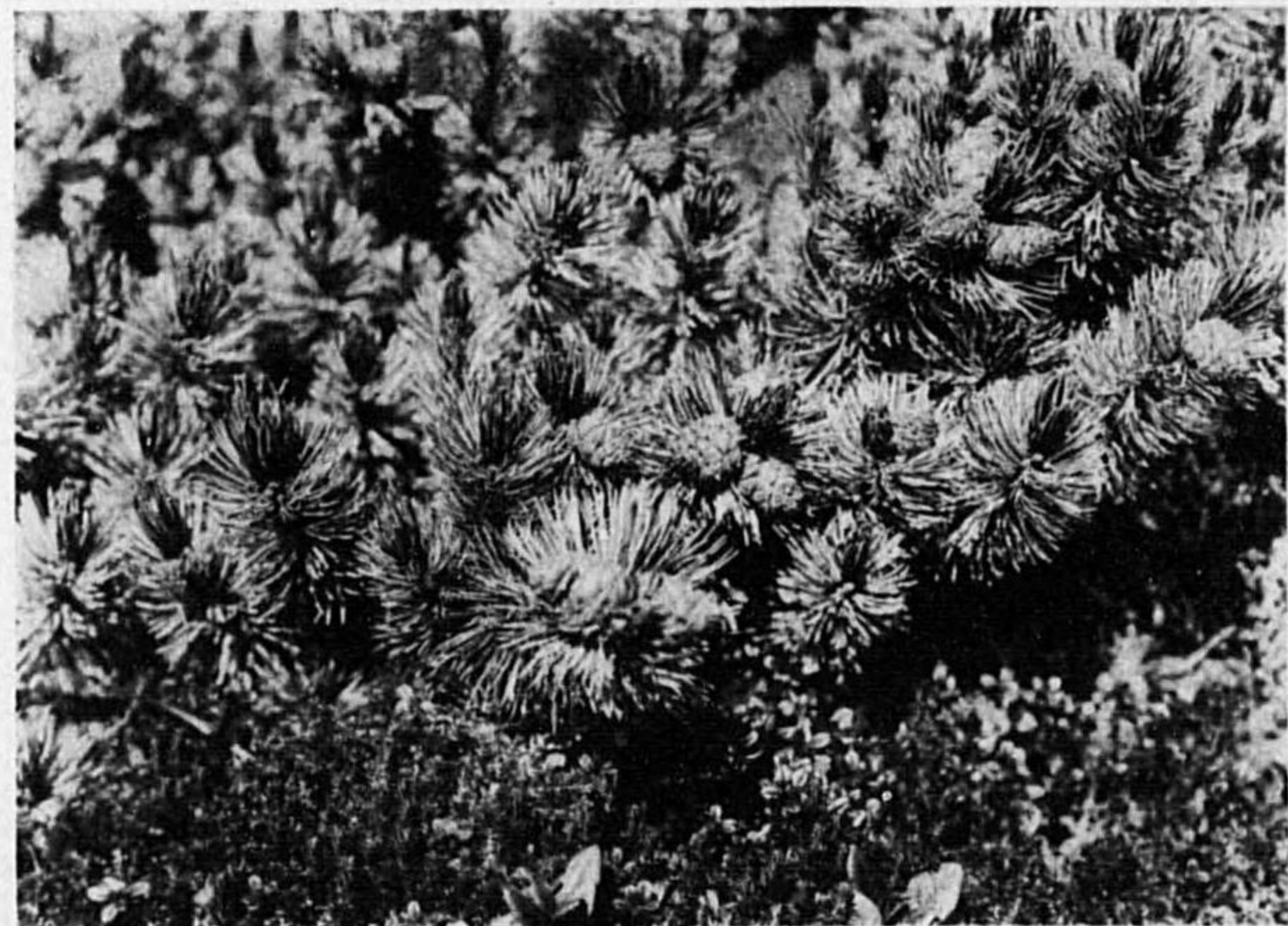
版圖五第



The slope of the old crater of Mt. Kurodake, seen from the foot of Mt. Keigetsudake.
A. *Pinus pumila*, B. *Alnus Maximoniczii*.

第九圖

桂月岳下ヨリ黒岳火口ノ斜面ヲ望ム
A はひまつ、B みやまはんのき。



Pinus pumila bearing its cones.

第十圖
はひまつノ毬果

(北鎮岳ニテ撮ル)

版圖四第



Entrance to the Tenpukyō ravine.

第七圖

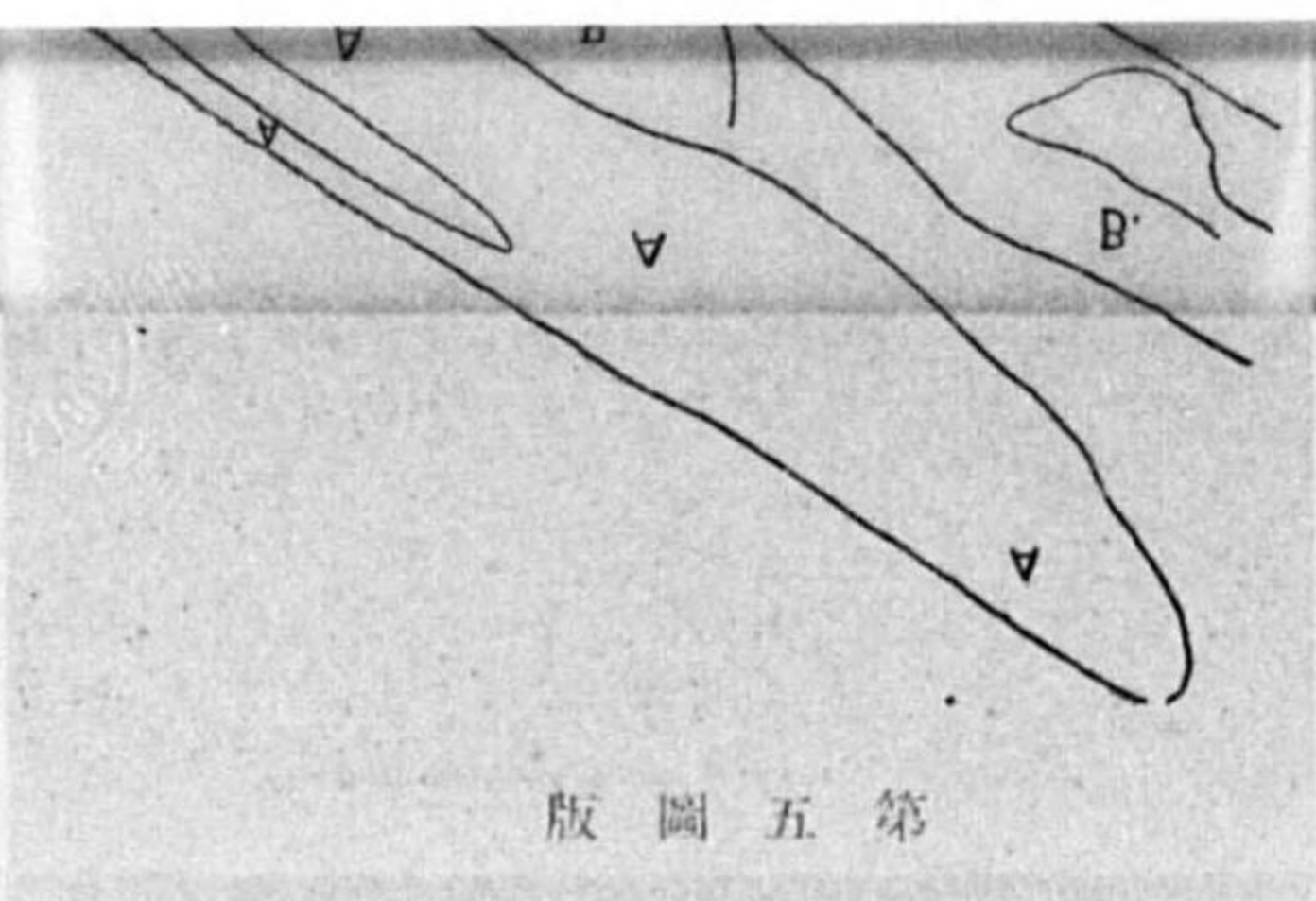
天斧峽ノ入口



View of Ōbako.

第八圖

大函ノ勝景

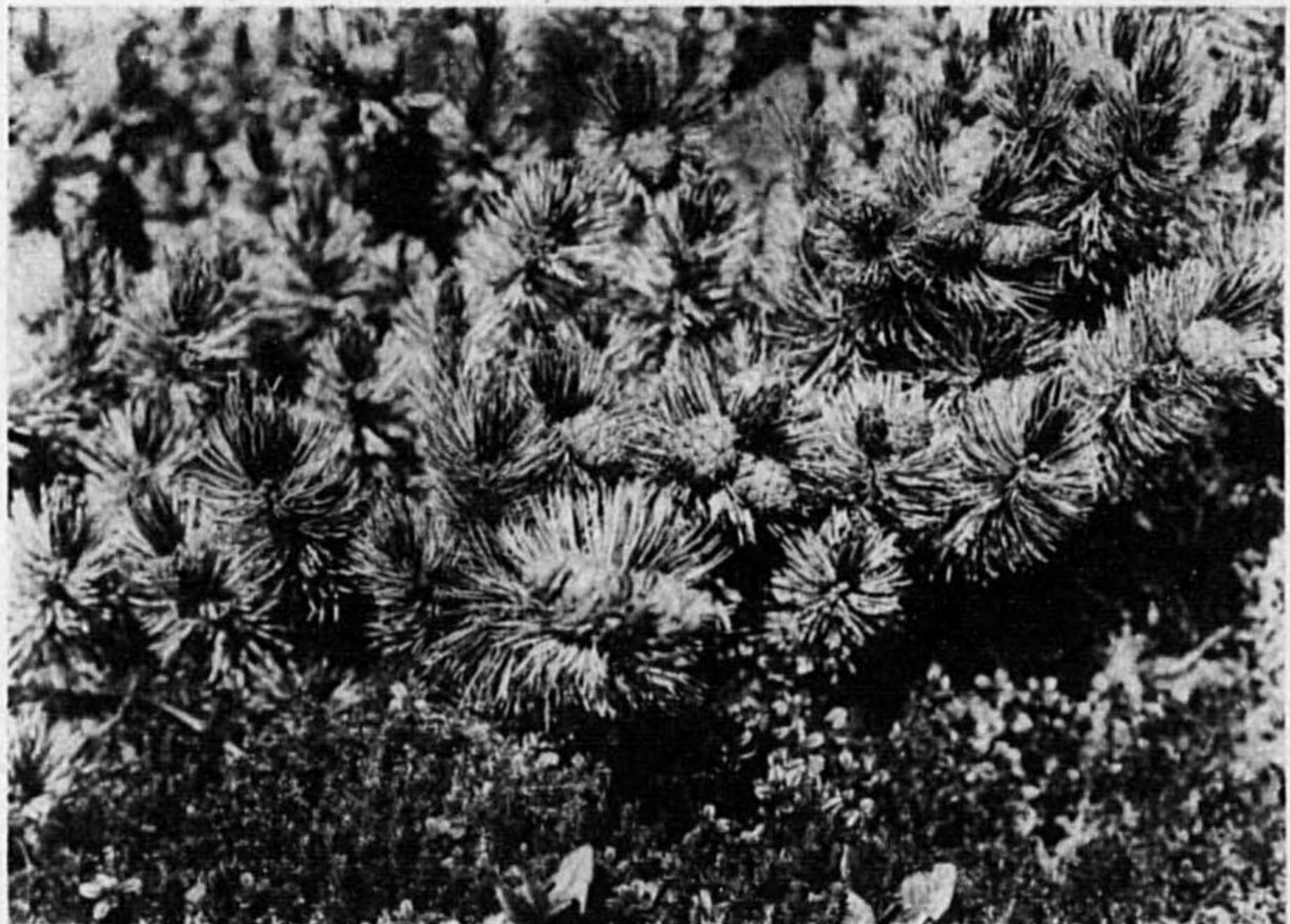


版圖五第



第九圖
桂月岳下ヨリ黒岳火口ノ斜面ヲ望ム
A はひまつ、B みやまはんのき。

The slope of the old crater of Mt. Kurodake, seen from the foot of Mt. Keigetsudake.
A. *Pinus pumila*, B. *Alnus Maximoniczii*.



第十圖
はひまつノ毬果

(北鎮岳ニテ撮ル)

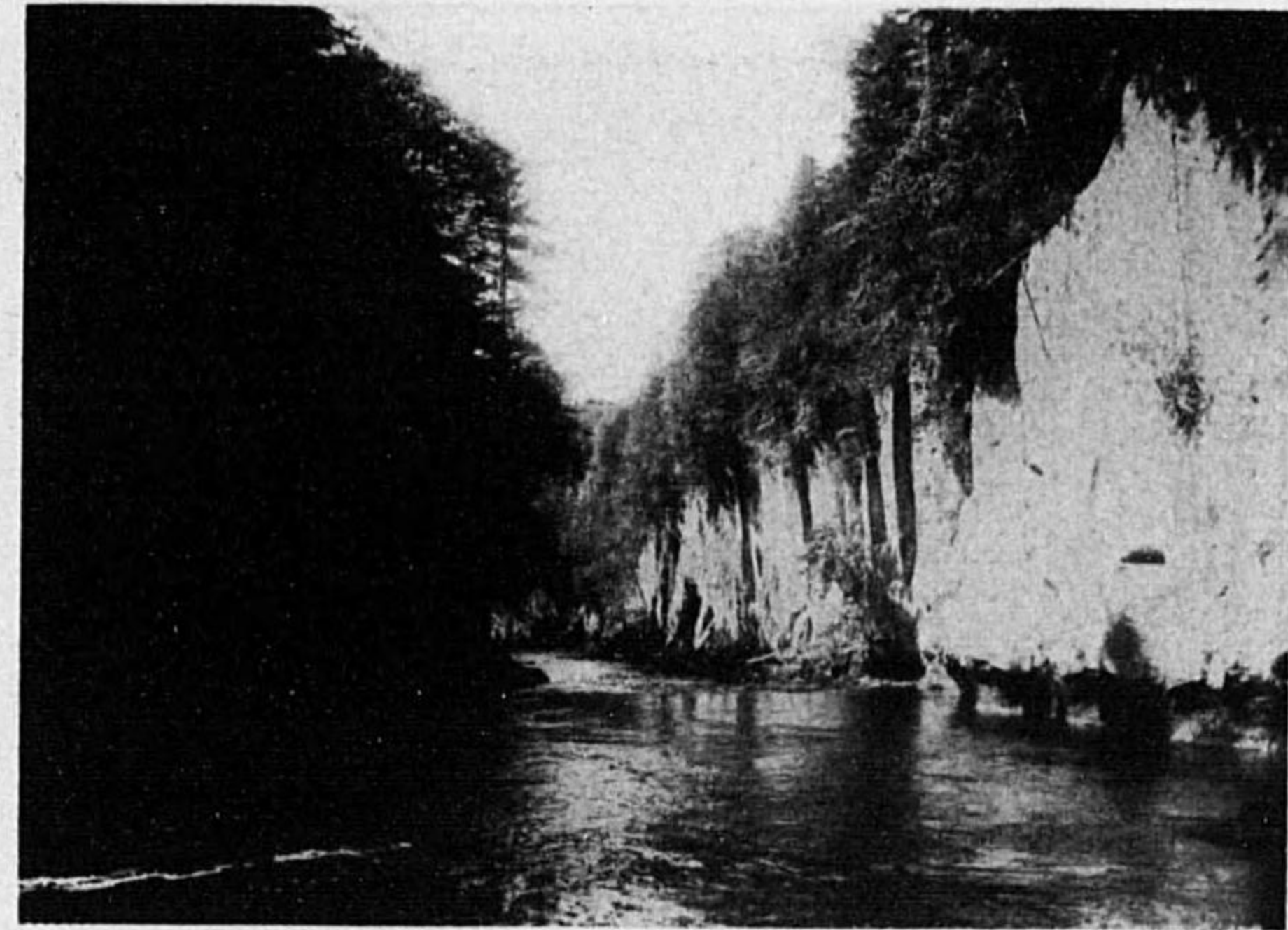
Pinus pumila bearing its cones.

版圖四第



第七圖
天斧峽ノ入口

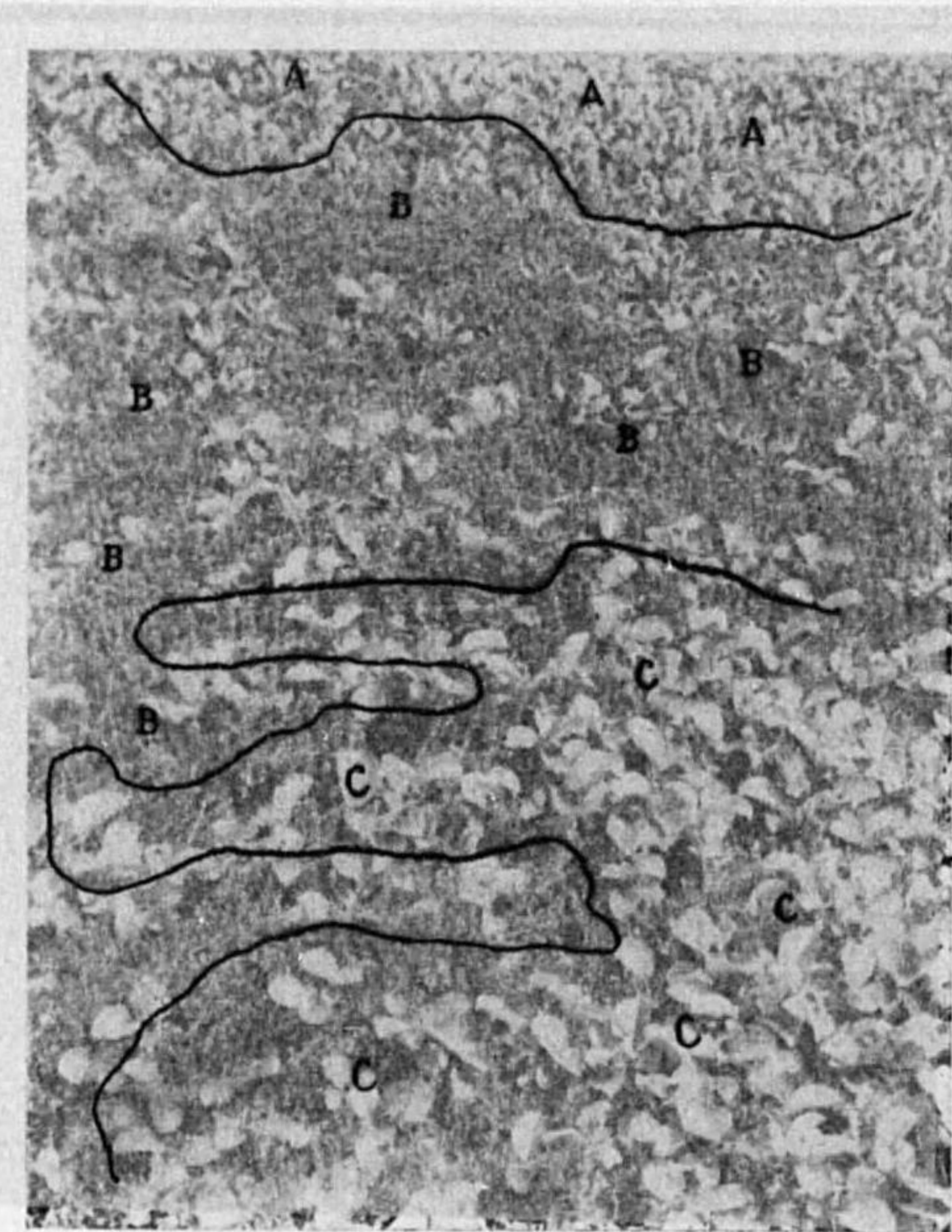
Entrance to the Tenpukyō ravine.



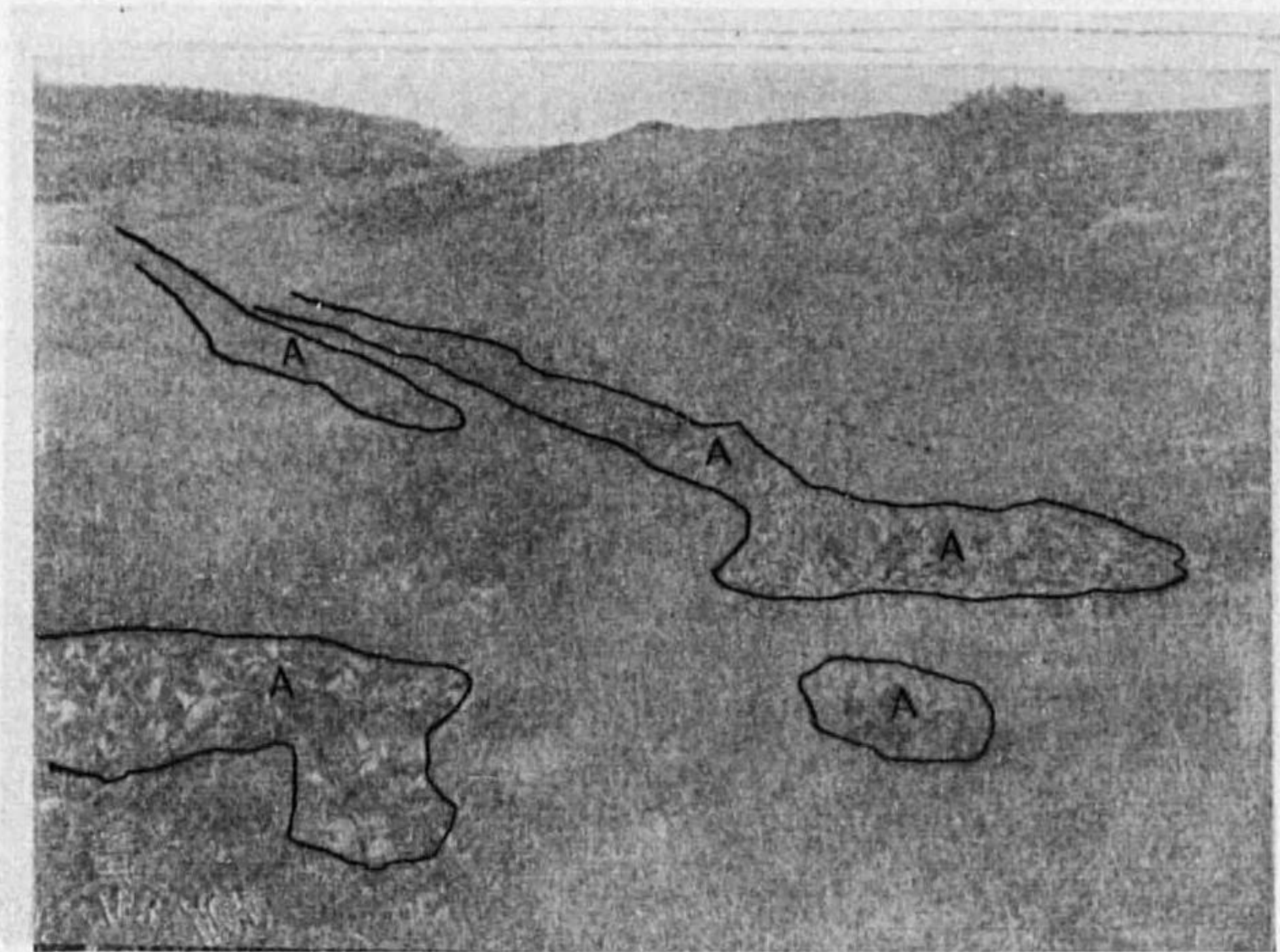
第八圖
大函ノ勝景

View of Ōbako.

版圖七第



An association of *Rhododendron chrysanthum* (A), *Empetrum nigrum* var. *asiaticum* (B), and *Salix yesoalpina* (C).



Veratrum Lobelianum var. *asiaticum* in flower.

第十三圖

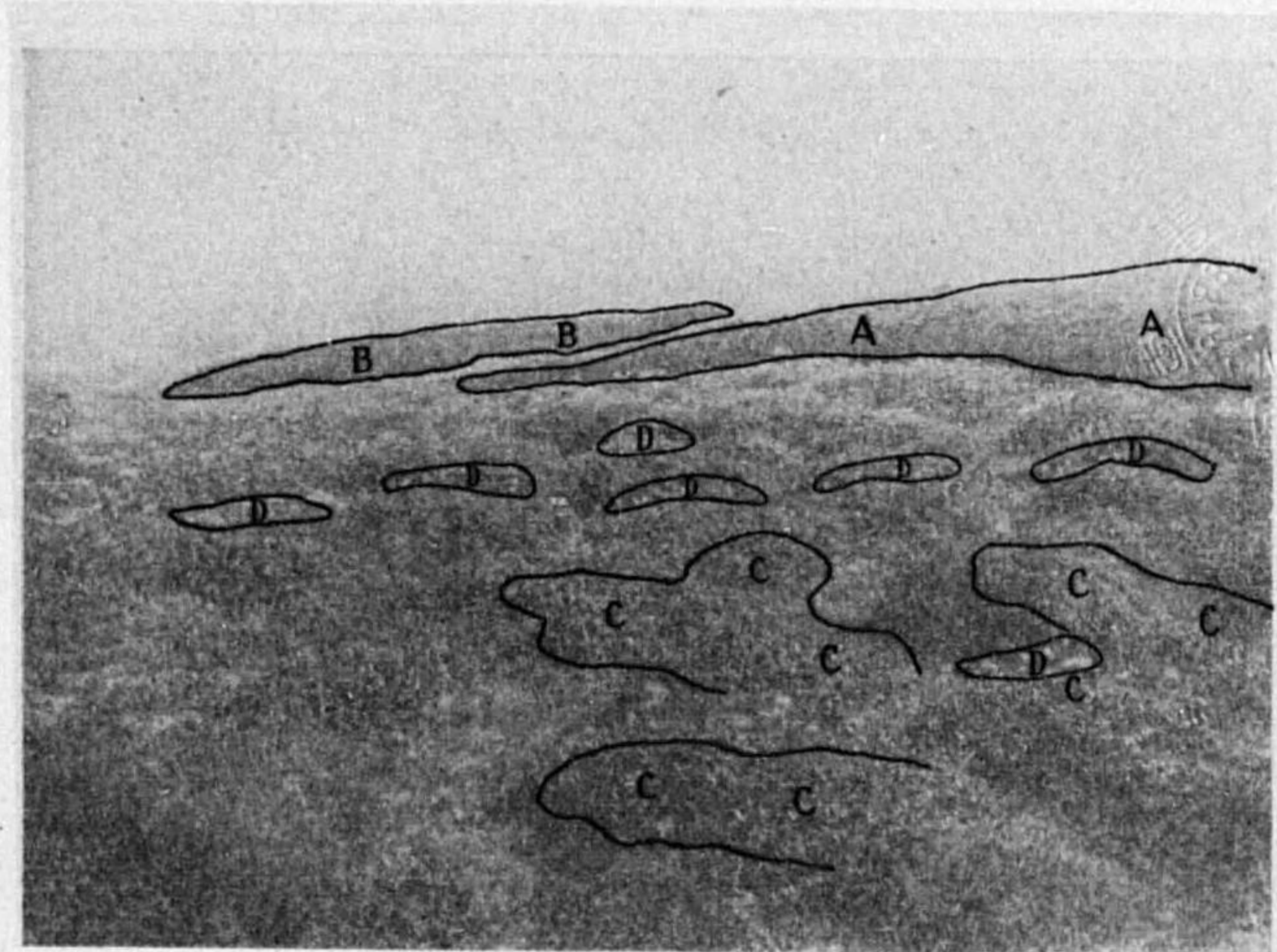
黒岳斜面ノ小灌木群落

A きばなしやくなげ、B がんかうらん、C まるばやなぎ。

第十四圖

黒岳桂月岳間ノ谷ニえぞばいけいさう(A)ノ生ズル所。

版圖六第



A view of Kmonodaira. A. *Sorbus pseudo-gracilis*, B. *Pinus pumila*, C. *Rhododendron chrysanthum*, D. *Sierversia pentapetala*.

第十一圖

雲ノ平ノ一景

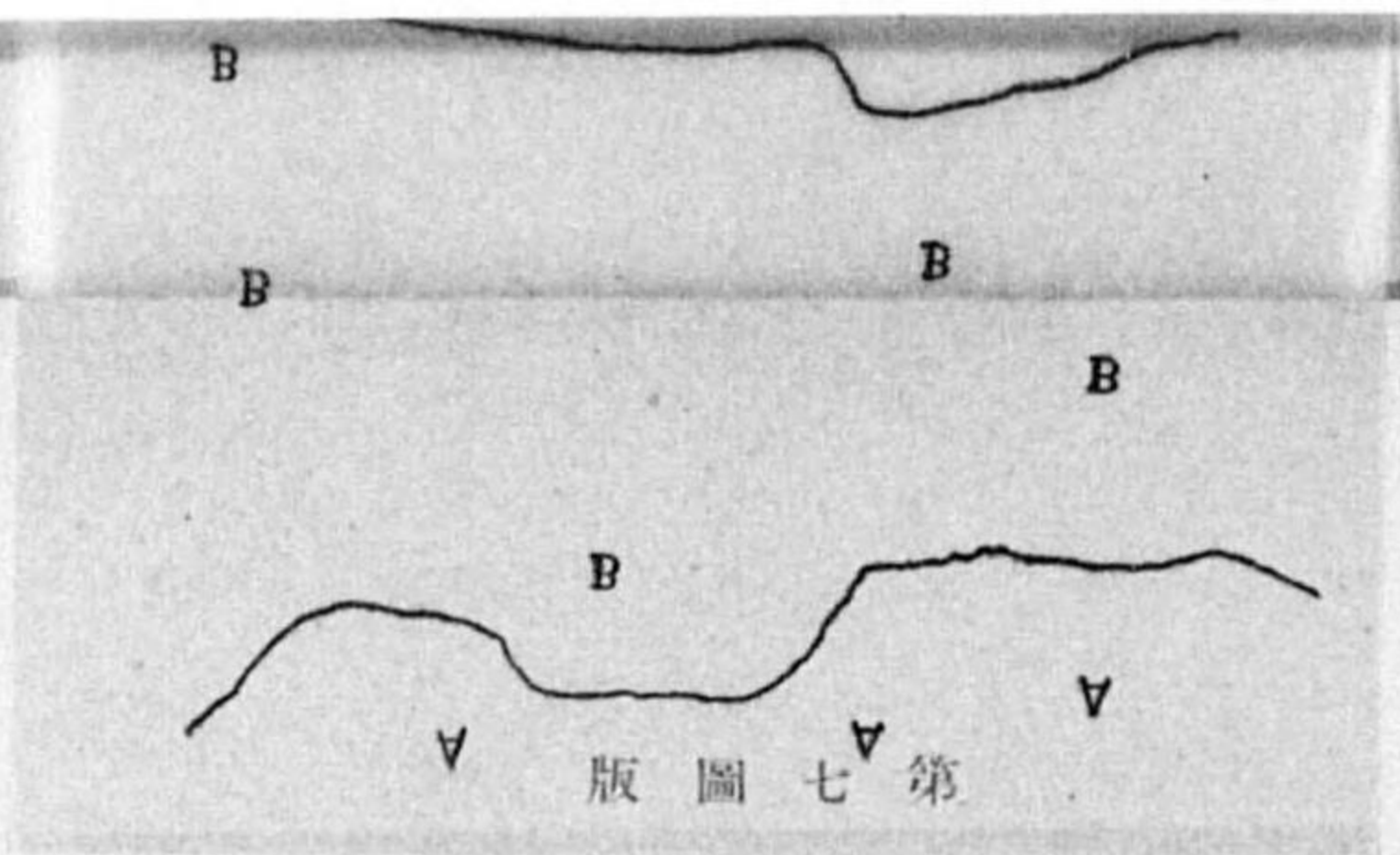
A えぞうらじろななかまど、B はひまつ、C きばなしやくなげ、D ちんぐるま。

第十二圖

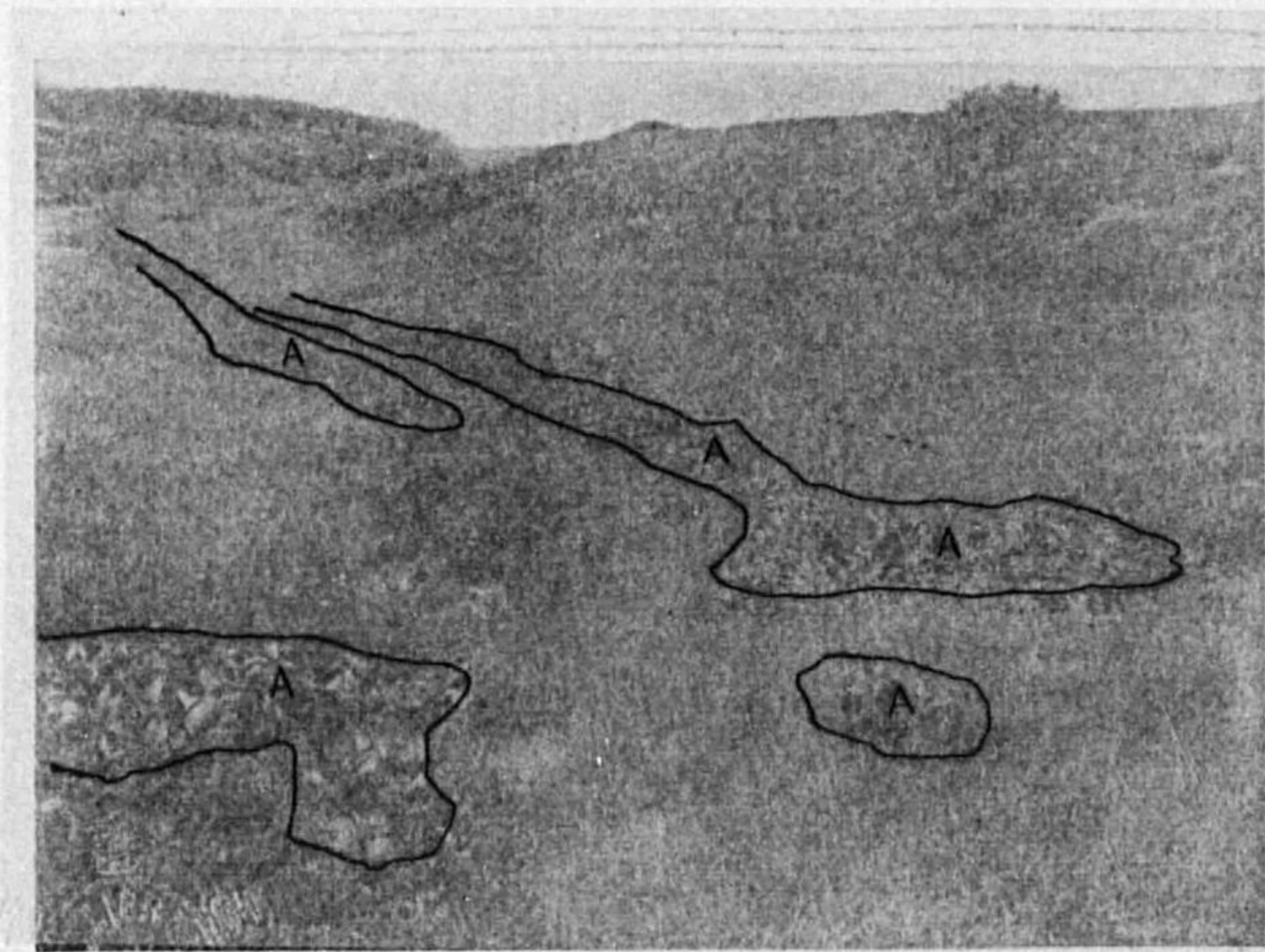
北嶺岳斜面ノちしまつがきくら



Bryanthus musciformis in its full-bloom.



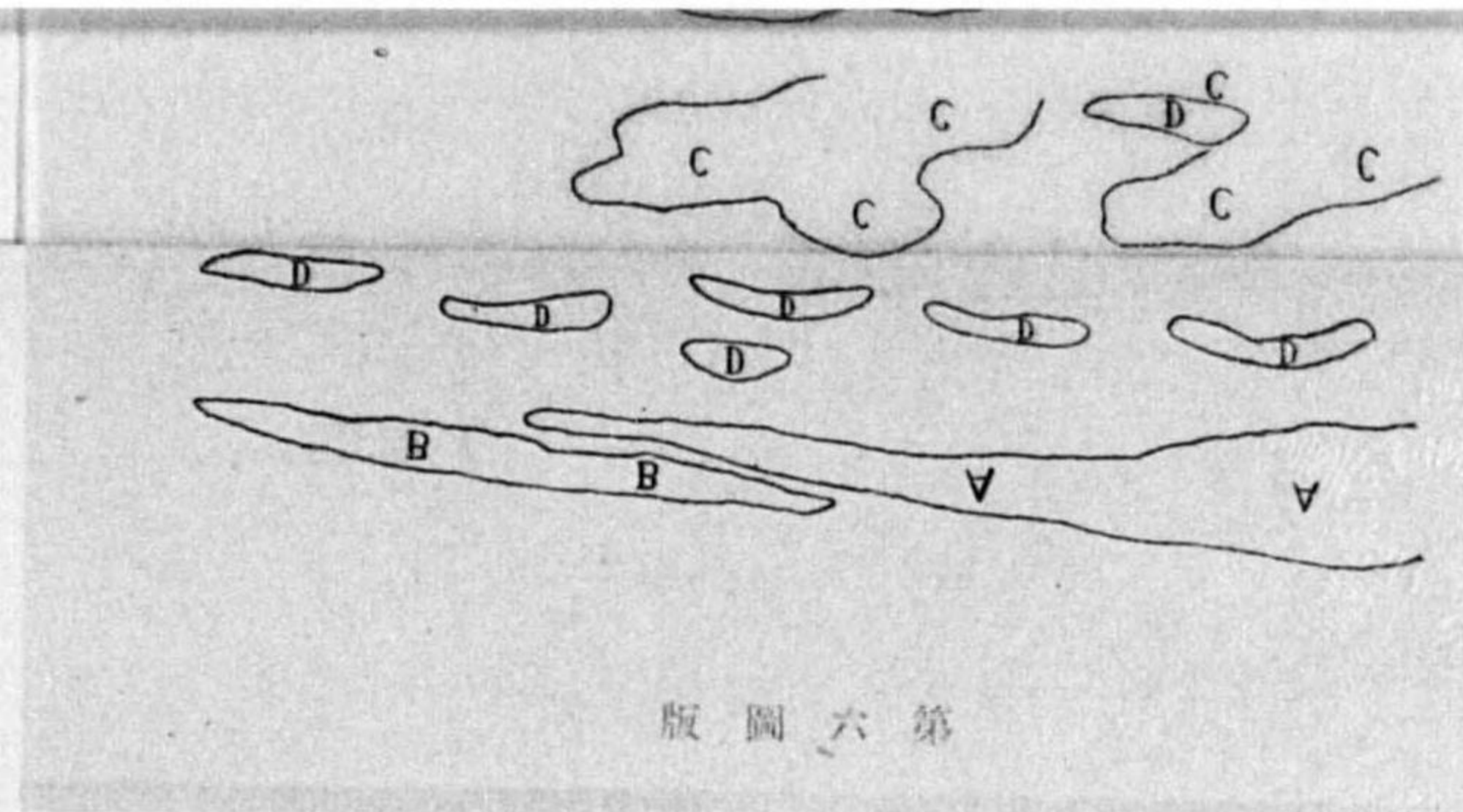
An association of *Rhododendron chrysanthum* (A), *Empetrum nigrum* var. *asiaticum* (B), and *Salix yesoalpina* (C).



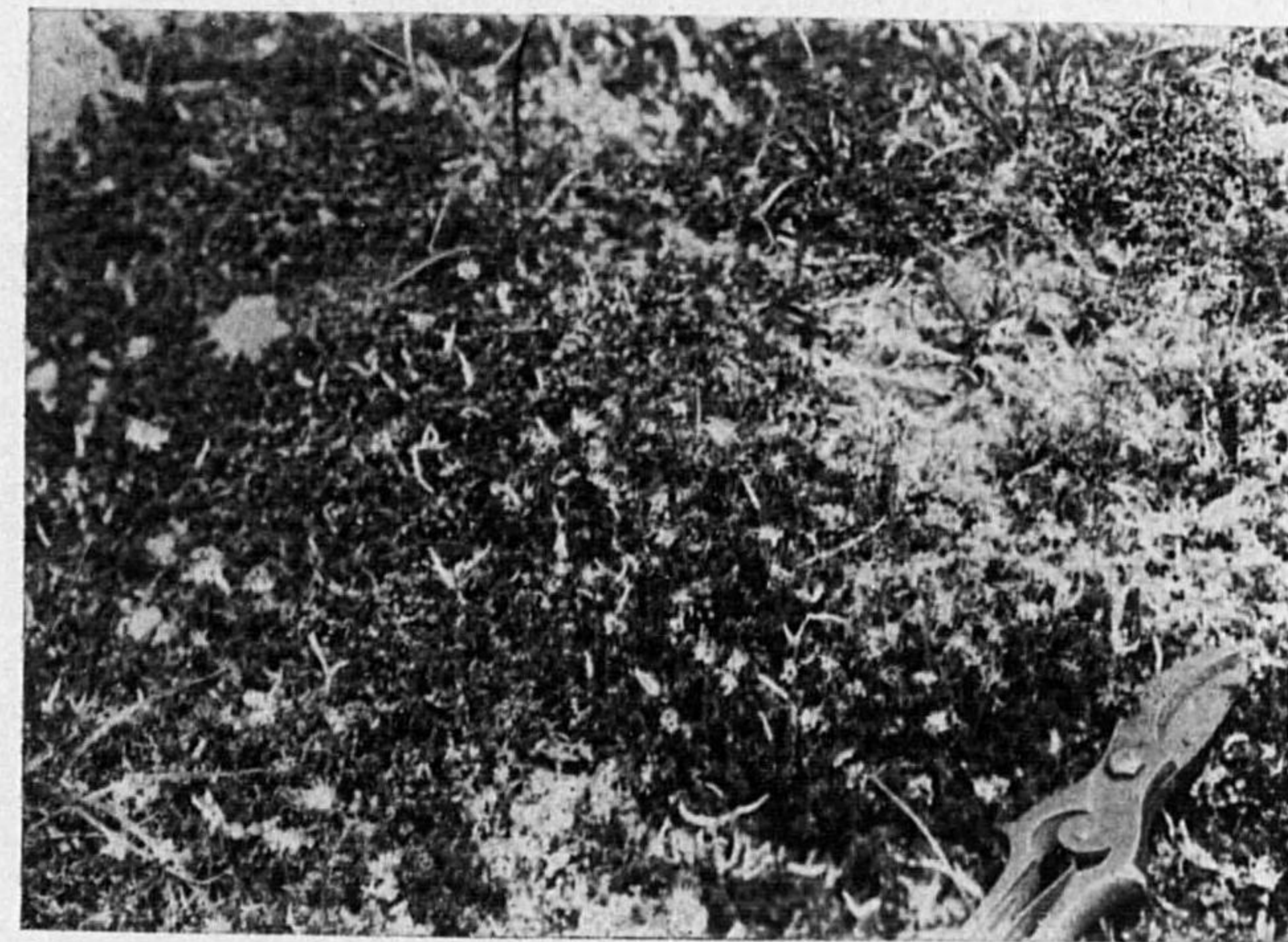
Veratrum lobelianum var. *asiaticum* in flower.

第十三圖
黒岳斜面ノ小灌木群落
A きはなしやくなげ、B がんかうらん、C まるばやなぎ。

第十四圖
黒岳桂月岳間ノ谷ニえぞばいけいさう(A)ノ生ズル所。



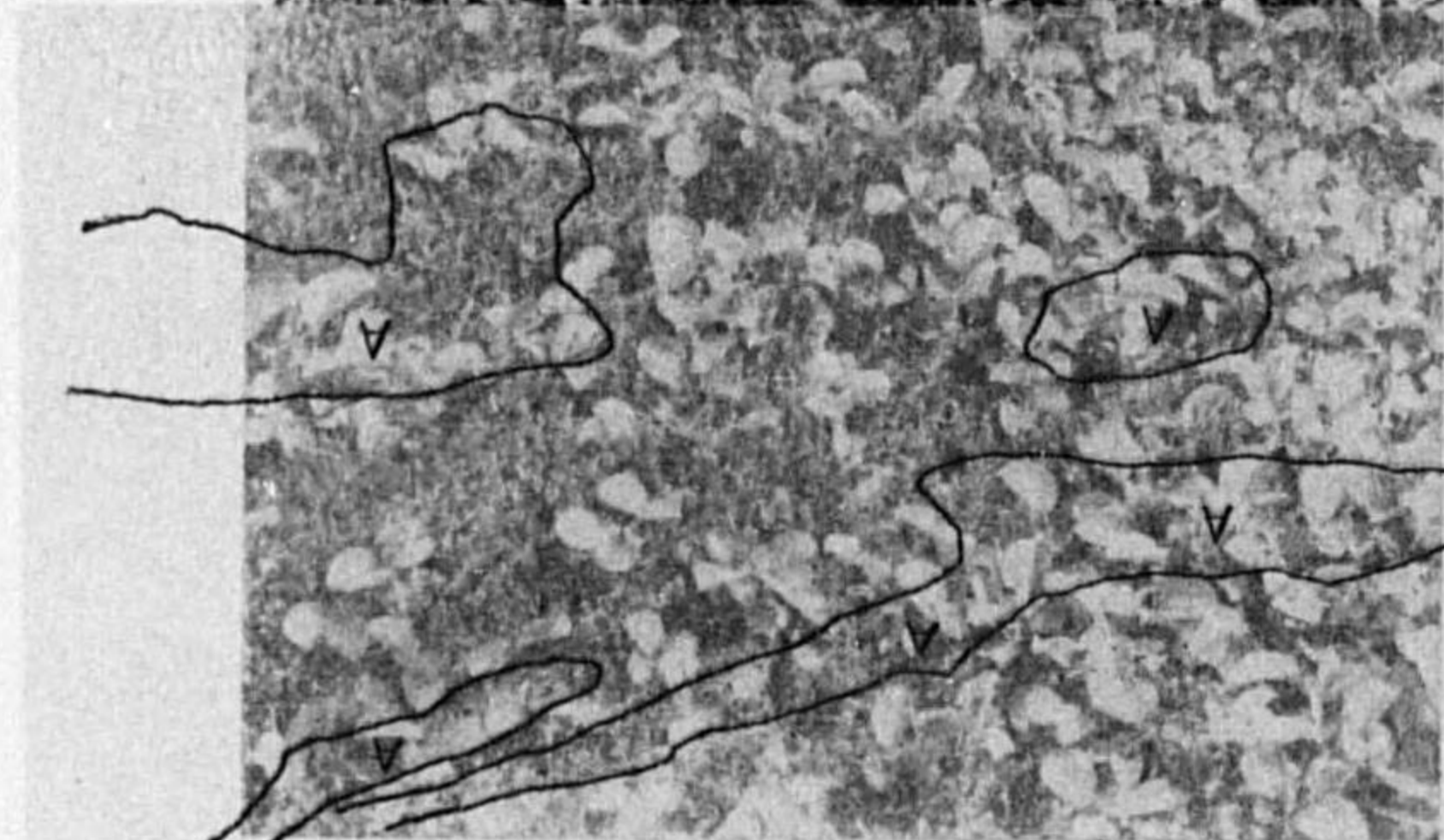
A view of *Kumonodaira*. A. *Sorbus pseudo-gracilis*, B. *Pinus pumila*, C. *Rhododendron chrysanthum*, D. *Sierversia pentapetala*.



Bryanthus musciformis in its full-bloom.

第十一圖
雲ノ平ノ一景
A えぞうらじろななかまど、B はひまつ、C きはなしやくなげ、D ちんぐるま。

第十二圖
北鎮岳斜面ノちしまつがきくら



An association of *Rhododendron chrysanthum* (A), *Empetrum nigrum* var. *asiaticum* (B), and *Salix yesoalpina* (C).



Veratrum Lobelianum var. *asiaticum* in flower.

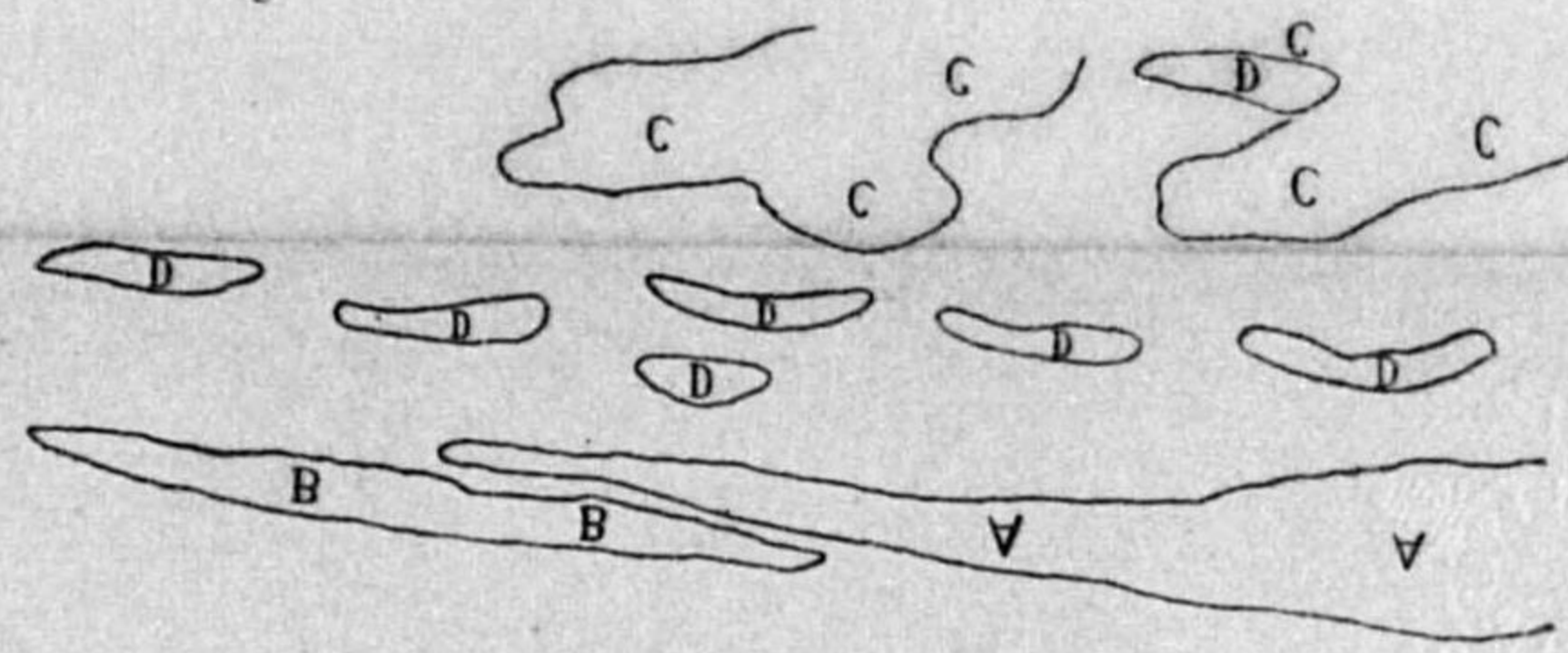
第十三圖

黒岳斜面ノ小灌木群落

A きばなしやくなげ、B がんかうらん、C まるばやま。

第十四圖

黒岳桂月岳間ノ谷ニえぞばいけいさう (A) ノ生ズル所。



A view of Kunmonodaira. A. *Sorbus pseudo-gracilis*, B. *Pinus pumila*, C. *Rhododendron chrysanthum*, D. *Sierversia pentapetala*.

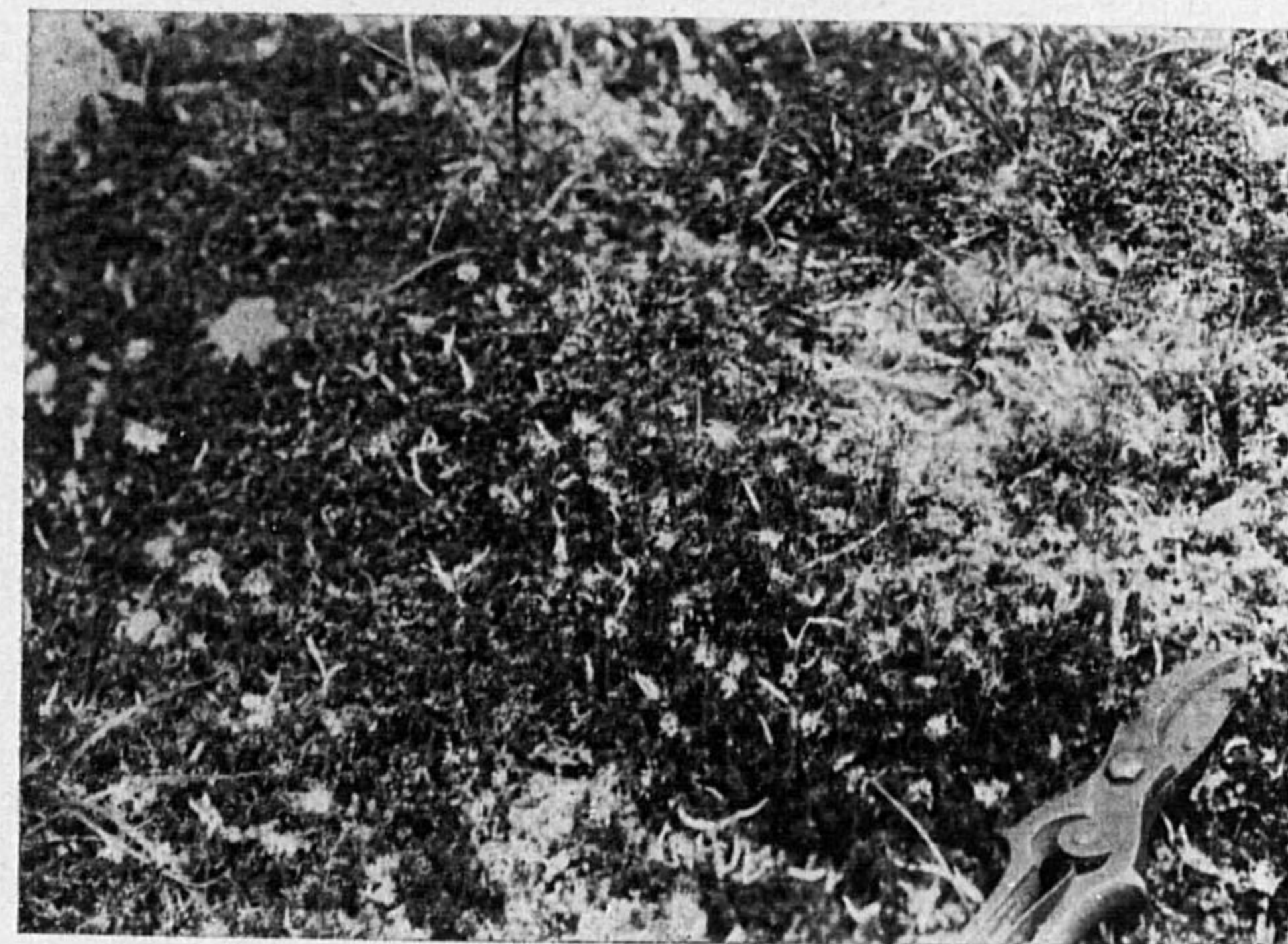
第十一圖

雲ノ平ノ一景

A えぞらしじろななかまど、B はひまつ、C きばなしやくなげ、D ちんぐるま。

第十二圖

北嶺岳斜面ノちしまつがさくら



Bryanthus musciformis in its full-bloom.

版圖九第

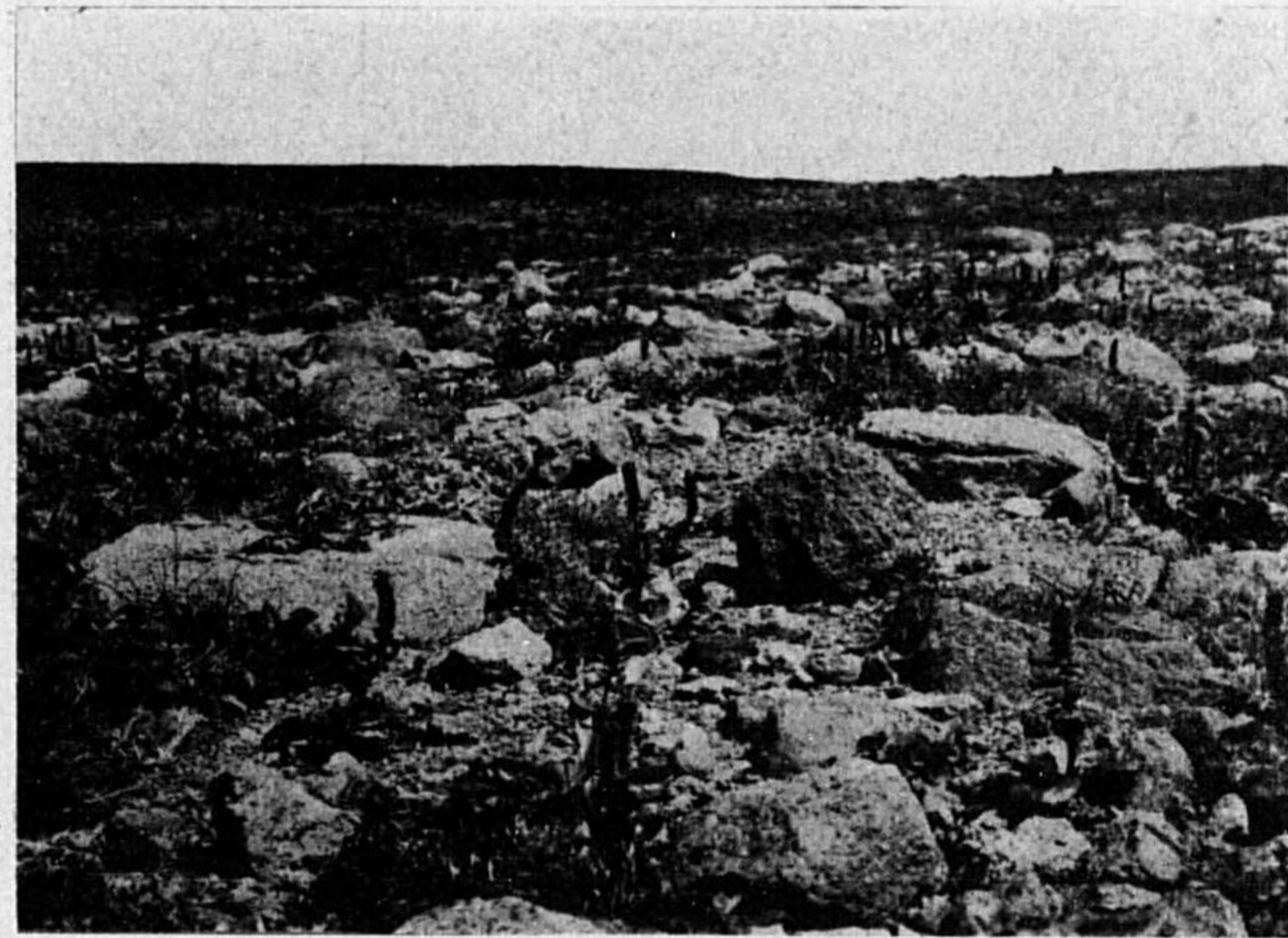


Pleuropteryrum ajanense on Mt. Koidzumidake.

第十七圖

小泉岳上ノちしまひめいはたで

版圖八第



Lagotis borealis on Mt. Koidzumidake.

第十五圖

小泉岳上ノほごばうるつぶさり

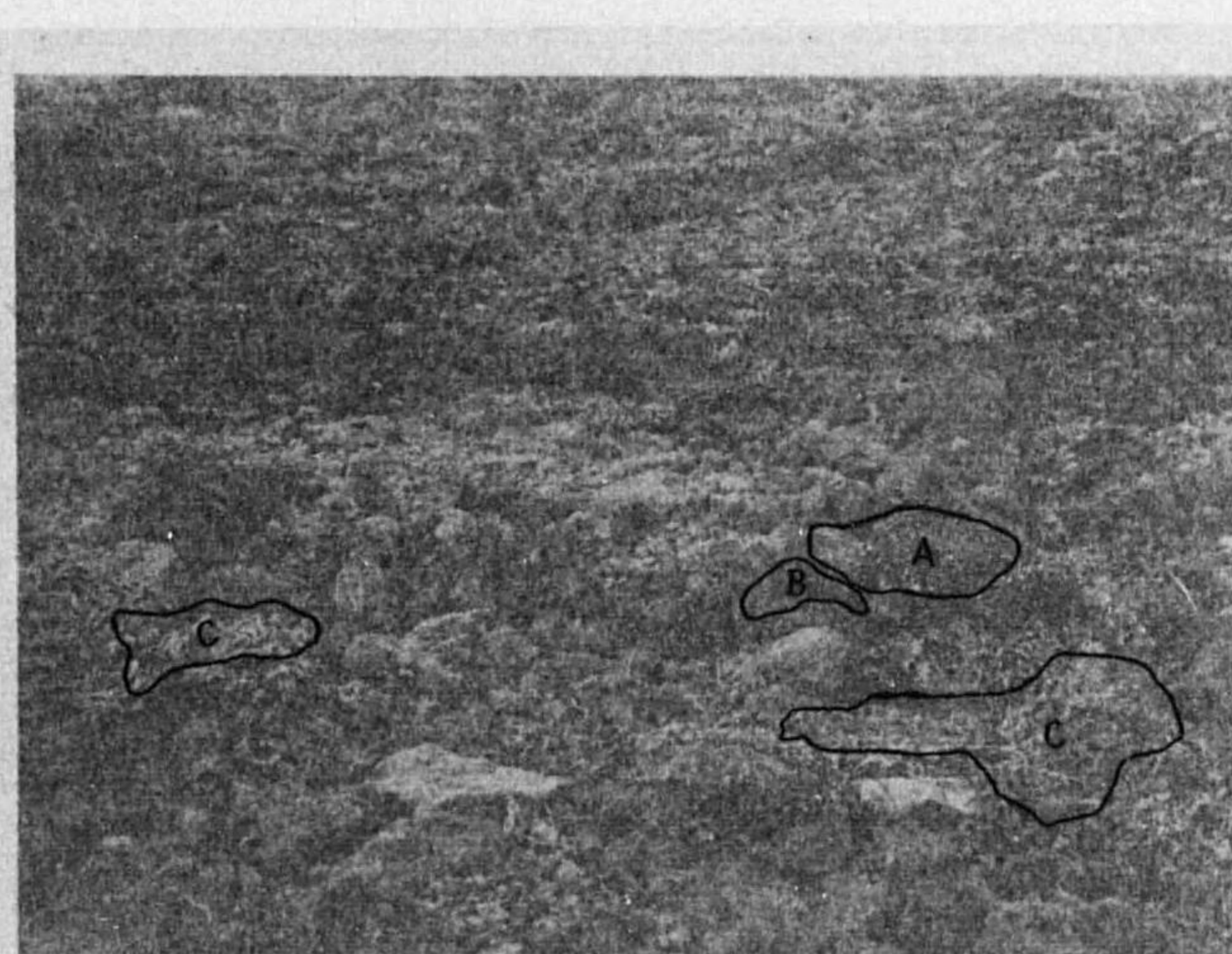


Macropodium pterospermum (A), and *Erigeron glabratus* (B) on the eastern slope of Mt. Koidzumidake.

第十八圖

小泉岳東斜面ノ一景

A はくせんなつな、B えぞあづまぎく。



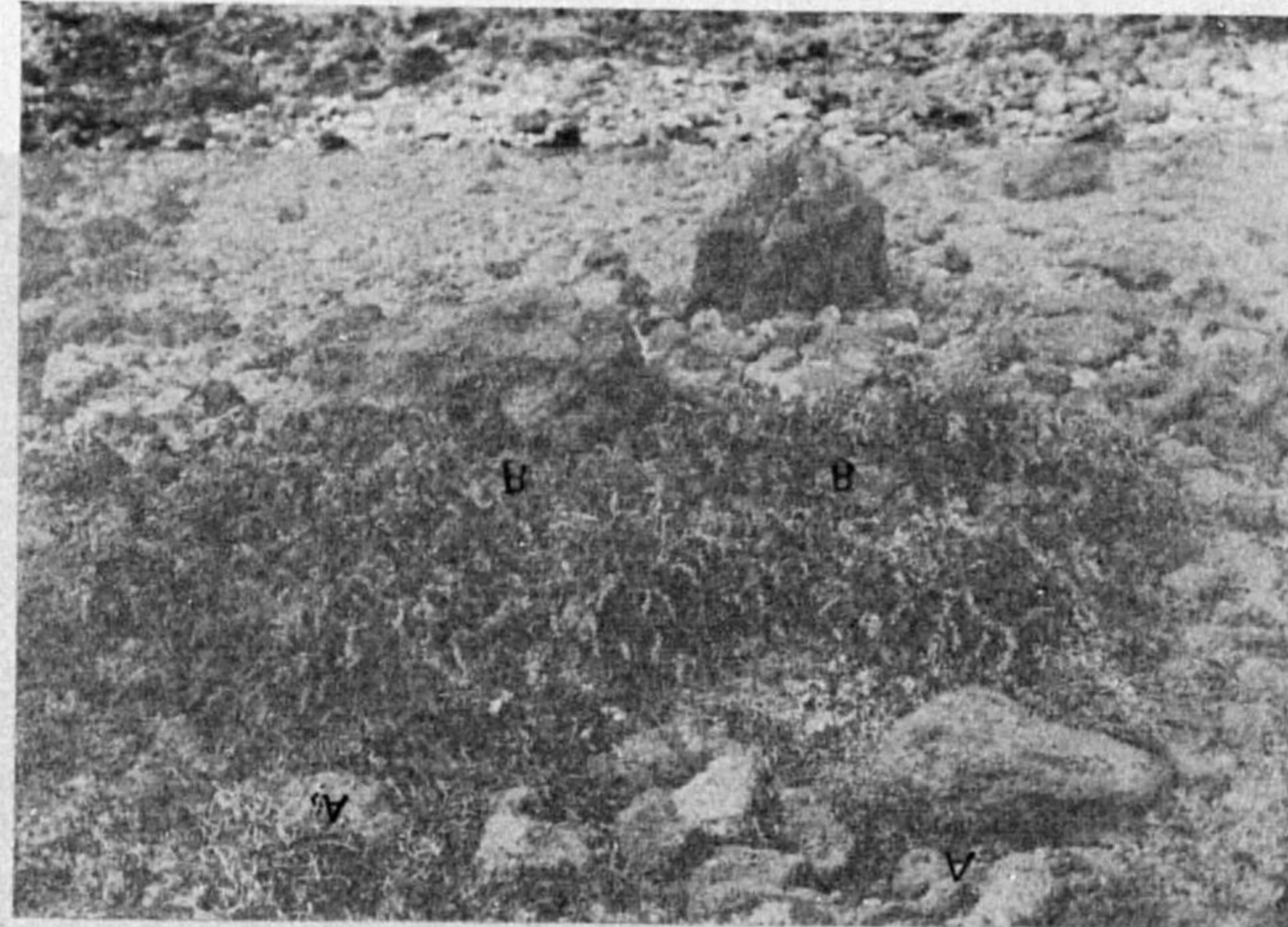
Minuartia arctica var. *minor* (A), *Minuartia subfalcata* (B), and *Saussurea Yanagisawae* var. *nivea* (C), on Mt. Koidzumidake.

第十六圖

小泉岳上ノ一景

A おほたかねつめくさ、B えぞみやまつめくさ、
O ゆきばたうひれん。

版圖九第



Pleuropteryrum ajanense on Mt. Koidzumidake.

第十七圖

小泉岳上ノちしまひめいはたで

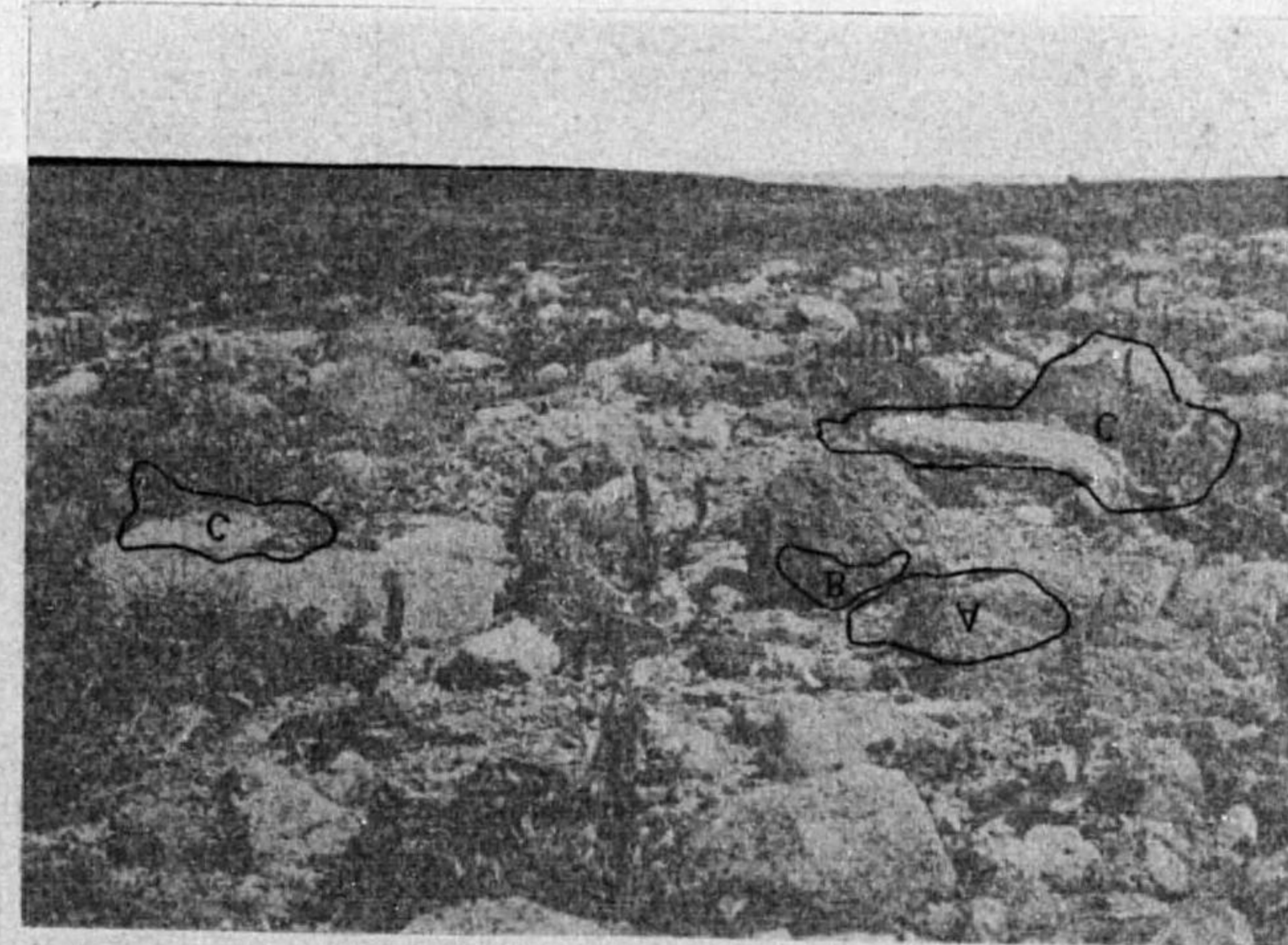


Macropodium pterospermum (A), and *Erigeron glabratus* (B) on the eastern slope of Mt. Koidzumidake.

第十八圖

小泉岳東斜面ノ一景
A はくせんなづな、B えぞあづまきく。

版圖八第



Lagotis borealis on Mt. Koidzumidake.

第十五圖

小泉岳上ノほこばうるつぶさう

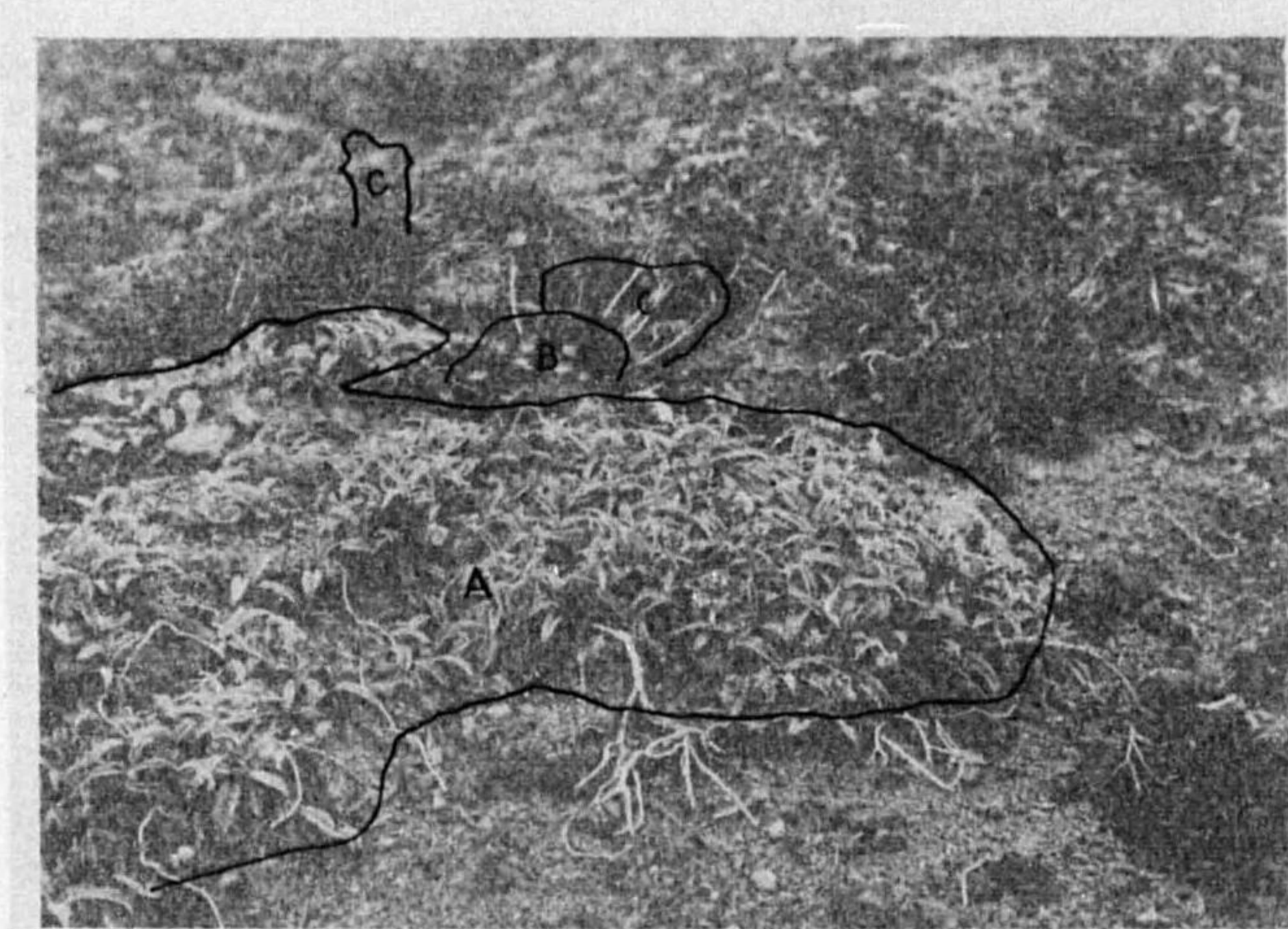


Minnartia arctica var. *minor* (A), *Minnartia subfalcata* (B), and *Saussurea Yanagisawae* var. *nivea* (C), on Mt. Koidzumidake.

第十六圖

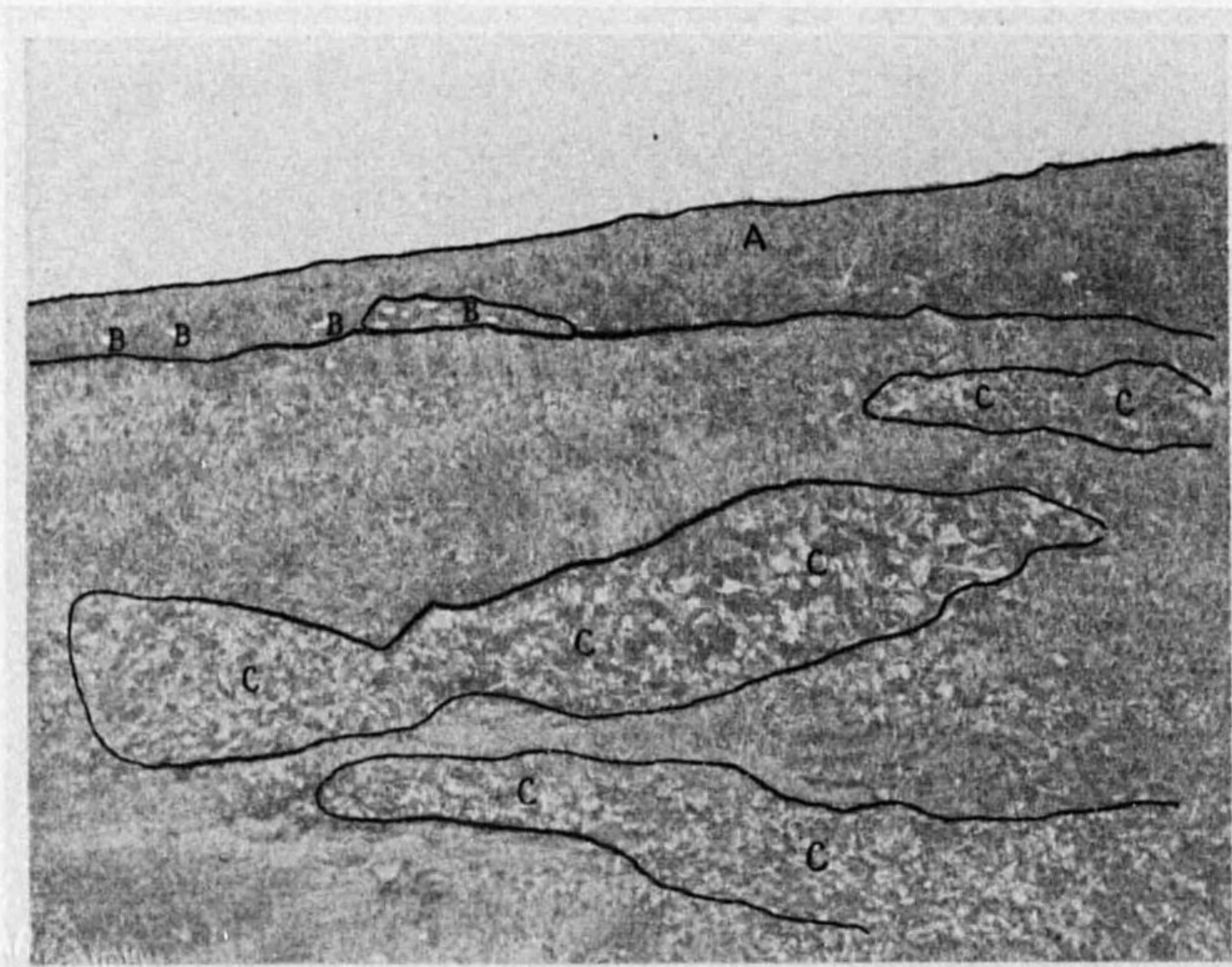
小泉岳上ノ一景
A おほたかねつめくさ、B えぞみやまつめくさ、
O ゆきばたうひれん。

版圖一十第



A. *Saussurea Yanagisawae* var. *nivea*; B. *Sieversia pentapetala*; C. *Anemone narcissiflora* var. *sachalinensis*.

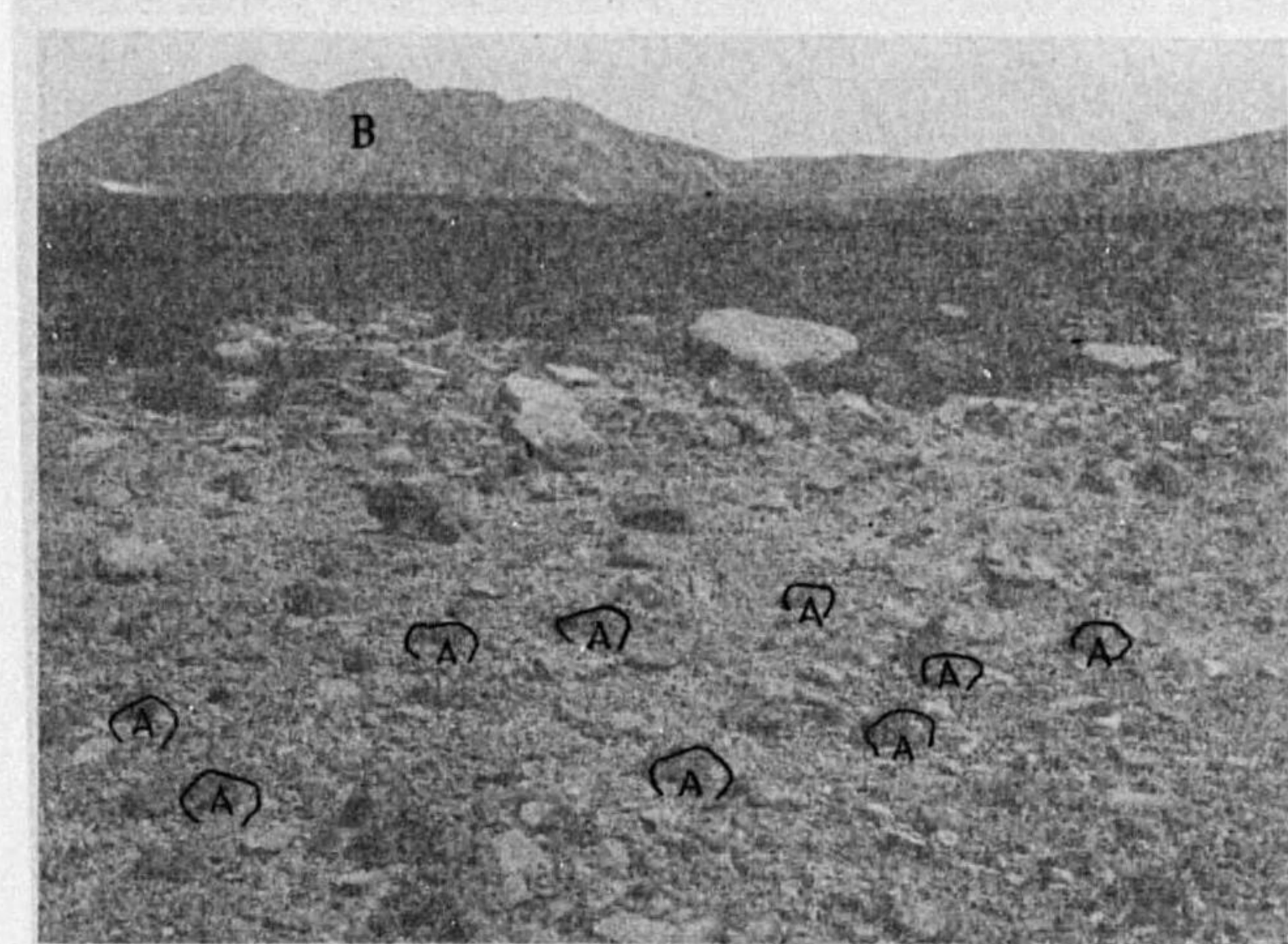
第二十一圖
A ゆきはたうひれん、B ちんぐるま、C えぞ
はくさんいちげ



A. *Pinus pumila*; B. *Pucedanum multivittatum*; C. *Rumex Gmelinii*.

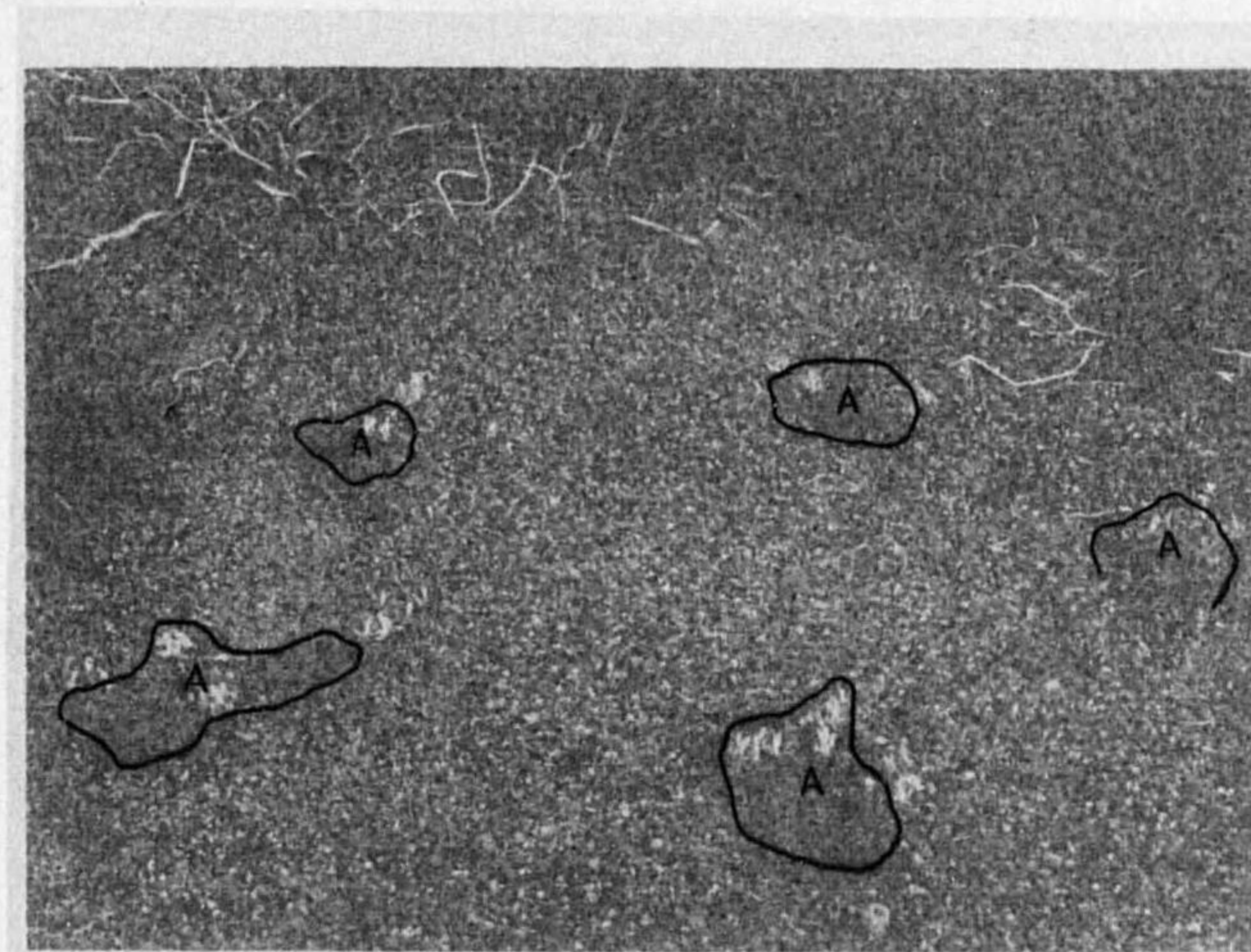
第二十二圖
平ヶ岳ノ濕地ノ一部
A はひまつ、B はくさんぼうふう、C まるばきしきし。

版圖十第



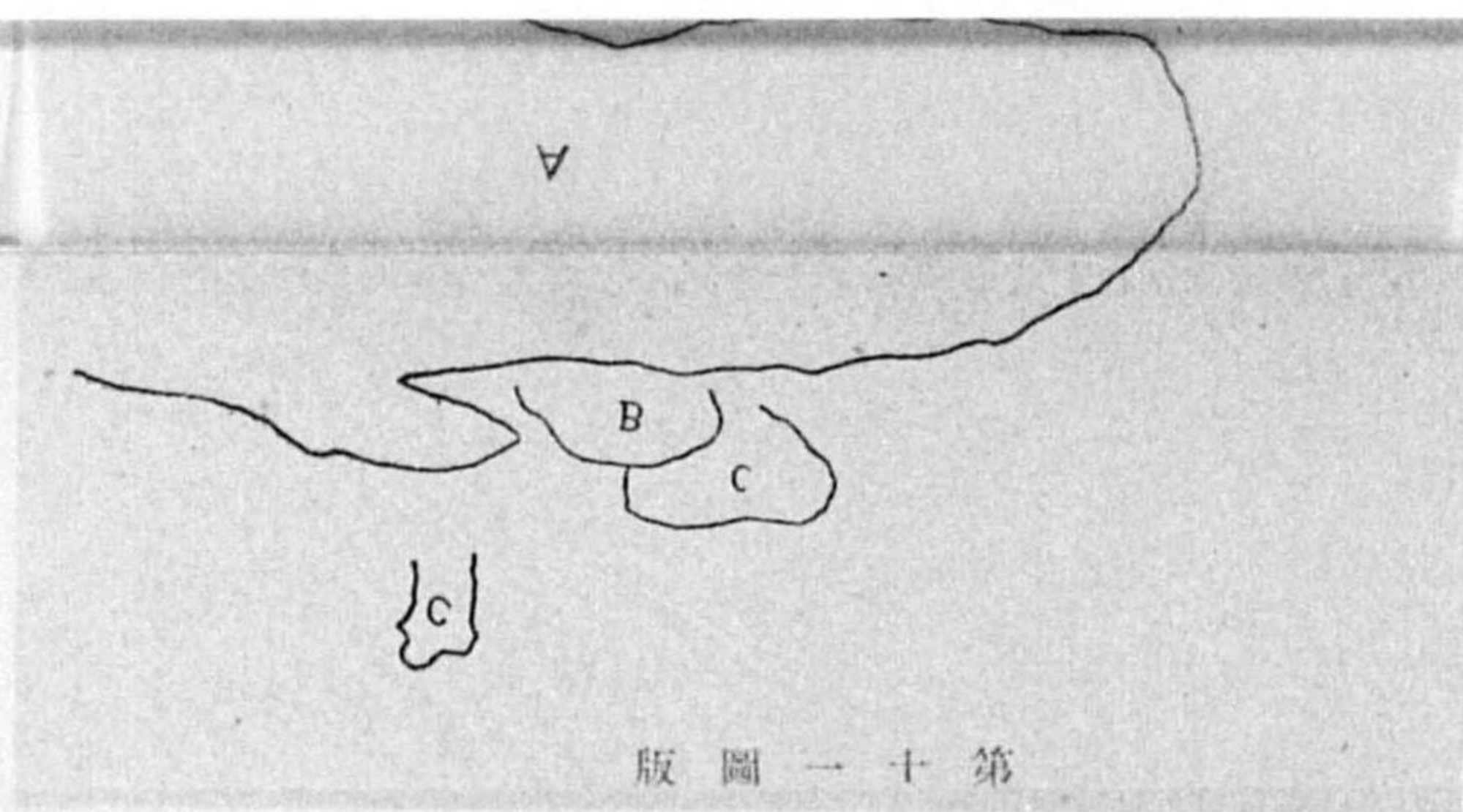
Dicentra pusilla at Takanegahara.

第十九圖
高根ヶ原ノこまくさ A、B 八白雲岳



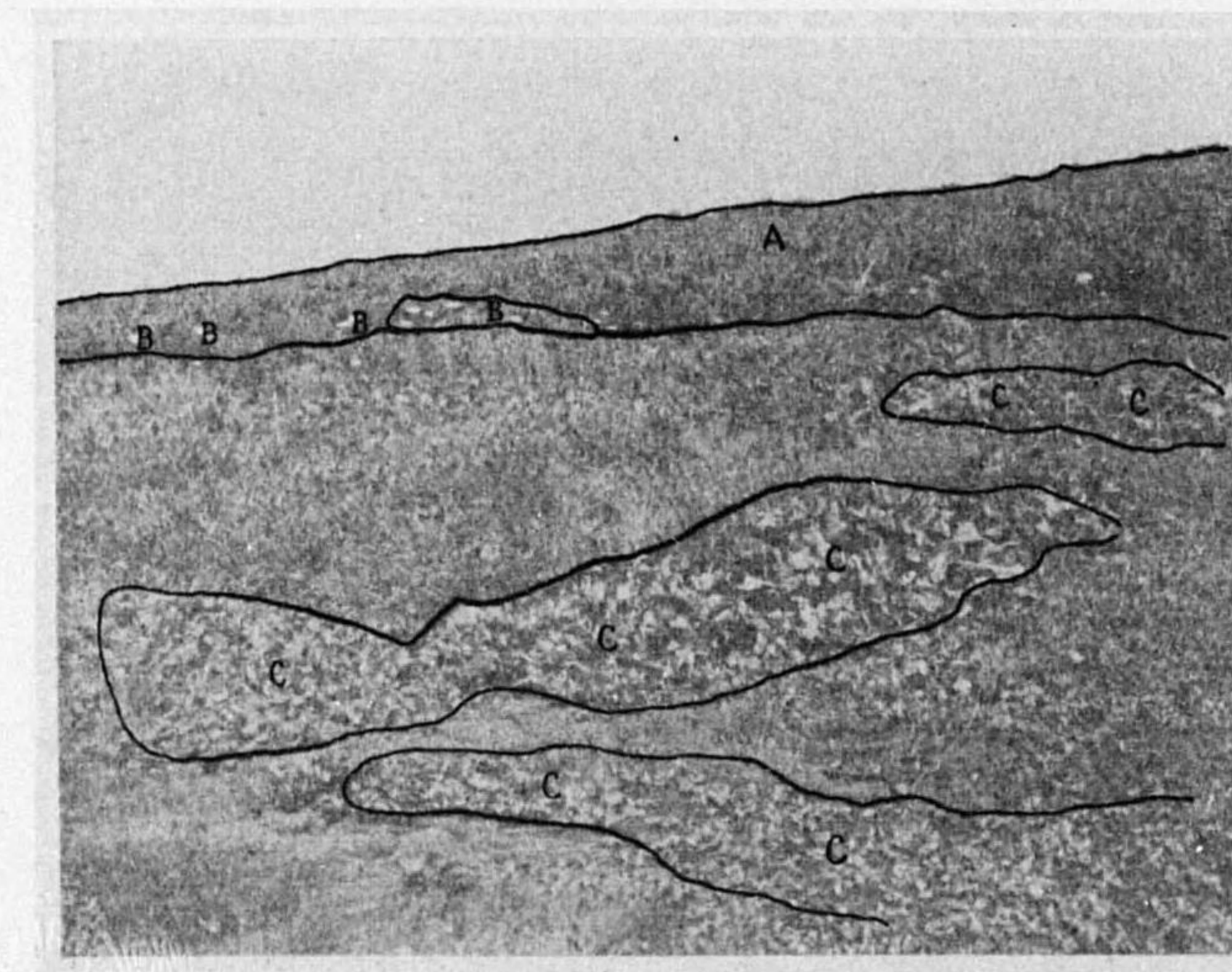
Dicentra pusilla on the eastern slope of Mt. Koidzumidake.

第二十圖
小泉岳東斜面ノこまくさ A



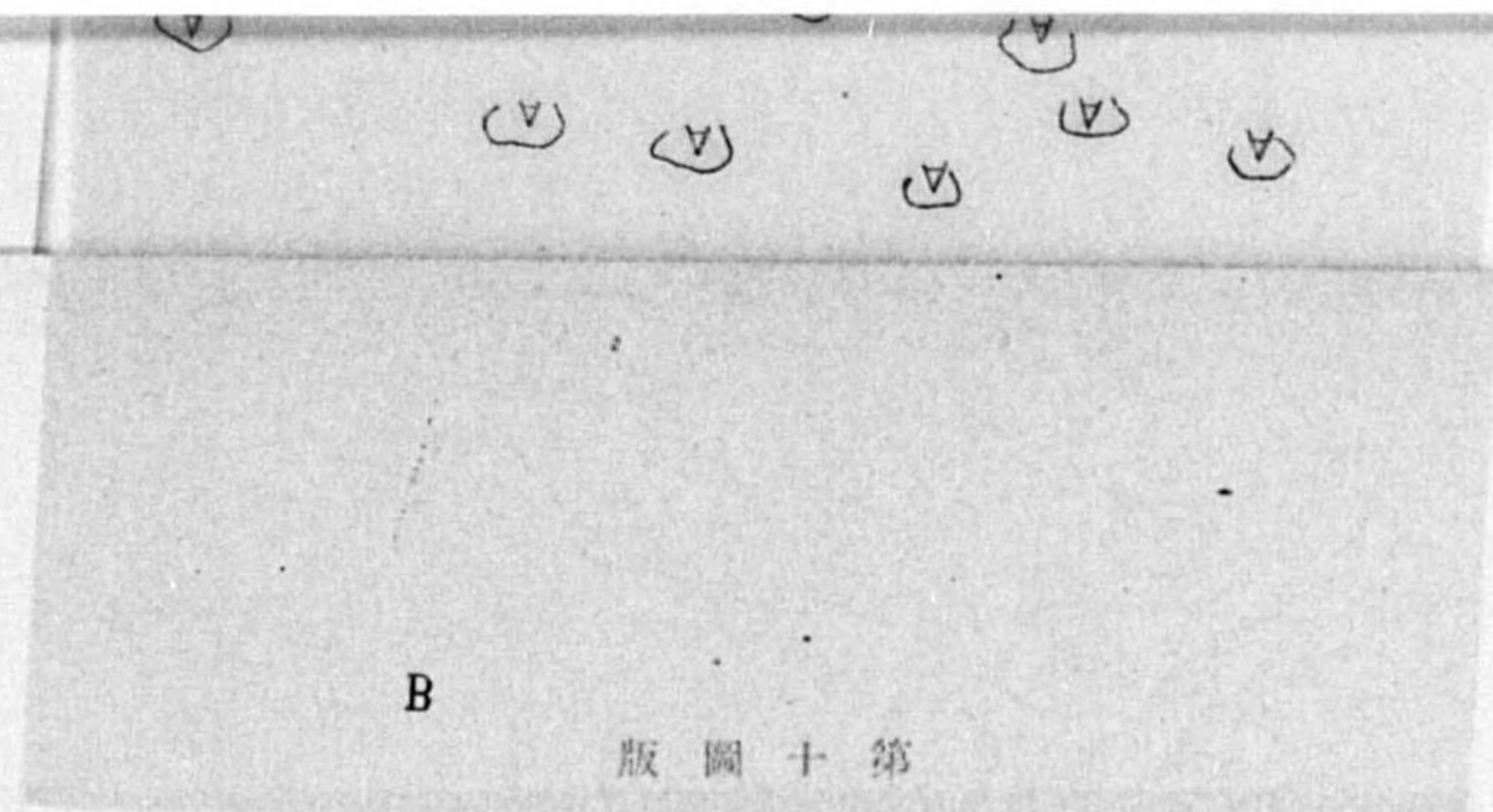
A. *Saussurea Yanagisawae* var. *nivea*; B. *Sieversia pentapetala*; C. *Anemone narcissiflora* var. *sachalinensis*.

第二十一圖
A ゆきはたうひれん、B ちんぐるま、C えぞ
はくさんいちげ



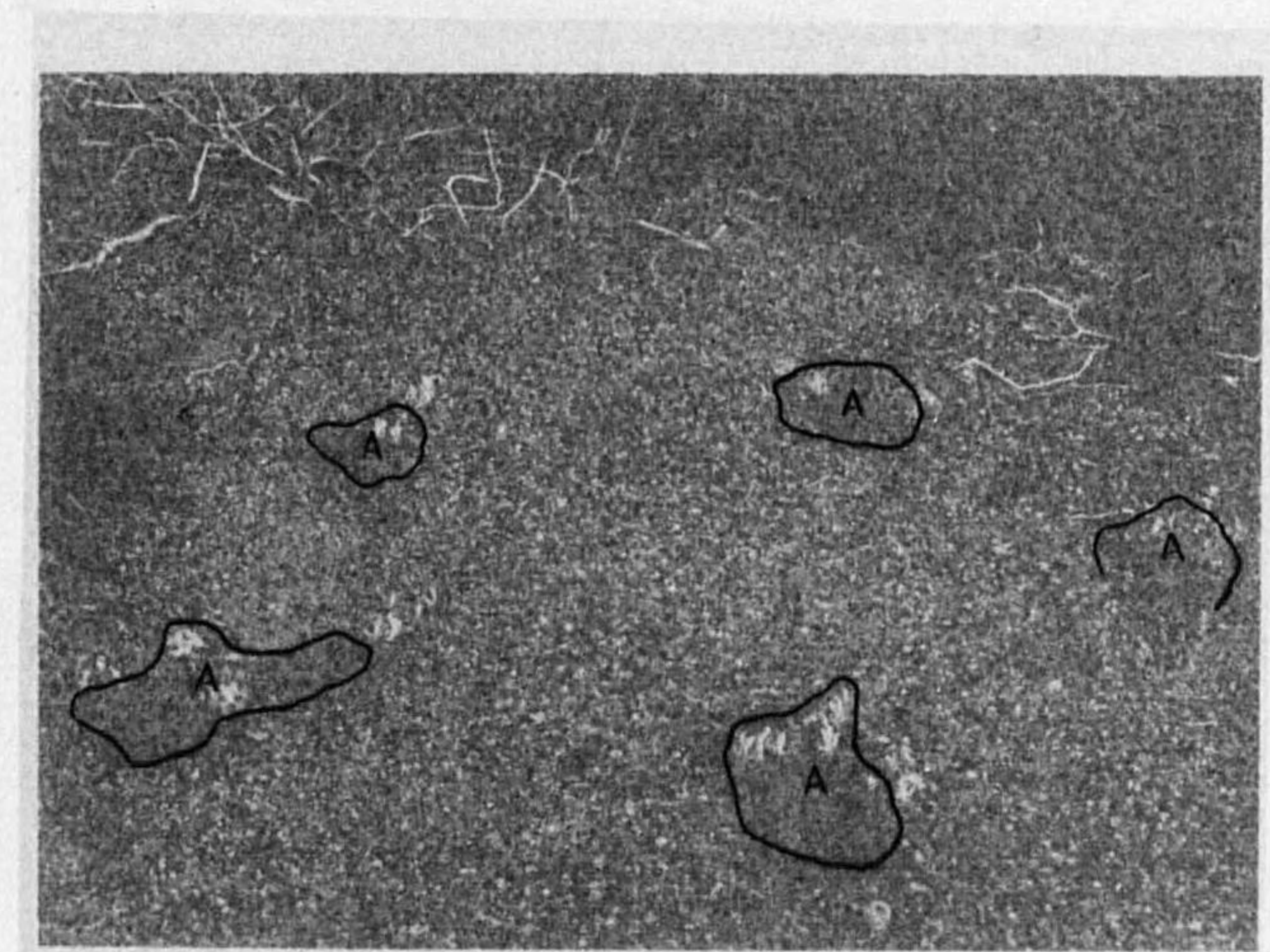
A. *Pinus pumila*; B. *Peucedanum multivittatum*; C. *Rumex Gmelinii*.

第二十二圖
平ヶ岳ノ濕地ノ一部
A はひまつ、B はくさんばうふう、C まるばきしきし。



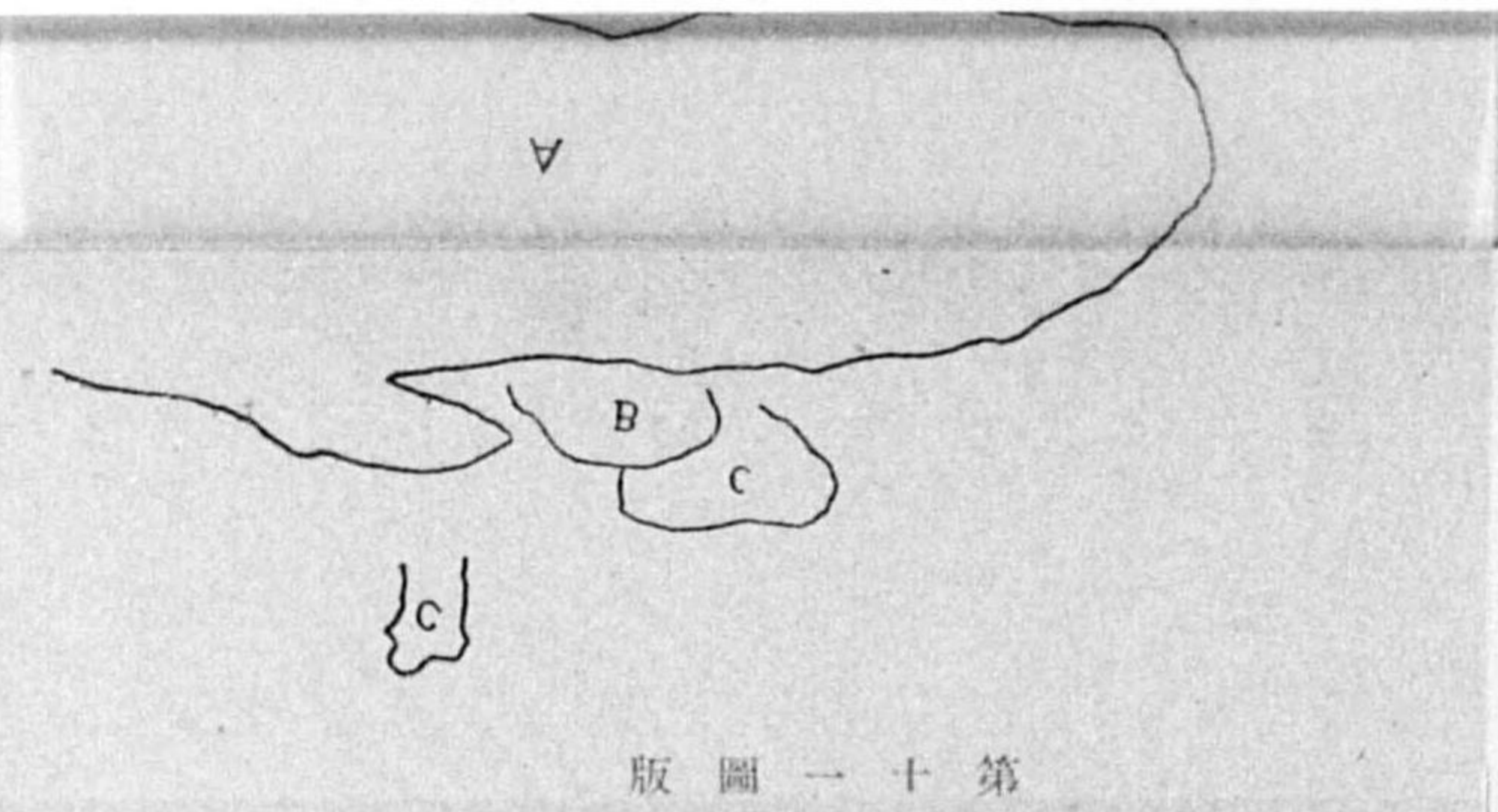
Dicentra pusilla at Takanegahara.

第十九圖
高根ヶ原ノこまくさ A、B 八白雲岳

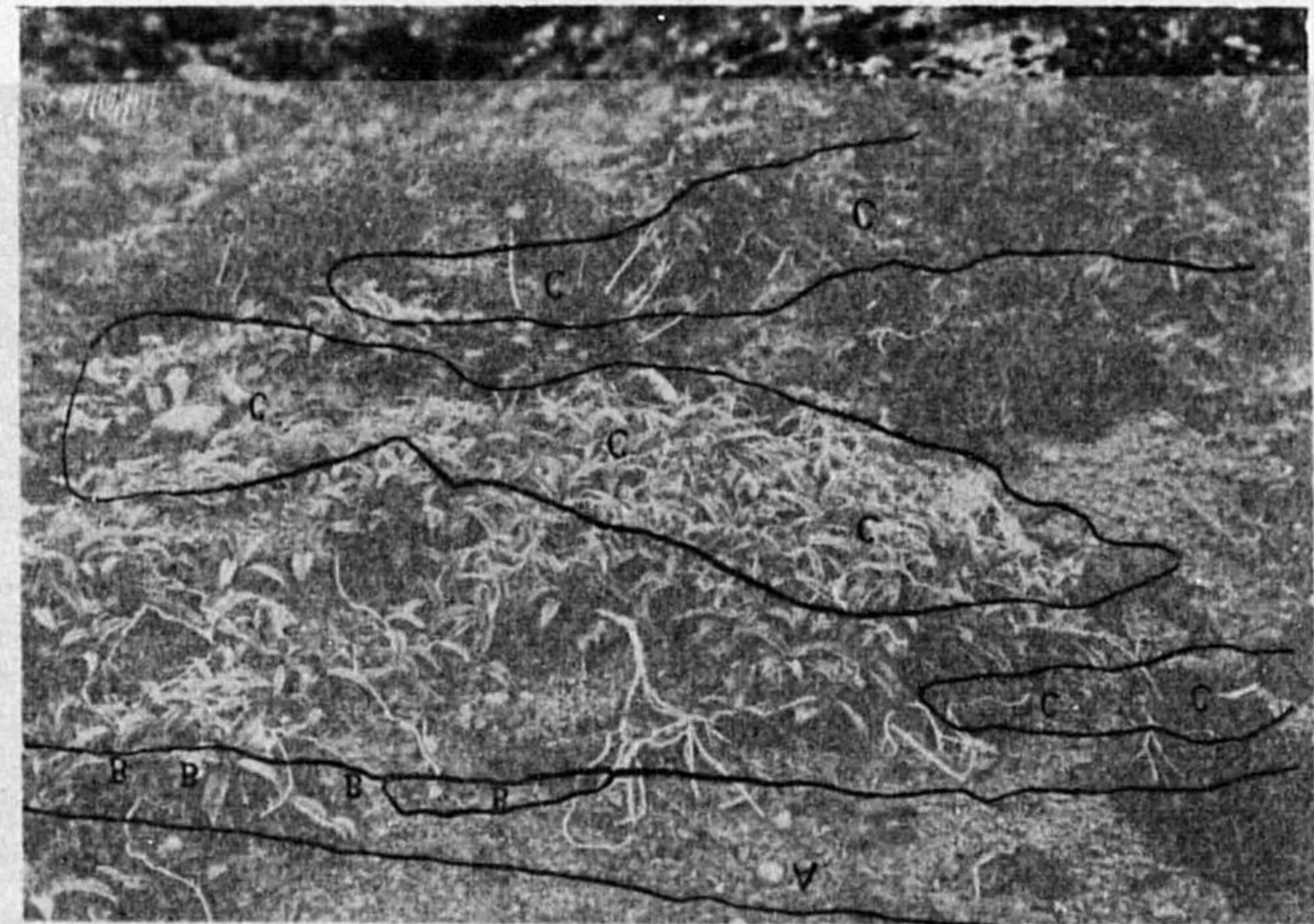


Dicentra pusilla on the eastern slope of Mt. Koidzumidake.

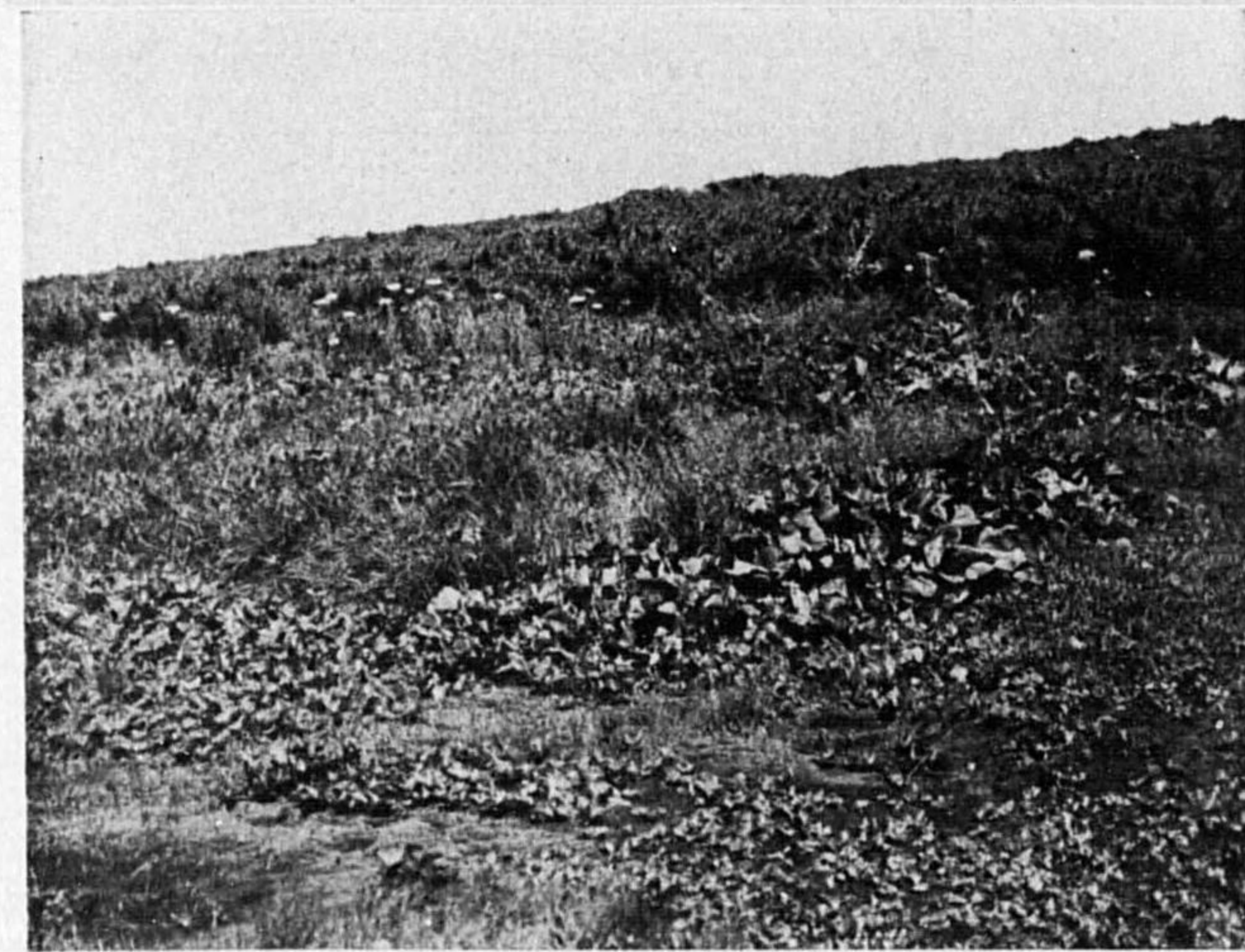
第二十圖
小泉岳東斜面ノこまくさ A



版圖一十第



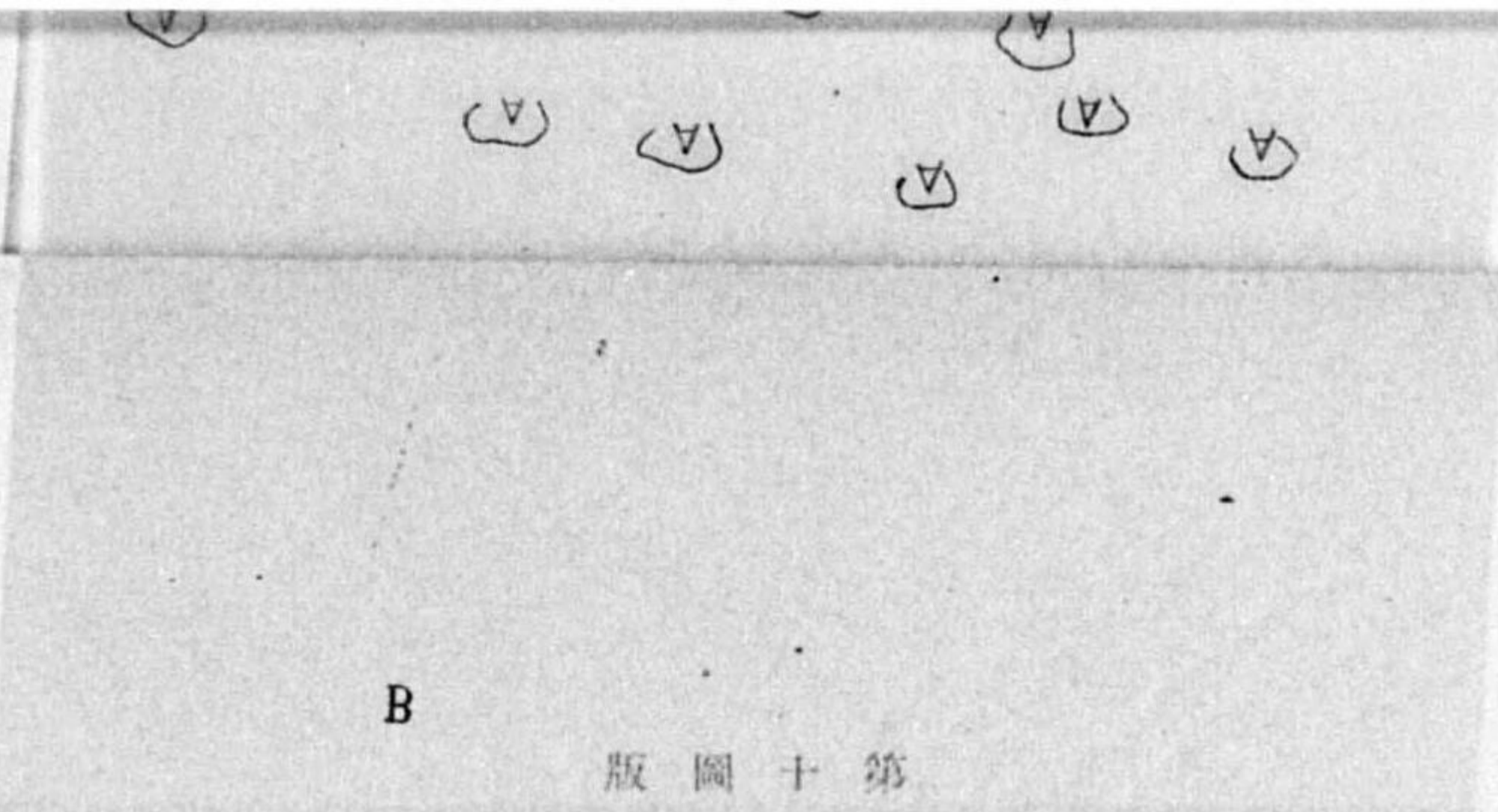
A. *Saussurea Yanagisawae* var. *nivea*; B. *Sieversia pentapetala*; C. *Anemone narcissiflora* var. *sachalinensis*.



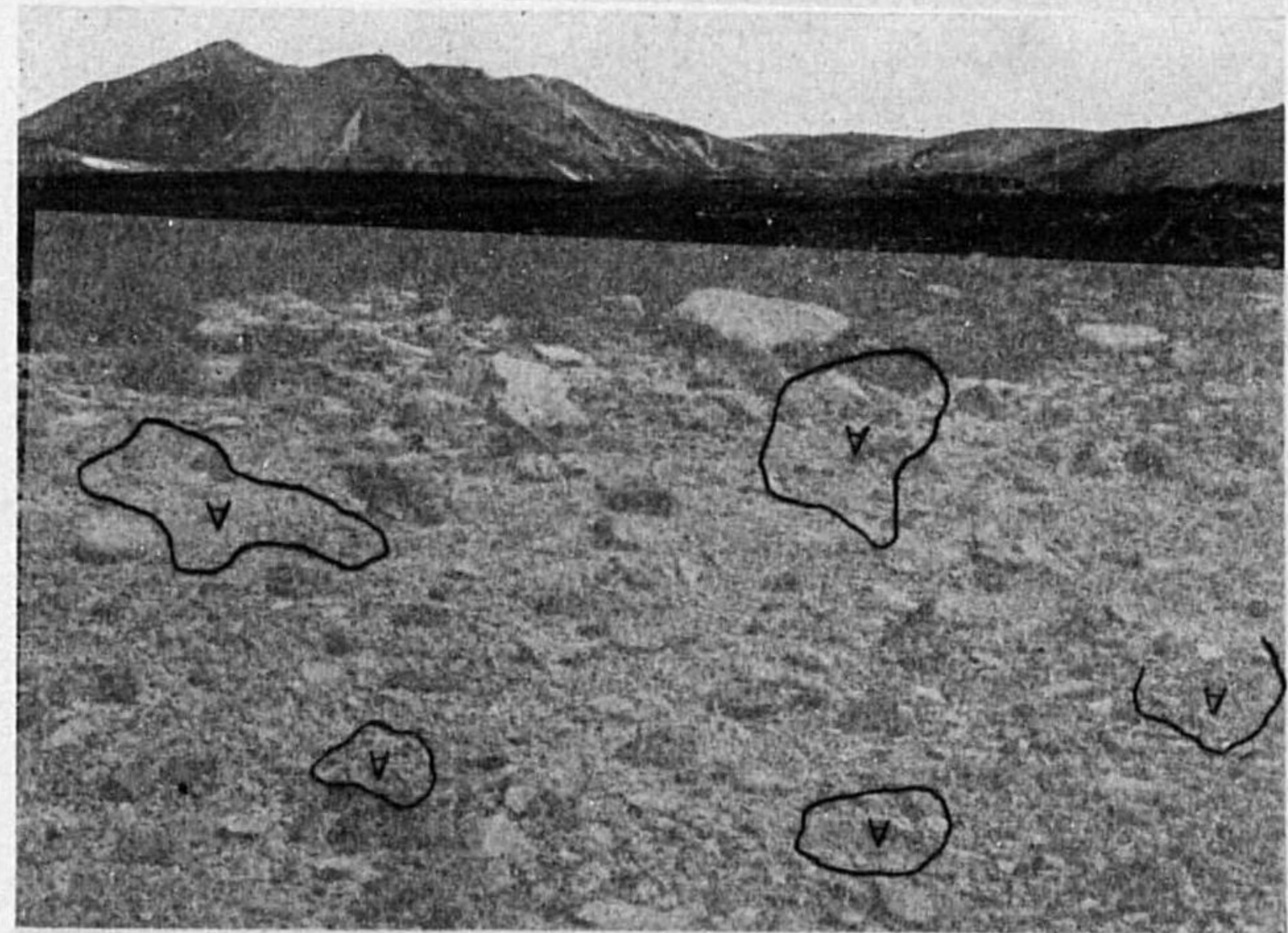
A. *Pinus pumila*; B. *Peucedanum multivittatum*; C. *Rumex Gmelinii*.

第二十一圖
A ゆきばたうひれん、B ちんぐるま、C えぞ
はくさんいちげ

第二十二圖
平ヶ岳ノ湿地ノ一部
A はひまつ、B はくさんばうふう、C まるばぎしぎし。



版圖十第



Dicentra pusilla at Takanegahara.

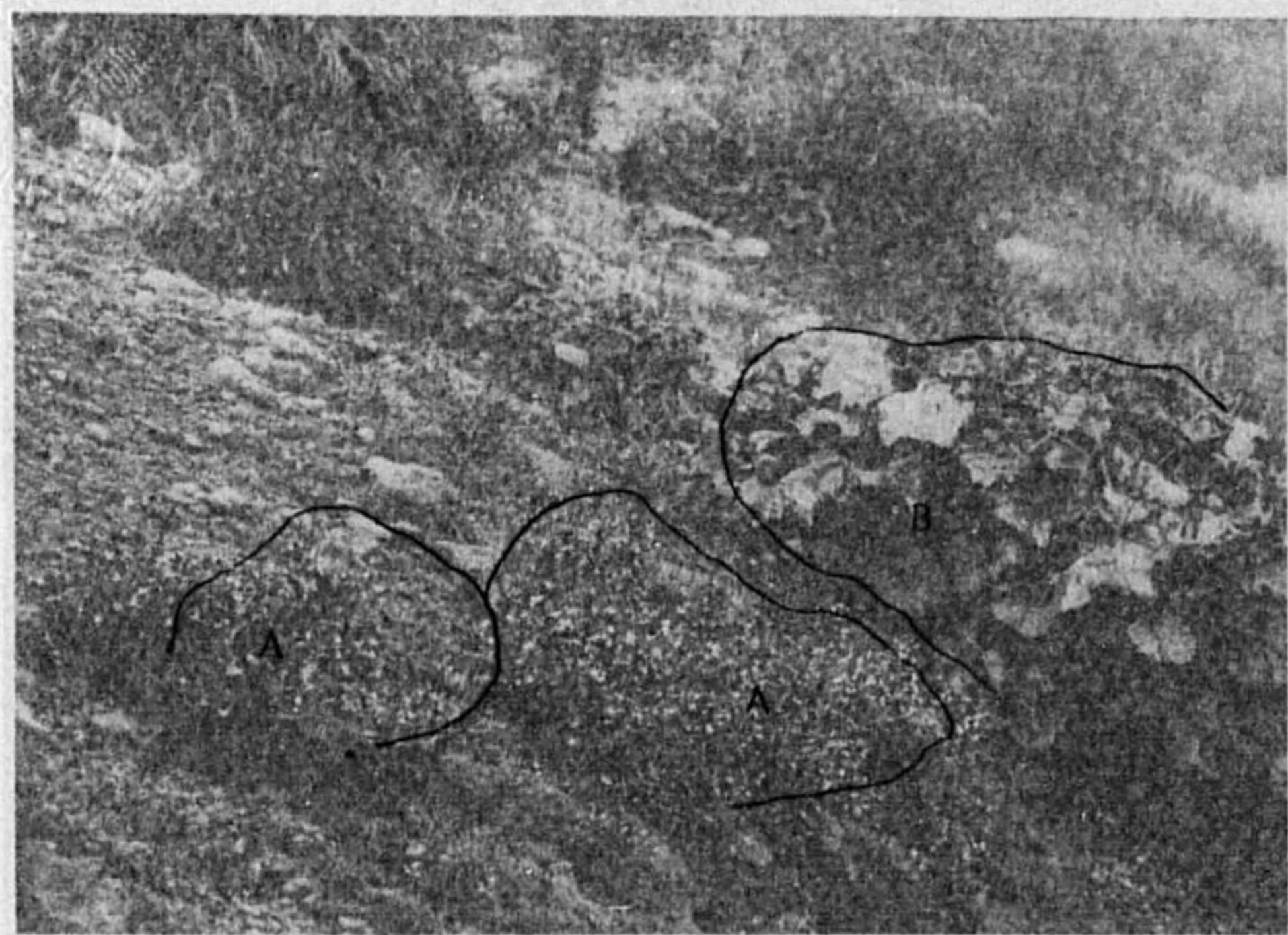


Dicentra pusilla on the eastern slope of Mt. Koidzumidake.

第十九圖
高根ヶ原ノこまくさ A、B 八白雲岳

第二十圖
小泉岳東斜面ノこまくさ A

版圖三十第



A. *Epilobium Makinoense*. B. *Caltha palustris*.

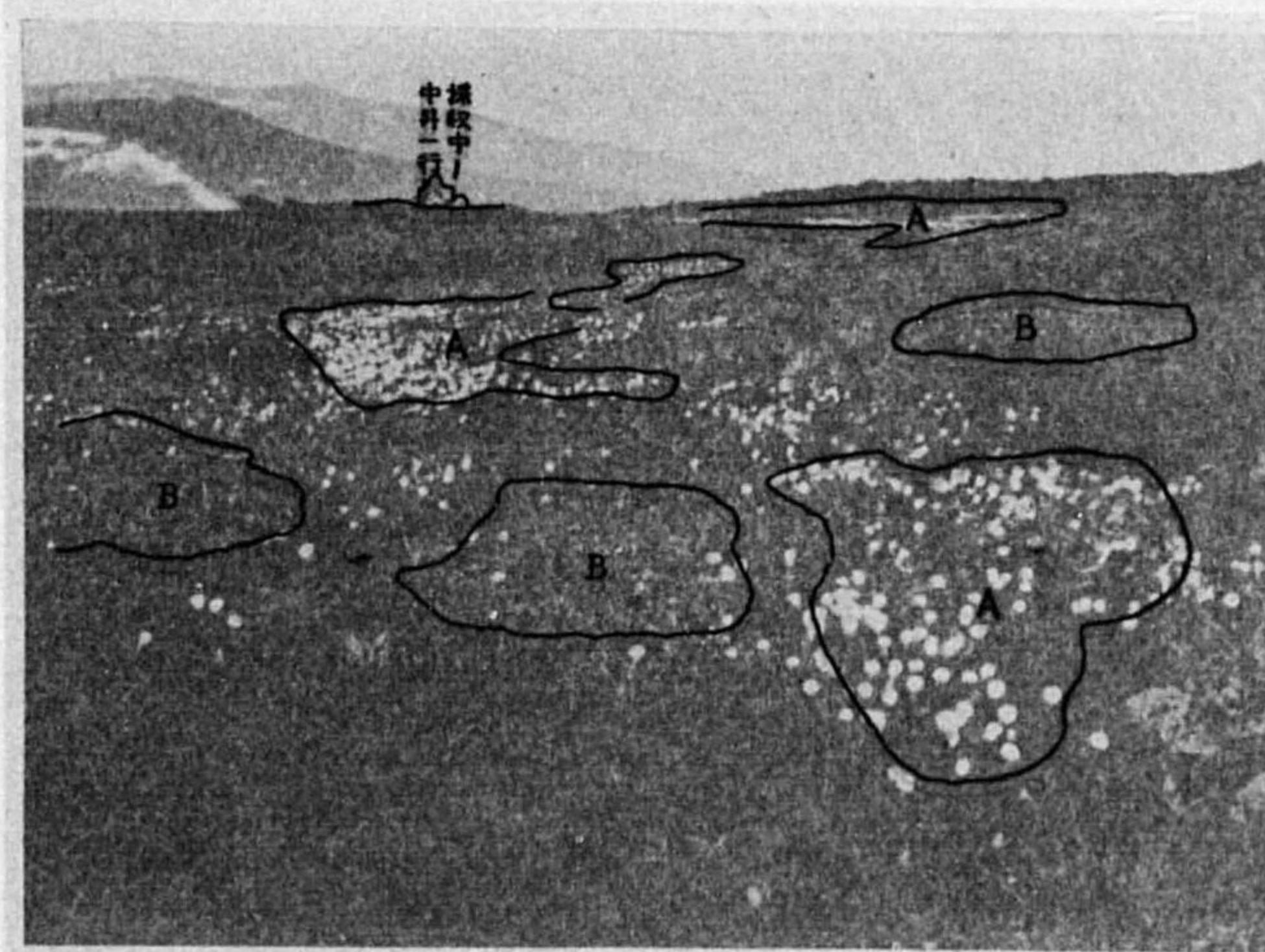
第二十五圖
忠別岳、前岳間ノ澤ニえぞみやまあかばなA、ト
りうきんくわBノ生ズルヲ示ス



Big association of *Saxifraga laciniata* and *Saxifraga Merckii* var. *robusta*.

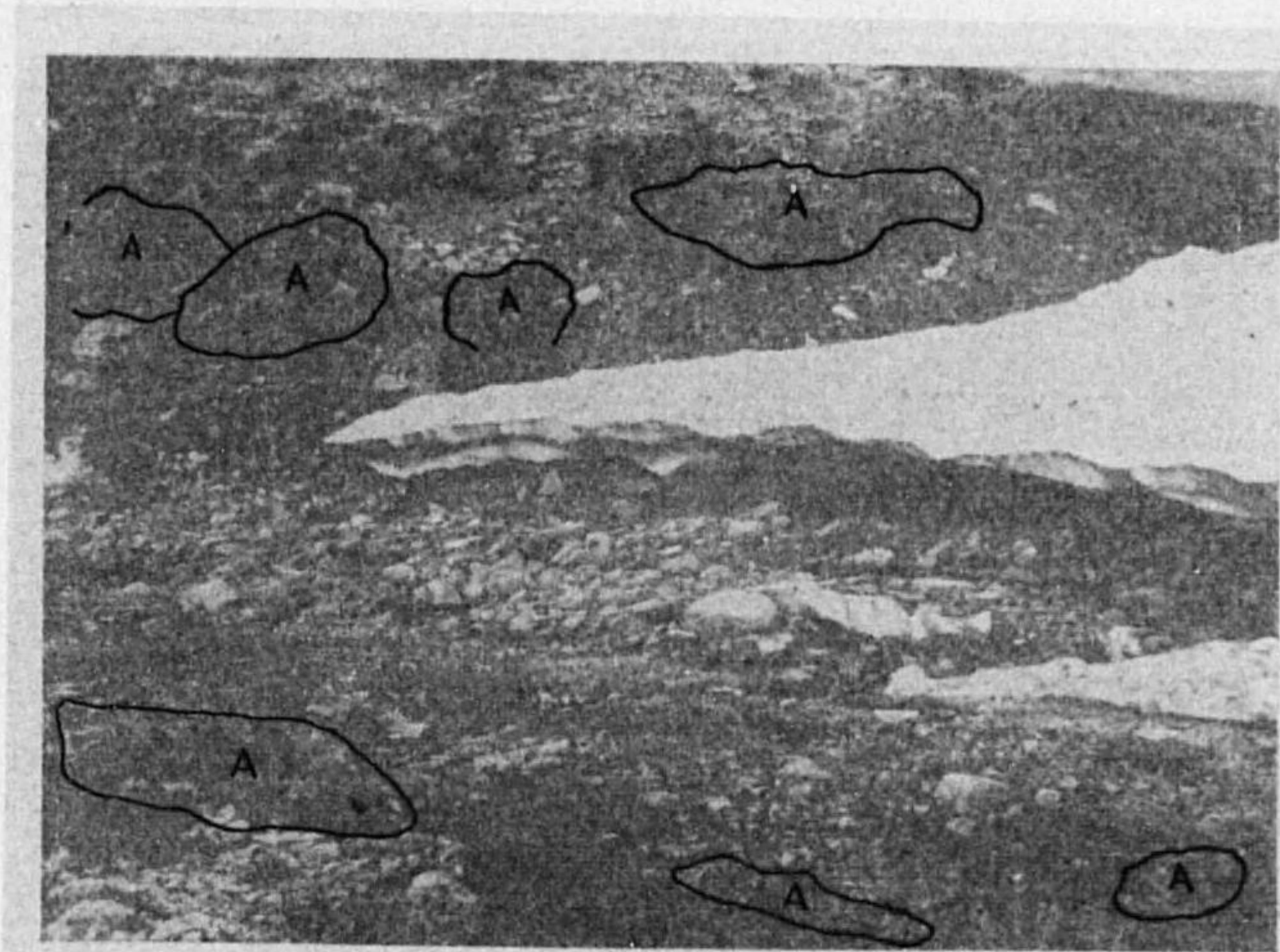
第二十六圖
忠別岳、前岳間ノ澤ニくもまゆきのしたトちしま
くもまぐさノ大群落ヲナス状

版圖二十第



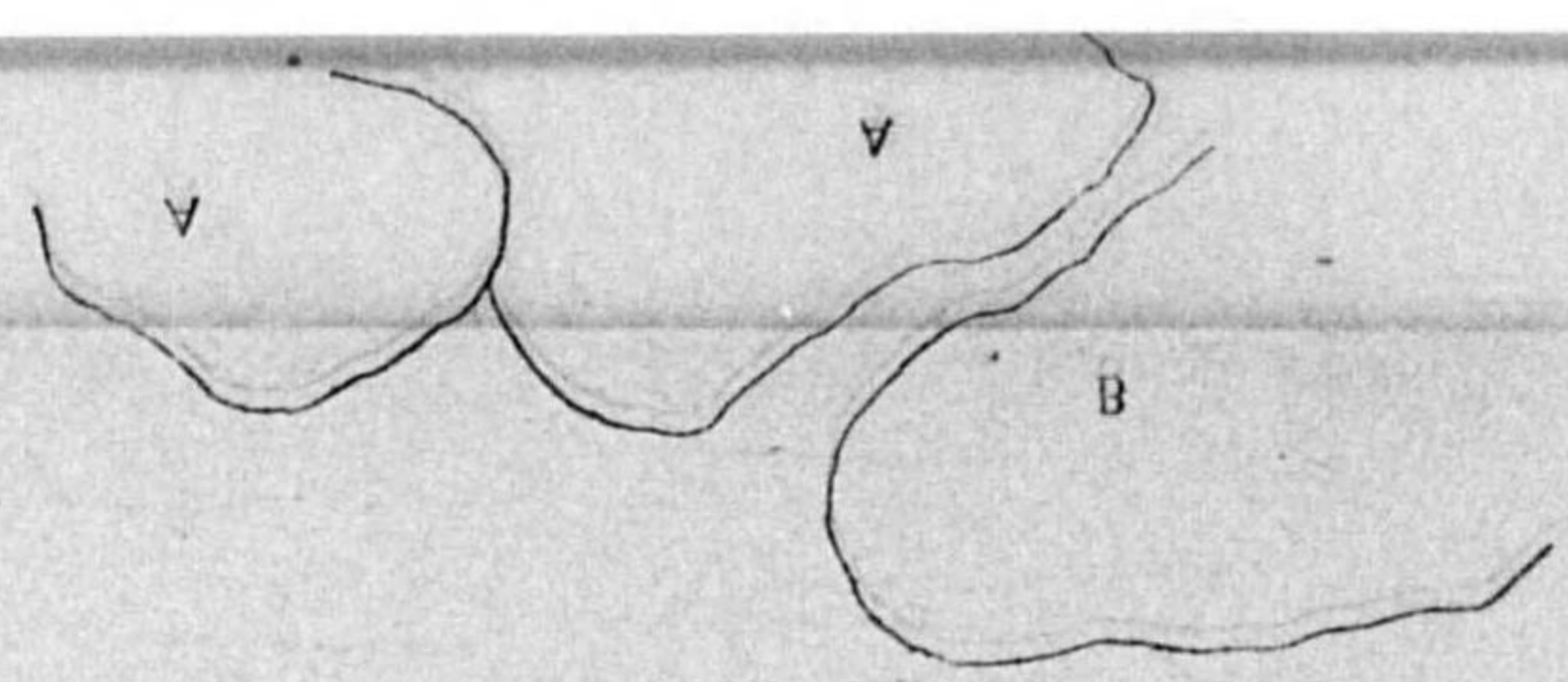
A swamp on Mt. Hiragatake, where *Eriophorum vaginatum* (A), and *Salix paludicola* (B), are growing.

第二十三圖
平ヶ岳ノ濕地ノ一景
A わたすげ、B みやまやちやなき。



Caltha palustris (A.A.) near the melting snow-heap.

第二十四圖
りうきんくわ(A.A.)



版圖三十第



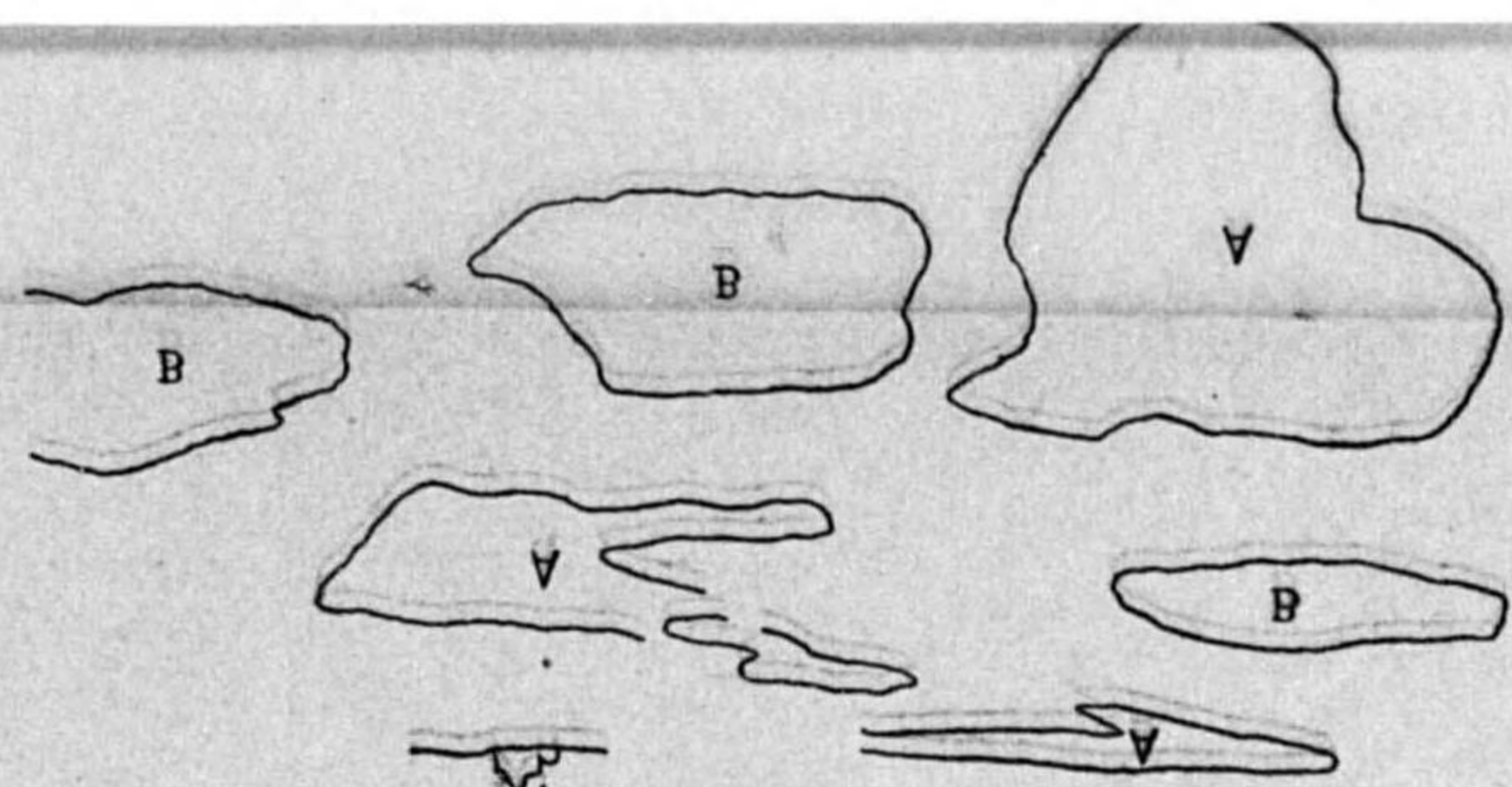
A. *Epilobium Makinoense*. B. *Caltha palustris*.

第二十五圖
忠別岳、前岳間ノ澤ニえぞみやまあかばな A、
りうきんくわ B ノ生ズルヲ示ス



Big association of *Saxifraga laciniata* and *Saxifraga Merekkii* var. *robusta*.

第二十六圖
忠別岳、前岳間ノ澤ニくもまゆきのしたたちしま
くもまぐさノ大群落ヲナス状

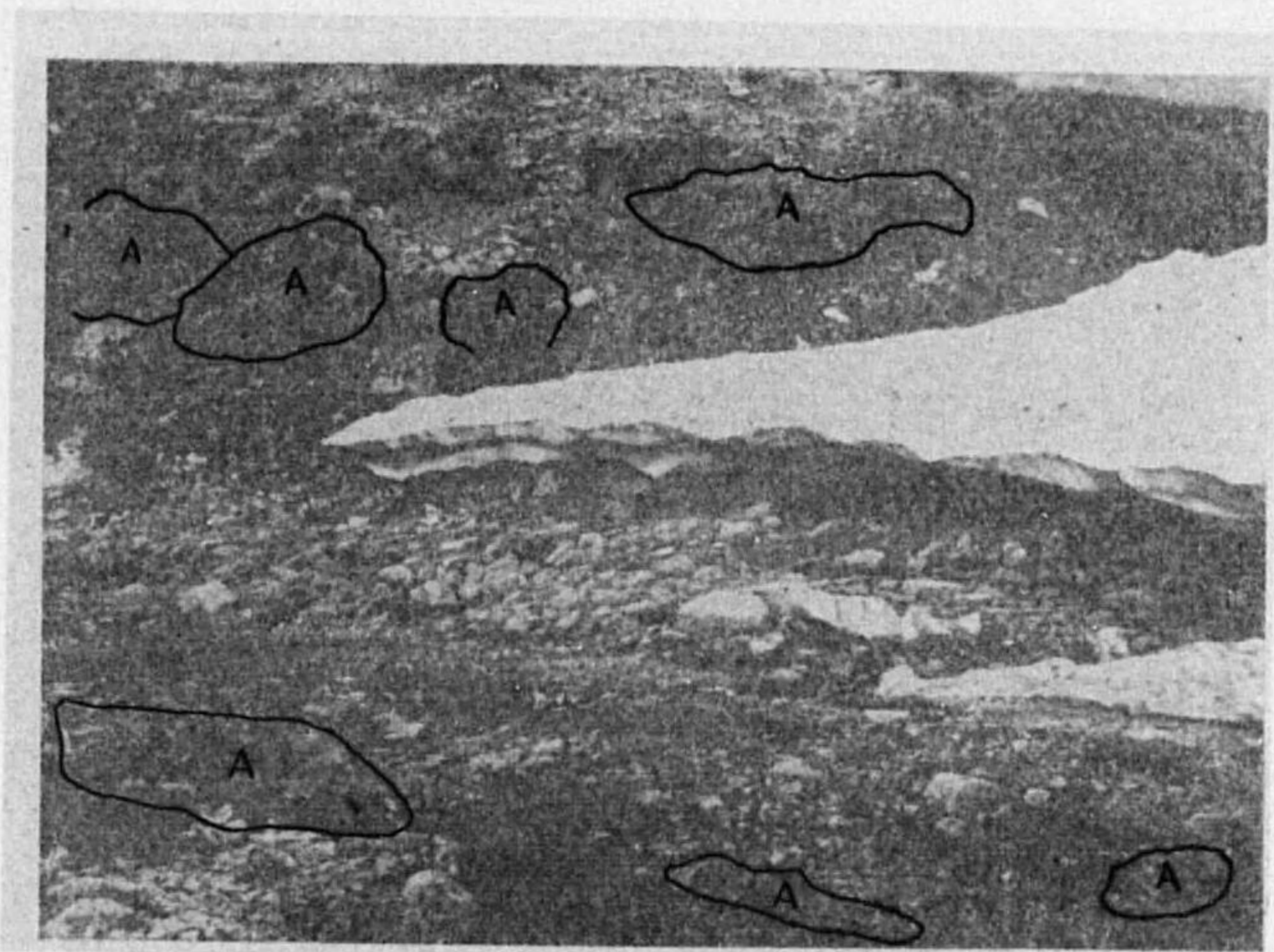


版圖二十第



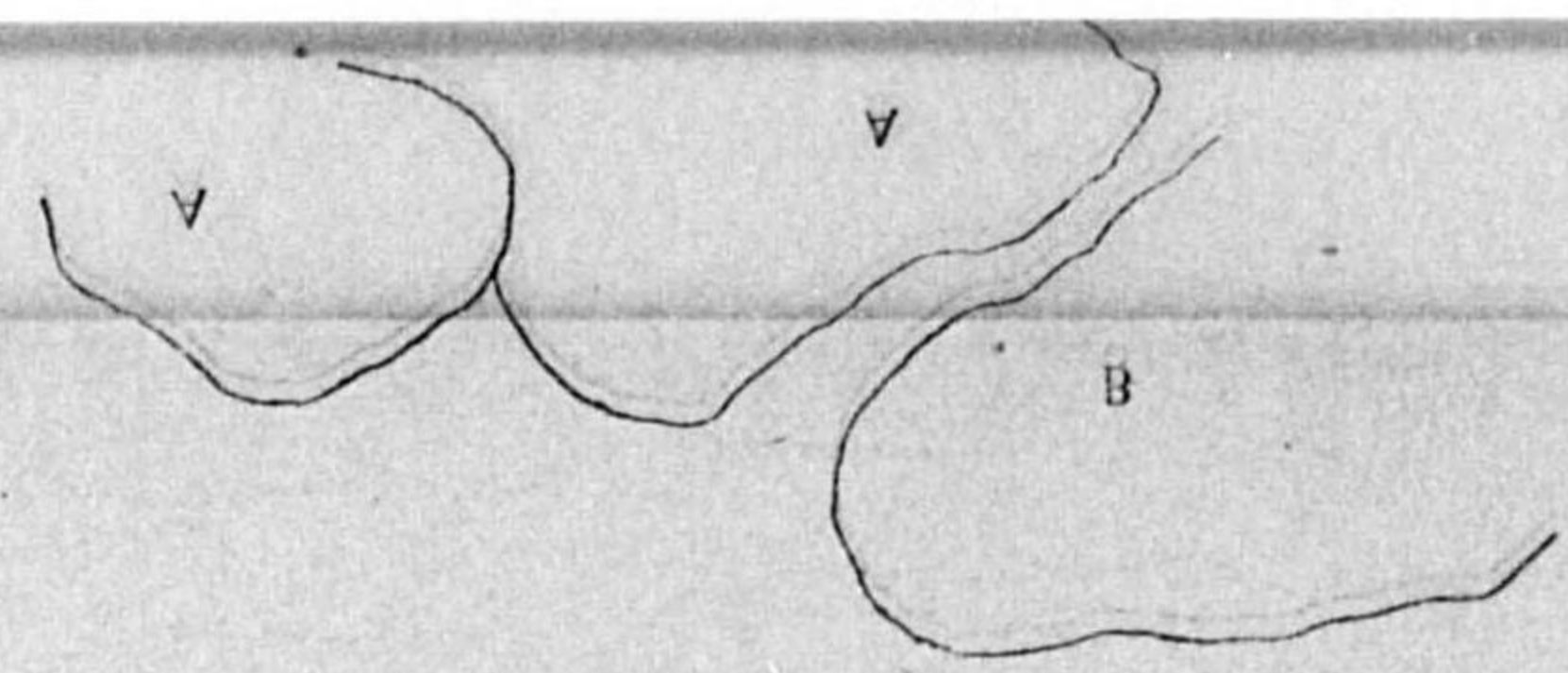
A swamp on Mt. Hiragatake, where *Eriophorum vaginatum* (A), and *Salix paludicola* (B), are growing.

第二十三圖
平ヶ岳ノ濕地ノ一景
A わたすげ、B みやまやちやなき。



Caltha palustris (A.A.) near the melting snow-heap.

第二十四圖
りうきんくわ (A.A.)



版圖三十第



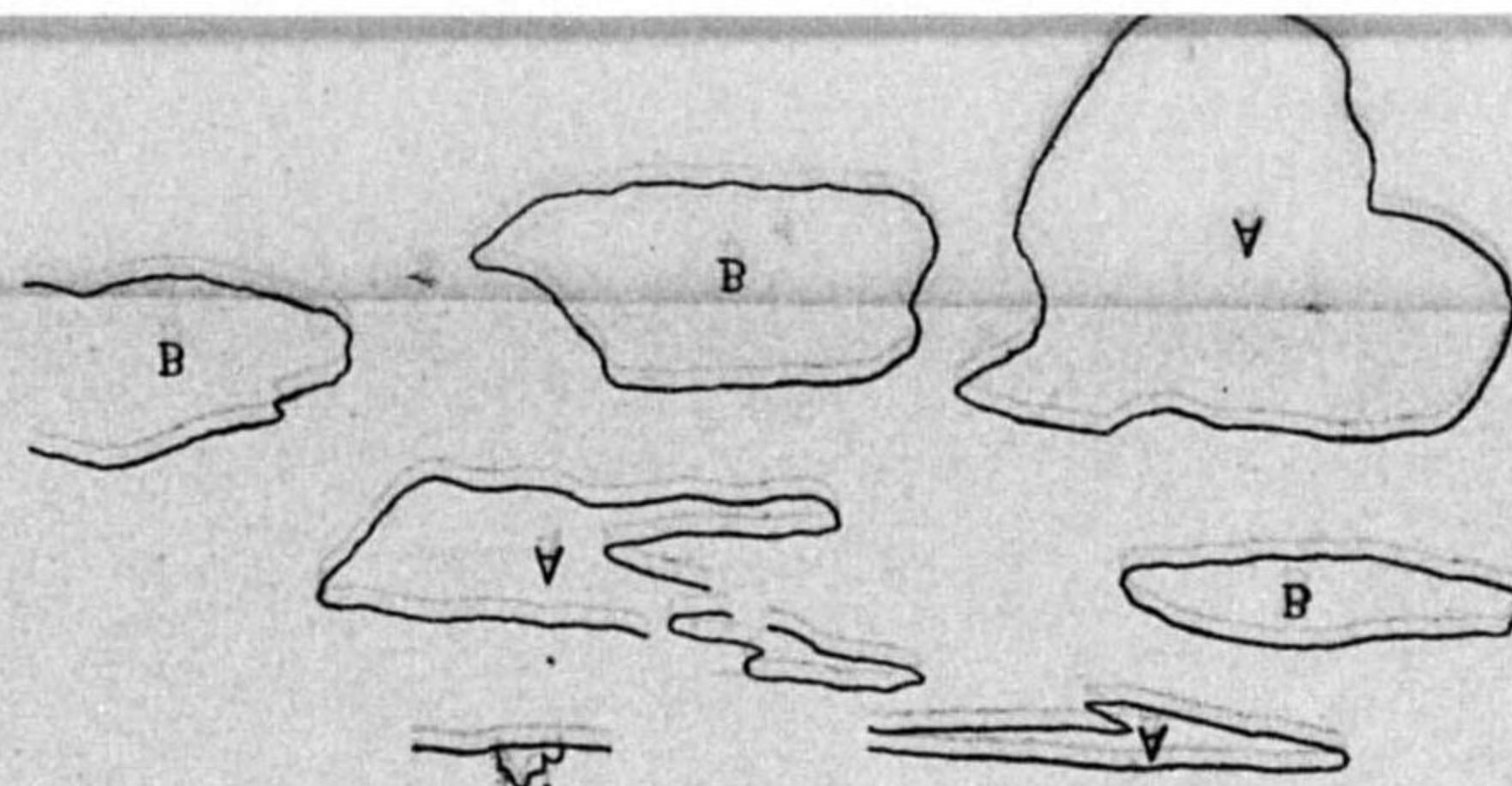
A. *Epilobium Makinoense*. B. *Caltha palustris*.

第二十五圖
忠別岳、前岳間ノ澤ニえぞみやまあかばなA、ト
りうきんくわBノ生ズルヲ示ス

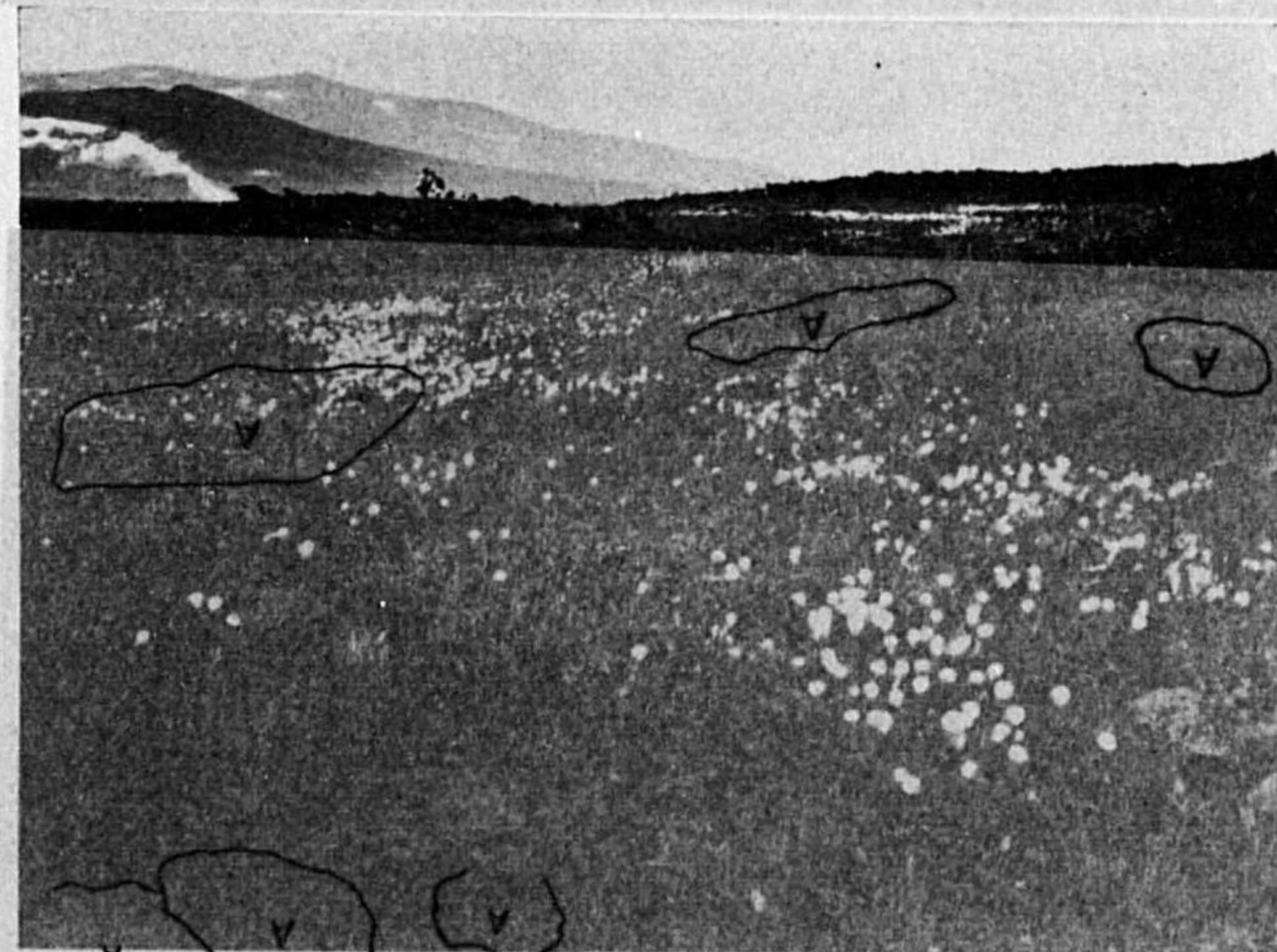


Big association of *Saxifraga laciniata* and *Saxifraga Merckii* var. *robusta*.

第二十六圖
忠別岳、前岳間ノ澤ニくもまゆきのしたたちしま
くもまぐさノ大群落ヲナス状

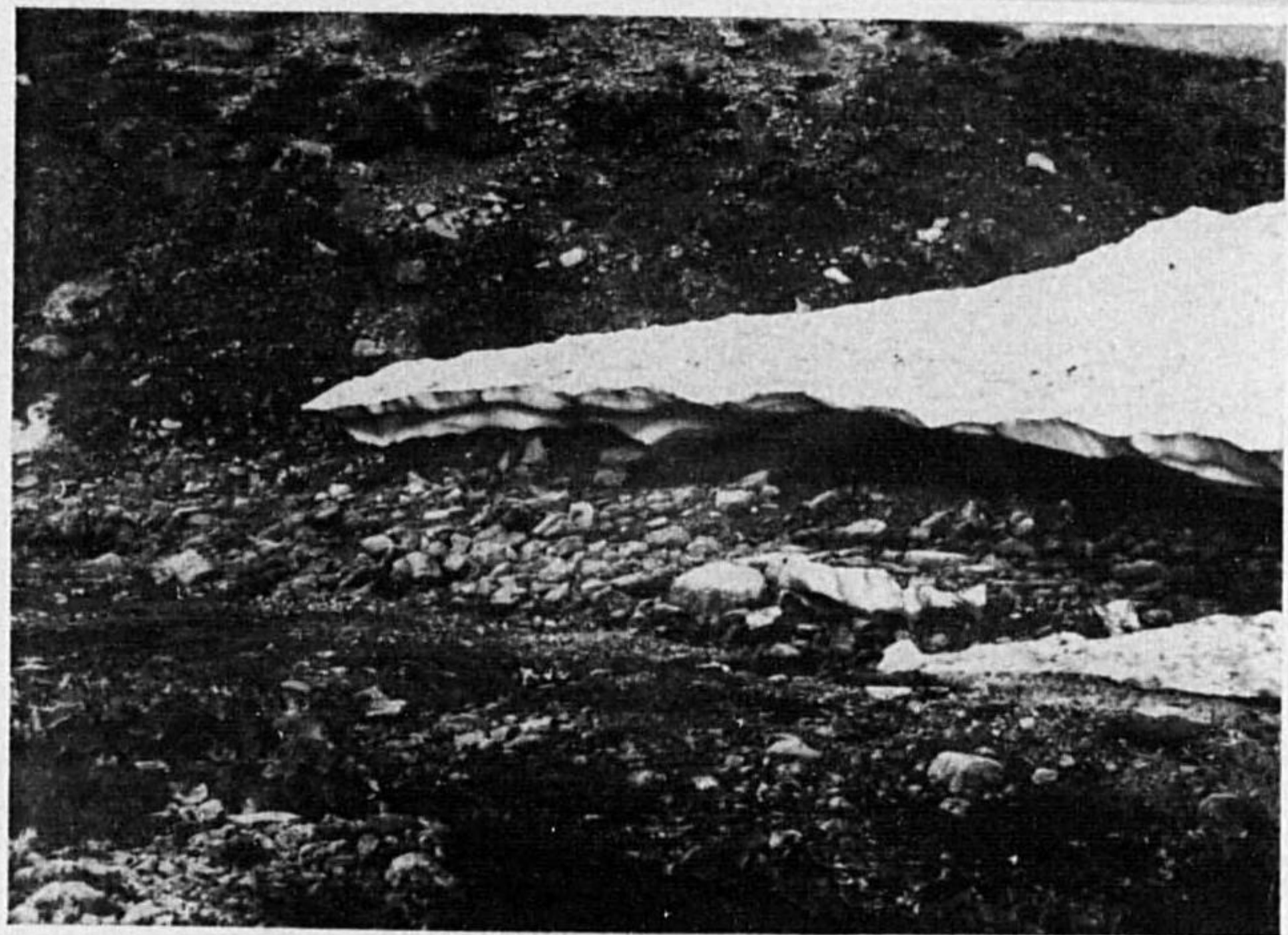


版圖二十第



A swamp on Mt. Hiragatake, where *Eriophorum vaginatum* (A), and *Salix paludicola* (B), are growing.

第二十三圖
平ヶ岳ノ湿地ノ一景
A わたすげ、B みやまやちやなき。



Caltha palustris (A.A.) near the melting snow-heap.

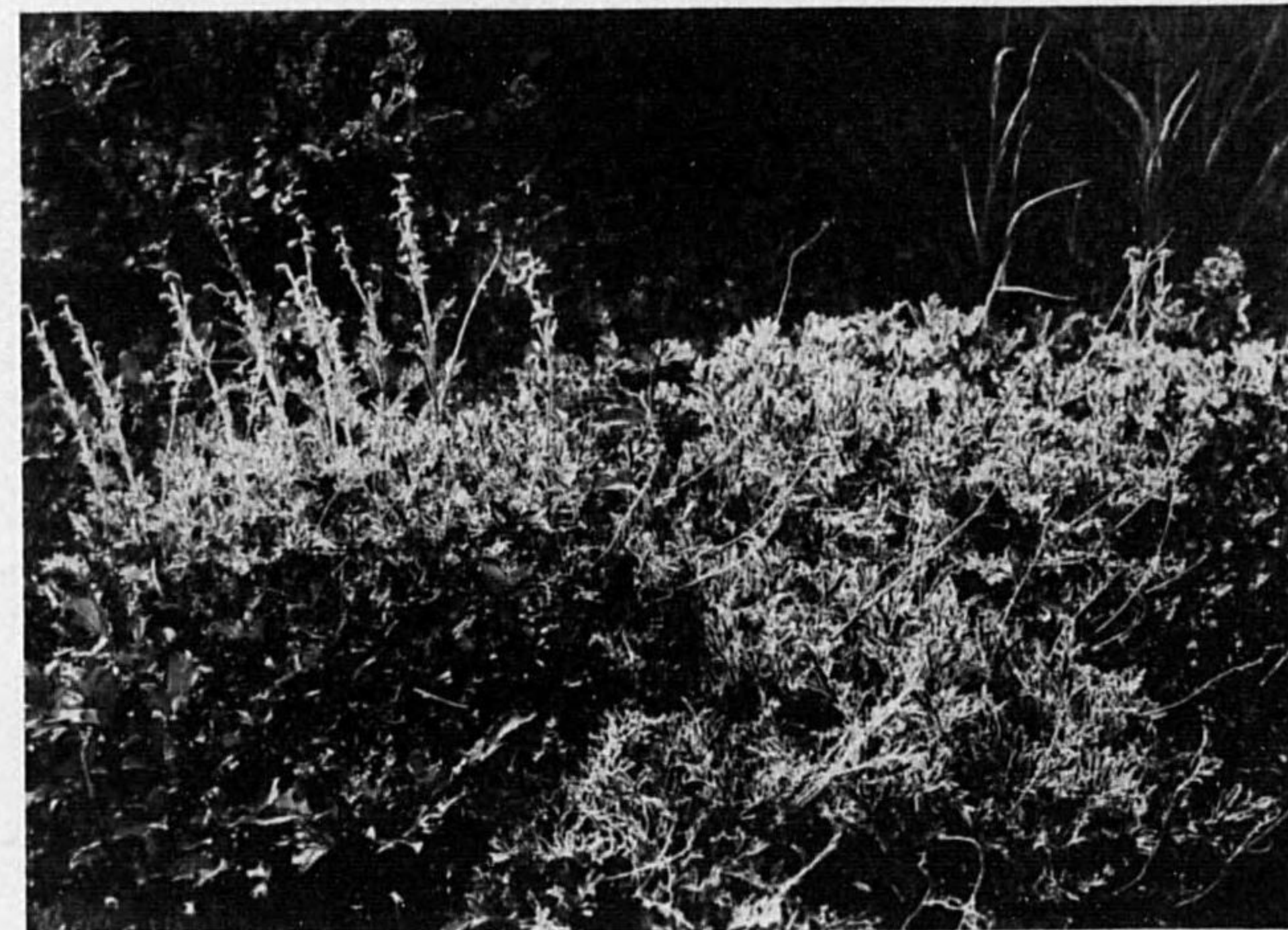
第二十四圖
りうきんくわ(A.A.)

版圖五十第



Brooklet coming down from melting snow at the foot of Mt. Hakuundake; Carex and Oxyria are seen near the water.

第二十九圖
白雲岳下ノ一溪流、溪畔ニハじんえふすゐばトす
げ類多シ



Artemisia Czekanowskiana on Mt. Koidzumidake.

第三十圖
小泉岳ノしろさまによもぎ

版圖四十第



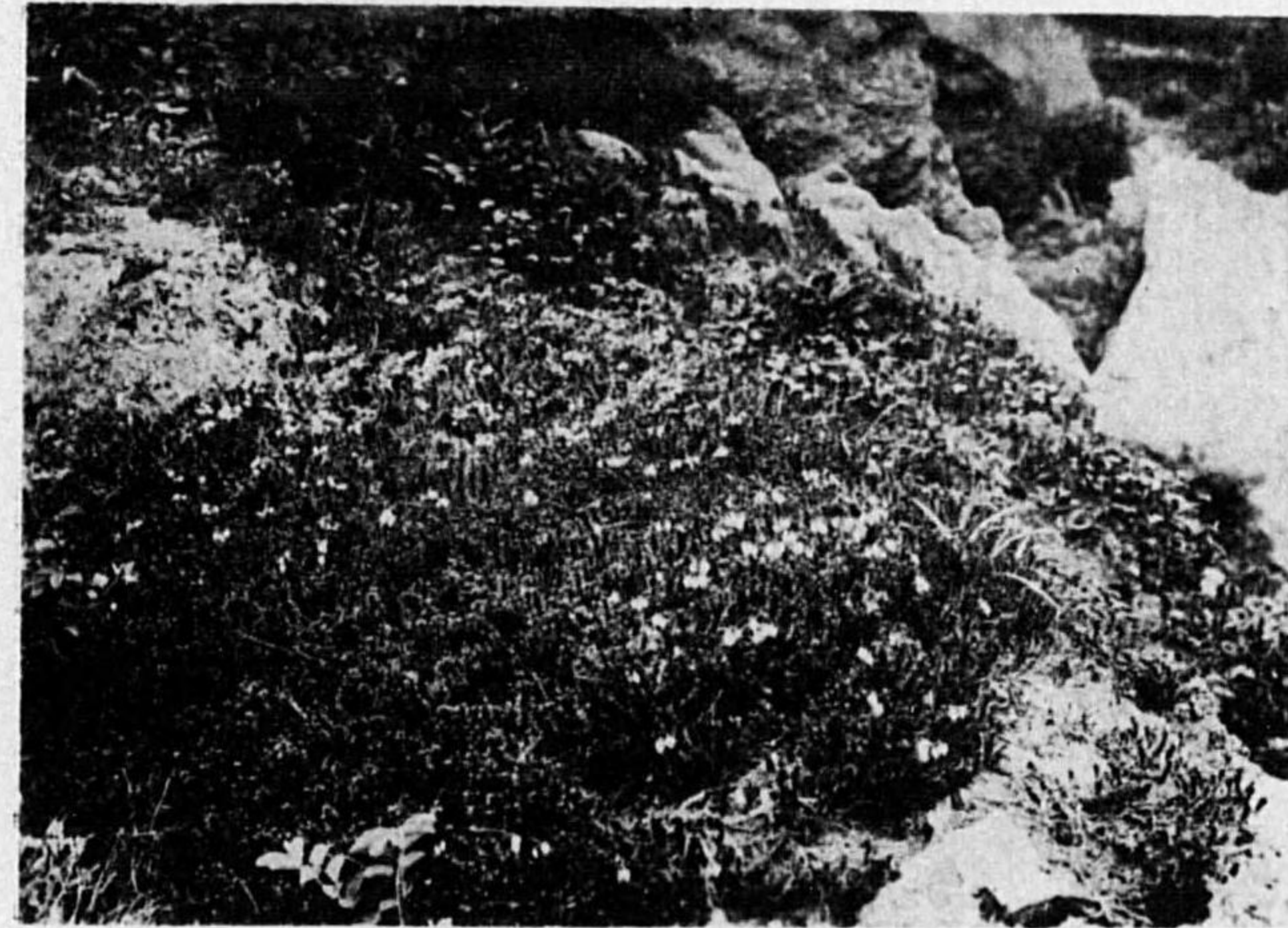
Campanula lasiocarpa in flower.

第二十七圖
忠別岳ト前岳トノ間ノ澤ノ斜面ニ生ズルいは
ぎけふ



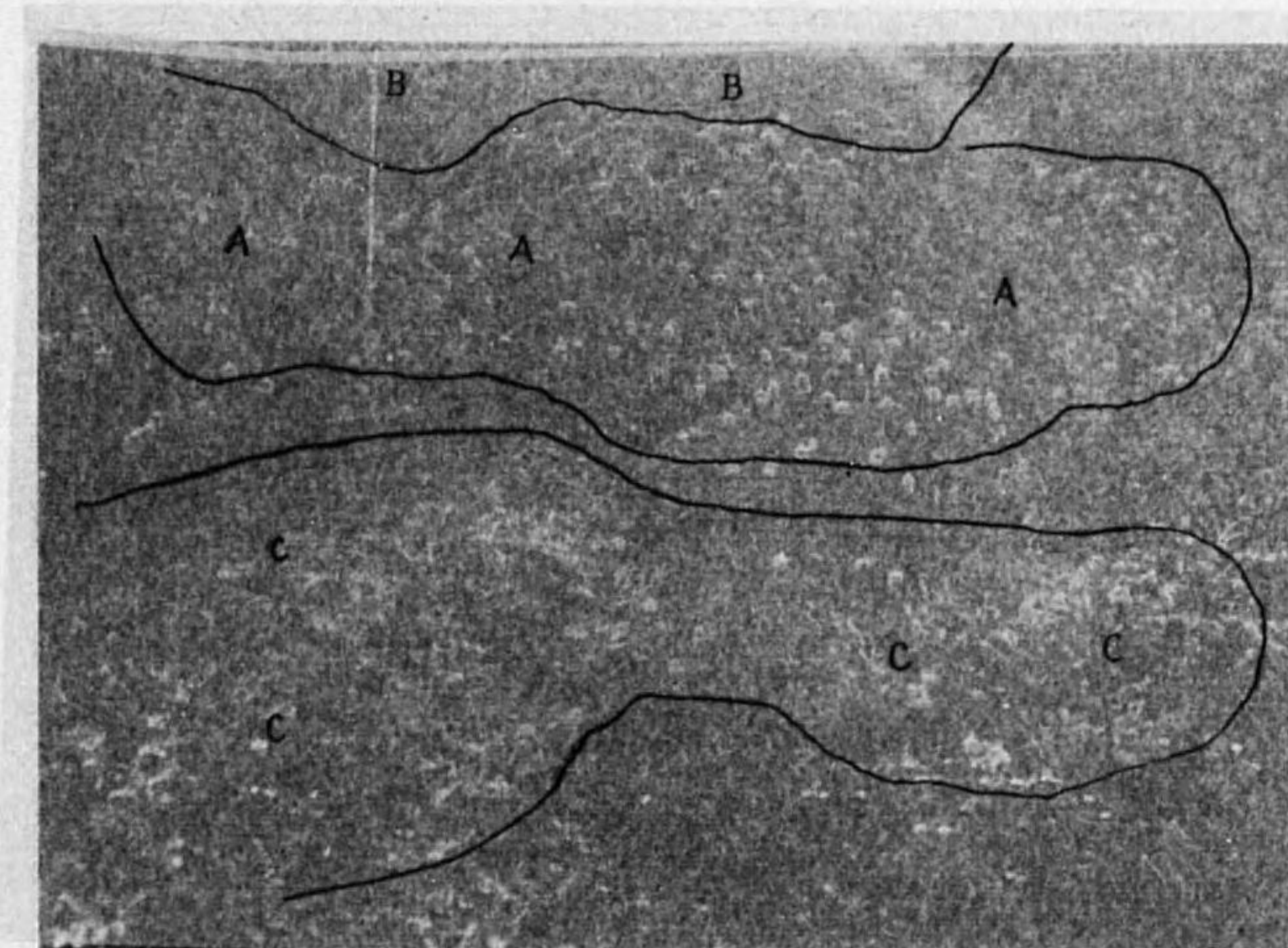
Sanguiforba sitchensis at Hakuunzawa.

第二十八圖
たかねとうちまらノ花盛り
(白雲澤)



Phyllocoe aleutica in flower at Mikurazawa.

第三十一圖
御藏澤ノあをのつがさくら



An association of *Cirsium pectinellum* (A), *Calamagrostis sachalinensis* (B), and *Saussurea yesoensis* (C) on Mt. Koidzumidake.

第三十二圖
えぞのさはあさみ A、えぞのがりやす B、えぞ
きたあさみ Cノ混生スル状
(小泉岳ノ一部)

旭岳↓
熊ヶ岳↓

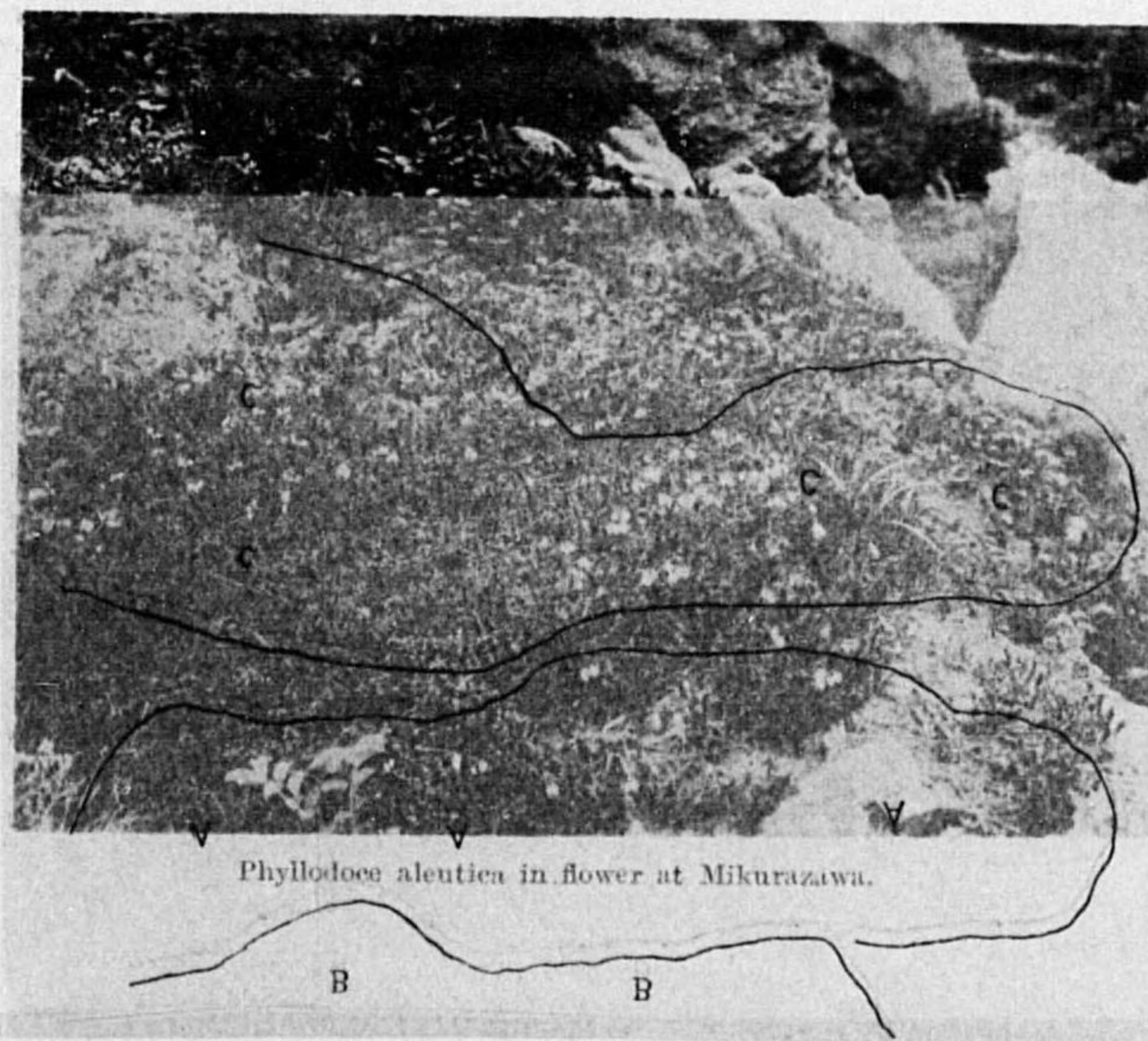


ake (right) and Mt.
Hokuchindake, the
Mountains.

第三十三圖
北嶺岳ヨリ旭日岳(右端)、黒岳(左端)
間ヲ望ム

第三十一圖

御藏澤ノあをのつがざくら



第三十二圖

えぞのさはあさみ A、えぞのがりやす B、えぞきたあさみ Cノ混生スル状
(小泉岳ノ一部)



An association of *Cirsium pectinellum* (A), *Calamagrostis sachalinensis* (B), and *Saussurea yesoensis* (C) on Mt. Koidzumidake.

第三十三圖

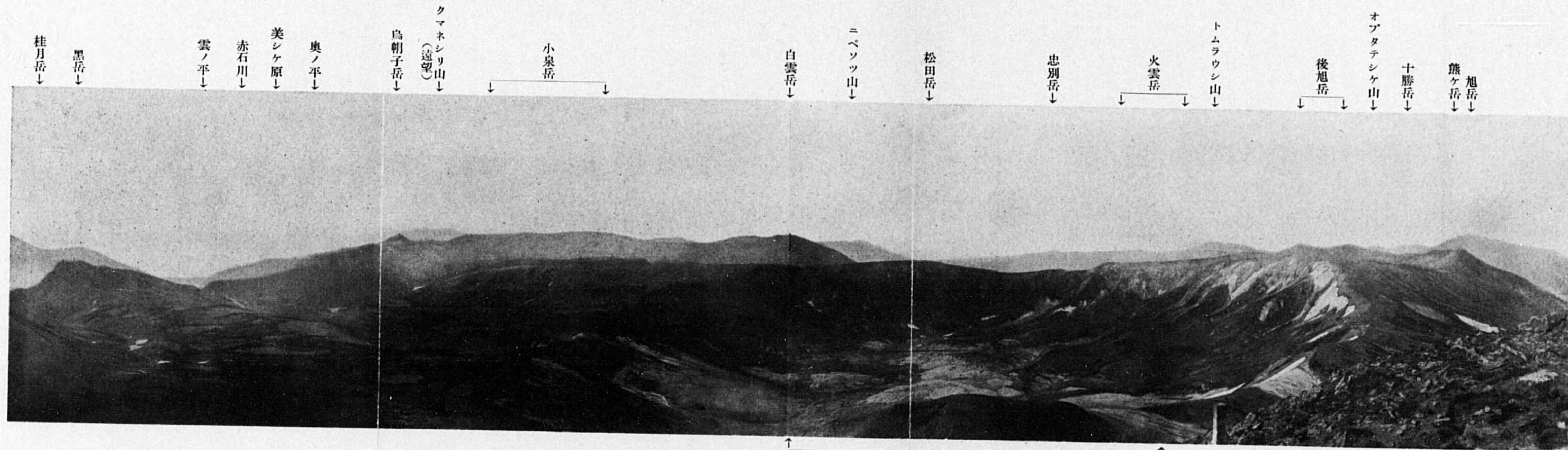
北鎮岳ヨリ旭日岳(右端)、黒岳(左端)間ヲ望ム

旭岳
熊ヶ岳↓



ake (right) and Mt. Hokuchindake, the Mountains.

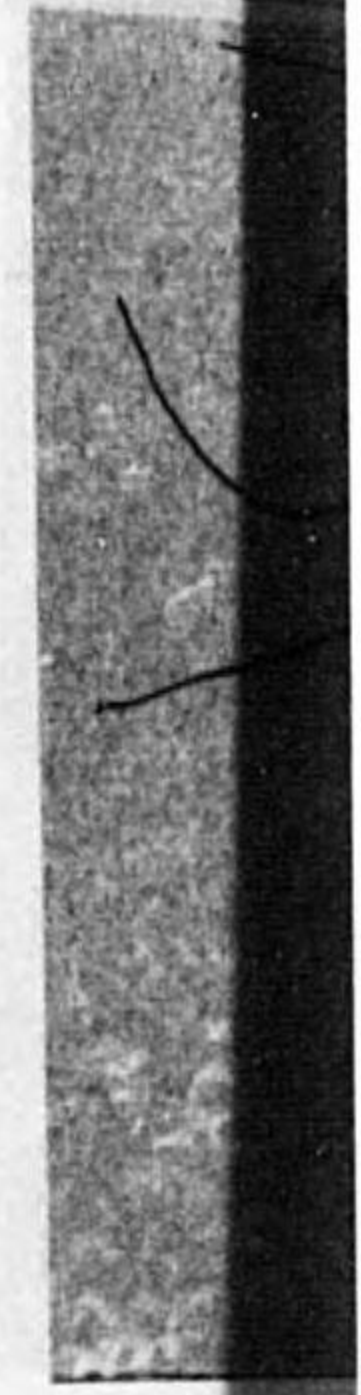
版 圖 七 十 第



第三十三圖
北鎮岳ヨリ旭日岳(右端)、黒岳(左端)
間ヲ望ム

Panoramic view between Mt. Asahidake (right) and Mt. Kurodake (left) from the top of Mt. Hokuchindake, the second highest peak of Daisetsusan Mountains.

大噴火口原



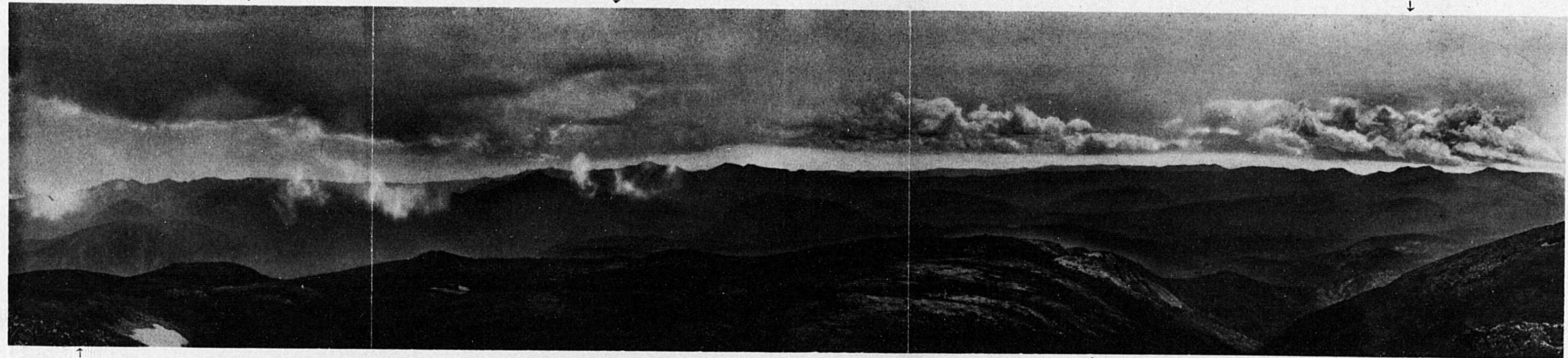
An asahidake (B) and

版 圖 八 十 第

ニセイカウシユ
ツハ山

屏風岳↓

石狩岳↓

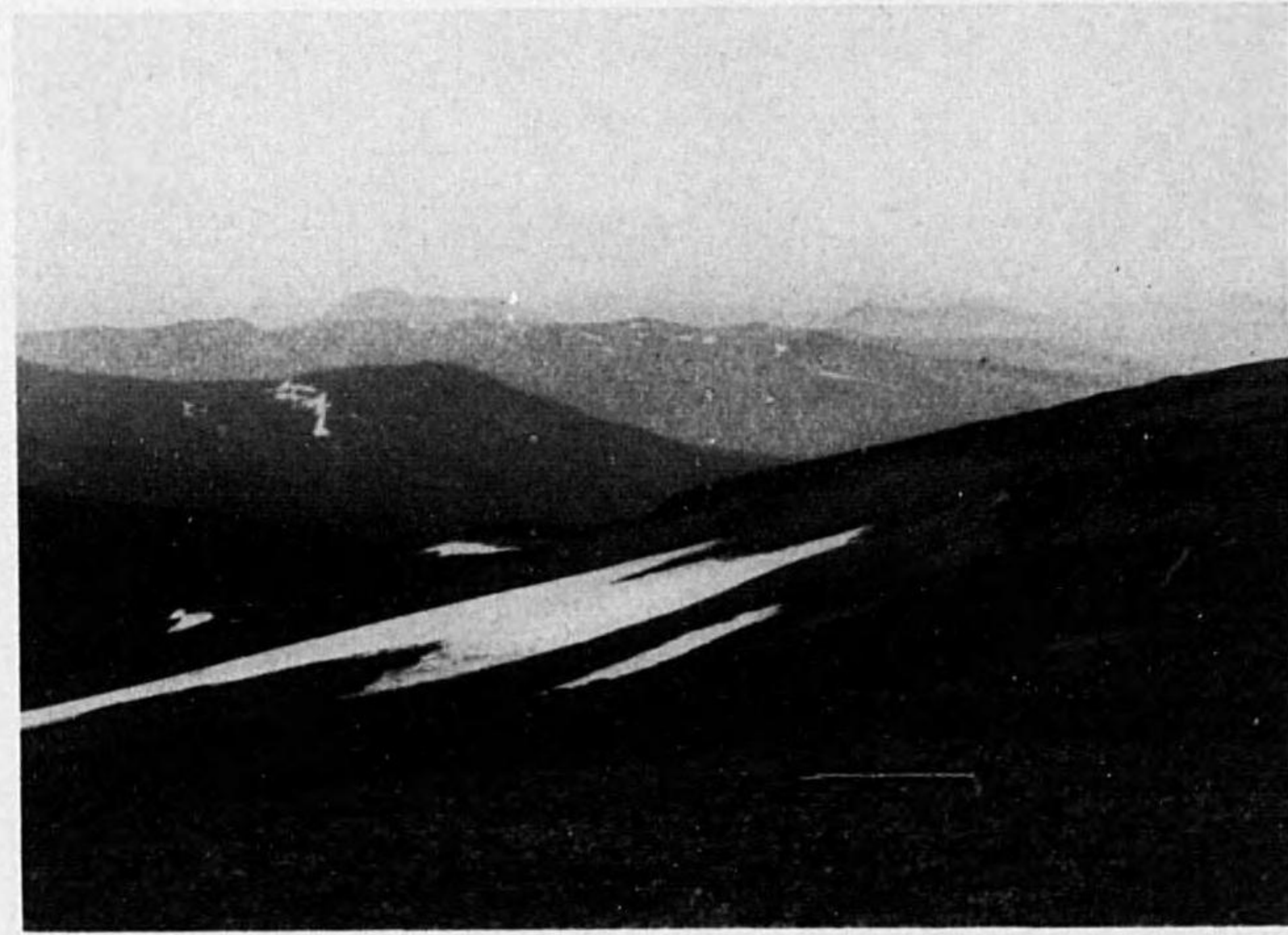


↑ 帶 一 平 ノ 奥 ↑

第三十四圖
鳥帽子岳ヨリ奥ノ平方面ヲ望ム

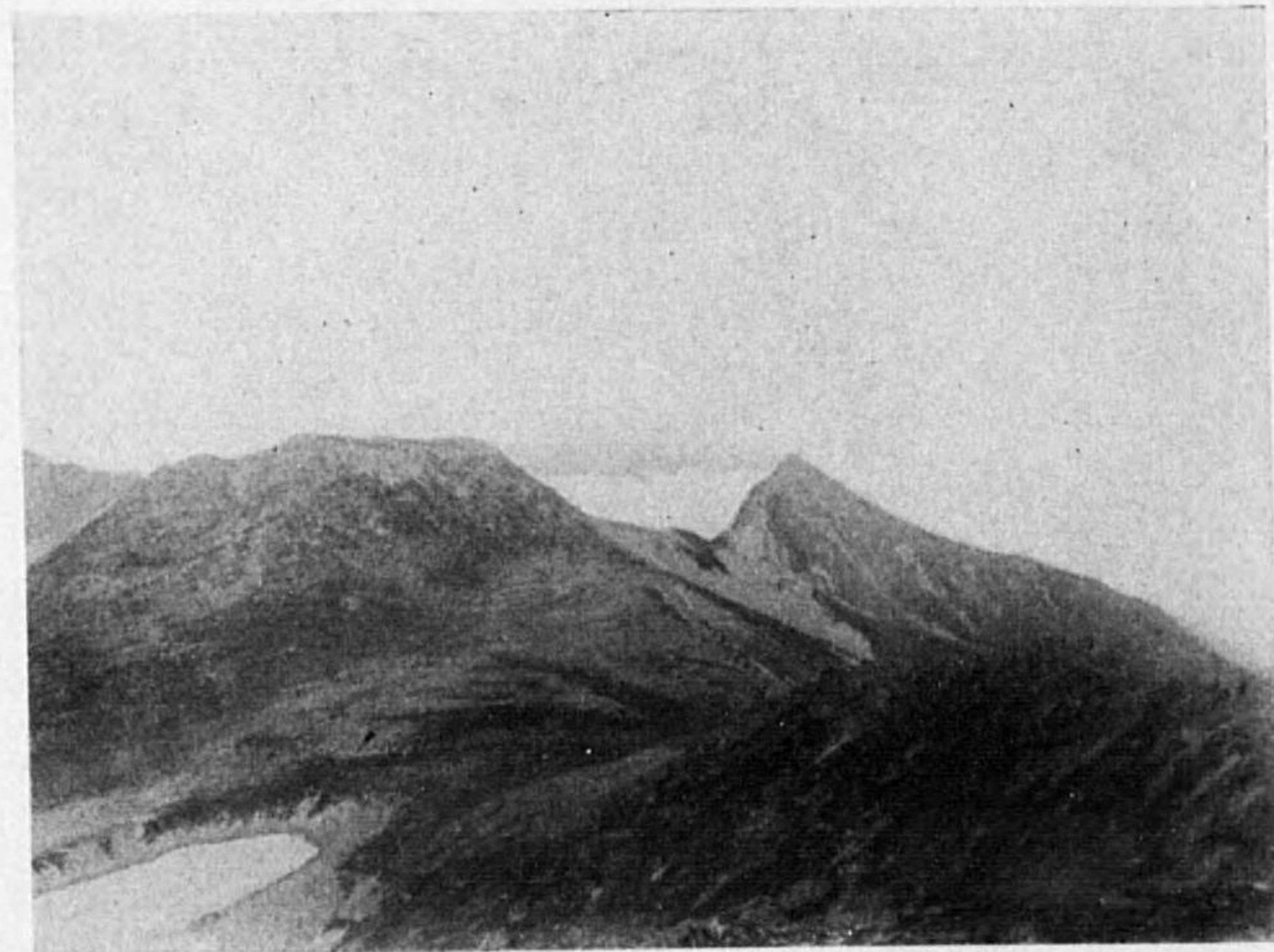
Panoramic view from Mt. Eboshidake toward Okunodaira.

版圖九十第



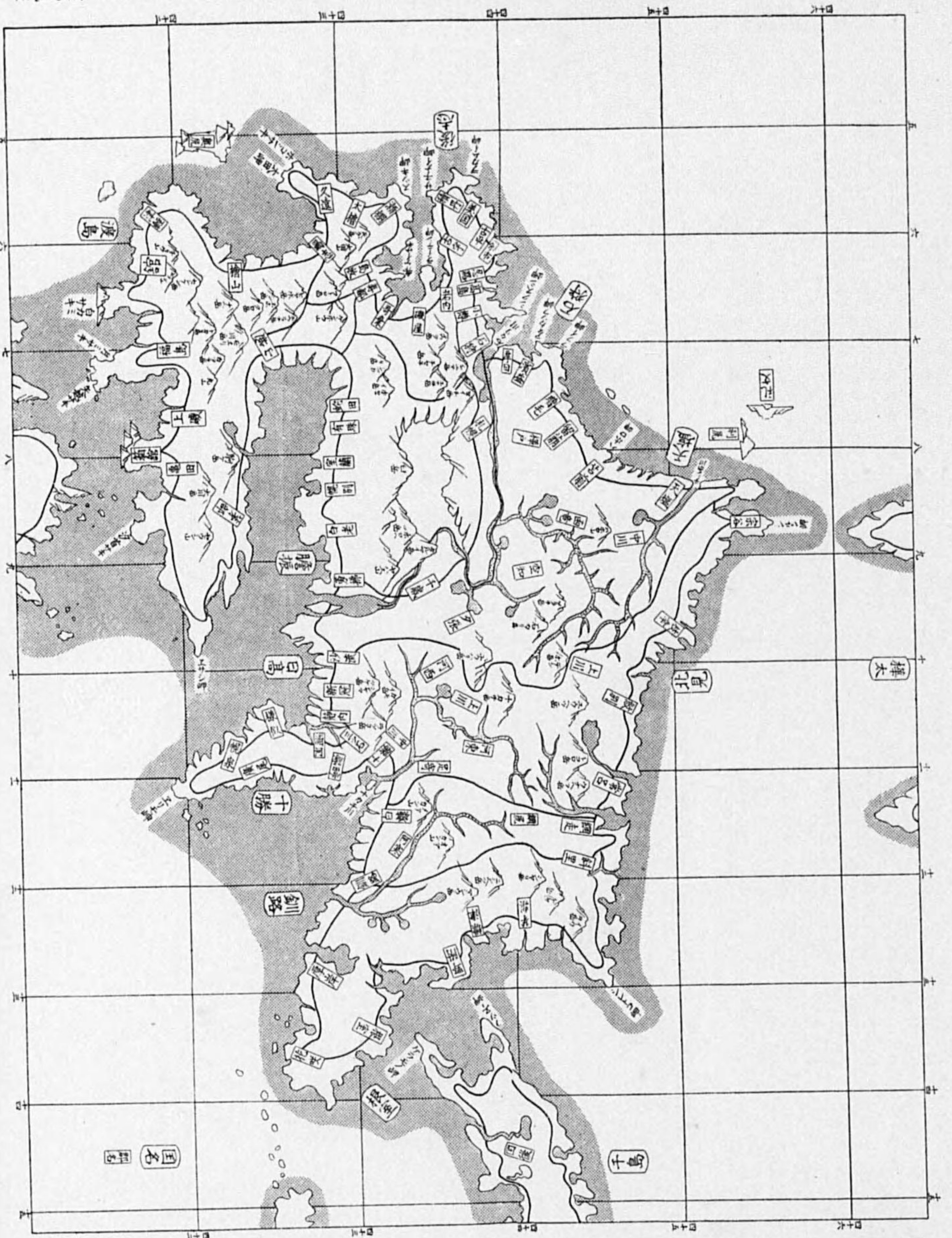
A view of Mt. Tomuraushi from Mt. Hokkaidake.

第三十五圖
北海岳ヨリトムラウシ山方面ヲ望ム



Looked down Mt. Nagayamadake (left) and Mt. Aibetsudake (right) from the top of Mt. Hokuchindake.

第三十六圖
北嶺岳ヨリ西北愛別岳(右)ト永山岳(左)トヲ望ム



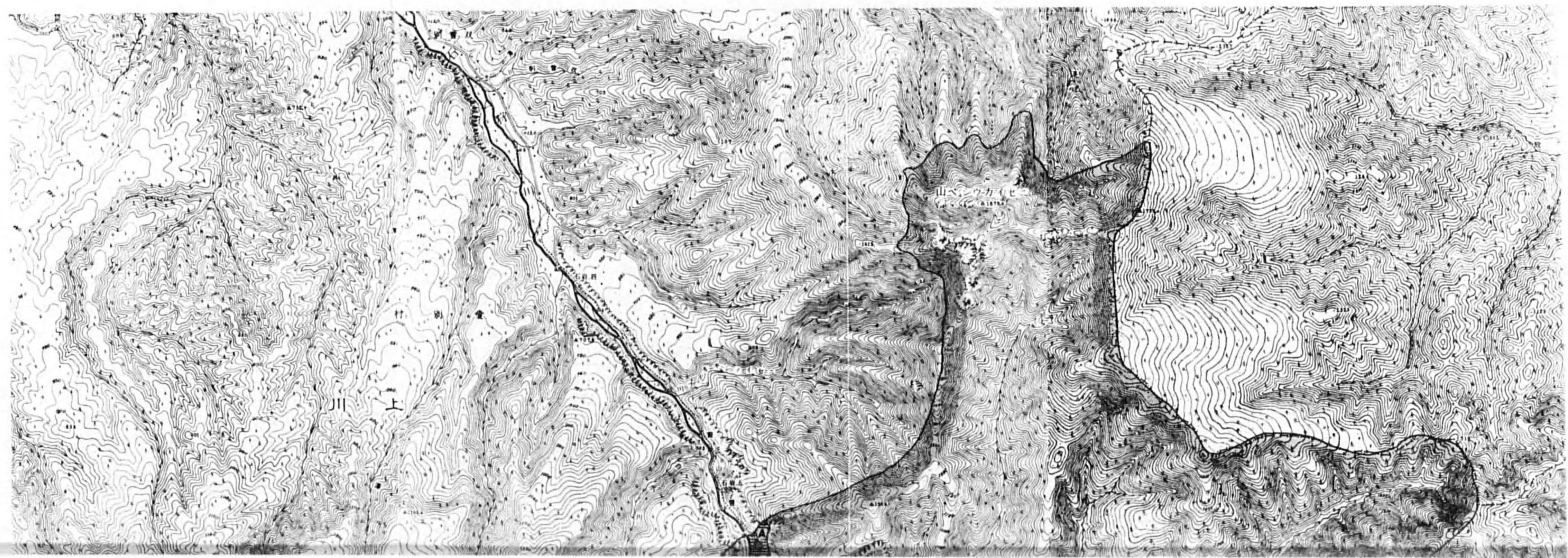
附圖一

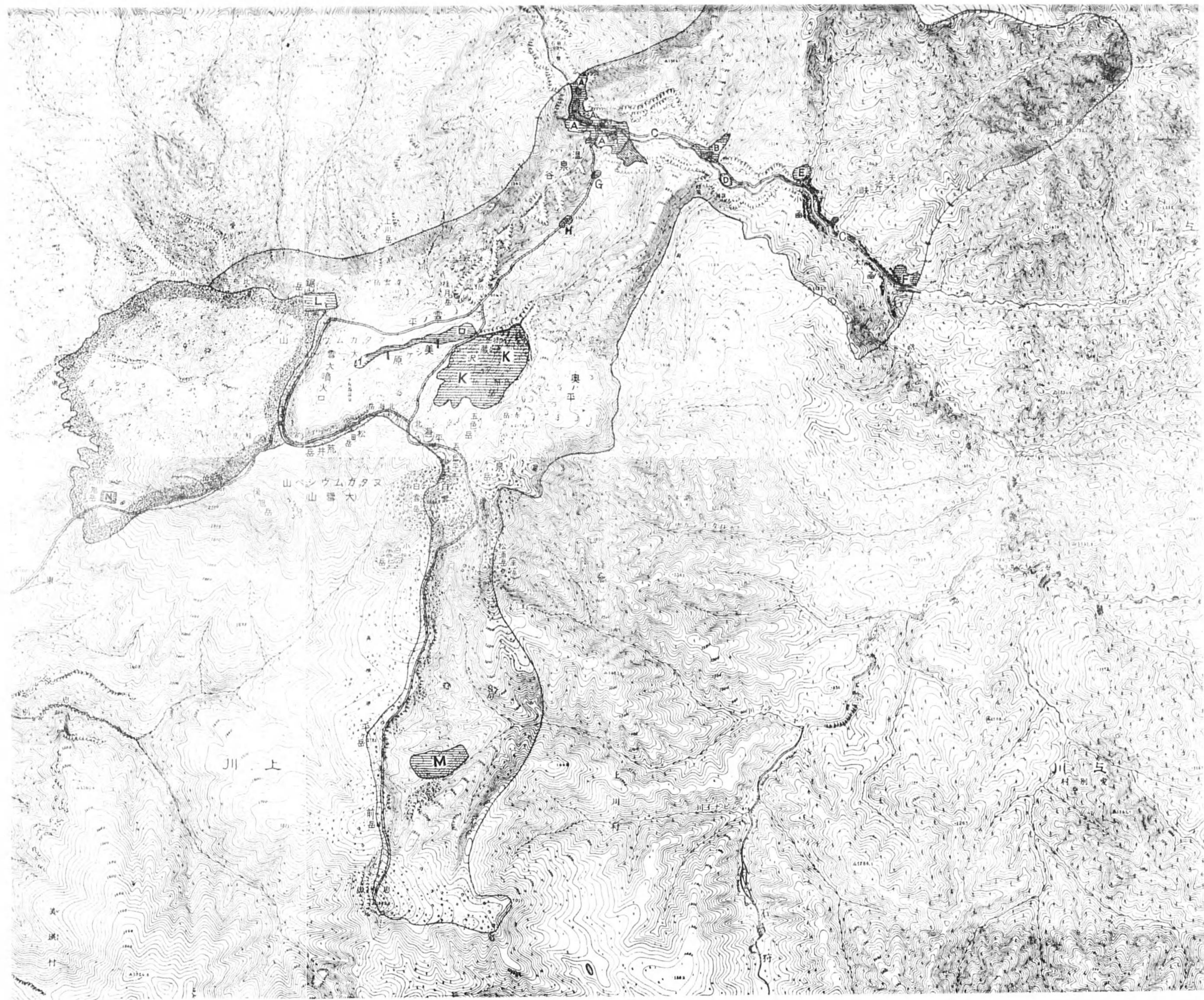
明治三年版河合眞雅著「北海道細見全圖」ノ一部ヲ縮寫ス。但シ小地名ハ全部之ヲ除キリ。中央部現在大雪山ノ位置ニ石カリ岳トアルニ注意ス。

附圖第二

新ニ天然保護區域トセント欲スル大雪山一帯ノ地。

- (一) 網目地區ハ現在國有林ノ部。
- (二) 砂目地區ハ現在地方林ノ部。
- (三) 横線地區ハ將來ノ諸設備ノ爲メ天然保護區域ヨリ除外セントスル地區。
- (四) 斜線地區ハ陸軍用地。
- (五) 縦線地區ハ現在使用許可地。
- (六) 〓ハ遊覽登山道路。





日高國、樣似郡、アポイ山の植物調査報告

T. Nakai: Vegetation of Mt. Apoi in the province of Hidaka, Hokkaido.

内務省天然紀念物調査臨時囑託 理學博士 中井猛之進

(一) 位置と地形

アポイ山(アイヌ名アポイヌプリ)は白樺山の意なりと謂ふは日高國、樣似郡、樣似村、宇冬島の東北に位し北はビンネシリ(勇山の意)を経て十勝との國境なる日高山脈に連なり東は幌満河に接し南麓は直ちに海に面して斷崖をなす、近時は此斷崖の下を通じて自動車道路を作りしも昔時は斷崖上の山道を越して幌泉と交通せり、故に其峠を樣似山道と呼べり、山頂の高さは海拔八百十米突にして形よき斜面をなす(寫眞第一參照)山の全部は古生層にして主として蛇紋岩より成る。

(二) アポイ山の植物學的探究の歴史

明治十七年(西曆千八百八十四年)現北大名譽教授理學博士宮部金吾氏が始めて樣似山道を踰えて多くの植物を採收せしが本山の植物を學界に紹介せる基を成しサマニカラマツ

Thalictrum integrilobum Maximowicz, コニヤマナナカマド *Sorbus pseudo-gracilis* Koehne の如き珍種の発見ありたり。次で二三の採収家は此山に出入せしも本山の價値を世に紹介せしは前冬島小學校長對島政雄氏の不斷の採収が動機となりて北大講師館脇操氏が數回本山に入りて大に其植物を採収し一昨年十二月同大學演習林報告第五卷の別刷として日高様似アボイヌブリ植物なる論文を出版せしに依る其中に記されたる同山の植物は八十四科二百六十八屬に屬する四百二十三種十四變種なり。

館脇氏の採収は前後七回に及び之が因となりて北大教授間に本山の植物の保存の必要な論起り宮部新島兩教授主として之を主張せる結果北海道廳より内務省に通牒ありて内務省は特に余に依頼して實地踏査をなさしむるに至れり。余は一昨年八月時の浦河營林署長石戸谷勵氏、冬島小學校長對馬氏其他の案内にて三日間山頂部、中腹部、山麓部、海岸と四部に分ちて實地を踏査し又多數の植物を採収し同山植物帶の稀に見る價値あるものなるを知れると同時に更に二十一新種十七新變種を含む百八十有余の植物を館脇氏の目錄に追加するを得たり。

(三) 一般の景觀

(一) 磯の植物

海岸の新道路より以下海に面する所は岩石及び砂礫より成る磯にして所々に砂を交ふる

所もありて岩隙、砂礫地等に特色ある海濱群落を見る、此群落を成すものは

<i>Atriplex littoralis</i> ハンマカザ	<i>Melandrium Oldhamiana</i> ケンシヅク
<i>Sagina crassicaulis</i> ハンツメクサ	<i>Ammodenia oblongifolia</i> var. <i>maxima</i> ハンハコ
<i>Corydalis Maximowicziana</i> エンキケマン	<i>Potentilla Anserina</i> エンツルキンバイ
<i>Lathyrus maritimus</i> var. <i>pilosus</i> ハンヘンドウ	<i>Ligusticum scoticum</i> マルバトウキ
<i>Mertensia asiatica</i> ハンメンケイサウ	<i>Calystegia Soldanella</i> ハンヒルガホ
<i>Scutellaria scordifolia</i> var. <i>pubescens</i> ナニキサウ	<i>Serophularia Grayana</i> エゾヒナノウスツボ
<i>Plantago kamtschatica</i> エゾオホバコ	<i>Plantago littoralis</i> ハマオホバコ
<i>Artemisia desertorum</i> ハンオトコヨモギ	<i>Agrostis hiemalis</i> エゾヌカホ
<i>Elymus davuricus</i> ハンマムギ	

等にして特にハンメンケイサウとハンハコとの群落は(寫眞第四參照)目立ちて見ゆ、又岩にチシマキンバイ *Potentilla megalantha* の生ずる所あり(寫眞第三參照)発見者は對馬氏なり。

(二) 山麓通路及び斷層面の植物

道路の一侧即ち様似山道の下は削壁にして(寫眞第二參照)高さ二十乃至百米突にも達し上部は森林に被はるれども道路に近づけば自ら草の生ずる所あり特にエゾミセバヤ *Sedum canticola* の群落は繁茂の極に達し又キケン *Platyodon glaucum* は岩隙に開花す。桔梗は北海道には稀なる植物にして特に日高國にては僅かに冬島より幌滿川に至る十餘町の間にのみ生

ず、其丈も低く花は概ね浅く廣く開き一見普通の桔梗と異なる形をとるものもあれども皆生態的の變異に過ぎず。岩にかゝるミヤマビヤクシン Juniperus Sargentii の大群落岩隙の空洞に保護されて僅かに餘濼を保つオニヤブソテツ Cytisium falcatum なども分布上興味ある植物なり。

冬島に接する所は斷層をなせる斜面に諸種の草よく生ひ茂り樹木類は其上に點在す。主なる樹木は

- | | |
|--|---|
| <i>Abies Mayriana</i> アブトド | <i>Quercus crispula</i> ミヅナラ |
| <i>Fraxinus Sieboldiana</i> var. <i>serrata</i> アヲダモ | <i>Quercus dentata</i> カシハ |
| にして小灌木並に蔓生灌木には | |
| <i>Lespedeza bicolor</i> エゾヤマハシギ | <i>Morus bombycis</i> var. <i>maritima</i> タケシマダハ |
| <i>Celastrus strigillosus</i> オニツルウメモドキ | <i>Vitis Kaempferi</i> ヤマブドウ |
| <i>Rubus phoenicolasius</i> ウラジロイチゴ | <i>Ampelopsis brevipedunculata</i> ノブドウ |
| <i>Zanthoxylum piperitum</i> サンショウ | <i>Rubus parvifolius</i> ナハシロイチゴ |
| <i>Rosa rugosa</i> ハマナシ | <i>Berberis amurensis</i> オホバシロビノボラズ |

等あり。其中サンショウは北海道中様似附近にのみ生じオニヤブソテツ、ムラサキシキブ並に館脇氏の採收せしスギランと共に北海道にては珍とするに足る。草本中最も繁茂するはオホイトドリ *Reynoutria sachalinensis* とクロンヤイモギ *Artemisia coerctata* var. *latiloba* にして共

に大群落をなす。其他の混生する草本は大凡次の如し

- | | |
|--|--|
| <i>Artemisia Messerschmidiana</i> イハヨモギ | <i>Aster scaber</i> ミシヤイギク |
| <i>Primula modesta</i> var. <i>samanimontana</i> サマニモキノリサハ | <i>Potentilla Anserina</i> エンツルキンバイ |
| <i>Artemisia Keiskeana</i> イヌヨモギ | <i>Pleuropteryrum japonicum</i> コバノイハタヂ |
| <i>Patrinia scabiosaefolia</i> ヲミノナシ | <i>Siphonostegia chinensis</i> ヒキヨモギ |
| <i>Phragmites prostratus</i> チシバリ | <i>Pedicularis yesoensis</i> エゾシホガマ |
| <i>Festuca ovina</i> ウシノケグサ | <i>Spodiopogon sibiricus</i> var. <i>tomentosus</i> オニアブラススキ |
| <i>Hosta rectifolia</i> タチギバウシユ | <i>Vicia tenuifolia</i> ホンバンクサソヂ |
| <i>Carex flavocenspis</i> ニヤマンクログ | <i>Artemisia japonica</i> ヲトロヨモギ |
| <i>Inula involuerata</i> カヤンサウ | <i>Convallaria Keiskei</i> キニカグサウ |
| <i>Hypericum Gebleri</i> コトモユサウ | <i>Miscanthus hidakanus</i> サマニススキ |
| <i>Galium verum</i> var. <i>intermedium</i> ウスキカンライマン | <i>Ligusticum japonicum</i> イハテトウキ |
| <i>Lotus corniculatus</i> var. <i>japonicus</i> ニヤコグサ | <i>Cirsium pectinellum</i> エゾノマアザミ |
| <i>Patrinia villosa</i> ヲトロノシ | <i>Disporum smilacinum</i> チゴユリ |
| <i>Carex siderosticta</i> タガネサウ | <i>Lilium avenaceum</i> チシマククルマユリ |
| <i>Calamagrostis hakonenis</i> イハノガリヤス | <i>Platycodon glaucum</i> キケン |
| <i>Cernidium triviale</i> var. <i>glandulosum</i> ニニナダサ | <i>Majanthemum dilatatum</i> オホマヒヅルサウ |

- | | |
|---|---|
| <i>Tovara filiformis</i> ミヅヒキ | <i>Saxifraga yessoensis</i> ヤマハナサウ |
| <i>Galium triflorum</i> ヤツガタケムグラ | <i>Galium boreale</i> var. <i>kamtschaticum</i> エゾキヌタサウ |
| <i>Carex tenuissima</i> イトスゲ | <i>Thermopsis fabacea</i> センダイハギ |
| <i>Crepis gymnopus</i> エゾノタカネニガナ | <i>Euphrasia mollis</i> エゾロコモメグサ |
| <i>Brachypodium miserum</i> ヤマカモシグサ | <i>Aster Glehni</i> トヤマ |
| <i>Luzula capitata</i> スズメノテツバウ | <i>Solidago Virgaurea</i> var. <i>asiatica</i> アキノキリンサウ |
| <i>Lysimachia vulgaris</i> エゾクサレダマ | <i>Lysimachia clethroides</i> オカトラノヲ |
| <i>Carex lanceolata</i> ヒカゲスゲ | <i>Allium Schoenoprasum</i> エゾネギ |
| <i>Barbarea apioensis</i> マルバヤマガラシ | <i>Stellaria media</i> ハコヤ |
| <i>Veronica longifolia</i> var. <i>Grayi</i> エゾルリトラノヲ | |
- 就中タチギハウシエ、サマニユキワリサウ、サマニススキ等は此地方の特産植物にしてホンバクサフデ、ヤマハナサウ、ヤツガタケムグラ、エゾキヌタサウ、エゾノタカネニガナ、コトモエサウ等は分布上興味ある種なり。叢間小さな笹あり之をエゾミヤコザサ *Sasa apioensis* と謂ふ。草叢の丘と断崖との間は或ハ岩出で或は小さな崖となり其間に草ある斜面又は小さな木立ありて人家點在す。其邊の岩上には
- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| <i>Chrysanthemum yessoense</i> コンマイギク | <i>Sedum corticola</i> エゾミセバヤ |
| <i>Cotyledon aggregata</i> コインレンゲ | <i>Sedum Aizoon</i> ホンバキリンサウ |

- | | |
|--|-------------------------------------|
| <i>Dianthus Superbus</i> var. <i>latifolius</i> ヒロンカンナダシ | <i>Draba borealis</i> エゾイヌナヅナ |
| <i>Thymus Przewalski</i> イノキミヤカウサウ | <i>Juniperus Sargentii</i> ミヤマビヤクシン |
- 等生じ路傍に在

- | | |
|--|---|
| <i>Rumex odontocarpus</i> var. <i>japonicus</i> オホギシギシ | <i>Bupleurum sachalinense</i> ホタルサイコ |
| <i>Achillea speciosa</i> var. <i>pulehra</i> ヌニンナホノコギリサヤ | <i>Persicaria alata</i> タニンバ |
| <i>Thalictrum Thunbergii</i> var. <i>majus</i> オホアキカラマン | <i>Poa annua</i> スズメノカタビラ |
| <i>Polygonum aviculare</i> var. <i>vegetum</i> オホミチヤナギ | <i>Agrostis hiemalis</i> エゾヌカボ |
| <i>Agrostis grandis</i> オホヌカボ | <i>Trisetum sibiricum</i> var. <i>papillosum</i> カニソリグサ |
| <i>Agrostis palustris</i> コヌカグサ | <i>Plantago littoralis</i> ハンオホバコ |
| <i>Plantago kamtschatica</i> エゾオホバコ | <i>Sonchus uliginosus</i> ハチジヤウナ |
| <i>Melandrium Oldhamiana</i> ケフシグロ | <i>Sonchus asper</i> オニノゲシ |
| <i>Sonchus oleraceus</i> ノゲシ | <i>Trifolium pratense</i> アカツメクサ |
| <i>Trifolium repens</i> シロツメクサ | <i>Euxolus viridis</i> イヌビユ |
| <i>Chenopodium album</i> シロアカザ | <i>Bidens repens</i> タウコギ |
| <i>Xanthium Strumarium</i> ヲナモミ | |
- 等の雑草多し。水湿多き所には
- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| <i>Epilobium pyrricholophum</i> アカバナ | <i>Hosta rectifolia</i> タチギハウシユ |
|--------------------------------------|---------------------------------|

Phragmites prostratus チシバリ

Lobelia sessilifolia サハギケフ

Lythrum Salicaria var. *glaberrima* ホンハエゾミンハンギ

等あり又崖上の草地には

Allium Schoenoprasum エンネギ

Swertia tetrapetala チシマセンブリ

Scabiosa Fischeri テウセンマツムシサウ(寫眞第六參照)。

等夥しく生ずる所もあり。又所によりシロヨモギ *Artemisia Stelleriana* (寫眞第五參照)の白く立てるもあり。

(三) 海岸地帯の特記すべき植物

上述の如くアボイ山麓の海岸地帯は珍植物に富む。其中最も著しきものを挙げれば左の如し。

1) *Rumex odontocarpus* Sandor ex Beck & Lerchenau in Reichenbach, Icon. Fl. Germ. & Helv. XXIV, p. 38, Pl. 182 (1909).

var. *japonicus* Nakai, var. nov.

オホギンギン(新變種)。

海岸道路附近に多く生ず。

歐洲産の *Rumex odontocarpus* に最も近く唯花の密なるを異にす。我邦に産するものの中にはナガバギンギンに近けれども一層壯大なる植物にして果實は更に大きく翼は著しき鋸

齒を具ふ。

2) *Dianthus superbus* Linnaeus, Fl. Suec. ed. 2, p. 146 (1755).

var. *latifolius* Nakai in Tokyo Bot. Mag. XLIII, p. 457 (1929).

ヒロハカハラナデシロ

海岸の丘崖等に至る所生ず。

本植物はタカネナデシロ *Dianthus superbus* Linnaeus var. *speciosus* Reichenbach に似たる萼を有すれども葉は二倍以上も廣さを異にす。本植物は又渡島後志の海岸にもあり。

3) *Dianthus superbus* Linnaeus, Fl. Suec. ed. 2, p. 146 (1755).

var. *micropetalus* Lange, Haandbog danske Flora p. 296 (1851).

コリンナデシロ

本植物はタウカハラナデシロ *Dianthus superbus* Linnaeus に似て花の一層小さな變種なり。我邦にては初發見のものなり。幌滿河畔に生じ對馬氏の採る所なり。

4) *Barbarea apoiensis* Nakai, sp. nov.

マルバヤマガラシ(新種)。

海岸の斷層面並に山麓の溪畔に生ず。

Barbarea orthoceras Ledebour と内地産のヤマガラシ *Barbarea hondoensis* Nakai との中間にある種にして前者とは葉の多くが單葉又は三出葉にて羽狀葉とならぬ事にて直ちに區別し得。後

者とは莖の壯大ならぬ事果實の小さき事にて區別し得。

5) *Cotyledon aggregata* Makino in Tokyo Bot. Mag. XXIV, p. 72, fig. 11 (1910).

コイハレンゲ

海岸の岩上に着生し常に群生す。

本種は匍枝を有する小形のイハレンゲにして従來は本島の北部にのみ限られて生ずるものと考へられしも今回の調査に依りて北海道にも産する事を知り得たり。

6) *Sedum caticola* Praeger in Journ. Bot. LV, p. 41 (1917).

エゾミセバヤ

海岸の岩上に生ず。

北海道産のミセバヤとして早くより知れ居たる本植物は此海岸程異常の發生をなし居る所なし。花時は岩面一帯に桃色をなし一大美觀を呈す。

7) *Potentilla megalantha* Takeda in Kew Bull., 1911, p. 225, cum fig.

チシマキンバイ

海岸の岩上に生じ稀なり。

本種は千島より以南の海岸一帯にありて日高國冬島に至りて盡き更に渡島國に至りて現はる。此分布が海流に依るか又は鳥に依るかは未だ詳ならず。

8) *Rubus parvifolius* Linnæus, Sp. Pl. ed. 2, I. p. 707 (1762).

var. *subpinnatus* Nakai, var. nov.

エゾナハシロイチゴ

海岸の斷崖又は草地に生ず。

ナハシロイチゴ *Rubus parvifolius* Linnæus var. *triphyllus* (Thunberg) Nakai に似て長枝の葉は多く五葉片を有するを異にす。

9) *Vicia tenuifolia* Roth, Tent. Fl. Germ. I, p. 309 (1788).

ホンバクサンヂ

斷層面の草地に生ず。

本種はクサンヂに似て葉片は狭長にして尖端は著しく尖るものなり。今回の調査に依りて新に舊日本の籍に入れり。

10) *Hypericum Gebleri* Ledebour, Fl. Alt. III, p. 364 (1831).

コトモエサウ

斷層面の草地並に路傍に生ず。

本種はトモエサウ *Hypericum Ascyron* Linnæus に似て花色淡く花小さく花柱短かきものなり。今回の調査に依りて新に舊日本の國籍に加ふるを得たり。

11) *Primula modesta* Bisset & Moore in Journ. Bot. XVI, p. 134 (1878).

var. *samanimontana* Nakai, comb. nov.

日高國、樺似郡、アボイ山の植物調査報告

Syn. *Primula Fauriei* var. *samami-montana* Tatewaki, Veg. Mt. Apei p. 83 (1928).
サマニユキワリサウ

海岸断層面の草地よりアポイ山の中腹以上に亘り多く産す。

本植物はユキワリサウ *Primula modesta* とユキワリコザクラ *Primula modesta* var. *Fauriei* との中間に位し、葉の鋸齒と葉の大形なるとは前者に似、葉柄の長さと葉身の基部の急に狭まる事は後者に似たり。

12) *Plantago littoralis* Nakai, sp. nov.

ハマオホバコ(新種)。

海岸に多く生ず。

本種は分布廣く余は南は房州の海岸にても採りし事ありしが未だ學界に發表せざりき。但し小石川植物園には兩回栽培せし事あり。大きくして其狀タウオホバコ *Plantago japonica* に似たれども葉は頗る厚く光澤に富む。之を海岸より遠く移し植ゆるも葉の厚さと光澤とを失はざれども鹽分の欠亡の爲め二年後には概ね枯死す。純海岸の植物にして浦河の海岸にても目撃せり。

13) *Galium verum* Linnaeus, Sp. Pl. ed. 1, p. 107 (1753).

var. *intermedium* Nakai in Tokyo Bot. Mag. XXXIV, p. 51 (1920).

ウスキカハラマツバ

断層面の草地に多く生ず。

カハラマツバ *Galium verum* var. *laetum* とキンナノカハラマツバ *Galium verum* との中間に位し淡黄色の花を附く。従来は朝鮮に産する事を知り居りしのみ。今回の調査にて舊日本の國籍に加へ得し一植物なり。

14) *Scabiosa Fischeri* A. P. de Candolle, Prodr. IV, p. 658 (1830).

テウセンカラマツ(寫眞第六参照)。

海岸の斜面の草地に夥しく生ず。

本種は内地産のマツムシサウ *Scabiosa japonica* Miguel に最も近き種なれども葉の缺刻少きを異にす。西比利亚より朝鮮迄分布する事は知れ居りしも今回の調査にて新に舊日本の國籍にも加はり居る事を知り得たり。

15) *Adenophora manshurica* Nakai, sp. nov.

Syn. *Adenophora latifolia* (non Fischer) Herder, Maximowicz, Komarov etc.

ヒロハシヤジン

断層面の草地に生ず。

本種は輪生葉を有し花序は分岐し、花は廣鐘狀碧堇色、萼片は帶橢圓披針形をなす。アムール、滿洲、烏蘇利、北鮮に産すれども北海道にては初発見なり。従来 Herder, Maximowicz, Komarov 等の諸學者に依りて *Adenophora latifolia* Fischer と誤認されしも彼にありては花序は分岐せず。

又萼筒萼片には粒状の突起密生するを以て異なる。

16) *Achillea Ptarmica* Linnaeus, Sp. Pl. ed. I, p. 898 (1753).

カラノコギリサウ

幌満河畔に生ず。

本種はエゾノコギリサウ *Achillea speciosa* Henckel に似たる葉を有すれども花序は疎にして花は約其半分程の大きにすぎず。歐洲より北朝鮮迄分布する事は知れ居りしも舊日本に自生品を發見せしは之を以て嚙矢となす。

17) *Achillea speciosa* Henckel von Donnersmarck, Adumbr. Pl. Hort. Halensis p. 1, (1806).

var. *pulchra* Nakai, comb. nov.

Syn. *Achillea pulchra* Koizumi in Tokyo Bot. Mag. XXXII, p. 59 (1918).

紅花エゾノコギリサウ

斷崖又は斷層面の草地に多く生ず。

本植物は白花を有するエゾノコギリサウの紅花品にして此地方には白花品なくして紅花品のみ生ずるは珍らしき事なり。

18) *Miscanthus hidakanus* Honda, sp. nov.

サマニヌスキ(新種)。

斷層面の草地に生ず。

本種はススキよりも幅廣き葉を有し恰も八丈ススキに似たり。花序はススキに最も近けれども穎は小さく恰もトキハススキの如し。本調査書提出當時迄は未だ他の産地を知らざりしも昨秋余自ら陸前國松島にて發見せり。

19) *Trisetum homochlanys* Honda, sp. nov.

サマニカニツリ(新種)。

海岸の路傍に生ず。

本種は頗る大形のカニツリグサの一種にして花序穎芒共に何れの既知種よりも大なり。

20) *Agrostis grandis* Trinibus in Mém. Acad. St. Pétersb. sér. 6, VI, pt. 2, p. 316 (1841).

オホヌカボ

海岸の路傍に多く生ず。

本種はヌカボ屬中最も大形のものにして高さ三尺乃至四尺に達し大に叢生す。穎は多少褐色を帯ぶ。穂も莖も直立す。北米に産する事は知れ居りしも亞細亞には新發見なり。

21) *Hosta rectifolia* Nakai in Tokyo Bot. Mag. XLIV, p. 26 (1930).

タチギバウシユ

海岸より森林帯迄に多く産す。

本種はミヅギバウシユの葉を壯大にして直立せしめ葉柄の翼を大にしたるが如きものなり。葉色は淡綠色にして花色は濃紫色なり。

此他チシマクルマユリ、ヤツガタケムグラ、エゾノタカネニガナ、タイセイ等の珍草ある事とイブキジャカウサウ、ミヤマビヤクシンなどの多く生ずるは海岸地方の一特色なり。

(四) 山麓帯の植物

山麓帯は海拔二百五十米突以下の地にして森林地と開闢地とあり。

(イ) 開闢地

開闢地即ち草地は湿地と乾燥地とに依りて自ら植物景觀を異にす。湿地にはガマ、オニシモツケ、エゾアブラススキ、アヲアブラススキ、タマキ、ノハナシヤウブ其他スゲ類カウガヒセキシヨウ類、キツリフネ、シヨリマ、コリヤナギ、ホザキシモツケ等多く生じ樹木類には特にヤチハシノキ、ヒロハハンノキ、ウスゲヒロハハンノキ等のハンノキ類多く團々として散生す。乾燥地にはトダシバ類、ヤマアハ類、ミミナグサ類、ハコベ類、カラマツサウ類、オトギリサウ類、キジムシロ類、ワラビ類等生じ樹木類にはミヅナラ、カシハ、イタヤカヘデ、ハリギリ、イヌエンジュ、ミヤマハンノキ、エゾヤマツツジ等あり。

(ロ) 森林帯

森は中腹に及べば針葉樹を主とするもの多けれども麓の森林帯は概ね針葉、落葉の混淆林なり。針葉樹は

Abies Mayriana アヲトド
Picea jessoensis エゾマツ

Picea Glehnii アカエゾ

と少数のイチキ *Taxus cuspidata* にして之に

Quercus crispula ミヅナラ
Alnus tinctoria var. *glabrescens* ヤマハンノキ
Carpinus laxiflora アカシデ
Magnolia Kobus コノシ
Prunus Maximowiczii ミヤマザクラ
Prunus Scioi シウリザクラ
Plex macropoda アヲンダ
Acer mono イタヤカノデ
Pterisma alanthoides ニガキ
Kalopanax pictum var. *magnificum* センノキ

等の潤葉喬木と

Sorbaria stellipila ホザキナナカマド
Lespedeza bicolor エゾヤマソノギ
Euonymus planipes テウチンマユミ
Lonicera alpigena オホエゾノウタンボク
Vaccinium Oldhami ナツンギ

日高國、樺似那、アボイ山の植物調査報告

Quercus serrata コナラ

Quercus dentata カシハ

Carpinus cordata サハシバ

Betula Ermani var. *commutata* エゾノダケカンバ

Magnolia obovata ホホノキ

Prunus Sargentii オホヤマザクラ

Tilia japonica シナノキ

Pterilodendron Lavalleyi ミヤマキンダ

Acer Matsunurae ヤマモミヂ

Morus bombycis var. *maritima* タケシマクハ

Rhododendron Kaempferi var. *lasiosepalum* エゾヤマソノギ

Spinaea Miyabei エゾシロバナシモツケ

Vaccinium Smallii オホバスノキ

Clerodendron trichotomum クサギ

Zanthoxylum piperitum サンシヨウ
 Calliarcia japonica ムラサキシキブ
 Pouteria Zollingeri カマツカ
 Aralia elata タラノキ

Sasa apoiensis ホンニヤロザサ
 Rubus Kinashii クロニイチゴ
 Rhus trichocarpa ヤマウルシ
 Micromelaes ahifolia アツキナシ

等の灌木あり。樹木の幹には

Achindia arguta サルナシ

Celastrus strigillosus オニツルウメモドキ

Hydrangea petiolaris ツルアヂサキ
 Schizophragma hydrangeoides イハガラミ

等纏ヒ又樹皮にはタカネノキシノブ、ホテイシダ等附着す。下草中最も著しきはアキタブキにしてよく茂り其他クルマバサウ、エゾトリカブト、ヒロハイラクサ、コミヤマカタバミ、キツネガヤ、コシホガマ、ゲンノシヨウコ、アイヌタチツボスミレ、タガネサウ、シラヤマギク、カウヅリナ、イハノガリヤス、トリアシシウマ、アカバナシモツケサウ、ホンバハクサンバウフウ、ハクモウキノデ、ダイコンサウ、ムカゴイラクサ、ミヤマガンクビサウ、キジカクシ、ゼンマイ、エゾヨロヒグサ、オニカサモチ、ウマノミツバ、ホタルサイコ、アマニウ、ヤマブキシヨウマ、オホアキカラマツ、ヲシダ、ヅラビ、ナガバカウライメシダ等雜然として混生す。

(五) 山麓帯の珍植物

1) Quercus serrata Thunberg, Fl, Jap. p. 176 (1784).

コナラ

本植物は北海道には渡島國と日高國様似方面にのみあり。即ちアボイ山は本植物の分布の北限をなす。

2) Boehmeria paraspicata Nakai, sp. nov.

クサコアカソ(新種)。

溪に多し。

本種はアカソに似て葉の切れ込少く反てコアカソに類似すれども莖は一年生なり。花序はコアカソに近似す。本島、四國、朝鮮にも産しコアカソと混じ居たるものなり。アボイ山は本植物の分布の北限なり。

3) Pilea viridissima Makino in Tokyo Bot. Mag. XXIII, p. 87 (1909).

アラミツ

本種は本島の中部以南にのみ産するが如く信ぜられしも今回の調査に依りてアボイ山麓森林内にも自生する事を發見せり。蓋し分布の北限なり。

4) Morus bombycis Koizumi in Tokyo Bot. Mag. XXIX, p. 313 (1915).

var. muritima Koizumi in Bull. Imp. Sericult. Experim. Station, II, no. 1, p. 13 (1923).

タケシマグハ一名ハマグハ

本山の山麓は勿論様似郡一帯の海岸地方に産す。

本植物は最初樺皮島に發見され(中井, 大正七年六月)次で朝鮮江原道海金剛, 全羅南道梅加島,

黄海道大青島等にも産する事判り居りしも北海道に産する事を知れるは今回の調査の爲めなり。

- 5) *Clematis kantschatica* Bongard & Meyer, Verzeichniss Saisung-Nor & Irtysh gesam. Pl. p. 10 (1841).
チシマハンシヨウヅル

本種はカムチャツカと千島とは産する事は判明し居りしも北海道に産する事を報せし信用すべき記事は館脇氏の報告書を以て嚆矢とす。余も亦之をアボイ山の山麓並に中腹にて採收せり。本種に近似する北海道に多き植物はクロバナハンシヨウヅル *Clematis yezoensis* Nakai なれども本種の如く花被の外面に褐毛密生せず。

- 6) *Thalictrum integrilobum* Maximowicz in Bull. Acad. St. Pétersb. XXXII, p. 477 (1888).
サマニカラマツ

本種は橢圓形全縁の葉片を有し、白き美花を開くカラマツサウなり。宮部金吾氏始めて之を様似山道に採りてサマニカラマツと命名せし當地方特産の珍植物なり。

- 7) *Magnolia Kobus* A. P. de Candolle, Reg. Veg. Syst. Nat. I, p. 456 (1818).

コブシ

北海道のコブシは皆枝太く花大なるキタコブシ *Magnolia Kobus* var. *borealis* Sargent なりと信ぜられしも今回余は眞のコブシを山麓森林帯並に中腹にて發見せり。蓋しコブシの分布の北限なるべし。

- 8) *Hydrangea paniculata* Siebold in Acta Phys.-Med. Acad. Caes. Leop. XIV, pt. 2, p. 691 (1829).
var. *debilis* Nakai, var. nov.

ヒダカノリウツギ(新變種)。

山麓の開闢地に生じエゾノリウツギと混生す。丈低く花は皆兩全花にして美しからず。

- 9) *Artemisia americana* Rafinesque, Sylva Tellur. p. 152 (1838).

var. *latilobus* Nakai, var. nov.

ヒロハヤマブキシヨウマ(新變種)。

山麓の森林内に生ず。

ヤマブキシヨウマの一變種にして葉片の著しく廣潤なるものなり。

- 10) *Ponthia Zollingeri* Decaisne in Nouv. Arch. Mus. Paris sér. I, X, p. 149 (1874).

カマツカ

山麓森林帯に多し。

本種は北海道としては珍種に屬し渡島の南部と日高國様似地方以外に産せず、故に此方面に於ける分布の北限なり。最初の發見者は宮部金吾氏なり。

- II) *Sorbus yessoensis* Nakai, sp. nov.

オホバナナカマド(新種)。

山麓並に中腹の森林内に生じナナカマドと混生する所もあり。

本種はナナカマド *Sorbus commixta* Hedlund に似て枝太く葉片大にして果實も亦大なり。

12) *Prunus verecunda* Koehne in Fedde, Repert. Nov. Sp. Reg. Veg. XI, p. 271 (1912).

var. *yessoensis* Nakai in Tokyo Bot. Mag. XLIV, p. 12 (1930).

エゾノカスミザクラ

山麓の森林内に生ず。

カスミザクラに似て花軸發達し葉柄花梗に或は毛あり或はなし。

13) *Erionymus yedoensis* Koehne in Gartentl. LIII, p. 31, fig. 13 (1904).

オホバマユミ

山麓の森林内に生ず。

本種は本島の中部に限られて生ずる種の如く考へられしも今回の調査に依りて北海道にも産する事を知り得たり。

14) *Acer mono* Maximowicz in Bull. Phys. Math. Acad. Sci. Petersb. XV, p. 126 (1856).

var. *velutinum* Nakai, var. nov.

エゾイタヤ(新變種)。

var. *acutissimum* Nakai, var. nov.

エゾモミヂイタヤ(新變種)。

兩變種共に森林内に生ず。

兩者共イタヤカヘデ *Acer mono* に似て若枝と葉柄と花序とに絨毛あり。而してエゾイタヤの方は葉は浅く五又し果實の翼は水平に擴がれどもエゾモミヂイタヤは葉は稍深く五乃至七又し果實の翼は直角又は銳角に開く。

15) *Peucedanum linearilobum* Nakai, sp. nov.

Syn. *Peucedanum multivittatum* var. *linearilobum* Tatewaki, Veg. Mt. Apoi, p. 83 (1928).

エゾノハクサンバウフウ

山麓の森林中に生ず。

本種は館脇氏に依りてハクサンバウフウ *Peucedanum multivittatum* Maximowicz の變種とせられしも獨立の種なるが如し。如何となれば葉片は一層深く細く切れ込む事館脇氏の變種と認むる理由の外果實はハクサンバウフウよりも三分の一方大なればなり。

16) *Anaphalis margaritacea* Bentham & Hooker, Gen. Pl. II, p. 303 (1876).

var. *ramosa* Nakai, var. nov.

エダウチャマハハコ(新變種)。

山麓森林中に局部的に群生す。

本植物はヤマハハコ *Anaphalis margaritacea* var. *cinnamomea* (Miquel) Nakai 及びホンバヤマハハコ *Anaphalis margaritacea* の中間に位する葉を有し莖は中途より甚だしく分岐する爲め枝の先端には反て少數の花を附く。地下莖に依りて繁殖するを以て局部的に群生す。

17) *Sasa apoiensis* Nakai, var. nov.
エゾニヤコザサ(新種)。

山麓より山上迄一帯に産す。

本植物は *Sasa* 屬中ニヤコザサ群 (Sect. *Crassinodi* Nakai) に屬する一新種にして房州清澄山に産するキヨズミザサ *Sasa kiyozumiana* Makino & Nakai, ined. の如クニヤコザサ *Sasa nipponica* Makino & Shibata よりも一層細き莖と小ちき莖とを有し花序も亦小なり。

18) *Carex japonica* Thunberg, Fl. Jap. p. 38 (1784).

ヒゴクサ

山麓森林内に生ず。

本種は本島、四國、九州朝鮮等に産する事は知れ居りしも北海道に産する事を發見せるは今回の調査を以て嚆矢とす。蓋し本種分布の北限なるべし。

19) *Carex tenuissima* Boott in Proceed. Linn. Soc. I, p. 288 (1845).

イトスゲ

本種も亦前種と同じく北海道には新發見種なり。

(六) 中腹の植物帶

中腹とは大凡二百五十米突以上五百米突迄を謂ひ主として森林より成り往々其間に草地あり。森林は山稜部の疎林と溪谷の密林とに依りて多少其景觀を異にす。生ずる所の主要

樹種は左の如し。

<i>Abies Mayriana</i> アフトド	<i>Salix Hulteni</i> シンロヤナギ
<i>Picea Glehni</i> アカエゾ	<i>Alnus Maximowiczii</i> シヤマンマンノキ
<i>Pinus parviflora</i> ロメコマン	<i>Alnus hirsuta</i> ケヤマンマンノキ
<i>Betula latifolia</i> シラカンバ	<i>Berberis amurensis</i> オホバメギ
<i>Hydrangea paniculata</i> ノリウツギ	<i>Magnolia Kobus</i> var. <i>borealis</i> キタロコノミ
<i>Spiraea betulifolia</i> var. <i>concolor</i> アヲマルハシモツケ	<i>Spiraea grandifolia</i> アボイシモツケ
<i>Micromeles alnifolia</i> アヅキナシ	<i>Sorbus commixta</i> ナナカマド
<i>Rosa acicularis</i> var. <i>Gmelini</i> オホタカネヅラ	<i>Prunus Maximowiczii</i> シヤマザクラ
<i>Prunus Sargentii</i> オホヤマザクラ	<i>Prunus Sciovi</i> シウリザクラ
<i>Lespedeza bicolor</i> var. <i>nana</i> チヤホヤマンギ	<i>Maackia amurensis</i> var. <i>Buergeri</i> イヌエンジュ
<i>Phellodendron Lavalleyi</i> シヤマキンダ	<i>Hlex rugosa</i> ヌルツゲ
<i>Hlex Fauriei</i> オホツルツゲ	<i>Euonymus macroptera</i> ヒロハノツリバナ
<i>Euonymus planipes</i> テウチンマユミ	<i>Staphylea Bunaldii</i> シンバウツギ
<i>Acer japonicum</i> ハウチンカンデ	<i>Acer Matsumurae</i> ヤマモモヂ
<i>Acer mono</i> var. <i>velutinum</i> エゾイタヤ	<i>Tilia japonica</i> シナノキ
<i>Actinidia arguta</i> サルナシ	<i>Acanthopanax divaricatum</i> オニウコギ

- Acanthopanax sciadophylloides コシミアソラ
 Leucothoe Grayana var. glabra コロハナコロノキ Menziesia pentandra コヤウラク
 Rhododendron Albrechtii トリサキヤシホ Rhododendron davuricum エゾノムラサキツツシ
 Rhododendron Fauriei var. rufescens シロバナシキタナグ Tripetaleia paniculata ホツツシ
 Vaccinium Smallii オホシメノキ Syrax Obassia ハクウンボク
 Sambucus Buergeriana var. Miquelii エゾノハナトコ Viburnum furcatum トシカリ
 Viburnum Wrightii シヤマゲマズ
 Viburnum Sargentii var. calvescens ケナシカンボク
 其他ノハツツシ、ウスノキ、エゾイソツツシ等の小灌木トエゾスズダケ、エゾミヤコザサ、アボイ
 ザサ等の笹類もあり。又サルナシ、オニツルウメモドキ、ツルアチサキ、イハガラミ等の纏攀性
 植物も多く特にハナイハガラミは最も美し。草本類には
 Athyrium rupestre シヤマノビノネゴザ Circea alpina シヤマタニタヂ
 Geum japonicum ダイコンサウ Circea erubescens ヤマタニタヂ
 Teucrium Miquelianum エソツルニガクサ Struthiopteris nipponica シシガシラ
 Asperula odorata シヤマツサウ Athyrium brevifrons var. angustifrons ナガバカウライメシダ
 Calamagrostis sachalinensis タカネノガリヤス Epipactis papillosa エゾスズラン
 Heloniopsis japonica シヤウシヤウバカマ Osmunda cinnamomea インドリゴシメイ
 Pirola renifolia シンエノイチヤク Goodyera repens var. japonica ヒメシヤウソウ

- Dryopteris dilatata var. oblonga ナガバシラネソウ
 Platantera sachalinensis オホヤマサギサウ Phegopteris polypodioides シヤマソラビ
 Plantago asiatica オホバコ Chloranthus serratus フタリシヅカ
 Cimicifuga simplex var. intermedia オクヤマシヨウイ Dryopteris Sabaei シヤマイタチシダ
 Astilbe congesta トリアシシヨウマ Carpesium triste シヤマゲンクビサウ
 Anemone gracilis ホンバロメイチダ Aconitum yuzepense エゾホンバトリカブト
 Liparis auriculata クモギリサウ Crawfordia trinervis シルリンドウ
 Viola Selkirkii シヤマメコノ Trillium Tschonoskii シヤマエメンノイサウ
 Clematis ochotensis シヤマハシヨウシム Peucedanum terebinthaceum シラカハウンソウ
 Aralia cordata ハム Senecio nemorensis キクソノ
 Arundinella hirta ケトダシバ Arundinella hirta var. livens シロケトダシバ
 Pimpinella calycina カノツメサウ Cynanchum caudatum イケマ
 Paris hexaphylla クルマツクハネ Brylkinia caudata ホガノリガヤ
 Chamapericlymenum canadense コギンタチバナ Phryma leptostachya ハンドクサウ
 Eupatorium japonicum コヨドリバナ Saenicula chinensis ウレノミツバ
 Pteridium aquilinum ナガミノソラビ Peridium aquilinum var. japonicum ソラビ
 Anthriscus silvester シヤク Cryptotania japonica シヤクソ

Desmodium fallax ヤブハギ

Cardamine nasturtifolia エゾノシヤニンジン

等あり。

中腹に草本の生ふる開闢地あり南面して太平洋を眼下に見る。アポイヤマブキシヨウマ、キンロウバイエゾカウヅリナ、オホノアザミ、アポイハハコグサ、モイハシヤジン、ユキワリコザクラ、エゾコゴメグサ、ヨツバシホガマ、エゾルリトラノヲ、エゾキヌタサウ、ヒロハヨノミ、ミヤマホツツジ、ホソバタウキ、タカネノガリヤス、エゾサイコ、ヤマオトギリ、チャボヤマハギ、コウメバチサウ、コカラマツ、コバノイハタデ、チシマゼキシヨウ、エゾネギ等の珍植物に富む。下には海との間に様似山道の森林廣く擴がり背後にはヒメコマツ林を隔て、アポイ山の頂を見る蓋し天與の樂園なり。

(七) 中腹産の特記すべき植物

1) *Schizophragma hydrangeoides* Siebold & Zuccarini, Fl. Jap. p. 60, t. 26 (1837).

var. *formosa* Nakai, var. nov.

花イハガラミ(新變種)。

中腹の樹林の中において樹幹に攀づ。

イハガラミの一變種にして其無性花の花被は異常の發育を遂げ長さ二寸幅一寸卵形の白色片となる。

2) *Aruncus subrotundatus* Tatewaki, Veg. Mt. Apei p. 81 (1928).

アポイヤマブキシヨウマ

中腹並に山上の草地に生ず。

本種は本山の特産にして丸く厚く光澤ある葉を有す。

3) *Spiraea grandifolia* Nakai, sp. nov.

アポイシモツケ(新種)。

中腹の溪に沿ひて生ず。

本種は大形の葉を有し葉の鋸齒は大きく丸く強て近似種を求むればマルバシモツケなれども其すら大に異なる。

4) *Lespedeza bicolor* Turczaninow in Bull. Soc. Nat. Mosc. XIII, p. 69 (1840).

var. *nana* Nakai, var. nov.

チャボヤマハギ(新變種)。

中腹の草地に生ず。

本種はエゾヤマハギの一變種にして高さ一尺内外莖は分枝せず花穂も短かく花濃し。

5) *Ilex Fauriei* Makino, Journ. Jap. Bot. V, p. 14 (1928).

オホツルツゲ

中腹の森林に被はれたる溪側に生ず。

本種はツルツゲに近き種なれども莖は其よりも太く葉は大きく丸し。本島の北部に限り

生ずる種と考へられしも今回の調査にて始めて北海道にも自生ある事を知れり。

6) *Bupleurum yessoense* Nakai, sp. nov.

エゾサイコ(新種)。

中腹の草地に生ず。

本種は館脇氏に依りてホソバノコガネサイコと誤認されし植物なり。濟州島漢拏山に産するサイシツサイコ *Bupleurum Leviliei* H. de Boissieu に最も近き種なるも葉は一層細く小苞長し。

7) *Anaphalis apoiensis* Nakai, sp. nov.

アポイハハコグサ(新種) (寫眞第十三参照)。

中腹の草地に生ず。

地下莖は分岐し莖は基部分岐して多年生となり莖と葉とに白毛密生し莖には翼あり。花は白く美し。未だ近似種を知らず一見外國産の園藝植物と思はる程異觀を呈す。本山の植物中最も美しさのもの一なり。館脇氏はタカネヤハズハハコ *Anaphalis alpicola* Makino に當て居れども全く異なる。

8) *Arundinella hirta* Tanaka in *Bulleten Sci. Fakult. Kjusu Imp. Univ.* 1, no. 4, p. 208 (1925).

var. *livens* Honda, var. nov.

シロケットダシバ(新變種)。

中腹以下の草地に生ず。

本種はケットダシバの節に一層絹狀の毛を密生せしめ且つ莖と葉とに白粉を生ぜしめしが如き植物なり。

9) *Sasa samuiana* Nakai, sp. nov.

アポイザサ(新種)。

中腹の樹林中にエゾミヤコザサと混生すれども稀なり。

本種はミヤコザサ群に入るべき筈にしてエゾミヤコザサに似たれども葉鞘に粗毛を生ずるを以て直ちに區別し得。

(八) 山上の植物

山上とは海拔五百米突以上を謂ふ。五百米突以上となれば森林は次第に其跡をたちて草本、匍松帯となる。標高よりすれば本来樹木の生ずべき筈なるに斯く匍松の生ずる草本帯をなすは風の強さと冬期山上の氣温が標高に比して甚だしく降下すると夏期は寒流の影響にて比較的氣温低きに依るなるべし。山上にて稍喬木となるはエゾノダケカンバとサイハダカンバとのみなり。山上に生ずる樹木類を擧ぐれば大凡次の如し。

Pinus pumila ハヒマツ

Juniperus sibirica リーシリビヤクシン

Salix yessoalpina マルバヤナギ

Betula apoiensis アポイカンバ

Betula Maximowicziana サイハダカンバ

Betula Miyoshii マルミカンバ

Betula Nijimai	ヒタカカンバ	Hydrangea paniculata	ノリウツギ
Spiraea betulifolia var. concolor	アヲマルバシモツケ	Siebersia pentapetala	チングルマ
Spiraea media var. monbetsuensis	エゾシモツケ	Sorbus pseudo-gracilis	コシヤマナナカマド
Prunus Maximowiczii	シヤマザクラ	Hex radicans	ハロイヌツゲ
Rhamnus Ishidae	シヤマハンモドキ	Acanthopanax divaricatum	オニウコギ
Arctous japonicus	シマロケモモ	Ledum palustre var. yesoense	エゾイソツツシ
Rhododendron Fauriei var. rufescens	シロバナシヤンナン	Therorhodium camtschaticum	エゾマンシ
Tripetaleia bracteata	シヤマホツツシ	Vaccinium Vitis-Idea	ロケモモ
Lonicera caerulea var. glabrescens	ヒロシヨノヒ	Viburnum furcatum	ムシカリ
Sasa apoiensis	エゾシヤコグサ	Callianthemum insigne	ウメザキサバノヲ
Phleosperrnum chinense	コシホガマ	Pyrola Maximowicziana	コバノイチヤクサウ
Thesium longifolium	ナガバカナビキサウ	Saussurea yesoense	エゾキタアザミ
Eritrichium yesoense	エゾルリムラサキ	Minuartia verna var. pulchella	コバノツメクサ
Arenaria Takewakii	アホイツメクサ		

其中ハヒマツは大なる群落をなす(寫眞第十四参照)。ヒタカカンバ、マルミカンバ(寫眞第十五参照)。アホイカンバの三種は何れもチャボカンバ Betula fruticosa Pallas に似たる種にして倭生なり。草本には大凡次の如きものあり。

Scirpus sylvatica	アヲアブラヌスキ	Mosla punctulata	イヌカウジロ
Anemone Raddeana	ウスムヒイチゲ	Arundinella hirta	ケトダシバ
Arundinella hirta var. livens	シロケトダシバ	Erigeron glabratus	エゾアツマギク
Adenophora moiwana	モイハンシヤジン	Patrinia sibirica	タカネヲミナシ
Potentilla apoiensis	アホイキンバイ	Pleuropteryrum japonicum	コバノイハタデ
Lycopodium clavatum	ヒカゲノカヅラ	Geranium erianthum	チシマンウロ
Platanthera bracteata	アヲチドリ	Spiranthes sinensis	ネチバナ
Viola hidakana	イチゲキスミレ	Primula hidakana	ヒダカサクラサウ
Saxifraga cortusifolia	ダイモジサウ	Silene repens	チシマンテマ
Aquilegia akitenensis	シヤマオタマキ	Erigeron kamtschaticus var. hirsutus	エゾムカシヨモギ
Pedicularis japonica	ヨシバシホガミ	Veronica senanensis var. yesoalpina	エゾシヤマトラノヲ
Circaea erubescens	ヤマタニタデ	Arnuncus subrotundatus	アホイヤマブキシヨウマ
Thalictrum yesoense	ロカラマツ	Ligusticum japonicum	イハテトウキ
Ligusticum linearilobum	ホンバトウキ	Calamagrostis sachalinensis	タカネノガリヤス
Carex siderosticta	タガネサウ	Carex flavocuspis	シヤマクロスゲ

(九) 山上の珍植物

- 1) Betula apoensis Nakai, sp. nov.

日高國、樺似那、アホイ山の植物調査報告

アポイカンバ(新種)。

山上の岩隙に生ず。

本種は西比利亞より北朝鮮に亘りて産するチャボカンバ *Betula fruticosa* Pallas に最も似たれども葉脚のハート形なると種子の翼の廣さとを異にす稀品なり。

2) *Betula Miyoshii* Nakai, sp. nov.

マハミカンバ(新種)。(寫眞第十五參照)。

山上の岩隙に生ず。

本種も同じくチャボカンバに近き種にして特に葉は全く同形なれども果穂の丸さと種子と其翼とが幅廣きとにて區別し得。稀品の一なり。

3) *Betula Nijimai* Nakai, sp. nov.

ヒタカカンバ(新種)。

山上に生ず。

本種も亦チャボカンバ類似の種にして葉形は相等しけれども果穂はコオノオレ一名ヤエガハカンバ *Betula davurica* Pallas に似て種子は翼狭し稀品の一なり。

4) *Callianthemum insigne* Nakai in Scientific Knowledge VIII, no. 1, p. 41 (Jan. 1928).

Syn. *Isopyrum insigne* Nakai in Tokyo Bot. Mag. XXXIII, p. 49 (1919).

Callianthemum Miyabenum Tatewaki in Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. X, pt. 1, p. 79, cum phot. (1928).

ウメザキサバノヲ(中井)。ヒタカサウ(館脇)。

頂上附近南側の斜面に多し。

本種は僅々十餘種を含む *Callianthemum* 屬の一種にして歐洲産の *Callianthemum coriandrifolium* Reichenbach に類似す。本種は余が始めて大正七年の夏朝鮮、咸北冠帽峯頂にて發見してウメザキサバノヲ *Isopyrum insigne* と命じ大正八年之を東京植物學雜誌にて發表せり。大正十五年汎太平洋會議が東京に開催せられし時露國の代表 V. Komarov 氏は本種が *Callianthemum* なる事を告げ余は *Callianthemum insigne* と改め科學智識第八卷第一號に發表せり。斯る珍種が日高の山に飛びて産する事はナガバカナビキサウ、テウセンマツムシサウ等の存在と共に分布上興味ある事實なり。

5) *Thesium longifolium* Turczaninow in Bull. Soc. Imp. Nat. Mosc. XI, p. 100 (1838), nom. nud.; XXV, pt. 2, p. 469 (1852).

ナガバカナビキサウ

草地に生ず。

本種は館脇氏の報告書にカマヤリサウ *Thesium repens* と記しあるものなり。西比利亞より朝鮮に亘りて産するカナビキサウの一種なり。

6) *Arenaria Tatewakii* Nakai, sp. nov.

Syn. *Arenaria Katoana* var. *lanceolata* Tatewaki, Veg. Mt. Apei, p. 81 (1928).

日高國、樺皮郡、アポイ山の植物調査報告

アポイツメクサ

山上の岩隙又は草地に生ず。

小さな簇生する草本にして *Arenaria* 屬中の異品なり。館脇氏はカトウシロク *Arenaria Kataana Makino* の一變種とすれども形狀全く異なる別種なり。

7) *Minuartia verna* Hiern in Journ. Bot. XXXVII, p. 320 (1899).

var. *pulehella* Nakai in Tokyo Bot. Mag. XLIII, p. 450 (1929).

Syn. *Arenaria costata* var. *pulehella* Bunge in Ledebour, Fl. Alt. II, p. 171 (1830).

ホソバツメクサ

山上の草地又は岩隙に生ず。

小草本にしてアルタイ山以東に産し我邦にては *Alsine verna* var. *borealis* なる學名を誤用し、早池峯、八ヶ岳、夕張岳等に産するコハノツメクサ *Minuartia verna* Hiern var. *alpestris* Nakai と混じり居たり。本植物はアポイ山の外信州白馬山にも産す。

8) *Sorbus pseudo-gracilis* Koehne in Fedde, Reperl. Nov. Sp. Reg. Veg. X, p. 504 (1912).

コミヤマナナカマド(新種)。

山上並に様似山道に生じ本山の特産なり。

本種は地下莖を以て四方に擴がるナナカマド屬中の異品にして莖の高さは一尺内外而して花咲き實を結ぶ。本種をタカネナナカマド *Sorbus sambucifolia* 又は *Sorbus sitchensis* に合す

る人あれども全然習性を異にし毛も多く果穂はタカネナナカマドの如く下垂せず。

9) *Potentilla apoiensis* Nakai, sp. nov.

Syn. *Potentilla Matsuurae* var. *yuburiana* f. *glabrescens* Tatewaki, Veg. Mt. Apoi, p. 43 (1928).

アポイキンバイ(新種)。

山上に生ず、中腹にも下降する事あり。

小さな植物にて葉は三葉にして細かく切れ毛少く光澤に富み花は黄色大形にして美し。館脇氏はミヤマキンバイの一品と見做せども全く異なる。

10) *Ilex radicans* Nakai, sp. nov.

ハレイヌツゲ(新種)。

山上に生ず。

本種は匍枝を以て擴がり且つ繁殖するイヌツゲの一種なり。其枝のみを採ればイヌツゲと擇ぶ所なきは恰もイヌガヤ對チャポイヌガヤ、ユヅリハ對ヒメユヅリハ等の關係の如し。北海道には眞のイヌツゲ *Ilex crenata* Thunberg なく從來イヌツゲに當て居りしは皆是なり。

11) *Rhamnus Ishida Miyabe & Kudo*, Materials Fl. Hokkaido IX, p. 65 (1922).

ミヤマハンモドキ

山上に生ず。

本種は葉丸く形はミヤマハンノキよりもカハラハンノキに似たり。クロウメモドキ屬中

の異品なり。

12) *Viola hidakana* Nakai in Tokyo Bot. Mag. XXXVI, p. 30 (1922).

イチゲキスミレ

山上の草地に生ず。

本種は本山の特産にして葉厚く裏面は帯紫色、莖と葉とは光澤に富み大形の黄花を開き美しきスミレなり。

13) *Primula hidakana* Miyabe & Kudo ex Tatewaki, Veg. Mt. Apoi, p. 57 Pl. IV, fig. 14 (1928).

ヒダカサクラサウ(寫眞第十六参照)。

山上の岩隙に生ず。

本種も亦本山の特産にして葉に光澤あり毛少く一莖一紅花美し。

此他山の低きにも係らずリーシリビヤクシン、マルバヤナギ、チングルマ、エゾキタアザミ、ミヤマオダマキ、エゾツツジ、クマコケモモ、タカネヲミナヘシ等の生ずるは分布上興味ある事實にして本山の植物の歴史古きを語るものなり。

(四) アポイ山並に其附近の植物と隣接陸地の植物との關係

アポイ山が三五七九の四章に於て述べし如く多數の特産植物に富む事とヒメコマツ、ハヒマツの如き洪積期以來氣候の變動に伴ふ植物分布に關係ある古き時代の分子を有する事よ

り推して其植物帯の歴史の古きものなるを推定し得。恐らく北海全道中最も古き土地のなるべし。

山上に立ちて望み又之を横より望めばアポイ山一帯は太平洋に面して異常の斷層をなし大なる陸の陥没せしを想象し得。恐らく此失はれたる陸は往昔の本島の北部に連なりしならん。

試に北海道の地圖を展げて見よ、日高の西には石狩の平原より膽振苦小牧方面に通ずる大平野あり。此平野は四近に活躍せる樽前、恵庭以下多數の火山の噴出物に依りて成る。假に此火山が未だ成らずと想象せよ、日高は此平野(？)又は沼湖(？)又は海(？)に依りて渡島方面より孤立せる陸地となる事を想定し得。又此等の火山の活動前も渡島方面と連なる平野ありたらば其活動と共に其上に繁茂せる植物は一旦全く絶滅に歸し日高には破壊されぬ植物帯が残されしとも考へらるべし。

又日高山脈を東すれば廣き十勝の平野ありて遠き釧路根室の山とを隔てり。故に日高山脈は當然往古より孤立の位置にありし爲め其一部たるアポイ山にも特有植物の多き理なり。アポイ山の植物の基本分子はヒメコマツを始めとせる日本植物にして之に樺太方面を通じ烏蘇利、アムール、北滿、北鮮、ダフリカ、バイカル地方遠くはアルタイ連山、歐洲に至る迄相關聯せる植物を加へ更に一方千島、カムチャツカを経て北米アラスカ、カナダ、カリフォルニア迄にも關係ある植物をも包含す。

亞細亞大陸方面特に烏蘇利より西比利亞方面に關係ある植物は

- | | | | |
|--|------------|---|------------|
| <i>Selaginella helvetica</i> | ヒメクラマコケ | <i>Juniperus sibirica</i> | リーシリビヤクシン |
| <i>Pinus pumila</i> | ハコマツ | <i>Alnus hirsuta</i> | ケヤマハンノキ |
| <i>Alnus sibirica</i> | シズリヤハンノキ | <i>Thesium longifolium</i> | ナガバカナビキサウ |
| <i>Minuartia verna</i> var. <i>pulchella</i> | ホンハツメタサ | <i>Dianthus superbus</i> var. <i>micropetalus</i> | コリンナデシロ |
| <i>Callanthemum insigne</i> | ウメザキサハノヲ | <i>Corydalis Maximowicziana</i> | エンキケマン |
| <i>Spiraea betulifolia</i> | アルハシモツケ | <i>Spiraea salicifolia</i> | ホギキシモツケ |
| <i>Potentilla fruticosa</i> | キンロウハシ | <i>Rosa acicularis</i> var. <i>Gmelini</i> | オホタカネバラ |
| <i>Lespedeza bicolor</i> | エンヤマンギ | <i>Vicia tenuifolia</i> | ホンハクサンチ |
| <i>Geranium sibiricum</i> | イチゲフウロ | <i>Euoynus macroptera</i> | クロハツリバナ |
| <i>Hypericum Gehleri</i> | ロトモエサウ | <i>Lythrum Salicaria</i> var. <i>glaberranle</i> | ホンハエンミンハギ |
| <i>Lonicera alpigena</i> | オホエンノウタンボク | <i>Lonicera caerulea</i> var. <i>glabrescens</i> | ヒロハヨハシ |
| <i>Patrina sibirica</i> | タカネヨミナシ | <i>Scabiosa Fischeri</i> | チヤセンマツムシサウ |
| <i>Adenophora manshurica</i> | ヒロハシヤミン | <i>Artemisia Messerschmidiana</i> var. <i>viridis</i> | イハヨモギ |
| <i>Erigeron glabratus</i> | エンアツマギク | <i>Scirpus sylvaticus</i> | アヲアブラガヤ |
| <i>Salix yesoalpina</i> | マルバヤナギ | <i>Sagina crassicaulis</i> Watson | ハンハクソク |

等の多種に達し一方千島カムチャツカに關係あるものは

- | | | | |
|------------------------------|-----------|--|----------|
| <i>Draba borealis</i> | ハズイヌナヅナ | <i>Sedum kamtschaticum</i> | キリンサウ |
| <i>Arnica americana</i> | ヤマブキシヨウマ | <i>Filipendula kamtschatica</i> | オヒシモツケ |
| <i>Potentilla megalantha</i> | チシマキンバイ | <i>Geranium erianthum</i> | チシヤンウロ |
| <i>Arctous japonicus</i> | クマコケモモ | <i>Therorhodon kamtschaticum</i> | エンツツシ |
| <i>Vaccinium praestans</i> | イハツツシ | <i>Galium boreale</i> var. <i>kamtschaticum</i> | エンキヌタサウ |
| <i>Galium triflorum</i> | ヤツガタケムダラ | <i>Artemisia coarctata</i> | エンヤマイヨモギ |
| <i>Artemisia Stelleriana</i> | シロヨモギ | <i>Erigeron kamtschaticus</i> var. <i>hirsutus</i> | エンムカンヨモギ |
| <i>Senecio cannabifolius</i> | エンハンゴレンサウ | <i>Agrostis hiemalis</i> | エンヌカボ |
| <i>Platanthera bracteata</i> | アヲチドリ | <i>Agrostis grandis</i> | オホヌカボ |

等なり。

(五) アポイ山植物目録

○印を附くるは館脇氏の目録にあるも余の未だアポイ産を實見せぬもの。*印あるは余の調査に依りて館脇氏の目録に追加するもの。△を附せるは學名を訂正せしものなり。

- I. アポイ科 Osmundaceae.
1. ヤマモリポソマイ *Osmunda cinnamomea* LINNAEUS.
- *2. アポイ *Osmunda japonica* THUNBERG.
- II. ロケシノブ科 Hymenophyllaceae.
- 日高國、樺似郡、アポイ山の植物調査報告

3. コケシノブ *Hymenophyllum Wrightii* V. D. BOSCH.
- III. ノキシノブ科 Polypodiaceae.
4. クジヤクシダ *Adiantum pedatum* LINNAEUS.
5. トラノヲシダ *Asplenium incisum* THUNBERG.
- *6. ハクモウキノデ *Athyrium acrostichoides* DIELS.
- △7. ナガバカウライメシダ *Athyrium brevifrons* KODAMA var. *angustifrons* KODAMA.
館脇氏の目録には *Athyrium Filix-femina* var. *melanolepis* マシタとあり。
- *8. シヤマノビノネムサ *Athyrium rugosum* KODAMA.
9. ノビノネムサ *Athyrium yokoscense* CHRIST.
10. ヤマイヌワラビ *Athyrium Vidatii* NAKAI.
11. イハオモダカ *Cyrtophorus hastatus* CHRISTENSEN.
- △12. オヒヤブソテツ *Cyrtomium falcatum* DIELS.
館脇氏の目録には *Polystichum falcatum* var. *ganuinum* ヌ&。○。
- *13. ナンタイシダ *Dryopteris callopsis* CHRISTENSEN.
14. ヲシダ *Dryopteris crassirizonata* NAKAI.
15. ナガバシラネソラビ *Dryopteris dilatata* A. GRAY var. *oblonga* TAKEDA.
16. シノブカグマ *Dryopteris nutica* CHRISTENSEN.
17. シヤマイタチシダ *Dryopteris Sobaei* CHRISTENSEN.
- △18. ショリヤ *Hemlockium Thelypteris* NEWMAN.
館脇氏の目録には *Dryopteris Thelypteris* ヌ&。○。
- *19. ワウレンシダ *Microlepia Wilsfordi* MOORE.

20. シヤマワラビ *Pleuropteris polypodioides* FÉÉ.
- *21. ホテイシダ *Plymatodes amurifrons* NAKAI.
- △22. タカネノキシノブ *Plymatodes ussuriensis* NAKAI.
館脇氏の目録には *Polypodium ussuriense* ヌ&。○。
- 23. オシヤグジデング *Polypodium Fauriei* CHRIST.
24. ホソキノデ *Polystichum Braunii* FÉÉ.
- *25. 十文字シダ *Polystichum tripterum* SMITH.
- 26. イタチシダ *Polystichum varium* PREST.
- *27. ナガミワラビ *Pteridium aquilinum* KUHN var. *glabrum* LUENSSEN.
28. ワラビ *Pteridium aquilinum* KUHN var. *japonicum* NAKAI.
- 29. カウヤワラビ *Onoclea sensibilis* LINNAEUS.
30. シシガシラ *Struthiopteris nipponica* NAKAI.
館脇氏の目録には *Spicula nipponica* Hayata ヌ&。○。
31. エゾデング *Woodia polystichoides* EATON var. *nudiuscula* HOOKER.
- IV. ハナヤスリ科 Ophioglossaceae.
- 32. エゾフユノハナワラビ *Botrychium robustum* UNDERWOOD.
- V. スギナ科 Equisetaceae.
33. スギナ *Equisetum arvense* LINNAEUS var. *boreale* RUPRECHT.
- 34. トクサ *Equisetum hiemale* LINNAEUS.
- VI. フカゲノカヅラ科 Lycopodiaceae.
- 35. タカネスギカヅラ *Lycopodium annotinum* LINNAEUS var. *pinggens* DESVAUX.

- △ 36. ビカゲノカヅラ *Lycopodium chloratum* LINNAEUS var. *nipponicum* NAKAI.
- 37. アスビカヅラ *Lycopodium complanatum* LINNAEUS.
- 38. スギラン *Lycopodium cryptomerinum* MAXIMOWICZ.
- 39. タチヤンネンヌギ *Lycopodium obscurum* LINNAEUS f. *juniperoides* TAKEDA.
- 40. コメスギラン *Lycopodium chinense* CHRIST.
- 41. トウゲビソバ *Lycopodium serotinum* THUNBERG var. *Thunbergianum* MAKINO.
- VII. タライコケ科 *Selaginellaceae.*
- 42. コメタライコケ *Selaginella helvetica* LANK.
- 43. ビメロモカヅラ *Selaginella rupestris* SPRING var. *shakotanensis* FRANGET.
- VIII. イチキ科 *Taxaceae.*
- 44. イチキ *Taxus cuspidata* SIEBOLD & ZUCCARINI.
- IX. キツコ科 *Abietaceae.*
- 45. アボイコヤシ *Abies Magniana* MIYABE & KURO.
- 46. アカイコヤシ *Abies sachalinensis* FR. SCHMIDT.
- 47. アカヒンヤシ *Picea Glabai* MAYR.
- 48. ヒンヤシ *Picea jessoensis* CARRIÈRE.
- X. コノキ科 *Cupressaceae.*
- 49. ツヤコヤシ *Juniperus Sargentii* TAKEDA.
- △ 50. リーシロコヤシ *Juniperus sibirica* BÜRGSDORF.
- XI. ヤシ科 *Pinaceae.*
- △ 51. コメロヤシ *Pinus parviflora* SIEBOLD & ZUCCARINI.

館脇氏の目録には *Pinus pentaphylla* MUR. とあり。其種は所謂根岸五葉の事なり。

- 52. ヒコヤシ *Pinus pumila* REGEL.
- XII. ヤンリヤシ科 *Chloranthaceae.*
- △ ○ 53. コトリシヅカ *Trichomanes japonica* (S. & Z.) NAKAI.
- 54. フタリシヅカ *Chloranthus serratus* ROEMER & SCHULTZES.
- XIII. ヤナギ科 *Salicaceae.*
- 55. ヒロンギ *Populus Maximowiczii* HENRY.
- △ 56. ヒシロヤナギ *Salix Holtonii* FLODERTS.
- * 57. コリヤナギ *Salix purpurea* LINNAEUS var. *japonica* NAKAI.
- △ 58. フスバヤナギ *Salix yessoensis* KOIDEZUMI.
- 館脇氏の目録には *Salix Reinii* と記載しあり。
- XIV. カンナ科 *Betulaceae.*
- 59. ケヤマンノキ *Alnus hirsuta* TURZANINOV.
- * 60. ウスガコロンノキ *Alnus Mayrii* CALLIER.
- * △ 61. コロンノキ *Alnus Mayrii* CALLIER var. *glabrescens* NAKAI.
Syn. *Alnus borealis* Koizumi.
- 62. ヤチンノキ *Alnus japonica* SIEBOLD & ZUCCARINI var. *arguta* CALLIER.
- 63. ツヤマンノキ *Alnus Maximowiczii* CALLIER.
- * 64. オホヤマンノキ *Alnus sibirica* TURZANINOV.
- △ 65. ヤチンノキ *Alnus lindavii* SARGENT var. *glabrescens* CALLIER.

館脇氏の目録には *Alnus hirsuta* var. *sibirica* と記載しあり。

- * 65. アボイカンバ *Betula opoiensis* NAKAI.
- 67. エゾノダケカンバ *Betula Ermani* CHAMISSO var. *commutata* REGERL.
- △ 68. シラカンバ *Betula latifolia* KONAROV.
館脇氏の目録には *Betula japonica* Siebold と記しあり。
- 69. サイハダカンバ *Betula Marinowicziana* REGERL.
△* 70. マルミカンバ *Betula Mijushtii* NAKAI.
館脇氏の目録にチャボカンバ *Betula fruticosa* Pallus と記しあるは余が誤報せしに基因す。
- * 71. ビタカカンバ *Betula Nijimai* NAKAI.
- 72. サハシバ *Carpinus rosea* BLUME.
- 73. アカシデ *Carpinus laciflora* Siebold & ZUCCARINI.
- △ 74. アサダ *Ostrya japonica* SARGENT.
- XV. ナナ科 *Fagaceae.*
- 75. ミヅナラ *Quercus crispula* BLUME.
- 76. カシハ *Quercus dentata* THUNBERG.
- * 77. コナラ *Quercus serrata* THUNBERG.
- XVI. ヒノ科 *Ulmaceae.*
- 78. ヒノ *Ulmus japonica* SARGENT.
- 79. オヒヨウヒノ *Ulmus laciniata* MAVR.
- XVII. タハ科 *Moraceae.*
- △ 80. タケシマダハ *Morus bombycis* KOHZEKI var. *maritima* KOHZEKI.
館脇氏の目録にヤマダハ *Morus bombycis* とあり。

- XVIII. イラクサ科 *Urticaceae*
- △ 81. タサコアカン *Boehmeria triacspis* とあり。
館脇氏の目録にアカン *Boehmeria triacspis* とあり。
- 82. ムカゴイラクサ *Laportea bulbifera* WEDDELL.
- * 83. アヲミヅ *Pilea eridissima* MAKINO.
- 84. オホムイラクサ *Urtica platyphylla* WEDDELL.
- XIX. ニヤクタン科 *Santalaceae.*
- △ 85. ナガバカナビキサウ *Thesium longifolium* TURCKANINOV.
館脇氏の目録にカマヤリサウ *Thesium repens* と誤記しあり。
- XX. ウヤノスズクサ科 *Aristolochiaceae.*
- 86. ウスハサイミン *Asarum Sieboldi* MIGUEL.
- XXI. タネ科 *Polygonaceae.*
- * 87. タニン *Persicaria alata* NAKAI.
- * 88. シン *Persicaria Thunbergii* NAKAI.
- △ 89. ロバノイハタデ *Pleurapteropyrum japonicum* NAKAI.
館脇氏の目録にオヤマン *Polygonum polymorphum* var. *undatum* と誤記しあり。
- * 90. オホミチヤナギ *Polygonum aviculare* LINNAEUS var. *vegetum* LEDERBOUR.
- △ 91. オホイタドリ *Reynoutria sachalinensis* NAKAI.
- * 92. オホギンギシ *Rumex obtusocarpus* SANDOR var. *japonicus* NAKAI.
- * 93. シシビキ *Toxora filiformis* NAKAI.
- XXII. アカギ科 *Chenopodiaceae.*